

民事法 從來日本法ニ依リ取得シタル先取特權及不動産質權ニ關スル件

物ノ所有ヲ目的トスルモノニ付十五年、建築物以外ノ工作物ノ所有ヲ目的トスルモノニ付五年以上ノ期間ヲ定メタル場合ニ於テハ貸借ハ其ノ期間ノ満了ニ因リテ終了ス...

的トスル場屋又ハ飲食店若ハ浴場ニ於テ客ノ物品ガ滅失又ハ毀損シタル場合ノ場屋ノ主人ノ責任ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル...

○從來日本法ニ依リ取得シタル先取特權及不動産質權ニ關スル件 (康德四年十一月二十九日) 朕組織法第三十六條ニ依リ參議府ノ諮詢ヲ經テ從來日本法ニ依リ取得シタル先取特權及不動産質權ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム...

○婚書發給規則

財政部令 第三七六號 第四六六號 第三七七號 第一一號

茲ニ婚書發給規則ヲ左ノ通制定ス 第一條 婚書ノ發給ヲ受ケントスル者ハ特別市長、市長、市政管理處長、縣長又ハ市長ニ之ヲ申請スベシ...

○外國法人法

(康德四年十月二十一日) 勅令第二九八號

朕組織法第三十六條ニ依リ參議府ノ諮詢ヲ經テ外國法人法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム 第一條 外國法人ハ法律又ハ條約ニ依リテ其ノ成立ヲ圖メラ...

民事法 婚書發給規則 外國法人法

ノ許サザルモノヲ除ク外前項ノ清算ニ之ヲ準用ス
 前二項ノ規定ハ外國ノ管利法人ガ其ノ支店ヲ閉鎖シタル場
 合ニ之ヲ準用ス
 第十一條 外國管利法人ノ代表者ガ株式又ハ社債ノ募集ニ當
 リ重要ナル事項ニ付不實ノ記載アル株式申込書、社債申込
 書、目録見書其ノ他株式若ハ社債ノ募集ニ關スル文書ヲ領
 布シ又ハ重要ナル事項ニ付虚偽ノ廣告ヲ爲シタルトキハ五
 年以下ノ徒刑又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス
 第十二條 外國管利法人ノ代表者、清算人、検査役又ハ監査
 委員ハ左ノ場合ニ於テハ五千圓以下ノ過料ニ處ス但シ其ノ
 行為ニ付刑ヲ科スベキトキハ此ノ限ニ在ラズ
 一 本法ニ定ムル登記ヲ爲スコトヲ怠リタルトキ
 二 第十條第二項ニ定ムル公告若ハ通知ヲ爲スコトヲ怠リ
 又ハ不正ノ公告若ハ通知ヲ爲シタルトキ
 三 正當ノ事由ナクシテ株主名簿、社債原簿又ハ債權者集
 會ノ開事録ノ開覽ヲ拒ミタルトキ
 第十四條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(康德四年
 勅令第三二九號ヲ以テ同十二年十一月一日ヨリ施行)
 第十五條 外國管利法人ニシテ本法施行前滿洲國ニ支店ヲ設
 ケタルモノハ本法施行ノ日ヨリ六月以内ニ第三條及第四條
 ノ規定ニ從ヒ支店設置ノ登記ヲ爲シ且滿洲國ニ於ケル代表
 者ノ定メ其ノ氏名及住所ヲ登記スルコトヲ要ス
 前項ノ登記ヲ爲サザルトキハ支店ヲ主筆スル者ヲ五千圓以
 下ノ過料ニ處ス

第十一條 第十條第二項ノ規定ニ依ル法院ノ財産保全ノ處分ニ
 違反シタルトキ
 第十二條 第十條第二項ノ規定ニ違反シテ特別清算開始ノ申立
 ツ爲スコトヲ怠リタルトキ
 第十三條 法院ノ選任シタル清算人ニ事務ノ引渡ヲ爲サザルト
 キ
 第十四條 清算ノ終了ヲ遅延セシムル目的ヲ以テ第十條第二項
 ノ規定ニ依リ債權者ニ對シテ請求ノ申出期間ヲ不當
 ニ定メタルトキ
 第十五條 第十條第二項ノ規定ニ違反シテ債權申出期間内ニ債
 務ノ清償ヲ爲シ又ハ債權者ノ割合ニ應ゼズシテ清償ヲ爲
 シタルトキ
 第十六條 特別清算ニ於テ第十條第二項ノ規定ニ違反シ法人ノ
 財産ノ處分、借財、訴ノ提起、和解、仲裁契約又ハ權利
 ノ放棄ヲ爲シタルトキ
 第十七條 外國管利法人ガ始メテ滿洲國ニ支店ヲ設ケタル場
 合ニ於テ其ノ登記ヲ爲スコトヲ怠リタルトキハ其ノ支店ヲ
 主筆スル者ヲ五千圓以下ノ過料ニ處ス

○利息制限法 (康德四年十二月一日) (勅令第三七一號)
 改正 康德六年二月勅令第三二七號
 第一條 金銀ノ消費貸借ノ利息ハ元本五百圓未満ハ一年八分
 以下元本五百圓以上五千圓未満ハ一年六分以下元本五千圓
 以上ハ一年四分以下トス
 金銀以外ノ代借物ノ消費貸借ノ利息ハ一年八分以下トス
 利息ノ約定ガ前二項ノ制限ヲ超過スルトキハ其ノ超過部分ニ
 付之ヲ無効トス
 第二條 前條ノ制限ヲ超過シテ利息ノ支拂ヲ爲シタル者ハ其ノ
 超過部分ノ返還ヲ請求スルコトヲ得
 前項ノ超過部分ノ返還ヲ求ムル債權ハ五年間之ヲ行ハザルニ
 因リテ其ノ消滅時効完成ス
 第三條 調査料、手数料其ノ他消費貸借ニ關スル費用ヲ債務者
 ノ負擔トスル約定アリタル場合ニ於テ其ノ額ガ元本ノ一割以
 下ナルトキハ債務者ハ費用ノ實額ヲ超ユルコトヲ證明シテ其
 ノ減額ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ實額ヲ超ユル部分
 ハ之ヲ利息ト看做ス
 前項ノ場合ニ於テ約定シタル額ガ元本ノ一割ヲ超ユルトキハ
 元本ノ一割ノ限度ニ於テ前項ノ規定ヲ適用シ一割ヲ超ユル部
 分ハ之ヲ利息ト推定ス
 前二項ニ規定スルモノヲ除ク外前引料、延滞料、報酬、儲
 金等如何ナル名義ヲ以テスルヲ問ハズ消費貸借ニ關シ債務者
 ノ負擔シタルモノハ之ヲ利息ト推定ス
 前三項ノ規定ハ債權者ガ他人ヲ使用シテ消費貸借ヲ爲シタル
 場合ニ於テ其ノ被用者ニ對シ債務者ガ負擔シタルモノニ付テ
 ハ債權者ガ損失ヲシテ其ノ事實ヲ知ラザリシ場合ニハ之ヲ
 適用セズ

第四條 利息ノ約定ガ年一割二分ヲ超ユルモノニ付テハ債務者
 ハ消費貸借成立ノ日ヨリ六月ヲ經過シタル後債權者ニ對シ三
 月ヲ下ラザル期間ヲ定メテ元本ノ清償ヲ申入ルコトヲ得此
 ノ場合ニ於テハ其ノ期間ノ満了ニ因リテ清償期到來ス
 第五條 消費貸借上ノ債務ノ不履行ニ付債權者ガ約定シタル損
 害賠償ノ額ガ不當ナル場合ニ於テ債務者ガ請求アリタルトキ
 ハ法院ハ之ヲ相當ノ限度ニ減額スルコトヲ要ス
 第六條 人ノ知識淺薄、無經驗又ハ生活上緊急ナル窮迫ノ状態
 ニ乘ジテ苛酷ナル條件ヲ以テ金銀其ノ他ノ代借物ノ貸付
 ツ爲シタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス
 第七條 常習トシテ前項ノ罪ヲ犯シタル者ハ六月以下ノ徒刑又ハ五百
 圓以下ノ罰金ニ處ス
 第八條 金銀其ノ他ノ代借物ノ貸付ヲ業ト爲ス者ノ使用人其
 ノ他ノ從業員其ノ業務ニ關シ前條ノ罰則ニ關ルル行爲ヲ爲シタ
 ルトキハ該行爲者ヲ罰スルノ外本人ヲモ懲罰ス但シ本人心神
 喪失者又ハ癡癡ニ關シ成年者ト同一ノ行爲能力ヲ有セザル未
 成年者ナルトキハ其ノ法定代理人ヲ罰ス
 第九條 金錢其ノ他ノ代借物ノ貸付ヲ業ト爲ス法人ノ使用人其
 ノ他ノ從業員法人ノ業務ニ關シ第六條ノ罰則ニ關ルル行爲ヲ
 爲シタルトキハ該行爲者ヲ罰スルノ外法人ノ業務ヲ執行スル
 職員又ハ社員ヲモ懲罰ス
 第十條 法人ノ業務ヲ執行スル職員又ハ社員前項ノ行爲ヲ爲シタルト
 キハ其ノ職員又ハ社員ヲ懲罰ス
 第十一條 第七條又ハ前條第一項ノ場合ニ於テ本人若ハ法定代理
 人又ハ法人ノ職員若ハ社員ガ當該違反行爲ヲ防止スルノ途ナ
 カリシコトヲ證明シタルトキハ之ヲ罰セズ
 第十二條 本法ノ規定ハ買渡清償、再買買ノ約款附買買又ハ手形
 ノ買買若ハ割引ニシテ取引上消費貸借ト同一ノ效果ヲ有スル
 モノニ付之ヲ適用ス

附 則
 第十一條 本法ハ康德四年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス
 第十二條 本法施行前ニ成立シタル消費貸借ニ付テハ仍從前ノ
 規定ニ依ル但シ本法施行後ニ生ズル利息及本法施行後ニ不履
 行ノ事實アリタルニ因リ支拂フベキ損害賠償ノ額定額ニ付テ
 ハ本法ヲ適用ス
 附 則 (康德六年二月勅令第三二七號)
 本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
 本法施行前ニ成立シタル消費貸借ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル
 但シ本法施行後ニ生ズル利息ニ付テハ本法ヲ適用ス

○不動産登記法 (康德四年十一月二十九日) (勅令第三四三號)
 改正 康德六年四月勅令第八七號、七年六月第一五三號
 第一章 總 則
 第一條 第三十六條ニ依リ參照府ノ諮詢ヲ經テ不動産登記法
 ノ施行ニ關スル之ヲ公布セシム
 第二條 本法ニ關スル事務ハ登記官ノ職務ニ屬ス
 第三條 登記ノ後ニ發生シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ
 第四條 登記官ハ登記ノ原因ノ無効又ハ取消ノ原因ヲ因リ登記ノ抹
 消又ハ回復ノ訴ノ提起アリタル場合ニ於テ之ヲ爲ス但シ登
 記原因ノ取消ニ因リ抹消ニ付テハ其ノ取消ヲ以テ事實ノ第三
 者ニ對シ抹消ノ效力ヲ得ル場合ニ限ル
 第五條 抹消ノ提起アリタルトキハ法院ノ職權ヲ以テ選擇ナク
 囑託書ニ訴狀ノ原本又ハ抄本ヲ添附シテ豫告登記ヲ登記處
 ニ囑託スルコトヲ要ス
 第六條 告知登記ハ左ノ場合ニ於テ登記官吏之ヲ爲スコトヲ
 要ス
 一 申請ヲ却下シタル登記ノ申請人ヨリ報告アリタルトキ
 二 申請ノ却下ニ因リ抹消期間内ニ其ノ登記ノ目的タル權
 利ニ影響ヲ及ボスベキ他ノ登記ノ申請アリタルトキ
 三 第二條第一項ノ規定ニ依リ新登記ヲ登記簿ニ移載セ
 ザルトキ

第六條 不動産登記法第二條及第六條乃至第六十九條ノ規定ハ不動産ノ登記ニ之ヲ準用ス

第二章 登記簿及登記官

第八條 登記スベキ權利ノ目的タル不動産ノ所在地ヲ管轄スル區法院ヲ以テ管轄登記處トス

第九條 登記官ハ自己、配偶者又ハ四親等内ノ親族ノ爲ニ登記ヲ爲サントスルトキハ地方法院長ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

第十條 不動産登記法第十六條ノ規定ハ不動産ノ登記ニ之ヲ準用ス

但シ同條ニ地政總局長トアルハ司法大臣トス

第十一條 登記簿ハ土地登記簿及建築物登記簿ノ二種トス

第十二條 登記簿ニハ高等法院長其ノ枚數ヲ表紙ノ裏面ニ記載シ職氏名ヲ署シ印ヲ捺捺シ且毎葉ノ欄目ニ職印ヲ以テ

第十三條 登記簿ハ一律ノ土記又ハ一箇ノ建築物ニ付一用紙

第十四條 登記簿ハ前項ノ適用ニ付テハ主たる建築物ト合シテ一箇ノ建築物ト看做ス

第十五條 表示簿ニ登記ヲ爲ストキハ表示簿數額ニ補放ヲ記載ス

第十六條 表示簿ニ登記ヲ爲ストキハ表示簿數額ニ補放ヲ記載ス

第十七條 登記簿ノ全部又ハ一部ノ滅失シタル場合ニ於テハ司法大臣ハ登記官ニ對シ登記簿ノ再製ヲ命ズルコトヲ要ス

第十八條 前條第一項ノ規定ニ依リ登記簿ノ再製ヲ命ゼラレタル場合ニ於テハ臨時登記簿ヲ製スルコトヲ要ス

第十九條 回復登記ノ申請アリタル場合ニ於テ登記簿ノ再製ヲ命ゼラレタル場合ニ於テハ臨時登記簿ヲ製スルコトヲ要ス

第二十條 新登記ガ回復シタル登記簿ニ補放スルコトヲ要ス

第二十一條 新登記ガ回復シタル登記簿ニ補放スルコトヲ要ス

第二十二條 登記ノ申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ申請人ノ署名捺印スルコトヲ要ス

第二十三條 登記ノ申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ申請人ノ署名捺印スルコトヲ要ス

第二十四條 登記ノ申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ申請人ノ署名捺印スルコトヲ要ス

第二十五條 登記ノ申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ申請人ノ署名捺印スルコトヲ要ス

第二十六條 登記ノ申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ申請人ノ署名捺印スルコトヲ要ス

第二十七條 登記ノ申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ申請人ノ署名捺印スルコトヲ要ス

第二十八條 登記ノ申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ申請人ノ署名捺印スルコトヲ要ス

第二十九條 登記ノ申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ申請人ノ署名捺印スルコトヲ要ス

第三十條 登記ノ申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ申請人ノ署名捺印スルコトヲ要ス

第三十一條 登記ノ申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ申請人ノ署名捺印スルコトヲ要ス

第三十二條 登記ノ申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ申請人ノ署名捺印スルコトヲ要ス

第三十三條 登記ノ申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ申請人ノ署名捺印スルコトヲ要ス

第三十四條 登記ノ申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ申請人ノ署名捺印スルコトヲ要ス

第三十五條 登記ノ申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ申請人ノ署名捺印スルコトヲ要ス

第三十六條 登記ノ申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ申請人ノ署名捺印スルコトヲ要ス

第三十七條 登記ノ申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ申請人ノ署名捺印スルコトヲ要ス

第三十八條 登記ノ申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ申請人ノ署名捺印スルコトヲ要ス

第三十九條 登記ノ申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ申請人ノ署名捺印スルコトヲ要ス

第四十條 登記ノ申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ申請人ノ署名捺印スルコトヲ要ス

第四十一條 登記ノ申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ申請人ノ署名捺印スルコトヲ要ス

第四十二條 登記ノ申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ申請人ノ署名捺印スルコトヲ要ス

第四十三條 登記ノ申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ申請人ノ署名捺印スルコトヲ要ス

第四十四條 登記ノ申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ申請人ノ署名捺印スルコトヲ要ス

第四十五條 登記ノ申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ申請人ノ署名捺印スルコトヲ要ス

第四十六條 登記ノ申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ申請人ノ署名捺印スルコトヲ要ス

第四十七條 登記ノ申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ申請人ノ署名捺印スルコトヲ要ス

第四十八條 登記ノ申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ申請人ノ署名捺印スルコトヲ要ス

第四十九條 登記ノ申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ申請人ノ署名捺印スルコトヲ要ス

第五十條 登記ノ申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ申請人ノ署名捺印スルコトヲ要ス

第五十一條 登記ノ申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ申請人ノ署名捺印スルコトヲ要ス

第五十二條 登記ノ申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ申請人ノ署名捺印スルコトヲ要ス

第五十三條 登記ノ申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ申請人ノ署名捺印スルコトヲ要ス

第五十四條 登記ノ申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ申請人ノ署名捺印スルコトヲ要ス

第五十五條 登記ノ申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ申請人ノ署名捺印スルコトヲ要ス

第五十六條 登記ノ申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ申請人ノ署名捺印スルコトヲ要ス

第五十七條 登記ノ申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ申請人ノ署名捺印スルコトヲ要ス

第五十八條 登記ノ申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ申請人ノ署名捺印スルコトヲ要ス

第五十九條 登記ノ申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ申請人ノ署名捺印スルコトヲ要ス

第六十條 登記ノ申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ申請人ノ署名捺印スルコトヲ要ス

第六十一條 登記ノ申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ申請人ノ署名捺印スルコトヲ要ス

第六十二條 登記ノ申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ申請人ノ署名捺印スルコトヲ要ス

第六十三條 登記ノ申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ申請人ノ署名捺印スルコトヲ要ス

民事法 不動産登記法

第一條 不動産ノ所在

第二條 土地ニ付テハ地目、建築物ニ付テハ種類及構造

第三條 申請人ノ氏名及住所

第四條 代理人ニ依リテ登記ヲ申請スルトキハ其ノ氏名及住所

第五條 登記原因及其ノ日附

第六條 登記ノ目的

第七條 登記稅額

第八條 建築物ガ附屬建築物ナルトキハ其ノ旨ヲ記載シ若シ建築物ニ

第九條 申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ申請人ノ署名捺印スルコトヲ要ス

第十條 申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ申請人ノ署名捺印スルコトヲ要ス

登記簿ハ翌年中ニ必要ナル帳簿ノ冊數及用紙ノ枚數ヲ豫定シ毎年十月中ニ請求スルベシ...

第二十一條 登記簿ニ於テ登記ノ關スル帳簿又ハ書類ヲ廢棄セシムルトキハ...

第十七條 不動産ガ數箇ノ登記簿ノ管轄區域ニ跨ル場合ニ於テ法院ノ指定シタル管轄登記處ニ登記ヲ申請スルトキハ...

登記簿ノ受領證ヲ申請人ニ交付スルベシ但シ二通以上ノ受領證ヲ交付スルトキハ各通ニ號數ヲ附スベシ...

第二十二條 登記簿ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス...

第五十條 第五十六條、第五十八條、第五十九條、第六十三條乃至第六十八條、第七十三條、第七十四條、第七十七條乃至第八十條...

前項ノ場合ニ於テ共同擔保目録ノ提出アルトキハ其ノ日録
内ノ登記簿ノ冊數、登記簿數及權利先後ヲ變更スルヲ以テ
不動產登記法第七十三條第二項ノ規定ハ第一項ノ場合ニ
之ヲ準用ス

第十四條 不動產登記法施行前ニ建築物ノ登記簿ト土地ノ
登記簿トヲ分別セザル登記簿ニ登記シタル不動產及一筆ノ
土地又ハ一箇ノ建築物ニ付テハ二以上ノ用紙ヲ用ヒテ登記シ
タル不動產ニ付テハ其ノ權利ノ抹消ノ登記ノ申請アリタルト
キハ從前ノ登記簿ニ其ノ登記ヲ爲シタル後不動產登記法第
六十四條ノ手續ヲ爲スベシ

第十五條 從前ノ規定ニ依ル登記簿ノ原本ハ從前ノ規定ニ
依ル原本用紙ヲ以テ之ヲ作成スベシ

附則 (廣徳六年六月司法部令第九號)
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○暫行民籍法

(廣徳七年八月一日
勅令第一九七號)

臨時憲法第三十八條ニ依リ參議府ノ諮詢ヲ經テ暫行民籍法ヲ
制定スルニ之ヲ公布セシム

第一章 總則
第一條 民籍ニ關スル事務ハ市街村長(市長中ニ新設特別市長
ヲ含ム以下同シ)之ヲ管掌ス
第二條 市街村長ハ自己又ハ自己ト民籍ヲ同シタル者ニ關ス
ル民籍事件ニ付テハ職務ヲ行フコトヲ得ス
第三條 民籍事務ヲ管掌スル者ノ代理者ニ之ヲ準用ス
左ノ區分ニ依リ之ヲ行フ
一 市街村長ノ管掌スル事務ニ付テハ第一ニ於テ市長又ハ廣
長、第二ニ於テ市長、第三ニ於テ市街村長
二 市長(新設特別市長ヲ除ク)ノ管掌スル事務ニ付テハ第
一次ニ於テ市長、第二次ニ於テ市街村長
三 新設特別市長ノ管掌スル事務ニ付テハ司法部大臣
第四條 民籍事務ニシテ法令ノ解釋ニ關スル事項ハ第一
次ニ於テ該市公署(新設特別市公署ヲ含ム以下同シ)又ハ市
村公所ノ所在地ヲ管掌スル區法院ノ監督審判官又ハ委任審判
官、第二次ニ於テ司法部大臣之ヲ行フ
第五條 民籍事務ニ關シテ區法院ノ監督審判官又ハ委任審判
官ノ職務ノ範圍ハ司法部大臣之ヲ行フ
第六條 未ダ市街村ノ設置ナキ地ニ在リテハ司法部大臣(市街
村長ニ準ズベキ者ヲ指定シテ民籍事務ヲ管掌セシムルコトヲ得

○證書ノ確定日附ニ關スル件

(廣徳四年十一月二十九日
勅令第三五五號)

朕組織法第三十六條ニ依リ參議府ノ諮詢ヲ經テ證書ノ確定日附
ニ關スル事件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 左ニ掲グル日附又ハ日ヲ以テ證書ノ確定日附トス
一 區法院ニ於テ私署證書ニ日附アル印章ヲ押捺シタルトキ
ハ其ノ印章ノ日附
二 公正證書ノ日附
三 私署證書ノ署名者中ニ死亡シタル者アルトキハ其ノ死亡
ノ日
四 確定日附アル證書中ニ引用シタル私署證書ニ付テハ之ヲ
引用シタル證書ノ確定日附
五 官署又ハ公署ニ於テ私署證書ニ或事項ヲ記入シ之日附
ヲ記載シタルトキハ其ノ日附
第二條 確定日附アル證書ニ付テハ遅クモ其ノ確定日附ノ日
ニ作成アリタルコトニ付テハ第三條ノ規定ニ付テハ之ヲ得ズ
第三條 私署證書ノ當事者ハ手数料ヲ納付シテ區法院ニ對シ其
ノ證書ニ確定日附ヲ付スルコトヲ請求スルコトヲ得
第四條 區法院ハ其ノ所屬ノ書記官ヲシテ確定日附ノ付與ニ關ス
ル事務ヲ處理セシムルコトヲ得
第五條 區法院ニ確定日附ヲ付スル證書
第六條 確定日附證書ハ區法院書記官ノ署名シテ印章ヲ押捺シ且毎葉
ノ裏面ニ其ノ枚數ヲ記載シ職氏名ヲ署名シ印章ヲ押捺シ且毎葉
ノ裏面ニ職氏名ヲ以テ捺印スルコトヲ要ス
第七條 第三條ノ請求アリタルトキハ確定日附證書ノ請求ノ順序
ヲ逐ヒ證書ノ署名者ノ氏名又ハ其ノ一人ノミニノ氏名及他ノ人

前項ノ指定アリタルトキハ本法中街村又ハ街村公所ニ關スル
規定ハ之ニ相當スル公署ニ、街村長ニ關スル規定ハ指定セラ
レタル者ニ之ヲ準用ス

第六條 未ダ市街村ノ設置ナキ地ニシテ市街村長ニ準ズベキ者ニ
付テハ前項ノ指定ナキモノニ在リテハ本法中街村及街村公所ニ關
スル規定ハ警察官署、街村長ニ關スル規定ハ警察官署長之
ヲ準用ス
第七條 開拓員ニ關スル民籍事務ハ局長之ヲ管掌ス
前項ノ場合ニ於テ本法中街村、街村長又ハ街村公所ニ關スル
規定ハ開拓員、局長又ハ開拓事務所ニ之ヲ準用ス
第八條 本法ノ規定ニ依リテ納付スル手数料ニ關スル事項ハ前
令ヲ以テ之ヲ定ム
第九條 民籍ハ市街村(市中ニ新設特別市ヲ含ム以下同シ)ノ
區域内ニ本署ヲ定メタル者ニ付テハ本署トシ一戸毎ニ之ヲ
管掌ス
第十條 民籍ハ地號又ハ戸號ノ順序ニ從ヒ之ヲ管掌シテ管掌ト
ス
一 市街村内ニ各別ニ地號又ハ戸號ヲ附シタル二以上ノ區劃
アル場合ニ於テハ其ノ區劃ノ順序ハ市街村長之ヲ定ム
第十一條 本法ニ於テ戸トハ世帯ヲ同シタル家族(家長ヲ含
ム)ノ團體ヲ謂フ
第十二條 本法ニ於テ戸長トハ戶務ノ管理者ヲ謂ヒ戶員トハ戶
ニ關スル者ニシテ戸長ニ非ズル者ヲ謂フ
第十三條 本署ハ家長又ハ戶長ノ住所ノ他ノ特別ノ關係ア
ル場所ニ非ズレバ之ヲ定ムルコトヲ得ズ
第十四條 民籍ノ原本ハ之ヲ市公署又ハ街村公所ニ關シテ
第十五條 民籍ノ原本ハ之ヲ市公署又ハ街村公所ニ關シテ
第十六條 民籍ノ原本ハ之ヲ市公署又ハ街村公所ニ關シテ
第十七條 民籍ノ原本ハ之ヲ市公署又ハ街村公所ニ關シテ
第十八條 民籍ノ原本ハ之ヲ市公署又ハ街村公所ニ關シテ
第十九條 民籍ノ原本ハ之ヲ市公署又ハ街村公所ニ關シテ
第二十條 民籍ノ原本ハ之ヲ市公署又ハ街村公所ニ關シテ

員並ニ證書ノ種類ヲ記載シ其ノ證書ニ登載號數ヲ記入シ帳簿
及證書ニ日附アル法院ノ印章ヲ押捺シ且其ノ印章ヲ以テ帳簿
ト證書トニ捺印スルコトヲ要ス
證書ノ數額ニ涉ルトキハ前項ニ掲グル印章ヲ以テ毎葉ノ帳目
又ハ帳目ニ捺印スルコトヲ要ス
第八條 第三條ノ手数料ハ一件ニ付三角トス
前項ノ手数料ハ收入印紙ヲ納付シテ納付シテ納付スルコトヲ
要ス
第九條 請求者アル場合ニ於テハ手数料ハ各請求者連帶シテ之
ヲ納付スル義務ヲ負フ
附則
本法ハ廣徳四年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

手数料ノ外郵送料ヲ納付シテ原本又ハ抄本ノ送付ヲ請求スル
コトヲ得
原本又ハ抄本ハ市街村長之ヲ作リ原本ト相違ナキ旨ヲ附記シ
且之ニ職氏名ヲ署名シ印章ヲ押捺スルコトヲ要ス
第十七條 民籍簿ノ全部又ハ一部ヲ滅失シ又ハ滅失ノ虞アルト
キハ司法部大臣ハ其ノ再製又ハ補充ニ付テハ必要ナル部分ヲ命ズ
但シ滅失ノ場合ニ於テハ其ノ旨ヲ告示スルコトヲ要ス
第十八條 戶長ノ變更其ノ事由ニ因リ民籍ノ全部ヲ抹消シ
タルトキハ其ノ民籍ハ之ヲ民籍簿ヨリ除キ別ニ廢止シ除籍簿
トシテ之ヲ保存ス
第十九條 保存期間ハ司法部大臣之ヲ定ム
第二十條 第十五條乃至第十七條ノ規定ハ除籍簿及除籍簿
民籍ニ之ヲ準用ス
第二章 長編ノ記載事項
第二十一條 民籍ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス
一 戶長、前戶長及戶員ノ氏名
二 戶長ノ本籍、住所及出身地
三 戶長及戶員ノ種族ノ別
四 戶長及戶員ノ出生ノ年月日
五 戶長ノ來所ノ年月日
六 戶長ノ住所地ニ來住シタル年月日
七 戶長及戶員ト爲リタル事由及年月日
八 戶長及戶員ノ實父母ノ氏名並ニ戶長及戶員ト爲リタル
事由
九 戶長及戶員ノ妻孥ノ氏名並ニ其ノ妻孥及實父母ノ氏
名並ニ妻孥ト爲リタル事由及年月日
十 戶長ト爲リタル事由及年月日
十一 他ヨリ入りテ戶長及戶員ト爲リタル者ニ付テハ其
ノ原籍、原籍ノ戶長ノ氏名及其ノ原籍ト爲リタル者ニ付テハ其
ノ原籍ノ戶長ノ氏名及其ノ原籍ト爲リタル者ト爲リタル者ト爲

十二 戸長が家長ニ非ズル戸ニ付テハ家長ノ氏名及本籍並ニ其ノ就...

十三 養育人アル者ニ付テハ養育人ノ氏名及本籍並ニ其ノ就...

十四 前住ノ戸長又ハ戸長ノ身分ニ關スル事項...

十五 戸長及戸員ノ氏名ノ記載ハ左ノ順序ニ依ル...

第一 戸長ノ専業重業...

第二 戸長ノ配偶者...

第三 戸長ノ直系尊屬及其ノ配偶者...

第四 戸長ノ傍系尊屬及其ノ配偶者...

第五 戸長ノ親族ニ非ズル者...

第六 戸長ノ親族ニ非ズル者...

第七 戸長ノ親族ニ非ズル者...

タルトキハ其ノ書類ニ受附ノ書類及年月日ヲ記載スルコトヲ...

第二十五條 戸長ノ變更ノ届出又ハ申請アリタルトキハ其ノ届...

第二十六條 死亡、婚姻其ノ他ノ事由ニ因リ一戸ノ全員又ハ一...

第二十七條 民籍ノ記載ヲ爲スニハ略字又ハ符號ヲ用ヒズ字...

第二十八條 民籍ノ記載ヲ爲スニハ略字又ハ符號ヲ用ヒズ字...

第二十九條 戸長ノ變更ノ届出又ハ申請アリタルトキハ其ノ届...

第三十條 戸長ノ變更ノ届出又ハ申請アリタルトキハ其ノ届...

第三十一條 前條ノ規定ハ同書ニ非ズル書面ニ依リ民籍ノ記載...

第三十二條 届出事件ノ本人ノ本籍ガ他ノ市街村ニ轉移スル場...

第三十三條 民籍ノ記載手續ヲ完了シタルトキハ同書其ノ他受...

第三十四條 届出事件ノ本人ノ本籍以外ノ居所ニ在...

第三十五條 届出事件ノ本人ノ本籍以外ノ居所ニ在...

第三十六條 届出事件ノ本人ノ本籍以外ノ居所ニ在...

第三十七條 届出事件ノ本人ノ本籍以外ノ居所ニ在...

第三十八條 届出事件ノ本人ノ本籍以外ノ居所ニ在...

第三十九條 届出事件ノ本人ノ本籍以外ノ居所ニ在...

第四十條 届出事件ノ本人ノ本籍以外ノ居所ニ在...

第四十一條 届出事件ノ本人ノ本籍以外ノ居所ニ在...

第四十二條 届出事件ノ本人ノ本籍以外ノ居所ニ在...

第四十三條 届出事件ノ本人ノ本籍以外ノ居所ニ在...

第四十四條 届出事件ノ本人ノ本籍以外ノ居所ニ在...

第四十五條 届出事件ノ本人ノ本籍以外ノ居所ニ在...

第五十條 國籍ニ關スル規定ハ第四十八條第二項及前條第一項ノ適用ニテ之ヲ準用ス

第五十一條 外國ニ在ル滿洲國人ハ本法ノ規定ニ從ヒ其ノ國ニ駐在スル滿洲國ノ大使、公使、領事官其ノ他ノ在外公館長ニ

第五十二條 外國ニ在ル滿洲國人ガ其ノ國ノ方式ニ從ヒ其ノ國ニ

第五十三條 大使、公使、領事官其ノ他ノ在外公館長ハ前二條

第五十四條 國出期間ハ國出事件發生ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第五十五條 市街村長ガ國出ヲ受理シタル場合ニ於テ國籍ニ欠

第五十六條 市街村長ハ國籍ガ特ニ重要ナル事項ニ付欠缺ナキ

第五十七條 市街村長ガ國出ヲ受理シタル場合ニ於テ國籍ニ欠

第五十八條 市街村長ハ國籍ガ特ニ重要ナル事項ニ付欠缺ナキ

第五十九條 市街村長ハ國籍ガ特ニ重要ナル事項ニ付欠缺ナキ

第六十條 市街村長ハ國籍ガ特ニ重要ナル事項ニ付欠缺ナキ

第六十一條 市街村長ハ國籍ガ特ニ重要ナル事項ニ付欠缺ナキ

第六十二條 市街村長ハ國籍ガ特ニ重要ナル事項ニ付欠缺ナキ

第六十三條 市街村長ハ國籍ガ特ニ重要ナル事項ニ付欠缺ナキ

第六十四條 市街村長ハ國籍ガ特ニ重要ナル事項ニ付欠缺ナキ

第六十五條 市街村長ハ國籍ガ特ニ重要ナル事項ニ付欠缺ナキ

第六十六條 市街村長ハ國籍ガ特ニ重要ナル事項ニ付欠缺ナキ

第六十七條 市街村長ハ國籍ガ特ニ重要ナル事項ニ付欠缺ナキ

第六十八條 市街村長ハ國籍ガ特ニ重要ナル事項ニ付欠缺ナキ

第六十九條 市街村長ハ國籍ガ特ニ重要ナル事項ニ付欠缺ナキ

第七十條 市街村長ハ國籍ガ特ニ重要ナル事項ニ付欠缺ナキ

第七十一條 市街村長ハ國籍ガ特ニ重要ナル事項ニ付欠缺ナキ

第七十二條 市街村長ハ國籍ガ特ニ重要ナル事項ニ付欠缺ナキ

第七十三條 市街村長ハ國籍ガ特ニ重要ナル事項ニ付欠缺ナキ

第七十四條 市街村長ハ國籍ガ特ニ重要ナル事項ニ付欠缺ナキ

第七十五條 市街村長ハ國籍ガ特ニ重要ナル事項ニ付欠缺ナキ

第七十六條 市街村長ハ國籍ガ特ニ重要ナル事項ニ付欠缺ナキ

第七十七條 市街村長ハ國籍ガ特ニ重要ナル事項ニ付欠缺ナキ

第七十八條 市街村長ハ國籍ガ特ニ重要ナル事項ニ付欠缺ナキ

第七十九條 市街村長ハ國籍ガ特ニ重要ナル事項ニ付欠缺ナキ

第八十條 市街村長ハ國籍ガ特ニ重要ナル事項ニ付欠缺ナキ

第八十一條 市街村長ハ國籍ガ特ニ重要ナル事項ニ付欠缺ナキ

第八十二條 市街村長ハ國籍ガ特ニ重要ナル事項ニ付欠缺ナキ

第八十三條 市街村長ハ國籍ガ特ニ重要ナル事項ニ付欠缺ナキ

第八十四條 市街村長ハ國籍ガ特ニ重要ナル事項ニ付欠缺ナキ

第八十五條 市街村長ハ國籍ガ特ニ重要ナル事項ニ付欠缺ナキ

第八十六條 市街村長ハ國籍ガ特ニ重要ナル事項ニ付欠缺ナキ

第八十七條 市街村長ハ國籍ガ特ニ重要ナル事項ニ付欠缺ナキ

第八十八條 市街村長ハ國籍ガ特ニ重要ナル事項ニ付欠缺ナキ

第八十九條 市街村長ハ國籍ガ特ニ重要ナル事項ニ付欠缺ナキ

第九十條 市街村長ハ國籍ガ特ニ重要ナル事項ニ付欠缺ナキ

第九十一條 市街村長ハ國籍ガ特ニ重要ナル事項ニ付欠缺ナキ

第九十二條 市街村長ハ國籍ガ特ニ重要ナル事項ニ付欠缺ナキ

第九十三條 市街村長ハ國籍ガ特ニ重要ナル事項ニ付欠缺ナキ

第九十四條 市街村長ハ國籍ガ特ニ重要ナル事項ニ付欠缺ナキ

第九十五條 市街村長ハ國籍ガ特ニ重要ナル事項ニ付欠缺ナキ

第九十六條 市街村長ハ國籍ガ特ニ重要ナル事項ニ付欠缺ナキ

第九十七條 市街村長ハ國籍ガ特ニ重要ナル事項ニ付欠缺ナキ

第九十八條 市街村長ハ國籍ガ特ニ重要ナル事項ニ付欠缺ナキ

第九十九條 市街村長ハ國籍ガ特ニ重要ナル事項ニ付欠缺ナキ

第一百條 市街村長ハ國籍ガ特ニ重要ナル事項ニ付欠缺ナキ

第一百零一條 市街村長ハ國籍ガ特ニ重要ナル事項ニ付欠缺ナキ

第一百零二條 市街村長ハ國籍ガ特ニ重要ナル事項ニ付欠缺ナキ

第一百零三條 市街村長ハ國籍ガ特ニ重要ナル事項ニ付欠缺ナキ

シテ其ノ追完ヲ爲サシムルコトヲ要ス此ノ場合ニ於テハ第五

第十五條ノ規定ヲ準用ス

第五十八條 國出期間經過後ノ國出ト雖モ市街村長ハ之ヲ受理

第五十九條 國出人ハ國出ノ受理又ハ不受理ノ證明書ヲ請求ス

第六十條 國出人其ノ他ノ者ガ署名捺印スベキ場合ニ於テ印

第六十一條 出生ノ國出ハ一月以内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第六十二條 出生ノ國出ハ一月以内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第六十三條 出生ノ國出ハ一月以内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第六十四條 出生ノ國出ハ一月以内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第六十五條 出生ノ國出ハ一月以内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第六十六條 出生ノ國出ハ一月以内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第六十七條 出生ノ國出ハ一月以内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第六十八條 出生ノ國出ハ一月以内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第六十九條 出生ノ國出ハ一月以内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第七十條 出生ノ國出ハ一月以内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第七十一條 出生ノ國出ハ一月以内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第七十二條 出生ノ國出ハ一月以内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第七十三條 出生ノ國出ハ一月以内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第七十四條 出生ノ國出ハ一月以内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第七十五條 出生ノ國出ハ一月以内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第七十六條 出生ノ國出ハ一月以内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第七十七條 出生ノ國出ハ一月以内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第七十八條 出生ノ國出ハ一月以内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第七十九條 出生ノ國出ハ一月以内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第八十條 出生ノ國出ハ一月以内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第八十一條 出生ノ國出ハ一月以内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第八十二條 出生ノ國出ハ一月以内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第八十三條 出生ノ國出ハ一月以内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第八十四條 出生ノ國出ハ一月以内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第八十五條 出生ノ國出ハ一月以内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

六 離婚ニ因リ戸ヲ去ル者ノ復歸スベキ戸ナキ新居ヲ編製スベキ場合ニ於テハ其ノ事由並ニ新ニ本籍ト定ムル場所及住所

前項ノ因書ニハ離婚ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス但シ二人以上ノ證人ヲシテ因書ニ其ノ旨ヲ附記シ署名捺印セシメテ之ニ代フルコトヲ得

第八十一條 離婚ノ裁判ガ確定シタルトキハ其ノ復歸シタル者ハ裁判確定ノ日ヨリ一月以内ニ裁判ノ原本ヲ添附シ前條第二項ノ規定ニ依リ届出ヲ爲スコトヲ要ス其ノ因書ニハ裁判確定ノ日ヲ記載スルコトヲ要ス

第八十二條 父ガ親權又ハ管理權ノ喪失ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ於テ母其ノ權利ヲ行フトキハ裁判確定ノ日ヨリ一月以内ニ裁判ノ原本ヲ添附シ其ノ旨ヲ届出ブルコトヲ要ス其ノ因書ニハ裁判確定ノ日ヲ記載スルコトヲ要ス

第八十三條 第七十四條第一項ノ規定ハ失權宣告取消ノ裁判ガ確定シタル場合ニ之ヲ準用ス此ノ場合ニ於テハ因書ニ裁判確定ノ日ヲ記載スルコトヲ要ス

第八十四條 復見開始ノ届出ハ後見人其ノ就職ノ日ヨリ一月以内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

一 後見人及被後見人ノ姓名、出生ノ年月日及本籍

二 被後見人ガ戸員ナルトキハ戸長ノ姓名及本籍

三 復見開始ノ原因及年月日

四 復見人ノ就職年月日

復見ガ父母ヨリ特定ノ事項ニ付一定ノ期間委託セラレタルモノナル場合ニ於テハ因書ニ其ノ事項及期間ヲ記載シ且委託ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第八十五條 復見人更迭ノ場合ニ於テハ前任者ハ就職ノ日ヨリ一月以内ニ其ノ旨ヲ届出ブルコトヲ要ス此ノ場合ニ於テハ前條第二項ノ規定ヲ準用ス

第八十六條 遺言ニ依リ指定セラレタル復見人ガ第八十四條ノ届出ヲ爲ス場合ニ於テハ指定ニ關スル遺言ノ原本ヲ因書ニ添附スルコトヲ要ス

復見會ニ於テ選定シタル復見人ガ前二條ノ届出ヲ爲ス場合ニ於テハ選定ヲ證スル書面ヲ因書ニ添附スルコトヲ要ス

第八十七條 復見終了ノ届出ハ復見人一月以内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

一 被後見人ノ姓名及本籍

二 復見終了ノ原因及年月日

第八十八條 前四條ノ届出ヲ被後見人ノ本籍地又ハ後見人ノ所在地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第八十九條 死亡ノ届出ハ届出義務者ガ死亡ノ事實ヲ知りタル日ヨリ一月以内ニ之ヲ爲ス 檢察書、檢視證書ノ原本其ノ他死亡ノ事實ヲ證スル書面ヲ添附シテ之ヲ爲スコトヲ要ス

一 死亡者ノ姓名、本籍及職業

二 死亡ノ年月日時及場所

三 死亡者ガ戸員ナルトキハ戸長ノ姓名及戸長ト死亡者トノ關係

第九十條 左ニ掲グル者ハ其ノ順序ニ從ヒ死亡ノ届出ヲ爲スコトヲ要ス但シ順序ニ拘ラズ届出ヲ爲スコトヲ得

第一 戸長

第二 同居者

第九十一條 死亡ノ届出ハ死亡地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得

第九十二條 水難、火災其ノ他ノ事變ニ因リ死亡シタル者アル

第九十三條 死亡ノ報告ヲ爲シタル官公署ハ死亡者ノ本籍地ノ市街村長ニ死亡ノ報告ヲ爲スコトヲ要ス

第九十四條 死刑ノ執行アリタルトキハ監獄ノ長ハ運浦ナク監獄所在地ノ市街村長ニ死亡ノ報告ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ規定ハ在監中死亡シタル者ノ引取人ナキ場合ニ之ヲ準用ス此ノ場合ニ於テハ報告書ニ診察書又ハ檢察書ヲ添附スルコトヲ要ス

第九十五條 前二條ノ報告書ニハ第八十九條第二項ニ掲グル事項ヲ記載スルコトヲ要ス

第九十六條 死亡者ノ本籍分明ナラズ又ハ死亡者ヲ認識スルコト能ハザル場合ニ於テハ警察官ハ檢察書ヲ作リ之ヲ添附シテ運浦ナク死亡地ノ市街村長ニ死亡ノ報告ヲ爲スコトヲ要ス死亡者ノ本籍分明ナルニ至リ又ハ死亡者ヲ認識スルコトヲ得ルニ至リタルトキハ警察官ハ運浦ナク其ノ旨ヲ報告スルコトヲ要ス

第九十七條 失踪宣告ノ届出ハ其ノ宣告ヲ請求シタル者裁判ノ日ヨリ一月以内ニ裁判ノ原本ヲ添附シテ之ヲ爲スコトヲ要ス

一 失踪者ノ姓名及本籍

二 民法第二十六條ニ定ムル期間満了ノ日

三 失踪者ガ戸員ナルトキハ戸長ノ姓名及戸長ト失踪者トノ關係

第九十八條 戸長ノ變更アリタルトキハ戸長ト爲リタル者ハ變更ノ事實ヲ知りタル日ヨリ一月以内ニ其ノ旨ヲ届出ブルコトヲ要ス但シ入籍後ニ因リテ戸長ト爲リタル者ハ此ノ限ニ在

ラズ

一 戸長變更ノ事由及戸長ト爲リタル年月日

二 前戸長ノ姓名及前戸長ト爲リタル年月日

戸長ト爲リタル者ガ外國ニ在ル場合ニ於テハ變更ノ事實ヲ知りタル日ヨリ三月以内ニ因書ヲ發送スルヲ以テ足ル

戸長ノ變更アリタル場合ニ於テ前戸長戸員ト爲リタルトキハ因書ニ前戸長ヲシテ其ノ旨ヲ附記シ署名捺印セシムルコトヲ要ス

第九十九條 前條ノ届出ハ前戸長ノ本籍地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス

一 前戸長ノ姓名及前戸長ト爲リタル年月日

二 前戸長ト爲リタル者ガ外國ニ在ル場合ニ於テハ變更ノ事實ヲ知りタル日ヨリ一月以内ニ其ノ旨ヲ届出ブルコトヲ要ス

一 前家長及家長ノ姓名並ニ前家長ト家長トノ關係

二 家長變更ノ原因及年月日

三 家長ト其ノ戸長及戸員トノ關係

第十條 前條ノ届出ハ戸長ノ本籍地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第十一條 入籍及離婚

一 入籍スベキ者ノ姓名及出生ノ年月日

二 入籍スベキ者ノ戸長ト入籍スベキ者トノ關係

三 入籍ノ戸長ノ姓名及本籍並ニ其ノ戸長ト入籍スベキ者トノ關係

四 入籍ノ事由

前項ノ因書ニハ入籍スベキ者ノ承諾書ヲ添附スルノ外其ノ者ガ他戸ノ戸員タル場合ニ於テハ其ノ戸ノ戸長ノ同意書ヲ添附スルコトヲ要ス但シ入籍スベキ者又ハ戸長ヲシテ因書ニ其ノ旨ヲ附記シ署名捺印セシメテ之ニ代フルコトヲ得

第十條 戸長其ノ戸員ヨリ離婚セんとスル場合ニ於テハ其ノ旨ヲ届出ブルコトヲ要ス

一 離婚セラルベキ者ノ姓名

二 離婚ノ事由

第十條 離婚ニ因リ入ルベキ者ハ其ノ事實ヲ知りタル日ヨリ一月以内ニ其ノ旨ヲ届出ブルコトヲ要ス

一 離婚セラルベキ者ノ姓名及本籍

二 離婚ヲ爲シタル戸長ト離婚セラルベキ者トノ關係

三 離婚ノ事由及年月日

四 離婚セラレタル者ノ新ニ本籍ト定ムル場所及住所

第十條 分戸

一 本戸ノ戸長ノ姓名及本籍並ニ其ノ戸長ト分戸ノ戸長トノ關係

二 分戸ノ戸員ト爲ルベキ者アルトキハ其ノ姓名及出生ノ年月日

三 分戸ノ戸長及戸員ト爲ルベキ者ノ父母ノ姓名及本籍

四 分戸ノ事由

前項ノ因書ニハ本戸ノ戸長ノ同意書ヲ添附スルコトヲ要ス但シ本戸ノ戸長ヲシテ因書ニ其ノ旨ヲ附記シ署名捺印セシメテ之ニ代フルコトヲ得

第十條 外國人ガ若シ嫁娶又ハ婚姻ニ因リテ滿洲國ノ國籍ヲ取得スベキトキハ嫁娶又ハ婚姻ノ因書ニ國籍取得者ノ原國籍ヲ記載スルコトヲ要ス

第十條 外國人ガ認知ニ因リテ滿洲國ノ國籍ヲ取得スベキトキハ認知ノ因書ニ子ノ原國籍及母ノ國籍ヲ記載スルコトヲ要ス

第十條 國籍喪失ノ届出ハ戸長又ハ新ニ戸長ト爲リタル者其ノ事實ヲ知りタル日ヨリ一月以内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

一 國籍喪失者ノ姓名及本籍

二 國籍喪失ノ原因及年月日

三 新ニ國籍ヲ取得シタルトキハ其ノ國籍

第十條 國籍喪失者ガ滿十七年以上ノ男子ナルトキハ其ノ者ガ兵役ニ服シタルコト又ハ之ニ服スル義務ナキコトヲ證スル書面ヲ因書ニ添附スルコトヲ要ス

第十條 國籍ヲ回復シタル者ハ一月以内ニ其ノ旨ヲ届出ブルコトヲ要ス

一 滿洲國ノ國籍ヲ失ヒタル原因及年月日

二 國籍ヲ回復シタル者ノ姓名

三 國籍ヲ回復シタル者ノ姓名及出生ノ年月日並ニ其ノ者ト國籍ヲ回復者ト共ニ滿洲國ノ國籍ヲ取得シ又ハ之ヲ回復シタル者アルトキハ其ノ姓名及出生ノ年月日並ニ其ノ者ト國籍ヲ回復者トノ關係

第十條 國籍ヲ回復者ノ妻又ハ子ガ其ノ者ト共ニ滿洲國ノ國籍ヲ取得セザルトキハ因書ニ其ノ事由ヲ記載スルコトヲ要ス

第十條 國籍ヲ復舊スルコトヲ要ス

第十條 市街村長ノ許可ヲ

得テ戸長其ノ旨ヲ届出ブルコトヲ要ス其ノ届書ニハ新ニ本籍ト定ムル場所ヲ記載スルコトヲ要ス
 他ノ市街村ニ轉籍スル場合ニ於テハ民籍ノ原本ヲ届書ニ添附スルコトヲ要ス
 第十二條 轉籍ノ届出ハ轉籍地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス
 第十三條 本籍ヲ有セザル者ハ其ノ轉籍セントスル地ヲ管轄スル區法院ノ許可ヲ得テ一月以内ニ就籍ノ届出ヲ爲スコトヲ要ス
 第十四條 第二十二條ニ掲グル事項ノ外就籍許可ノ年月日ヲ記載スルコトヲ要ス
 第十五條 就籍ノ届出ハ就籍地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス
 第十六條 就籍許可ノ裁判ヲ得タル者ガ就籍ノ届出ヲ爲サザルトキハ其ノ者ノ入ルベキ戸ノ戸長之ヲ爲スコトヲ要ス
 第十七條 第一百十三條ノ規定ハ確定判決ニ因リテ就籍ノ届出ヲ爲スベキ場合ニ之ヲ適用ス此ノ場合ニ於テハ判決ノ原本ヲ添附スルコトヲ要ス
 第十八條 民籍ノ記載ノ法律上訴スベカラザルモノナルコト又ハ其ノ記載ニ異議若シテ遺留アルコトヲ發見シタル場合ニ於テハ利害關係人ハ其ノ民籍ノ存スル市公署又ハ市街村公所ノ所在地ヲ管轄スル區法院ノ許可ヲ得テ民籍ノ訂正ヲ申請スルコトヲ得
 第十九條 前條ノ許可ノ裁判アリタルトキハ一月以内ニ其ノ原本ヲ添附シ民籍ノ訂正ヲ申請スルコトヲ要ス
 第二十條 確定判決アリタルニ因リ民籍ノ訂正ヲ要スルトキハ新ニ轉籍シタル者又ハ申立ヲ爲シタル者ハ裁判確定ノ日ヨリ一月以内ニ裁判ノ原本ヲ添附シ訂正ノ申請ヲ爲スコトヲ要ス
 第二十一條 第三十八條乃至第五十條及第五十四條乃至第六十條ノ規定ハ民籍訂正ノ申請ニ之ヲ適用ス

第五節 抗 告
 第二十二條 民事事件ニ付市街村長ノ處分ヲ不當トスル者ハ市公署又ハ市街村公所ノ所在地ヲ管轄スル區法院ニ抗告ヲ爲スコトヲ得
 第二十三條 抗告ハ管轄區法院ニ提出シテ之ヲ爲ス
 第二十四條 抗告ノ届書又ハ申請書及關係書類ヲ添附スルコトヲ要ス
 第二十五條 抗告ヲ受ケタル法院ハ抗告ニ關スル書類ヲ市街村長ニ送付シテ其ノ意見ヲ求ムルコトヲ要ス
 第二十六條 市街村長ハ抗告ノ理由アリト認ムルトキハ處分ヲ變更シテ其ノ旨ヲ法院及抗告人ニ通知スルコトヲ要ス
 第二十七條 抗告ノ理由ナシト認ムルトキハ處分ヲ受ケタル日ヨリ十四日以内ニ審判ヲ法院ニ送還スルコトヲ要ス
 第二十八條 法院ハ抗告ノ理由ナシトスルトキハ之ヲ却下シ理由アリトスルトキハ市街村長ニ相當ノ處分ヲ命ズルコトヲ要ス
 第二十九條 抗告ヲ却下シ又ハ處分ヲ命ズル裁判ハ確定ヲ以テ之ヲ爲シ市街村長及抗告人ニ送達スルコトヲ要ス
 第三十條 法院ノ裁定ニ對シテハ法律ニ違背シタル裁判ナルコトヲ理由トスルトキニ限リ非訟事件法ノ規定ニ從ヒテ抗告ヲ爲スコトヲ得
 第三十一條 抗告法院ノ裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ルコトヲ得ス
 第三十二條 抗告ノ費用ニ付テハ非訟事件法ノ規定ヲ適用ス
 第三十三條 則 則
 第三十四條 正當ノ理由ナクシテ期間内ニ爲スベキ届出又ハ申請ヲ爲サザル者ハ十條以下ノ過料ニ課ス
 第三十五條 第五十五條ノ規定ニ依リ市街村長ガ期間ヲ定メテ届出又ハ申請ノ催告ヲ爲シタル場合ニ於テ正當ノ理由ナクシテ其ノ期間内ニ届出又ハ申請ヲ爲サザル者ハ二十條以下ノ過料ニ課ス

附 則
 本法律第七年十月一日ヨリ之ヲ施行ス臨時調停法ニ依リ
 第七年十月一日ニ施行スル臨時調停法ノ申出書又ハ申書地
 ノ市街村長ノ作成ニ係ル其ノ原本中調停部大臣ノ指定スルモノ
 ハ本法ノ規定ニ依リ民籍トシテ其ノ效力ヲ有ス
 前項ノ指定アリタル場合ニ於テハ前項ノ書面ニ記載セラレタル
 住所ヲ本籍ト定メタルモノト看做ス但シ戸長ハ本法施行後一月
 以内ニ限リ住所地ノ市街村長ニ申出テ住所以外ノ場所ニシテ戸
 長特別ノ關係アル場所ヲ本籍ト定ムルコトヲ得

民事手續法

○民事訴訟法

改正 康徳七年四月勅令第五九號 (康徳四年六月三十日
 院組織法(第四十一條)ニ依リ參議府ノ諮詢ヲ經テ民事訴訟法
 ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一章 總 則
 第一條 訴ハ被告ノ普通裁判籍所在地ノ法院ノ管轄ニ屬ス
 第二條 人ノ普通裁判籍ハ住所ニ依リテ定マル
 第三條 住所ニ依リテ定ムル住所ナキトキ又ハ住所ノ知レザルトキハ普通裁判籍ハ最後ノ住所ニ依リテ定マル
 第四條 大使、公使其ノ他外國ニ在リテ治外法權ヲ享タル滿洲國人ガ前二項ノ規定ニ依ル普通裁判籍ヲ有セザルトキハ其ノ者ノ普通裁判籍ハ新京特別市ニ在ルモノトス
 第五條 國ノ普通裁判籍ハ訴訟ニ付國ヲ代表スル官署ノ所在地ニ依リテ定マル
 第六條 法人其ノ他ノ社團又ハ財團ノ普通裁判籍ハ其ノ主たる事務所又ハ營業所ニ依リ、事務所又ハ營業所ナキトキハ主たる業務經營者ノ住所ニ依リ、住所ナキトキハ居所ニ依リテ定マル
 第七條 前項ノ規定ハ外國ノ社團又ハ財團ノ普通裁判籍ニ付テハ滿洲國ニ於ケル事務所、營業所又ハ業務經營者ニ之ヲ適用ス
 第八條 財產權ニ基テ訴ハ債務履行地ノ法院ニ之ヲ提起スルコトヲ得
 第九條 手形上ノ權利ニ基テ訴ハ支拂地ノ法院ニ之ヲ提起ス

第六節 學 生、兩 人 其 他 寄 寓 者 二 對 ス ル 財 產 權 二 基 テ 訴
 第三十六條 學生、兩人其ノ他ノ寄寓者ニ對スル財產權ニ基テ訴ハ寄寓地ノ法院ニ之ヲ提起スルコトヲ得
 第三十七條 軍人、軍屬又ハ海員ニ對スル財產權ニ基テ訴ハ軍事用ノ場合ノ所在地又ハ艦船ノ本籍若シテ艦船ノ所在地ノ法院ニ之ヲ提起スルコトヲ得
 第三十八條 滿洲國ニ住所ナキ者又ハ住所ノ知レザル者ニ對スル財產權ニ基テ訴ハ請求若シテ其ノ擔保ノ目的又ハ登壇アルコトヲ得ベキ被告ノ所在地ノ法院ニ之ヲ提起スルコトヲ得
 第三十九條 事務所又ハ營業所ヲ有スル者ニ對スル訴ハ其ノ事務所又ハ營業所ニ於ケル業務ニ關スルモノニ限リ、其ノ所在地ノ法院ニ之ヲ提起スルコトヲ得
 第四十條 船舶又ハ航行ニ關シ船舶所有者其ノ他船舶ノ利用ヲ爲ス者ニ對スル訴ハ船舶ノ所在地ノ法院ニ之ヲ提起スルコトヲ得
 第四十一條 船舶債權其ノ他船舶ヲ以テ擔保スル債權ニ基テ訴ハ船舶ノ所在地ノ法院ニ之ヲ提起スルコトヲ得
 第四十二條 會社其ノ他ノ社團ヨリ社員ニ對スル訴又ハ社員ヨリ社員ニ對スル訴ハ社員タル資格ニ基テモノニ限リ、會社其ノ他ノ社團ノ普通裁判籍所在地ノ法院ニ之ヲ提起スルコトヲ得
 第四十三條 前項ノ規定ハ社團又ハ財團ヨリ役員ニ對スル訴及會社ヨリ發起人又ハ検査役ニ對スル訴ニ之ヲ適用ス
 第四十四條 會社其ノ他ノ社團ノ債權者ヨリ社員ニ對スル訴ハ社員タル資格ニ基テモノニ限リ、前條ノ法院ニ之ヲ提起スルコトヲ得
 第四十五條 前二條ノ規定ハ社團、財團、社員又ハ社團ノ債權者ヨリ社員、役員、發起人又ハ検査役ヲシテ之ニ對スル訴及社員タル資格ニ對スル訴ニ之ヲ適用ス

第十五節 不 法 行 爲 二 關 ス ル 訴 行 爲 ア リ タ ル 地 ノ 法 院 ニ 之
 第四十六條 不法行爲ニ關スル訴ハ行爲アリタル地ノ法院ニ之ヲ提起スルコトヲ得
 第四十七條 船舶ノ衝突其ノ他水上ノ事故ニ基テ損害賠償ノ訴ハ損害ヲ受ケタル船舶ガ最初ニ到達シタル地ノ法院ニ之ヲ提起スルコトヲ得
 第四十八條 海難救助ニ關スル訴ハ救助アリタル地又ハ救助セラレタル船舶ガ最初ニ到達シタル地ノ法院ニ之ヲ提起スルコトヲ得
 第四十九條 不動産ニ關スル訴ハ不動産所在地ノ法院ニ之ヲ提起スルコトヲ得
 第五十條 登記又ハ發見ニ關スル訴ハ登記又ハ發見ヲ爲スベキ地ノ法院ニ之ヲ提起スルコトヲ得
 第五十一條 相続ニ關スル訴又ハ遺留分若シテ遺贈其ノ他死亡ニ因リテ效力ヲ生ズベキ行爲ニ關スル訴ハ相続開始ノ時ニ於ケル被相続人ノ普通裁判籍所在地ノ法院ニ之ヲ提起スルコトヲ得
 第五十二條 被相続人ガ滿洲國人ニシテ相続開始ノ時ニ滿洲國ニ普通裁判籍ヲ有セザルトキハ其ノ者ノ普通裁判籍ハ新京特別市ニ在ルモノトス
 第五十三條 相続債權其ノ他相続財產ノ負擔ニ關スル訴ニシテ前條ノ規定ニ該當セザルモノハ相続財產ノ全部又ハ一部ガ前條ノ法院ノ管轄區域内ニ在ルトキニ限リ、其ノ法院ニ之ヲ提起スルコトヲ得
 第五十四條 一ノ訴ヲ以テ數箇ノ請求ヲ爲ス場合ニ於テハ第一條乃至前條ノ規定ニ依リ一ノ請求ニ付管轄權ヲ有スル法院ニ其ノ訴ヲ提起スルコトヲ得
 第五十五條 法院組織法ニ依リ管轄方訴訟ノ目的ノ價額ニ依リテ定マルトキハ其ノ價額ハ訴ヲ以テ主張スル利益ニ依リテ之ヲ算定ス
 第五十六條 前項ノ價額ヲ算定スルコト能ハザルトキハ其ノ價額ハ二千

第三十條 法院ハ其ノ管轄ニ屬スル訴訟ニ付シテ...

第三十一條 移送ノ裁判ハ移送スルコトヲ得...

第三十二條 移送ノ裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得...

第三十三條 移送ノ裁判確定シタルトキハ訴訟ハ初ヨリ移送...

第三十四條 審判官ハ左ノ場合ニ於テハ法律上其ノ職務ノ執...

第三十五條 審判官ガ當事者ノ役員人又ハ家長若ハ家族ナルトキ...

第三十六條 審判官ハ其ノ配偶者若ハ配偶者タリシ者ガ事件ニ付...

第三十七條 審判官ハ其ノ配偶者若ハ配偶者タリシ者ガ事件ニ付...

第三十八條 審判官ハ其ノ配偶者若ハ配偶者タリシ者ガ事件ニ付...

第三十九條 審判官ハ其ノ配偶者若ハ配偶者タリシ者ガ事件ニ付...

第四十條 審判官ハ其ノ配偶者若ハ配偶者タリシ者ガ事件ニ付...

第四十一條 審判官ハ其ノ配偶者若ハ配偶者タリシ者ガ事件ニ付...

第四十二條 審判官ハ其ノ配偶者若ハ配偶者タリシ者ガ事件ニ付...

第四十三條 審判官ハ其ノ配偶者若ハ配偶者タリシ者ガ事件ニ付...

第四十四條 審判官ハ其ノ配偶者若ハ配偶者タリシ者ガ事件ニ付...

第四十五條 審判官ハ其ノ配偶者若ハ配偶者タリシ者ガ事件ニ付...

第四十六條 審判官ハ其ノ配偶者若ハ配偶者タリシ者ガ事件ニ付...

第四十七條 審判官ハ其ノ配偶者若ハ配偶者タリシ者ガ事件ニ付...

第四十八條 審判官ハ其ノ配偶者若ハ配偶者タリシ者ガ事件ニ付...

第四十九條 審判官ハ其ノ配偶者若ハ配偶者タリシ者ガ事件ニ付...

第五十條 審判官ハ其ノ配偶者若ハ配偶者タリシ者ガ事件ニ付...

第五十一條 審判官ハ其ノ配偶者若ハ配偶者タリシ者ガ事件ニ付...

第五十二條 審判官ハ其ノ配偶者若ハ配偶者タリシ者ガ事件ニ付...

第五十三條 審判官ハ其ノ配偶者若ハ配偶者タリシ者ガ事件ニ付...

第五十四條 審判官ハ其ノ配偶者若ハ配偶者タリシ者ガ事件ニ付...

第五十五條 審判官ハ其ノ配偶者若ハ配偶者タリシ者ガ事件ニ付...

第五十六條 審判官ハ其ノ配偶者若ハ配偶者タリシ者ガ事件ニ付...

第五十七條 審判官ハ其ノ配偶者若ハ配偶者タリシ者ガ事件ニ付...

第五十八條 審判官ハ其ノ配偶者若ハ配偶者タリシ者ガ事件ニ付...

第五十九條 審判官ハ其ノ配偶者若ハ配偶者タリシ者ガ事件ニ付...

第六十條 審判官ハ其ノ配偶者若ハ配偶者タリシ者ガ事件ニ付...

第六十一條 審判官ハ其ノ配偶者若ハ配偶者タリシ者ガ事件ニ付...

第六十二條 審判官ハ其ノ配偶者若ハ配偶者タリシ者ガ事件ニ付...

第六十三條 審判官ハ其ノ配偶者若ハ配偶者タリシ者ガ事件ニ付...

第六十四條 審判官ハ其ノ配偶者若ハ配偶者タリシ者ガ事件ニ付...

第六十五條 審判官ハ其ノ配偶者若ハ配偶者タリシ者ガ事件ニ付...

第六十六條 審判官ハ其ノ配偶者若ハ配偶者タリシ者ガ事件ニ付...

第六十七條 審判官ハ其ノ配偶者若ハ配偶者タリシ者ガ事件ニ付...

第六十八條 審判官ハ其ノ配偶者若ハ配偶者タリシ者ガ事件ニ付...

第六十九條 審判官ハ其ノ配偶者若ハ配偶者タリシ者ガ事件ニ付...

第七十條 審判官ハ其ノ配偶者若ハ配偶者タリシ者ガ事件ニ付...

又ハナリシトキ...

六 審判官ガ事件ニ付シテ...

七 審判官ガ事件ニ付シテ...

八 審判官ガ事件ニ付シテ...

九 審判官ガ事件ニ付シテ...

十 審判官ガ事件ニ付シテ...

十一 審判官ガ事件ニ付シテ...

十二 審判官ガ事件ニ付シテ...

十三 審判官ガ事件ニ付シテ...

十四 審判官ガ事件ニ付シテ...

十五 審判官ガ事件ニ付シテ...

十六 審判官ガ事件ニ付シテ...

十七 審判官ガ事件ニ付シテ...

十八 審判官ガ事件ニ付シテ...

十九 審判官ガ事件ニ付シテ...

二十 審判官ガ事件ニ付シテ...

二十一 審判官ガ事件ニ付シテ...

二十二 審判官ガ事件ニ付シテ...

二十三 審判官ガ事件ニ付シテ...

二十四 審判官ガ事件ニ付シテ...

二十五 審判官ガ事件ニ付シテ...

第六十三條 參加人申出ハ...

第六十四條 當事者ガ...

第六十五條 當事者ガ...

第六十六條 參加人ハ...

第六十七條 參加人ハ...

第六十八條 前條ノ...

第六十九條 訴訟ノ...

主張スル第三者又ハ...

第七十條 前條ノ...

第七十一條 訴訟ノ...

第七十二條 訴訟ノ...

第七十三條 訴訟ノ...

第七十四條 訴訟ノ...

第七十五條 訴訟ノ...

第七十六條 訴訟ノ...

第七十七條 訴訟ノ...

第七十八條 訴訟ノ...

第七十九條 訴訟ノ...

第八十條 前條ノ...

第八十一條 訴訟ノ...

第八十二條 訴訟ノ...

第八十三條 訴訟ノ...

第八十四條 訴訟ノ...

第八十五條 訴訟ノ...

第八十六條 訴訟ノ...

第八十七條 訴訟ノ...

第八十八條 訴訟ノ...

第八十九條 訴訟ノ...

第九十條 訴訟ノ...

第九十一條 訴訟ノ...

第九十二條 訴訟ノ...

第九十三條 訴訟ノ...

第九十四條 訴訟ノ...

第百二條 法院ハ法院書記官ヲシテ訴訟費用額ノ計算ヲ爲シシムルコトヲ得

第百三條 法定代理人、訴訟代理人、法院書記官又ハ送達更ガ故意又ハ重大ナル過失ニ因リテ無益ナル費用ヲ生ゼシメタルトキハ受託法院ハ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ此等ノ者ニ對シ其ノ費用額ノ償還ヲ命ズルコトヲ得

前項ノ規定ハ法定代理人又ハ訴訟代理人トシテ訴訟行爲ヲ爲シタル者ガ其ノ代理權ヲ證明スルコト能ハズ又ハ追認ヲ得ザリシ場合ニ於テ其ノ訴訟行爲ニ因リテ生ジタル訴訟費用ニ之ヲ準用ス

前二項ノ規定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第百四條 費用ヲ要スル行爲ニ付テハ法院ハ當事者ヲシテ其ノ費用ヲ豫納セシムルコトヲ得

當事者ガ法院ノ命ニ從ヒ費用ヲ豫納セザルトキハ法院ハ前項ノ行爲ヲ爲サザルコトヲ得

第百五條 原告ガ滿洲國ニ住所、事務所及營業所ヲ有セザルトキハ法院ハ被告ノ申立ニ因リ決定ヲ以テ原告ニ訴訟費用ノ擔保ヲ供スベキコトヲ命ズルコトヲ要ス擔保ニ不足ヲ生ジタルトキ亦同ジ

前項ノ規定ハ請求ノ一部ニ付争ナキ場合ニ於テ其ノ額ガ擔保ニ十分ナルトキハ之ヲ適用セズ

第百六條 前條第一項ノ規定ハ原告ノ爲參加ヲ爲シタル者ガ滿洲國ニ住所、事務所及營業所ヲ有セザル場合ニ之ヲ準用ス

第百七條 擔保ヲ供スベキ事由アルコトヲ知リタル後被告ガ本案ニ付辯論ヲ爲シ又ハ準備手續ニ於テ申述ヲ爲シタルトキハ擔保ノ申立ヲ爲スコトヲ得ズ

第百八條 擔保ノ申立ヲ爲シタル被告ハ原告又ハ參加人ガ擔保ヲ供スル迄本案ノ辯論ヲ拒ムコトヲ得

第百九條 法院ハ擔保ヲ供スベキコトヲ命ズル決定ニ於テ擔保額及擔保ヲ供スベキ期間ヲ定ムルコトヲ得

擔保額ハ被告ガ各審級ニ於テ支出スベキ費用ノ總額ヲ標準トシテ之ヲ定ム

第百十條 擔保ノ申立ニ關スル裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第百十一條 擔保ヲ供スルニハ金錢又ハ法院ガ相當ト認ムル有價證券ヲ供託スルコトヲ要ス

擔保ヲ供スベキ者ガ前項ノ規定ニ依ル擔保ヲ供スルコト能ハザルトキハ法院ハ滿洲國ニ普通裁判權ヲ有スル實力アル者ノ保證ヲ以テ之ニ代フルコトヲ許スコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル保證ハ保證書ヲ法院ニ提出シテ之ヲ爲スコトヲ要ス

第百十二條 被告ハ訴訟費用ニ付前條第一項ノ規定ニ依リテ供託シタル金額又ハ有價證券ノ上ニ質權ヲ有ス

前條第二項ノ規定ニ依リテ保證ヲ爲シタル者ハ其ノ保證金額ニ付連帶保證人ト同一ノ責任ヲ負擔ス

第百十三條 原告ガ擔保ヲ供スベキ期間内ニ之ヲ供セザルトキハ法院ハ口頭辯論ヲ經シテ判決ヲ以テ訴ヲ却下スルコトヲ得但シ判決前擔保ヲ供シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ規定ハ參加人ガ擔保ヲ供セザル場合ニ之ヲ準用ス

第百十四條 擔保ヲ供シタル者ガ擔保ヲ供セザル事由ニ之ヲ準用ス

證明シタルトキハ法院ハ申立ニ因リ擔保取消ノ決定ヲ爲スコトヲ要ス

擔保ヲ供シタル者ガ擔保取消ニ付擔保額及擔保額ノ同額ヲ得タルコトヲ證明シタルトキ亦前項ノ同ジ

訴訟ノ完結後法院ガ擔保ヲ供シタル者ノ申立ニ因リ擔保額及擔保額ノ同額ヲ得タルコトヲ證明シタルトキハ擔保取消ニ付擔保額及擔保額ノ同額ヲ得タルモノト看做ス

第百十五條 法院ハ擔保ヲ供シタル者ノ申立ニ因リ決定ヲ以テ擔保ノ要換ヲ命ズルコトヲ得

第百十六條 第八條、第九條第一項、第九條第二項、第九條第三項、第九條第四項及前二條ノ規定ハ他ノ法令ニ依リテ訴ノ提起ニ付供スベキ擔保ニ之ヲ準用ス

第三節 訴訟上ノ救済

第百十七條 訴訟費用ヲ支拂フ實力ナキ者ニ對シテハ法院ハ申立ニ因リ訴訟上ノ救助ヲ與フルコトヲ得但シ勝訴ノ見込ナキニ非ザルトキニ限ル

當事者ガ前項ノ申立ヲ爲スニハ救助ノ事由ヲ證明スルコトヲ要ス

第百十八條 訴訟上ノ救助ハ各審級ニ於テ之ヲ與フ

第百十九條 訴訟上ノ救助ハ訴訟、強制執行、假差押及假處分ニ付左ノ效力ヲ生ズ

一 裁判及執行ノ費用ノ支拂ノ免除

二 法院ニ於テ附添フ命ジタル律師ノ報酬及立替金ノ支拂ノ免除

三 訴訟費用ノ擔保ノ免除

第百二十條 訴訟上ノ救助ハ之ヲ受ケタル者ノ爲ニ其ノ效力ヲ有ス

法院ハ訴訟ノ承辦人ニ對シ負擔シタル費用ノ支拂ヲ命ズ

第百二十一條 訴訟上ノ救助ヲ受ケタル者ガ訴訟費用ノ支拂ヲ爲ス實力ヲ有スルコトヲ證明シ又ハ之ヲ有スルニ至リタルトキハ訴訟記録ノ存スル法院ハ利害關係人ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ何時ニテモ救助ヲ取消シ續續シタル訴訟費用ノ支拂ヲ命ズルコトヲ得

第百二十二條 訴訟上ノ救助ヲ受ケタル者ニ支拂フ負擔シタル費用ハ其ノ負擔ヲ命セラレタル相手方ヨリ直接ニ之ヲ取

立アルコトヲ得此ノ場合ニ於テ律師ハ訴訟上ノ救助ヲ受ケタル者ノ有スル執行名義ニ依リ報酬及立替金ニ付費用額ヲ定ムル申立及強制執行ヲ爲スコトヲ得

律師ハ報酬及立替金ニ付當事者ニ代リ第九條又ハ第一百條ノ裁判ヲ求ムル申立ヲ爲スコトヲ得

第百二十三條 當事者ガ債務ノ事實ヲ述ベ訴訟救助ヲ受ケタルトキハ法院ハ裁定ヲ以テ三百圓以下ノ過料ニ處ス

第百二十四條 本節ニ規定スル裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第四章 訴訟手續

第一節 送達

第百二十五條 送達ハ別段ノ規定アル場合ヲ除ク外職權ヲ以テ之ヲ爲ス

第百二十六條 送達ニ關スル事務ハ法院書記官之ヲ取扱フ前項ノ事務ノ取扱ハ送達地ノ區法院ノ書記官ニ之ヲ囑託スルコトヲ得

第百二十七條 送達ハ送達更又ハ郵便ニ依リ之ヲ爲ス

郵便ニ依ル送達ニ在リテハ郵便集配人ヲ以テ送達ヲ爲ス吏員トス

第百二十八條 當該事件ニ付出現シタル者ニ對シテハ法院書記官自ラ送達ヲ爲スコトヲ得

第百二十九條 送達ハ別段ノ規定アル場合ヲ除ク外送達ヲ受タベキ者ニ送達スベキ書類ノ原本ヲ交付シテ之ヲ爲ス

送達スベキ書類ノ提出ニ代ヘ調書ヲ作りタルトキハ其ノ調書ノ原本又ハ抄本ヲ交付シテ送達ヲ爲ス

第百三十條 訴訟無能力者ニ對スル送達ハ其ノ法定代理人ニ之ヲ爲ス

第百三十一條 軍服用ノ履合又ハ艦船ニ屬スル者ニ對スル送達ハ其ノ履合又ハ艦船ノ長ニ之ヲ爲ス

第百三十二條 在監者ニ對スル送達ハ監獄ノ長ニ之ヲ爲ス

第百三十三條 當事者ガ訴訟代理人ニ依リテ訴訟ヲ爲ストキハ送達ハ訴訟代理人ニ之ヲ爲ス

第百三十四條 數人ノ共同シテ代理權ヲ行フベキ場合ニ於テハ送達ハ其ノ一人ニ之ヲ爲スヲ以テ足ル

第百三十五條 送達ハ之ヲ受タベキ者ノ住所、居所、事務所又ハ營業所ニ於テ之ヲ爲ス但シ法定代理人ニ對スル送達ハ本人ノ事務所又ハ營業所ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得

送達ヲ受タベキ者ガ滿洲國ニ住所、居所、事務所又ハ營業所ヲ有スルコト不明ナラザルトキハ送達ハ其ノ出會ヒタル場所ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得住所、居所、事務所又ハ營業所ヲ有スル者ガ送達ヲ受タルトキ拒マザルトキ亦同ジ

第百三十六條 當事者、法定代理人又ハ訴訟代理人ハ受託法院ノ所在地ニ住所、居所、事務所又ハ營業所ヲ有セザルトキハ其ノ法院ノ所在地ニ於テ送達ヲ受タベキ場所及送達受取人ヲ定メ之ヲ提出シタルコトヲ要ス

前項ノ提出ハ送達ヲ受タベキ者ガ受託法院ノ所在地ニ住所、居所、事務所又ハ營業所ヲ有スル場合ニ於テモ亦之ヲ爲スコトヲ得

前二項ノ提出ハ同一ノ地ニ在ル各審級ノ法院ニ對シ其ノ效力ヲ有ス

第百三十七條 送達ヲ爲スベキ場所ニ於テ送達ヲ受タベキ者ニ出會ハザルトキハ事務員、雇人又ハ同居者ニシテ事務ヲ辦處スルニ足ルベキ知識ヲ具フル者ニ書類ヲ交付スルコトヲ得

第百三十八條 書類ノ交付ヲ受タベキ者ガ正當ノ事由ナクシテ之ヲ受タルコトヲ拒ミタルトキハ送達ヲ爲スベキ場所ニ書類ヲ差置タルコトヲ得

第百三十九條 前二條ノ規定ニ依リテ送達ヲ爲スコト能ハザル場合ニ於テハ法院書記官書類ヲ郵便郵便ニ付シテ之ヲ送達スルコトヲ得

第百四十條 前條ノ規定ニ依リテ書類ヲ郵便ニ付シテ送達シタル場合ニ於テハ其ノ發送ノ時ニ於テ送達アリタルモノト看做ス

第百四十一條 日曜日其ノ他ノ一般ノ休日又ハ日出前日没後ニ於テ送達更ニ依ル送達ヲ爲スニハ審判官ノ許可アルコトヲ要ス

前項ノ許可アリタルトキハ法院書記官ハ送達スベキ書類ニ其ノ旨ヲ附記スルコトヲ得

前二項ノ規定ニ違背スル送達ハ書類ノ交付ヲ受タベキ者ガ之ヲ受取リタル場合ニ限リ其ノ效力ヲ有ス

第百四十二條 外國ニ於テ爲スベキ送達ハ審判官其ノ國ノ管轄官署又ハ其ノ國ニ駐在スル滿洲國ノ大使、公使若ハ領事ニ囑託シテ之ヲ爲ス

第百四十三條 出陣ノ軍隊ニ屬スル者又ハ役務ニ服スル艦船ノ乘組員ニ對スル送達ハ審判官其ノ上級司令官應ニ囑託シテ之ヲ爲ス

前項ノ送達ニ付テハ第三百一十一條ノ規定ヲ準用ス

第百四十四條 送達ヲ爲シタル吏員ハ書面ヲ作り送達ニ關スル事項ヲ記載シ之ヲ法院ニ提出スルコトヲ要ス

第百四十五條 當事者ノ住所、居所其ノ他送達ヲ爲スベキ場所ガ知レザル場合又ハ外國ニ於テ爲スベキ送達ニ付第四百四十二條ノ規定ニ依ルコト能ハズ若ハ之ニ依ルモ其ノ數ナシト認ムベキ場合ニ於テハ申立ニ因リ審判官ノ許可ヲ受ケ公示送達ヲ爲スコトヲ得

訴訟ノ進捗ヲ速タル爲必要アリト認ムルトキハ審判官ノ許可ヲ受ケ職權ヲ以テ公示送達ヲ爲スコトヲ得

同一ノ當事者ニ對スル兩便ノ公示送達ハ職權ヲ以テ之ヲ爲ス

第百四十六條 公示送達ハ法院書記官送達スベキ書類ヲ法院ノ揭示場ニ貼附シテ之ヲ爲ス但シ送達書類ノ保管シ何時ニ

テモ送達アリトキ者ニ交付スベキ旨ヲ指示シテ
送達書類ノ貼付ニ代フルコトヲ得
法院ハ公示送達アリタルコトヲ政府公報若ハ新聞紙ニ掲載
シ又ハ適當ノ方法ヲ以テ公示スベキコトヲ命ズルコトヲ得
但シ外國ニ於テ公示スベキ送達ニ付テハ公示送達アリタルコ
トヲ郵便ニ付シテ通知スルコトヲ得
第百四十七條 公示送達ハ前條第一項ノ規定ニ依ル貼付ヲ爲
シ又ハ指示ヲ命ズル日ヨリ三週間ヲ経過スルニ因リテ其
ノ效力ヲ生ズ但シ第四百五十五條第三項ノ公示送達ハ貼付ヲ
爲シ又ハ指示ヲ命ズル日ヨリ翌日ニ於テ其ノ效力ヲ生ズ
前項ノ期間ハ之ヲ短縮スルコトヲ得ズ
第百四十八條 送達ニ關スル審判官ノ權限ハ受命審判官、受
託審判官及送達地ノ區法院ノ審判官亦之ヲ有ス
第二節 期日及期間
第百四十九條 期日ハ審判官ノ指定ム
受命審判官又ハ受託審判官ノ審問ノ期日ハ其ノ審判官ノ指
定ム
期日ノ指定ハ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ之ヲ爲ス
期日ハ顯著ナル事由存スル場合ニ限り之ヲ變更スルコトヲ
得
第百五十條 期日ノ指定ハ日及時ヲ定メテ之ヲ爲ス
期日ハ日ヨリ得ザル場合ニ非ザレバ日ヨリ其ノ他ノ
一較ノ休日ニ之ヲ定ムルコトヲ得ズ
第百五十一條 期日ニ於テハ呼出狀ヲ送達シテ之ヲ爲
ス但シ當該事件ニ付頭シタル者ニ對シテハ期日ヲ告知ス
ルヲ以テ足ル
第百五十二條 期日ハ事件ノ呼上ヲ以テ之ヲ開始ス
第百五十三條 期間ノ計算ハ民法ニ從フ
期間ノ末日ガ日曜日其ノ他ノ一般ノ休日ニ當ルトキハ期間
ハ其ノ翌日ヲ以テ滿了ス

第百五十四條 期間ヲ定ムル裁判ニ於テ始期ヲ定メザルトキ
ハ其ノ期間ハ裁判ガ效力ヲ生ジタル時ヨリ進行ヲ始ム
第百五十五條 法院ハ法定期間又ハ其ノ定メタル期間ヲ伸長
シ又ハ之ヲ短縮スルコトヲ得但シ不變期間ハ此ノ限ニ在ラ
ズ
不變期間ニ付テハ法院ハ連續ノ地又ハ交通不便ノ地ニ住所
又ハ居所ヲ有スル者ノ爲附加期間ヲ定ムルコトヲ得
審判官、受命審判官又ハ受託審判官ハ其ノ定メタル期間ヲ
伸長シ又ハ之ヲ短縮スルコトヲ得
第百五十六條 當事者ガ其ノ責ニ關スベカラザル事由ニ因リ
不變期間内ニ爲スベキ訴訟行為ヲ爲スコト能ハザリシ場合
ニ於テハ其ノ追完ヲ爲スコトヲ得
第百五十七條 當事者ガ前條ノ事由ニ因リ口頭辯論ヲ爲スコ
ト能ハザリシ場合ニ於テハ其ノ追完ノ申立ヲ爲スコトヲ得
前項ノ規定ニ依リ追完ノ申立アリタルトキハ當該判決ニ對
シテハ上訴ヲ爲スコトヲ得但シ追完ノ申立方却下セラレ
又ハ取下セラレタルトキハ此ノ限ニ在ラズ
第百五十八條 前條ノ規定スル追完ノ申立ハ申立ノ趣旨及理
由ヲ具シ訴訟行為ヲ追完スベキ法院ニ之ヲ爲スコトヲ要ス
法院ガ追完ノ申立ヲ不當ト認ムルトキハ裁定ヲ以テ之ヲ却
下スルコトヲ要ス此ノ裁定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコト
ヲ得
第百五十九條 第五百五十六條ニ規定スル追完及第五百五十七條
ニ規定スル追完ノ申立ハ第五百五十六條ノ事由ノ止ミタル後
二週間以内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス
前項ノ期間ハ之ヲ不變期間トス
第三節 訴訟手續ノ中止及中止
第百六十條 當事者ガ死亡シタルトキハ訴訟手續ハ中止ス此
ノ場合ニ於テハ相續人、相續財產管理人其ノ他法令ニ依リ
訴訟手續ヲ履行スベキ者ハ訴訟手續ヲ受續ゴトヲ要ス

相續人ハ相續ノ擔當ヲ爲スコトヲ得ル間ハ訴訟手續ヲ受續
ゴトヲ得ズ
第百六十一條 當事者タル法人ガ合併ニ因リテ消滅シタルト
キハ訴訟手續ハ中止ス此ノ場合ニ於テハ合併ニ因リテ設立
シタル法人又ハ合併後存続スル法人ハ訴訟手續ヲ受續ゴ
トヲ要ス
前項ノ規定ハ合併ヲ以テ相手方ニ對抗スルコトヲ得ザル場
合ニ之ヲ適用セズ
第百六十二條 當事者ガ訴訟能力ヲ失ヒタルトキ又ハ其ノ法
定代理人ガ死亡シ若ハ代理權ヲ失ヒタルトキハ訴訟手續ハ
中止ス此ノ場合ニ於テハ法定代理人又ハ訴訟能力ヲ有スル
ニ至リタル當事者ハ訴訟手續ヲ受續ゴトヲ要ス
第百六十三條 一定ノ資格ヲ有スル者ガ自己ノ名ヲ以テ他人
ノ爲訴訟ノ當事者タル場合ニ於テ其ノ資格ヲ喪失シ又ハ死
亡シタルトキハ訴訟手續ハ中止ス此ノ場合ニ於テハ同一ノ
資格ヲ有スル者其ノ他法令ニ依リ訴訟手續ヲ履行スベキ者ハ訴
訟手續ヲ受續ゴトヲ要ス
第四十七條ノ規定ニ依リテ選定セラレタル當事者ノ全員ガ
其ノ資格ヲ喪失シ又ハ死亡シタルトキハ訴訟手續ハ中止ス
此ノ場合ニ於テハ選定ヲ爲シタル者ノ總員又ハ新ニ當事者
トシテ選定セラレタル者ハ訴訟手續ヲ受續ゴトヲ要ス
第百六十四條 第六十條第一項、第六十一條第一項及前
二條ノ規定ハ訴訟代理人アル間ニ之ヲ適用セズ
第百六十五條 當事者ガ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ破産財
團ニ關スル訴訟手續ハ中止ス此ノ場合ニ於テ破産法ニ依ル
訴訟手續ヲ受續ス
第百六十六條 破産法ニ依リテ破産財團ニ關スル訴訟手續ノ
受續アリタル後破産手續ノ解止アリタルトキハ訴訟手續ハ
中止ス此ノ場合ニ於テハ破産者ハ訴訟手續ヲ受續ゴトヲ
要ス破産宣告後破産財團ニ關シテ訴ガ提起セラレタル場合ニ

於テ破産手續ノ解止アリタルトキ亦同ジ
第百六十七條 訴訟手續ノ受續ハ相手方ニ於テモ亦之ヲ爲ス
コトヲ得
第百六十八條 訴訟手續受續ノ申立アリタルトキハ法院ハ之
ヲ相手方ニ通知スルコトヲ要ス
第百六十九條 訴訟手續受續ノ申立ハ法院職權ヲ以テ之ヲ調
査シ理由ナシト認ムルトキハ裁定ヲ以テ之ヲ却下スルコト
ヲ要ス
裁判ノ送達後申立タル訴訟手續ノ受續ニ付テハ其ノ裁判
ヲ爲シタル法院裁判ヲ爲スコトヲ要ス
第百七十條 法院ハ當事者ガ訴訟手續ノ受續ヲ爲サザル場合
ニ於テモ職權ヲ以テ其ノ履行ヲ命ズルコトヲ得
第百七十一條 天災其ノ他ノ事故ニ因リ法院ガ職務ヲ行フコ
ト能ハザルトキハ訴訟手續ハ其ノ事故ノ止ミ途中止ス
第百七十二條 當事者ガ不定期間ノ故障ニ因リ訴訟手續ヲ履
行スルコト能ハザルトキハ法院ハ裁定ヲ以テ其ノ中止ヲ命
ズルコトヲ得
前項ノ裁定ハ之ヲ取消スコトヲ得
第百七十三條 判決ノ言渡ハ訴訟手續ノ中止中ト雖モ之ヲ爲
スコトヲ得
訴訟手續ノ中止又ハ中止ハ期間ノ進行ヲ止メ訴訟手續ノ受
續ノ通知又ハ履行ノ時ヨリ更ニ全期間ノ進行ヲ始ム
第二章 第一審ノ訴訟手續
第一節 地方法院ノ訴訟手續
第百七十四條 訴ノ提起ハ訴狀ヲ法院ニ提出シテ之ヲ爲スコ
トヲ要ス
第百七十五條 訴狀ニハ當事者、法定代理人及ニ請求ノ趣旨
及原因ヲ記載スルコトヲ要ス
準備書面ニ關スル規定ハ訴狀ニ之ヲ準用ス

第百七十六條 確證ノ訴ハ法律關係ヲ證スル書面ノ有否ヲ確
定スル爲ニモ之ヲ提起スルコトヲ得
第百七十七條 將來ノ給付ヲ求ムル訴ハ豫メ其ノ請求ヲ爲ス
必要アル場合ニ限り之ヲ提起スルコトヲ得
第百七十八條 數箇ノ請求ハ同種ノ訴訟手續ニ依ル場合ニ限
リ一ノ訴ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得
第百七十九條 訴狀ガ第五百七十五條第一項ノ規定ニ違背スル
場合ニ於テハ審判官ハ相當ノ期間ヲ定メ其ノ期間内ニ欠缺
ヲ補正スベキコトヲ命ズルコトヲ要ス法律ノ規定ニ從ヒ訴
狀ニ印紙ヲ貼用セザル場合亦同ジ
原告ガ欠缺ノ補正ヲ爲サザルトキハ審判官ハ裁定ヲ以テ訴
狀ヲ却下スルコトヲ要ス
前項ノ規定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得
第百八十條 訴狀ハ之ヲ被告ニ送達スルコトヲ要ス
抗告狀ニハ却下セラレタル訴狀ヲ添附スルコトヲ要ス
第百八十一條 訴狀ノ送達ヲ爲スコト能ハザル場合ニ之ヲ準
用ス
第百八十二條 訴ノ提起アリタルトキハ審判官ハ口頭辯論ノ
期日ヲ定メ當事者ヲ呼出スコトヲ要ス
第百八十三條 法院ニ關スル事件ニ付テハ當事者ハ更ニ訴
ヲ提起スルコトヲ得ズ
第百八十四條 原告ハ請求ノ基礎ニ變更ナキ限り口頭辯論ノ
終結ニ至ル迄請求ノ趣旨又ハ原因ヲ變更スルコトヲ得但シ
之ニ因リ審判官ハ訴訟手續ヲ通稱セシムベキ場合ハ此ノ限ニ在
ラズ
請求ノ變更ハ書面ニ依リテ之ヲ爲スコトヲ要ス
前項ノ書面ハ之ヲ相手方ニ送達スルコトヲ要ス
第百八十五條 法院ガ請求ノ變更ヲ不當ナリト認ムルトキハ
申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ其ノ變更ヲ許サザル旨ノ裁定ヲ
爲スコトヲ要ス

第百八十六條 裁判ガ訴訟ノ進行中ニ申トナリタル法律關係
ノ成立又ハ不成立ニ關スルトキハ當事者ハ請求ヲ繼續シテ其
ノ法律關係ノ確證ノ判決ヲ求ムルコトヲ得但シ其ノ確證ノ
請求ガ他ノ法院ノ管轄ニ專屬セザルトキニ限ル
前項ノ規定ニ依ル請求ノ擴張ハ書面ニ依リテ之ヲ爲スコト
ヲ要ス
前項ノ書面ハ之ヲ相手方ニ送達スルコトヲ要ス
第百八十七條 時効ノ中断又ハ法律上ノ期間遵守ノ爲必要ナ
ル裁判上ノ請求ハ訴ヲ提起シタル時又ハ第五百八十三條第二
項若ハ前條第二項ノ規定ニ依リ書面ヲ法院ニ提出シタル時
ニ於テ其ノ效力ヲ生ズ
第百八十八條 被告ハ口頭辯論ノ終結ニ至ル迄本訴ノ要點ス
ル法院ニ反訴ヲ提起スルコトヲ得但シ其ノ目的タル請求ガ
他ノ法院ノ管轄ニ專屬セザルトキ及本訴ノ目的タル請求又
ハ防禦ノ方法ト牽連スルコトニ限ル
反訴ニ付テハ本訴ニ關スル規定ニ依ル
第二節 口頭辯論
第百八十九條 當事者ハ別段ノ規定ヲ除ク外訴訟
ニ付法院ニ於テ口頭辯論ヲ爲スコトヲ要ス
第百九十條 口頭辯論ハ書面ヲ以テ之ヲ準備スルコトヲ要
ス
第百九十一條 準備書面ハ之ニ記載シタル事項ニ付相手方ガ準
備ヲ爲スニ必要ナル期間ヲ存シ之ヲ法院ニ提出シ法院ハ之
ヲ相手方ニ送達スルコトヲ要ス
第百九十二條 準備書面ヲ提出スベキ期間ヲ定ムルコトヲ得
審判官ハ準備書面ヲ提出スベキ期間ヲ定ムルコトヲ得
第百九十三條 準備書面ニハ左ノ事項ヲ記載シ當事者又ハ代
理人ノ姓名、名稱又ハ商號、職業及住所
一 當事者ノ姓名、名稱又ハ商號、職業及住所
二 代理人ノ姓名、職業及住所
三 事件ノ指示

四 攻撃又ハ防禦ノ方法
五 相手方ノ請求及攻撃又ハ防禦ノ方法ニ對スル陳述
六 附屬書類ノ表示
七 年月日
八 法院ノ表示

第九十二條 當事者ノ所持スル文書ニシテ準備書面ニ引用
シタルモノハ準備書面ノ各通ニ其ノ原本ヲ添付スルコトヲ
要ス
第九十三條 前條ノ文書ハ相手方ノ求ニ因リ其ノ原本ヲ
覽セシムルコトヲ要ス
第九十四條 準備書面ニ記載セザル事實ハ相手方ガ在庭セ
ザルトキハ口頭辯論ニ於テ之ヲ主張スルコトヲ得ズ
第九十五條 口頭辯論ハ審判官ノ指揮スル
第九十六條 審判官ハ訴訟關係ヲ明確ナラシムル爲事實上
及法律上ノ事項ニ關シ當事者ニ對シテ問ヲ發シ又ハ立證ヲ
促スコトヲ得

第九十七條 審判官ハ前條ノ規定ニ依リテ當事者ヲシテ陳
明セシムベキ事項ヲ指示シ口頭辯論期日前準備書面ニ於
テ之ヲ命ズルコトヲ得
第九十八條 當事者ガ辯論ノ指揮ニ關スル審判官ノ命又ハ
前條ノ規定ニ依ル審判官ノ處置ニ對シ異議ヲ述べタルト
キハ法院ハ裁定ヲ以テ其ノ異議ニ付裁可トシ又ハ左ノ處分
ヲ爲スコトヲ得
第九十九條 法院ハ訴訟關係ヲ明確ナラシムル爲左ノ處分
ヲ爲スコトヲ得
一 當事者本人又ハ其ノ法定代理人ノ出頭ヲ命ズルコト

二 訴訟書類又ハ訴訟ニ於テ引用シタル文書其ノ他ノ物件
ニシテ當事者ノ所持スルモノヲ提出セシムルコト
三 當事者又ハ第三者ノ提出シタル文書其ノ他ノ物件ヲ法
院ニ留置スルコト
四 檢證ヲ爲シ又ハ鑑定ヲ命ズルコト
五 必要ナル調査ヲ囑託スルコト
六 前項第一號ノ場合ニ於テ當事者本人又ハ其ノ法定代理人ハ
法院ノ許可ヲ受ケ自己ニ代リ事情ヲ熟知セル者ヲ出頭セシ
ムルコトヲ得
第七項第四號ニ規定スル檢證及鑑定ニ第五號ニ規定スル
調査ノ囑託ニ付テハ證據調ニ關スル規定ヲ準用ス
第九十條 法院ハ口頭辯論ノ制限、分離若ハ併合ヲ命ジ又ハ
其ノ命ヲ取消スコトヲ得
第九十一條 法院ハ終結シタル口頭辯論ノ再開ヲ命ズルコト
ヲ得

第九十二條 法院ハ口頭辯論ニ通事ヲ立會ハシムルコトヲ得
審判官ハ之ヲ命ズルコトヲ得
第九十三條 法院ハ訴訟關係ヲ明確ナラシムル爲必要ナル陳
述ヲ爲スコト能ハザル當事者、代理人又ハ輔佐人ノ陳述ヲ
禁ジ辯論進行ノ爲新期日ヲ定ムルコトヲ得
第九十四條 前項ノ規定ニ依リテ陳述ヲ禁ズル場合ニ於テ必要アリト
認ムルトキハ法院ハ律師ノ附添ヲ命ズルコトヲ得
第九十五條 訴訟代理人ノ陳述ヲ禁ジ又ハ律師ノ附添ヲ命ズルコトキハ
本人ニ其ノ旨ヲ通知スルコトヲ要ス
第九十六條 攻撃又ハ防禦ノ方法ハ別段ノ規定アル場合ヲ除
クノ外口頭辯論ノ終結ニ至ル迄之ヲ提出スルコトヲ得
第九十七條 原告又ハ被告ガ最初ニ爲スベキ口頭辯論ノ期日
第二十五條 原告又ハ被告ガ最初ニ爲スベキ口頭辯論ノ期日

第九十八條 調書ノ記載ニ付關係人ガ異議ヲ述べタルトキハ調書ニ其ノ
趣旨ヲ記載スルコトヲ要ス
第九十九條 口頭辯論ノ方式ニ關スル規定ノ遵守ハ調書ニ
依リテ之ヲ證明スルコトヲ得但シ調書ガ滅失シタルトキ
ハ此ノ限ニ在ラズ
第一百條 第二百一十一條乃至前條ノ規定ハ法院ノ審訊、
受託審判官ノ審問及證據調ニ之ヲ準用ス
第一百零一條 申立其ノ他ノ申述ハ別段ノ規定アル場合ヲ除
クノ外書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得
第一百零二條 口頭ヲ以テ申述ヲ爲スニハ法院書記官ノ面前ニ於テ陳述ヲ
爲スコトヲ要ス
第一百零三條 前項ノ場合ニ於テハ書記官調書ヲ作リ之ニ署名捺印スルコ
トヲ要ス
第一百零四條 當事者ハ訴訟記録ノ閲覧若ハ謄寫又ハ其ノ正
本、原本、抄本若ハ訴訟ニ關スル事項ノ證明書ノ交付ヲ法
院書記官ニ請求スルコトヲ得利害關係ヲ證明シタル第三者
亦同シ
第一百零五條 訴訟記録ノ正本、原本又ハ抄本ニハ其ノ正本、原本又ハ抄
本ナルコトヲ記載シ書記官之ニ署名捺印シ且法院ノ印ヲ押
捺スルコトヲ要ス

第六〇
ニ出頭セズ又ハ出頭スルモ本案ノ辯論ヲ爲サザルトキハ其
ノ者ノ提出シタル訴狀、答辯書其ノ他ノ準備書面ニ記載シ
タル事項ハ之ヲ陳述シタルモノト看做シ出頭シタル相手方
ニ辯論ヲ命ズルコトヲ得
第六十一條 當事者ガ故意又ハ重大ナル過失ニ因リ時機ニ接
レテ提出シタル攻撃又ハ防禦ノ方法ハ之ガ爲訴訟ノ完結ヲ
遲延セシムベキモノト認ムルトキハ法院ハ申立ニ因リ又ハ
職權ヲ以テ却下ノ裁定ヲ爲スコトヲ得
第六十二條 攻撃又ハ防禦ノ方法ニシテ其ノ趣旨明確ナラザルモノニ付
當事者ガ必要ナル聲明ヲ爲サズ又ハ聲明ヲ爲スベキ期日ニ
出頭セザルトキ亦前項ノ同シ
第六十三條 當事者ガ口頭辯論ニ於テ相手方ノ主張シタル事
實ヲ明ニ争ハザルトキハ其ノ事實ヲ明白シタルモノト看做
ス但シ辯論ノ全趣旨ニ依リ其ノ事實ヲ争ヒタルモノト認ム
ベキ場合ハ此ノ限ニ在ラズ
第六十四條 相手方ノ主張シタル事實ヲ知ラザル旨ノ陳述ヲ爲シタル者
ハ其ノ事實ヲ争ヒタルモノト推定ス
第六十五條 第一項本文ノ規定ハ當事者ガ口頭辯論ノ期日ニ出頭セズ又
ハ出頭スルモ辯論ヲ爲サザル場合ニ之ヲ準用ス
第六十六條 當事者雙方ガ口頭辯論ノ期日ニ出頭セズ又ハ辯
論ヲ爲サズシテ退庭シタルトキハ審判官ハ新期日ヲ定メ當
事者雙方ヲ呼出スルコトヲ要ス
第六十七條 前項ノ新期日又ハ其ノ後ノ期日ニ當事者雙方ガ出頭セズ又
ハ辯論ヲ爲サズシテ退庭シタルトキハ訴訟ノ取下アリタルモ
ノト看做ス
第六十八條 法院ハ當事者雙方ニ異議ナキ場合ニ限り口頭辯
論ヲ終シテ判決ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ法院ハ
期間ヲ定メ書面ヲ以テ陳述スベキコトヲ當事者ニ命ズルコ
トヲ得
第六十九條 當事者ガ訴訟手續ニ關スル規定ノ違背ヲ知り又

第六十條 必要ト認ムルモノハ之ヲ取調ブルコトヲ要セズ
第六十一條 第二百一十條 證據調ニ付不定期間ノ障礙アルトキハ法院
ハ證據調ヲ爲サザルコトヲ得
第六十二條 第二百一十五條 法院ハ當事者ノ申出タル證據ニ依リテ心
證ヲ得ルコト能ハザルトキ其ノ他必要アリト認ムルトキハ
職權ヲ以テ證據調ヲ爲スコトヲ得
第六十三條 第二百一十六條 法院ハ必要ナル調査ヲ官署、公署、外國ノ
官署若ハ公署又ハ學校、商會、農會、取引所其ノ他ノ團體
ニ囑託スルコトヲ得
第六十四條 第二百一十七條 證據調ハ當事者ガ期日ニ出頭セザル場合ニ
於テ之ヲ爲スコトヲ得
第六十五條 第二百一十八條 外國ニ於テ爲スベキ證據調ハ其ノ國ノ管轄
官署又ハ其ノ國ニ駐在スル滿洲國ノ大使、公使若ハ領事ニ
囑託シテ之ヲ爲スコトヲ要ス
第六十六條 外國ニ於テ爲シタル證據調ハ其ノ國ノ法律ニ違背スルモ本
法ニ違背セザルトキハ其ノ效力ヲ有ス
第六十七條 第二百一十九條 法院ハ相當ト認ムルトキハ法院外ニ於テ證
據調ヲ爲シ又ハ區法院ニ囑託シテ證據調ヲ爲サシムルコト
ヲ得
第六十八條 受託審判官ガ他ノ區法院ニ於テ證據調ヲ爲スコトヲ相當ト
認ムルトキハ更ニ證據調ノ囑託ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ
於テハ其ノ旨ヲ受託法院及當事者ニ通知スルコトヲ要ス
第六十九條 第二百二十條 受託審判官ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外
證據調ニ關シ受託法院及審判官ト同一ノ權限ヲ有ス
第七十條 受託審判官ガ裁判ヲ爲スベキ場合ニ於テ相當ト認ムルトキ
ハ受託法院ニ對シ其ノ裁判ヲ爲スベキコトヲ請求スルコト
ヲ得
第七十一條 第二百二十一條 受託審判官ハ證據調ニ關スル記録ヲ受託法
院ニ送付スルコトヲ要ス
第七十二條 第二百二十二條 法院ノ爲ス證據ニ關スル囑託ハ審判官之ヲ

第七十三條 第二百二十三條 當事者ノ申出タル證據ニシテ法院ニ於テ
第九十二條 第九十三條 第九十四條 第九十五條 第九十六條 第九十七條 第九十八條 第九十九條 第一百條 第一百零一條 第一百零二條 第一百零三條 第一百零四條 第一百零五條 第一百零六條 第一百零七條 第一百零八條 第一百零九條 第一百一十條 第一百一十一條 第一百一十二條 第一百一十三條 第一百一十四條 第一百一十五條 第一百一十六條 第一百一十七條 第一百一十八條 第一百一十九條 第一百二十條 第一百二十一條 第一百二十二條 第一百二十三條 第一百二十四條 第一百二十五條 第一百二十六條 第一百二十七條 第一百二十八條 第一百二十九條 第一百三十條 第一百三十一條 第一百三十二條 第一百三十三條 第一百三十四條 第一百三十五條 第一百三十六條 第一百三十七條 第一百三十八條 第一百三十九條 第一百四十條 第一百四十一條 第一百四十二條 第一百四十三條 第一百四十四條 第一百四十五條 第一百四十六條 第一百四十七條 第一百四十八條 第一百四十九條 第一百五十條 第一百五十一條 第一百五十二條 第一百五十三條 第一百五十四條 第一百五十五條 第一百五十六條 第一百五十七條 第一百五十八條 第一百五十九條 第一百六十條 第一百六十一條 第一百六十二條 第一百六十三條 第一百六十四條 第一百六十五條 第一百六十六條 第一百六十七條 第一百六十八條 第一百六十九條 第一百七十條 第一百七十一條 第一百七十二條 第一百七十三條 第一百七十四條 第一百七十五條 第一百七十六條 第一百七十七條 第一百七十八條 第一百七十九條 第一百八十條 第一百八十一條 第一百八十二條 第一百八十三條 第一百八十四條 第一百八十五條 第一百八十六條 第一百八十七條 第一百八十八條 第一百八十九條 第一百九十條 第一百九十一條 第一百九十二條 第一百九十三條 第一百九十四條 第一百九十五條 第一百九十六條 第一百九十七條 第一百九十八條 第一百九十九條 第二百條

ハ之ヲ知ルコトヲ得ベカリシニ拘ラズ遲滞ナク異議ヲ述べ
ザルトキハ之ヲ述ブル權利ヲ失フ但シ拋棄スルコトヲ得ザ
ルモノハ此ノ限ニ在ラズ
第一百零一條 口頭辯論ニ付テハ法院書記官期日毎ニ調書ヲ
作ルコトヲ要ス
第一百零二條 調書ニハ左ノ事項ヲ記載シ審判官及法院書記
官之ニ署名捺印スルコトヲ要ス但シ審判官支障アルトキハ
書記官其ノ旨ヲ記載スルヲ以テ足ル
一 事件ノ表示
二 審判官及法院書記官ノ氏名
三 出頭シタル當事者、代理人、輔佐人及通事並ニ關係シ
タル當事者ノ氏名
四 辯論ノ場所及年月日
五 訴訟ノ公開シタルコト又ハ公開セザル場合ニ於テハ其
ノ理由
第六十條 調書ニハ辯論ノ要領ヲ記載シ殊ニ左ノ事項ヲ
明確ニハルコトヲ要ス
一 判解、認諾、拋棄、取下及自白
二 證人、鑑定人ノ宣誓及陳述
三 檢證ノ結果
四 審判官ノ記載ヲ命ジタル事項及當事者ノ請求ニ因リ記
載ヲ許シタル事項
五 書面ニ作ラサル裁判
六 裁判ノ旨
第七十條 審判官ハ調書ニ書面、寫眞其ノ他適當ト認ム
ルモノヲ引用シ訴訟記録ニ添付シテ之ヲ調書ノ一部ト爲サ
シムルコトヲ得
第七十一條 調書ノ記載ハ申立ニ因リ法院ニ於テ關係人ニ
之ヲ開カセ又ハ閲覧セシムル調書ニ其ノ旨ヲ記載スルコ
トヲ要ス

第一百零三條 調書ノ記載ニ付關係人ガ異議ヲ述べタルトキハ調書ニ其ノ
趣旨ヲ記載スルコトヲ要ス
第一百零四條 口頭辯論ノ方式ニ關スル規定ノ遵守ハ調書ニ
依リテ之ヲ證明スルコトヲ得但シ調書ガ滅失シタルトキ
ハ此ノ限ニ在ラズ
第一百零五條 第二百一十一條乃至前條ノ規定ハ法院ノ審訊、
受託審判官ノ審問及證據調ニ之ヲ準用ス
第一百零六條 申立其ノ他ノ申述ハ別段ノ規定アル場合ヲ除
クノ外書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得
第一百零七條 口頭ヲ以テ申述ヲ爲スニハ法院書記官ノ面前ニ於テ陳述ヲ
爲スコトヲ要ス
第一百零八條 前項ノ場合ニ於テハ書記官調書ヲ作リ之ニ署名捺印スルコ
トヲ要ス
第一百零九條 當事者ハ訴訟記録ノ閲覧若ハ謄寫又ハ其ノ正
本、原本、抄本若ハ訴訟ニ關スル事項ノ證明書ノ交付ヲ法
院書記官ニ請求スルコトヲ得利害關係ヲ證明シタル第三者
亦同シ
第一百一十條 訴訟記録ノ正本、原本又ハ抄本ニハ其ノ正本、原本又ハ抄
本ナルコトヲ記載シ書記官之ニ署名捺印シ且法院ノ印ヲ押
捺スルコトヲ要ス

第六〇
ニ出頭セズ又ハ出頭スルモ本案ノ辯論ヲ爲サザルトキハ其
ノ者ノ提出シタル訴狀、答辯書其ノ他ノ準備書面ニ記載シ
タル事項ハ之ヲ陳述シタルモノト看做シ出頭シタル相手方
ニ辯論ヲ命ズルコトヲ得
第六十一條 當事者ガ故意又ハ重大ナル過失ニ因リ時機ニ接
レテ提出シタル攻撃又ハ防禦ノ方法ハ之ガ爲訴訟ノ完結ヲ
遲延セシムベキモノト認ムルトキハ法院ハ申立ニ因リ又ハ
職權ヲ以テ却下ノ裁定ヲ爲スコトヲ得
第六十二條 攻撃又ハ防禦ノ方法ニシテ其ノ趣旨明確ナラザルモノニ付
當事者ガ必要ナル聲明ヲ爲サズ又ハ聲明ヲ爲スベキ期日ニ
出頭セザルトキ亦前項ノ同シ
第六十三條 當事者ガ口頭辯論ニ於テ相手方ノ主張シタル事
實ヲ明ニ争ハザルトキハ其ノ事實ヲ明白シタルモノト看做
ス但シ辯論ノ全趣旨ニ依リ其ノ事實ヲ争ヒタルモノト認ム
ベキ場合ハ此ノ限ニ在ラズ
第六十四條 相手方ノ主張シタル事實ヲ知ラザル旨ノ陳述ヲ爲シタル者
ハ其ノ事實ヲ争ヒタルモノト推定ス
第六十五條 第一項本文ノ規定ハ當事者ガ口頭辯論ノ期日ニ出頭セズ又
ハ出頭スルモ辯論ヲ爲サザル場合ニ之ヲ準用ス
第六十六條 當事者雙方ガ口頭辯論ノ期日ニ出頭セズ又ハ辯
論ヲ爲サズシテ退庭シタルトキハ審判官ハ新期日ヲ定メ當
事者雙方ヲ呼出スルコトヲ要ス
第六十七條 前項ノ新期日又ハ其ノ後ノ期日ニ當事者雙方ガ出頭セズ又
ハ辯論ヲ爲サズシテ退庭シタルトキハ訴訟ノ取下アリタルモ
ノト看做ス
第六十八條 法院ハ當事者雙方ニ異議ナキ場合ニ限り口頭辯
論ヲ終シテ判決ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ法院ハ
期間ヲ定メ書面ヲ以テ陳述スベキコトヲ當事者ニ命ズルコ
トヲ得
第六十九條 當事者ガ訴訟手續ニ關スル規定ノ違背ヲ知り又

本ノ交付ヲ求ムルコトヲ得ル場合ハ此ノ限ニ在ラズ
 第二百七十九條 法院ハ必要アリト認ムルトキハ提出又ハ送
 付ニ係ル文書ヲ複製シ得ルコトヲ得
 第二百八十條 第二百二十九條ノ規定ニ依リテ受託審判官
 シテ文書ニ付證據ヲ爲サシムル場合ニ於テハ法院ハ受託
 審判官ノ調査ニ記載スベキ事項ヲ定ムルコトヲ得
 前項ノ調査ニハ文書ノ原本又ハ抄本ヲ添付スルコトヲ要ス
 第二百八十一條 文書ノ提出又ハ送付ハ原本、正本又ハ複製
 アル原本ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス
 法院ハ前項ノ規定ニ拘ラズ原本ノ提出ヲ命ジ又ハ送付ヲ爲
 サシムルコトヲ得
 法院ハ當事者ヲシテ其ノ引用シタル文書ノ原本又ハ抄本ヲ
 提出セシムルコトヲ得
 第二百八十二條 文書ハ其ノ方式及趣旨ニ依リ公務員ガ職務
 上作成シタルモノト認ムベキトキハ之ヲ真正ナル公文書ト
 推定ス
 公文書ノ眞否ニ付疑アルトキハ法院ハ職權ヲ以テ當該官署
 又ハ公署ニ問合ヲ爲スコトヲ得
 第二百八十三條 前條ノ規定ハ外國ノ公務員ノ作成ニ係ルモ
 ノト認ムベキ文書ニ之ヲ準用ス
 第二百八十四條 私人文書ハ其ノ真正ナルコトヲ證スルコトヲ
 要ス
 本人又ハ其ノ代理人ノ署名又ハ捺印アル私人文書ハ之ヲ真正
 ナルモノト推定ス
 第二百八十五條 文書ノ眞否ハ筆跡又ハ印影ノ對照ニ依リテ
 モ之ヲ證スルコトヲ得
 第二百八十六條 第二百七十條、第二百七十三條乃至第二百
 七十六條及第二百七十八條乃至第二百八十條ノ規定ハ對照
 ノ用ニ供スベキ筆跡又ハ印影ヲ具フル文書其ノ他ノ物件ノ
 提出又ハ送付ニ之ヲ準用ス

第三百九十九條 檢證ノ申出ハ檢證ノ目的ヲ表示シテ之ヲ爲
 スコトヲ要ス
 第二百九十二條 受託審判官ハ檢證ヲ爲スニ當リ必要アリト
 認ムルトキハ檢證ヲ命ジ得ルコトヲ得
 第二百九十三條 第二百七十條、第二百七十三條乃至第二百
 七十六條及第二百七十八條乃至第二百八十條ノ規定ハ檢證
 ノ目的ヲ表示又ハ送付ニ之ヲ準用ス
 第三百九十九條 檢證ノ申出ハ檢證ノ目的ヲ表示シテ之ヲ爲
 スコトヲ要ス
 第三百九十九條 檢證ノ申出ハ檢證ノ目的ヲ表示シテ之ヲ爲
 スコトヲ要ス
 第三百九十九條 檢證ノ申出ハ檢證ノ目的ヲ表示シテ之ヲ爲
 スコトヲ要ス
 第三百九十九條 檢證ノ申出ハ檢證ノ目的ヲ表示シテ之ヲ爲
 スコトヲ要ス

第六節 審判官ノ職務
 第二百九十四條 法院ガ證據ニ依リテ心證ヲ得ルコトハ
 ギルトキハ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ當事者本人ヲ問ハ
 ルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ當事者ヲシテ宣誓ヲ爲サシ
 ムルコトヲ得
 第二百九十五條 審判官必要アリト認ムルトキハ當事者相互
 又ハ當事者ト證人トノ對質ヲ命ズルコトヲ得
 第二百九十六條 當事者ガ正當ノ事由ヲシテ呼出ニ應ゼズ
 又ハ宣誓若ハ陳述ヲ拒ミタルトキハ法院ハ訊問事項ニ關ス
 ル相手方ノ主張ヲ眞實ト認ムルコトヲ得
 第二百九十七條 宣誓シタル當事者ガ陳述ノ陳述ヲ爲シタル
 トキハ法院ハ檢定ヲ以テ三百圓以下ノ過料ニ處ス此ノ檢定
 ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得
 第二百九十八條 當事者ヲ訊問シタルトキハ其ノ陳述及宣誓
 ヲ爲サシメ又ハ爲サシメザルコトヲ審判官ニ記載スルコトヲ
 要ス
 第二百九十九條 第二百九十四條乃至前條ノ規定ハ訴訟ニ於
 テ當事者ヲ代表スル法定代理人ニ之ヲ準用ス但シ當事者本
 人ヲ訊問スルコトヲ妨グズ
 第三百條 第二百三十七條、第二百四十條、第二百四十六條
 乃至第二百五十條、第二百五十六條、第二百五十八條及第
 二百五十九條ノ規定ハ本條ノ訊問ニ之ヲ準用ス
 第七節 證據保全
 第三百一節 法院ハ證據保全ヲ爲スニ非レバ異ノ證據ヲ使
 用スルニ困難ナル事情アリト認ムルトキハ申立ニ因リ本節
 ノ規定ニ從ヒ證據保全ヲ爲スコトヲ得
 第三百一十二條 證據保全ノ申立ハ訴訟ノ審判中ニ在リテハ其ノ
 證據ヲ使用スベキ審判官ノ法院ニ、其ノ提起前ニ在リテハ訊
 問ヲ受クベキ者若ハ文書ヲ所持スル者ノ居所又ハ檢證物ノ

所在地ヲ管轄スル區法院ニ之ヲ爲スコトヲ要ス
 第三百一十三條 證據保全ノ申立ハ訴訟ノ提起後ト雖モ前項ノ區法院ニ證
 據保全ノ申立ヲ爲スコトヲ得
 第三百一十四條 證據保全ノ申立ニハ左ノ事項ヲ明ニスルコトヲ
 要ス
 一 相手方ノ表示
 二 證據保全ノ事由
 三 證據保全ノ方法
 四 證據保全ノ費用
 第三百一十五條 證據保全ノ申立ニ於テハ相手方ノ指定スルコトハ
 第三項ノ規定ニ於テモ之ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ事
 由ヲ證明スルコトヲ要ス
 前項ノ場合ニ於テハ審判官ハ相手方ノ請求ニ依リテ之ヲ決定ス
 別代理人ヲ選任スルコトヲ得
 第三百一十六條 法院ハ必要アリト認ムルトキハ訴訟ノ審判中職
 權ヲ以テ證據保全ノ裁定ヲ爲スコトヲ得
 第三百一十七條 證據保全ノ裁定ニ對シテハ不服ヲ申立ルコト
 ヲ得ス
 第三百一十八條 證據保全ノ期日ニハ申立人及相手方ヲ呼出スコト
 ヲ要ス但シ急迫ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ
 第三百一十九條 證據保全ニ關スル記録ハ本訴訟ノ記録ノ存スル
 法院ニ之ヲ送付スルコトヲ要ス
 第三百二十條 證據保全ニ關スル費用ハ訴訟費用ノ一部トス
 第三百二十一條 證據保全ノ費用ハ訴訟費用ノ一部トス
 第三百二十二條 證據保全ノ費用ハ訴訟費用ノ一部トス
 第三百二十三條 證據保全ノ費用ハ訴訟費用ノ一部トス
 第三百二十四條 證據保全ノ費用ハ訴訟費用ノ一部トス
 第三百二十五條 證據保全ノ費用ハ訴訟費用ノ一部トス
 第三百二十六條 證據保全ノ費用ハ訴訟費用ノ一部トス
 第三百二十七條 證據保全ノ費用ハ訴訟費用ノ一部トス
 第三百二十八條 證據保全ノ費用ハ訴訟費用ノ一部トス
 第三百二十九條 證據保全ノ費用ハ訴訟費用ノ一部トス
 第三百三十條 證據保全ノ費用ハ訴訟費用ノ一部トス
 第三百三十一條 證據保全ノ費用ハ訴訟費用ノ一部トス
 第三百三十二條 證據保全ノ費用ハ訴訟費用ノ一部トス
 第三百三十三條 證據保全ノ費用ハ訴訟費用ノ一部トス
 第三百三十四條 證據保全ノ費用ハ訴訟費用ノ一部トス
 第三百三十五條 證據保全ノ費用ハ訴訟費用ノ一部トス
 第三百三十六條 證據保全ノ費用ハ訴訟費用ノ一部トス
 第三百三十七條 證據保全ノ費用ハ訴訟費用ノ一部トス
 第三百三十八條 證據保全ノ費用ハ訴訟費用ノ一部トス
 第三百三十九條 證據保全ノ費用ハ訴訟費用ノ一部トス
 第三百四十條 證據保全ノ費用ハ訴訟費用ノ一部トス
 第三百四十一條 證據保全ノ費用ハ訴訟費用ノ一部トス
 第三百四十二條 證據保全ノ費用ハ訴訟費用ノ一部トス
 第三百四十三條 證據保全ノ費用ハ訴訟費用ノ一部トス
 第三百四十四條 證據保全ノ費用ハ訴訟費用ノ一部トス
 第三百四十五條 證據保全ノ費用ハ訴訟費用ノ一部トス
 第三百四十六條 證據保全ノ費用ハ訴訟費用ノ一部トス
 第三百四十七條 證據保全ノ費用ハ訴訟費用ノ一部トス
 第三百四十八條 證據保全ノ費用ハ訴訟費用ノ一部トス
 第三百四十九條 證據保全ノ費用ハ訴訟費用ノ一部トス
 第三百五十條 證據保全ノ費用ハ訴訟費用ノ一部トス
 第三百五十一條 證據保全ノ費用ハ訴訟費用ノ一部トス
 第三百五十二條 證據保全ノ費用ハ訴訟費用ノ一部トス
 第三百五十三條 證據保全ノ費用ハ訴訟費用ノ一部トス
 第三百五十四條 證據保全ノ費用ハ訴訟費用ノ一部トス
 第三百五十五條 證據保全ノ費用ハ訴訟費用ノ一部トス
 第三百五十六條 證據保全ノ費用ハ訴訟費用ノ一部トス
 第三百五十七條 證據保全ノ費用ハ訴訟費用ノ一部トス
 第三百五十八條 證據保全ノ費用ハ訴訟費用ノ一部トス
 第三百五十九條 證據保全ノ費用ハ訴訟費用ノ一部トス
 第三百六十條 證據保全ノ費用ハ訴訟費用ノ一部トス
 第三百六十一條 證據保全ノ費用ハ訴訟費用ノ一部トス
 第三百六十二條 證據保全ノ費用ハ訴訟費用ノ一部トス
 第三百六十三條 證據保全ノ費用ハ訴訟費用ノ一部トス
 第三百六十四條 證據保全ノ費用ハ訴訟費用ノ一部トス
 第三百六十五條 證據保全ノ費用ハ訴訟費用ノ一部トス
 第三百六十六條 證據保全ノ費用ハ訴訟費用ノ一部トス
 第三百六十七條 證據保全ノ費用ハ訴訟費用ノ一部トス
 第三百六十八條 證據保全ノ費用ハ訴訟費用ノ一部トス
 第三百六十九條 證據保全ノ費用ハ訴訟費用ノ一部トス
 第三百七十條 證據保全ノ費用ハ訴訟費用ノ一部トス
 第三百七十一條 證據保全ノ費用ハ訴訟費用ノ一部トス
 第三百七十二條 證據保全ノ費用ハ訴訟費用ノ一部トス
 第三百七十三條 證據保全ノ費用ハ訴訟費用ノ一部トス
 第三百七十四條 證據保全ノ費用ハ訴訟費用ノ一部トス
 第三百七十五條 證據保全ノ費用ハ訴訟費用ノ一部トス
 第三百七十六條 證據保全ノ費用ハ訴訟費用ノ一部トス
 第三百七十七條 證據保全ノ費用ハ訴訟費用ノ一部トス
 第三百七十八條 證據保全ノ費用ハ訴訟費用ノ一部トス
 第三百七十九條 證據保全ノ費用ハ訴訟費用ノ一部トス
 第三百八十條 證據保全ノ費用ハ訴訟費用ノ一部トス
 第三百八十一條 證據保全ノ費用ハ訴訟費用ノ一部トス
 第三百八十二條 證據保全ノ費用ハ訴訟費用ノ一部トス
 第三百八十三條 證據保全ノ費用ハ訴訟費用ノ一部トス
 第三百八十四條 證據保全ノ費用ハ訴訟費用ノ一部トス
 第三百八十五條 證據保全ノ費用ハ訴訟費用ノ一部トス
 第三百八十六條 證據保全ノ費用ハ訴訟費用ノ一部トス
 第三百八十七條 證據保全ノ費用ハ訴訟費用ノ一部トス
 第三百八十八條 證據保全ノ費用ハ訴訟費用ノ一部トス
 第三百八十九條 證據保全ノ費用ハ訴訟費用ノ一部トス
 第三百九十條 證據保全ノ費用ハ訴訟費用ノ一部トス
 第三百九十一條 證據保全ノ費用ハ訴訟費用ノ一部トス
 第三百九十二條 證據保全ノ費用ハ訴訟費用ノ一部トス
 第三百九十三條 證據保全ノ費用ハ訴訟費用ノ一部トス
 第三百九十四條 證據保全ノ費用ハ訴訟費用ノ一部トス
 第三百九十五條 證據保全ノ費用ハ訴訟費用ノ一部トス
 第三百九十六條 證據保全ノ費用ハ訴訟費用ノ一部トス
 第三百九十七條 證據保全ノ費用ハ訴訟費用ノ一部トス
 第三百九十八條 證據保全ノ費用ハ訴訟費用ノ一部トス
 第三百九十九條 證據保全ノ費用ハ訴訟費用ノ一部トス
 第四百條 證據保全ノ費用ハ訴訟費用ノ一部トス

一ガ裁判ヲ爲スニ熟スル場合及本訴又ハ反訴ガ裁判ヲ爲ス
 ニ熟スル場合ニ之ヲ準用ス
 第三百二十二條 獨立シタル攻撃又ハ防禦ノ方法其ノ他中間ノ
 争ニ付裁判ヲ爲スニ熟スルトキハ法院ハ中間判決ヲ爲スコ
 トヲ得請求ノ原因及數額ニ付アル場合ニ於テ其ノ原因ニ
 付亦同ジ
 第三百二十三條 法院ハ判決ヲ爲スニ當リ其ノ爲シタル口頭審
 判ノ全趣旨及證據ノ結果ヲ辯論シ自由ナル心證ニ依リ事
 實上ノ主張ヲ眞實ト認ムベキカ否ヲ判断スルコトヲ得
 第三百二十四條 法院ハ當事者ノ申立テザル事項ニ付判決ヲ爲
 スコトヲ得ズ
 第三百二十五條 原告ガ請求ヲ放棄シタルトキハ被告放棄ノ判決
 決ヲ爲シ、被告ガ請求ヲ認許シタルトキハ被告敗訴ノ判決
 ヲ爲スコトヲ要ス
 第三百二十六條 口頭審判ノ便宜ニ對スル追完ノ申立アリタル
 場合ニ於テ新口頭審判ニ基キ官渡スベキ判決ガ前ニ官渡シ
 タル判決ト符合スルトキハ之ヲ維持シ、符合セザルトキハ
 之ヲ取消スコトヲ要ス
 第三百二十七條 判決ハ其ノ基本タル口頭審判ニ關シタル審
 判官之ヲ爲ス
 第三百二十八條 判決ハ其ノ基本タル口頭審判ニ關シタル審
 判官ノ更迭アル場合ニ於テハ當事者ハ從前ノ口頭審判ノ
 結果ヲ陳述スルコトヲ要ス
 第三百二十九條 判決ハ官渡ニ因リテ其ノ效力ヲ生ズ
 第三百三十條 判決ノ官渡ハ判決原本ニ基キ審判官主文ヲ朗
 讀シテ之ヲ爲ス
 第三百三十一條 判決ノ官渡ハ判決原本ニ基キ審判官主文ヲ朗
 讀シテ之ヲ爲ス
 第三百三十二條 判決ノ官渡ハ判決原本ニ基キ審判官主文ヲ朗
 讀シテ之ヲ爲ス
 第三百三十三條 判決ノ官渡ハ判決原本ニ基キ審判官主文ヲ朗
 讀シテ之ヲ爲ス
 第三百三十四條 判決ノ官渡ハ判決原本ニ基キ審判官主文ヲ朗
 讀シテ之ヲ爲ス
 第三百三十五條 判決ノ官渡ハ判決原本ニ基キ審判官主文ヲ朗
 讀シテ之ヲ爲ス
 第三百三十六條 判決ノ官渡ハ判決原本ニ基キ審判官主文ヲ朗
 讀シテ之ヲ爲ス
 第三百三十七條 判決ノ官渡ハ判決原本ニ基キ審判官主文ヲ朗
 讀シテ之ヲ爲ス
 第三百三十八條 判決ノ官渡ハ判決原本ニ基キ審判官主文ヲ朗
 讀シテ之ヲ爲ス
 第三百三十九條 判決ノ官渡ハ判決原本ニ基キ審判官主文ヲ朗
 讀シテ之ヲ爲ス
 第三百四十條 判決ノ官渡ハ判決原本ニ基キ審判官主文ヲ朗
 讀シテ之ヲ爲ス
 第三百四十一條 判決ノ官渡ハ判決原本ニ基キ審判官主文ヲ朗
 讀シテ之ヲ爲ス
 第三百四十二條 判決ノ官渡ハ判決原本ニ基キ審判官主文ヲ朗
 讀シテ之ヲ爲ス
 第三百四十三條 判決ノ官渡ハ判決原本ニ基キ審判官主文ヲ朗
 讀シテ之ヲ爲ス
 第三百四十四條 判決ノ官渡ハ判決原本ニ基キ審判官主文ヲ朗
 讀シテ之ヲ爲ス
 第三百四十五條 判決ノ官渡ハ判決原本ニ基キ審判官主文ヲ朗
 讀シテ之ヲ爲ス
 第三百四十六條 判決ノ官渡ハ判決原本ニ基キ審判官主文ヲ朗
 讀シテ之ヲ爲ス
 第三百四十七條 判決ノ官渡ハ判決原本ニ基キ審判官主文ヲ朗
 讀シテ之ヲ爲ス
 第三百四十八條 判決ノ官渡ハ判決原本ニ基キ審判官主文ヲ朗
 讀シテ之ヲ爲ス
 第三百四十九條 判決ノ官渡ハ判決原本ニ基キ審判官主文ヲ朗
 讀シテ之ヲ爲ス
 第三百五十條 判決ノ官渡ハ判決原本ニ基キ審判官主文ヲ朗
 讀シテ之ヲ爲ス
 第三百五十一條 判決ノ官渡ハ判決原本ニ基キ審判官主文ヲ朗
 讀シテ之ヲ爲ス
 第三百五十二條 判決ノ官渡ハ判決原本ニ基キ審判官主文ヲ朗
 讀シテ之ヲ爲ス
 第三百五十三條 判決ノ官渡ハ判決原本ニ基キ審判官主文ヲ朗
 讀シテ之ヲ爲ス
 第三百五十四條 判決ノ官渡ハ判決原本ニ基キ審判官主文ヲ朗
 讀シテ之ヲ爲ス
 第三百五十五條 判決ノ官渡ハ判決原本ニ基キ審判官主文ヲ朗
 讀シテ之ヲ爲ス
 第三百五十六條 判決ノ官渡ハ判決原本ニ基キ審判官主文ヲ朗
 讀シテ之ヲ爲ス
 第三百五十七條 判決ノ官渡ハ判決原本ニ基キ審判官主文ヲ朗
 讀シテ之ヲ爲ス
 第三百五十八條 判決ノ官渡ハ判決原本ニ基キ審判官主文ヲ朗
 讀シテ之ヲ爲ス
 第三百五十九條 判決ノ官渡ハ判決原本ニ基キ審判官主文ヲ朗
 讀シテ之ヲ爲ス
 第四百條 判決ノ官渡ハ判決原本ニ基キ審判官主文ヲ朗
 讀シテ之ヲ爲ス

判決ノ官渡ハ當事者ガ在庭セザル場合ニ於テモ之ヲ爲スコ
 トヲ得
 第三百二十一條 判決ニハ左ノ事項ヲ記載シ判決ヲ爲シタル
 審判官之ニ署名捺印スルコトヲ要ス
 一 主文
 二 事實及爭點
 三 理由
 四 當事者及法定代理人
 五 法院
 事實及爭點ノ記載ハ口頭審判ニ於ケル當事者ノ陳述ニ基キ
 要領ヲ指示シテ之ヲ爲スコトヲ要ス
 第三百二十二條 判決ハ官渡後滿テ之ヲ法院書記官ニ交
 付シ書記官ハ口頭審判ノ終結後ニ判決官渡及交付ノ日ヲ附
 記シ之ヲ捺印スルコトヲ要ス
 第三百二十三條 判決ハ交付ヲ受ケタル日ヨリ二週間以内ニ
 之ヲ當事者ニ送達スルコトヲ要ス
 第三百二十四條 判決ニ違算、書損其ノ他之ニ類スル明白ナ
 ル誤謬アルトキハ法院ハ何時ニテモ申立ニ因リ又ハ職權ヲ
 以テ更正裁定ヲ爲スコトヲ得
 第三百二十五條 法院ガ請求ノ一部ニ付裁判ヲ脫漏シタルト
 キハ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ裁判ヲ補充スルコトヲ要ス
 前項ノ規定ニ於テハ第一條ノ規定ニ依ル
 第三百二十六條 判決ニ依ル訴訟費用ノ裁判ハ本案判決ニ對シ適法ノ
 據アリタルトキハ其ノ效力ヲ失フ此ノ場合ニ於テハ控訴
 法院ハ訴訟ノ總費用ニ付裁判ヲ爲ス
 前項ノ規定ハ本案判決ノ基本タル口頭審判ノ便宜ニ對スル

第三百六十九條 控訴法院第一審ノ判決ニ付不服ノ申立テ
キ部分ニ限リ申立ニ因リ裁定ヲ以テ假執行ノ宣言ヲ爲スコ
トヲ得
第三百七十條 假執行ニ關スル控訴審ノ裁判ニ對シテハ不服
ヲ申立ツルコトヲ得ズ
前條ノ申立テ却下スル裁定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコト
ヲ得
第三百七十一條 口頭辯論ハ當事者ガ第一審ノ判決ノ變更ヲ
求ムル限度ニ於テノミ之ヲ爲ス
當事者ハ第一審ニ於ケル口頭辯論ノ結果ヲ陳述スルコトヲ
要ス
第三百七十二條 第一審ニ於テ爲シタル訴訟行爲ハ控訴審ニ
於テモ其ノ效力ヲ有ス
第三百七十三條 當事者ガ提出シタル攻撃又ハ防禦ノ方法ニ
シテ故意又ハ重大ナル過失ニ因リ第一審ニ於テ提出セザリ
シモノハ之ガ爲訴訟ノ完結ヲ遲延セシムベキモノト爲ス
トキハ法院ハ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ却下ノ裁定ヲ爲ス
コトヲ得
第三百七十四條 控訴審ニ於テハ當事者ハ第一審法院ガ管轄
權ヲ有セザルコトヲ主張スルコトヲ得ズ但シ專屬管轄ニ付
テハ此ノ限ニ在ラズ
第三百七十五條 反訴ハ相手方ノ同意アル場合ニ限リ之ヲ提
起スルコトヲ得
相手方ガ同意ヲ述べシテ反訴ノ本案ニ付辯論ヲ爲シタル
トキハ反訴ノ提起ニ同意シタルモノト爲ス
第三百七十六條 前條第一項ノ規定ハ別段ノ規定アル場合ヲ
除ク外控訴審ノ訴訟手續ニ之ヲ準用ス
第三百七十七條 法院ハ相當ト認ムルトキハ何時ニテモ訴訟
ノ全部若ハ一部又ハ成争點ノミニ付受命審判官ニ依ル準備
手續ヲ命ズルコトヲ得

第三百七十八條 準備手續ニ於テハ調書ヲ作り當事者ノ陳述
ニ基キ第九十一條第四號及第五號ニ據ル事項ヲ記載シ
殊ニ證據ニ付テハ其ノ申立ヲ明確ニスルコトヲ要ス
受命審判官相當ト認ムルトキハ準備書面ヲ以テ前項ノ陳述
及調書ニ代フルコトヲ得
第三百七十九條 當事者ノ一方ガ期日ニ出頭セザルトキハ前
條ノ調書ノ原本ヲ之ニ送達シ新期日ヲ定メ當事者雙方ヲ呼
出スコトヲ得
第三百八十條 受命審判官ハ當事者ヲシテ準備書面ヲ提出セ
シムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第九十條ノ規定ヲ準用
ス
第三百八十一條 當事者ガ期日ニ出頭セズ又ハ前條ノ規定ニ
依リ受命審判官ノ定メタル期間内ニ準備書面ヲ提出セザル
トキハ受命審判官ハ準備手續ヲ終結スルコトヲ得
第三百八十二條 訴又ハ控訴ノ取下ハ準備手續中受命審判官
ノ面前ニ於テテ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得
準備手續ニ於テ當事者ガ申述ヲ爲シタルトキハ訴ノ取下ニ
付其ノ同意アルコトヲ要ス
第二百八條ノ規定ハ準備手續ニ於ケル控訴ノ取下ニ之ヲ準
用ス
第三百八十三條 當事者ハ口頭辯論ニ於テ準備手續ノ結果ヲ
陳述スルコトヲ得
第三百八十四條 調書又ハ之ニ代ルベキ準備書面ニ記載セザ
ル事項ハ口頭辯論ニ於テ之ヲ主張スルコトヲ得但シ其ノ
事項ガ法院職權ヲ以テ調査セキモノナルトキハ若シテ訴
及準備手續ニ於テ之ヲ提出スルコト能ハザリシコトヲ證明シタル
トキハ此ノ限ニ在ラズ
前項但書ノ規定ハ第九十四條ノ規定ノ適用ヲ妨グズ
訴狀、控訴狀又ハ準備手續前ニ提出シタル準備書面ニ記載

シタル事項ハ調書又ハ之ニ代ルベキ準備書面ニ記載セザル
モノト雖モ口頭辯論ニ於テ之ヲ主張スルコトヲ妨グズ
第三百八十五條 第九十五條乃至第九十七條、第二百十條
及第三百三十九條乃至第三百四十一條ノ規定ハ準備手續ニ
之ヲ準用ス
第三百八十六條 第一審ノ訴訟手續ニ於ケル審判官ノ職務ハ
審判長之ヲ行フ
受命審判官ヲシテ其ノ職務ヲ行ハシムベキ場合ニ於テハ審
判長其ノ審判官ヲ指定ス
第三百八十七條 和解ノ試及法院外ニ於テ爲ス證據調ハ受命
審判官ヲシテ之ヲ爲サシムルコトヲ得
前項ノ場合ニ於テハ受命審判官ハ受託審判官ト同一ノ權限
ヲ有ス但シ第二百二十九條第二項ノ規定ニ依ル證據調ノ囑
託ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ
第二百一十一條乃至第二百十六條ノ規定ハ受命審判官ノ審問
及證據調ニ之ヲ準用ス
第三百八十八條 陪席審判官ハ口頭辯論ニ於テ審判長ニ付
訴訟關係ヲ明確ナラシムル爲事實及法律上ノ事項ニ關シ
當事者ニ對シテ問ヲ發シ又ハ立證ヲ促スコトヲ得
當事者ガ前項ニ規定シタル陪席審判官ノ處置ニ對シ異議ヲ
述べタルトキハ法院裁定ヲ以テ其ノ異議ニ付裁判ヲ爲ス
第三百八十九條 陪席審判官ハ陪席人、鑑定人又ハ當事者ニ對
スル證據調ニ於テ審判長ニ付此等ノ者ニ問ヲ發スルコト
ヲ得
第三百九十條 審判長口頭辯論調書ニ署名捺印スルニ支障ア
ルトキハ資深審判官其ノ事由ヲ附記シテ署名捺印スルコト
ヲ要ス但シ審判官皆支障アルトキハ調書ヲ作成シタル法院
書記官其ノ旨ヲ記載スルヲ以テ足ル
第三百九十一條 不備法ナル控訴ニシテ其ノ欠缺ガ補正スル
コト能ハザルモノナル場合ニ於テハ口頭辯論ヲ經ズシテ判

決ヲ以テ之ヲ却下スルコトヲ得
第三百九十二條 控訴法院ハ第一審判決ヲ相當トスルトキハ
控訴ヲ棄却スルコトヲ得
判決其ノ理由ニ依レバ不當ナル場合ニ於テモ他ノ理由ニ
依リテ正當ナルトキハ控訴ヲ棄却スルコトヲ要ス
第三百九十三條 第一審判決ノ變更ハ不服申立ノ限度ニ於テ
ノミ之ヲ爲スコトヲ得
第三百九十四條 控訴法院ハ第一審判決ヲ不當トスルトキハ
之ヲ取消スコトヲ要ス
第三百九十五條 第一審ノ判決ノ手續ガ法律ニ違背シタルト
キハ控訴法院ハ判決ヲ取消スコトヲ要ス
第三百九十六條 訴ヲ不適法トシテ却下シタル第一審判決ヲ
取消スル場合ニ於テハ控訴法院ハ事件ヲ第一審法院ニ整理ス
コトヲ要ス
第三百九十七條 前條ノ場合ノ外控訴法院ガ第一審判決ヲ取
消スル場合ニ於テ事件ニ付向辯論ヲ爲ス必要アルトキハ之ヲ
第一審法院ニ整理スコトヲ得
第一審法院ニ於ケル訴訟手續ガ法律ニ違背シタルコトヲ理
由トシテ事件ヲ整理ストキハ其ノ訴訟手續ハ之ニ因リテ取
消サレタルモノト爲ス
第三百九十八條 事件ガ管轄違ナルコトヲ理由トシテ第一審
判決ヲ取消ストキハ控訴法院ハ判決ヲ以テ事件ヲ管轄法院
ニ移送スルコトヲ要ス
第三百九十九條 判決ハ之ヲ爲シタル審判官皆署名捺印スル
コトヲ要ス但シ審判官判決ニ署名捺印スルニ支障アルトキ
ハ他ノ審判官判決ニ其ノ事由ヲ記載シテ署名捺印スルコト
ヲ要ス
第四百條 判決ニ事實及理由ヲ記載スルニハ第一審判決ヲ引
用スルコトヲ得
第四百一條 訴訟完結シタル後上訴ノ提起ナラシテ上訴期間

満了シタルトキハ法院書記官ハ判決又ハ第三百六十四條ノ
規定ニ依ル命令ノ正本ヲ訴訟記録ニ添附シ之ヲ第一審法院
ノ書記官ニ送付スルコトヲ要ス
第二章 上 告
第四百二條 上告ハ控訴審ノ終局判決ニ對シテ之ヲ爲スコト
ヲ得
第四百三條 上告ハ控訴審ノ終局判決ニ對シテ之ヲ爲スコト
ニ上告ヲ爲スコトヲ得
第四百四條 財產權ニ基キ訴訟ノ判決ニ對シテハ上告ニ因リ
テ受テベキ利益ノ價額ガ二百圓ヲ超過セザルトキハ上告ヲ
爲スコトヲ得ズ
前項ノ價額ハ上告提起ノ時ヲ標準トシテ之ヲ定ム
第四百五條 第四百三條及第四百四條ノ規定ハ第一項ノ價額ノ算定ニ之
ヲ準用ス
第四百六條 上告ハ判決ガ法令ニ違背シタルコトヲ理由トス
ルニ非ザレバ之ヲ爲スコトヲ得ズ
第四百七條 判決ハ左ノ場合ニ於テハ常に法令ニ違背シタル
モノト爲ス
一 法律ニ從ヒテ判決法院ヲ構成セザリシトキ
二 法律ニ依リテ判決ニ關與スルコトヲ得ザル審判官ガ判決
ニ關與シタルトキ
三 專屬管轄ニ關スル規定ニ違背シタルトキ
四 法定代理權又ハ訴訟代理權ノ欠缺アリタルトキ
五 口頭辯論公開ノ規定ニ違背シタルトキ
六 判決ニ理由ヲ附セズ又ハ理由ニ關關アルトキ
第四百八條 前條ノ規定ハ別段ノ規定アル場合ヲ除ク外上
告及上告審ノ訴訟手續ニ之ヲ準用ス
第四百九條 上告法院ノ書記官ハ原法院ノ書記官ヨリ訴訟記
録ヲ送付ヲ受ケタルトキハ遲滞ナラ其ノ旨ヲ當事者ニ通知
スルコトヲ要ス

前項ノ通知ハ通知書ヲ送達シテ之ヲ爲ス
第四百十條 上告狀ニ上告ノ理由ヲ記載セザルトキハ前條ノ
通知アリタル日ヨリ四十日以内ニ上告理由書ヲ提出スルコ
トヲ要ス
第四百十一條 上告人ガ前條ノ規定ニ違背シ上告理由書ヲ提出
セザルトキハ上告法院ハ判決ヲ以テ上告ヲ却下スルコトヲ
得
第四百十二條 審判長ハ相當ノ期間ヲ定メ審判書ヲ提出スベキ
コトヲ被上告人ニ命ズルコトヲ得
第四百十三條 上告審ノ判決ハ口頭辯論ヲ經ズシテ之ヲ爲ス
コトヲ得
第四百十四條 上告法院ハ上告理由ニ基キ不服ノ申立アリタ
ル限度ニ於テノミ調査ヲ爲ス
第四百十五條 原判決ニ於テ判決法ニ確定シタル事實ハ上告法
院ヲ拘束ス
第四百十六條 第四百二條第二項ノ規定ニ依ル上告アリタル
場合ニ於テハ上告法院ハ原判決ニ於ケル事實ノ確定ガ法律
ニ違背シタルコトヲ理由トシテ其ノ判決ヲ破毀スルコトヲ
得ズ
第四百十七條 第四百十二條乃至前條ノ規定ハ法院ガ職權ヲ
以テ調査スベキ事項ニ之ヲ適用セズ
第四百十八條 上告法院ハ原判決ニ付不服ノ申立テキ部分ニ
限リ申立ニ因リ裁定ヲ以テ假執行ノ宣言ヲ爲スコトヲ得
第四百十九條 上告ノ理由アリタルトキハ上告法院ハ原判
決ヲ破毀シ事件ヲ原法院ニ整理シ又ハ同等ナル他ノ法院ニ
移送スルコトヲ要ス
第五百條 移送ヲ受ケタル法院ハ新口頭辯論ニ基キ裁判ヲ爲
スコトヲ要ス但シ上告法院ガ破毀ノ理由ト爲シタル事實上
及法律上ノ判斷ニ關スル原法院ノ判決ニ關與スルコトヲ

第二十八條 左ノ場合ニ於テハ上告法院ハ事件ニ付裁判ヲ...

第二十九條 裁判官ハ移送ノ判決アリタルトキハ法院書記...

第三十條 高等法院ガ上告審ナル場合ニ於テ法令ノ解釋...

第三十一條 口頭辯論ヲ經ズシテ訴訟手續ニ關スル申立...

第三十二條 裁定ヲ以テ裁判ヲ爲スコトヲ得ザル事項ニ...

第三十三條 受命審判官又ハ受託審判官ノ裁判ニ對シ不...

第三十四條 抗告法院ノ裁定ニ對シテハ其ノ裁定ガ法令...

第三十五條 抗告及抗告法院ノ訴訟手續ニハ其ノ性質ニ...

第三十六條 即時抗告ハ裁定ヲ知リタル日ヨリ二週...

第三十七條 抗告ハ原法院又ハ抗告法院ニ書面又ハ口頭...

第三十八條 原法院ガ抗告ヲ受ケ又ハ前條第二項ノ規定...

第三十九條 抗告ハ即時抗告ニ限リ執行停止ノ效力ヲ有...

法律ニ從ヒテ判決法院ヲ構成セザリシトキ...

法定代理權又ハ訴訟代理權ノ欠缺アリタルトキ...

刑事上罰スベキ他人ノ行爲ニ因リ自白ヲ爲スニ至リ...

判決ノ證據ト爲リタル文書其ノ他ノ物件ガ偽造又ハ變...

判決ノ基礎ト爲リタル民事若ハ刑事ノ判決其ノ他ノ裁...

不服ノ申立アル判決ガ前ニ言渡サレタル確定判決ト...

再審ノ事由ガ判決確定後ニ生ジタルトキハ前項ノ期間ハ其...

不服ノ理由 本案ノ辯論及裁判ハ不服ノ範圍内ニ於テノ...

起シタル場合ニ於テ其ノ訴ヲ却下スル判決確定シタルトキ...

第四十條 債權者ガ執行ノ宣言前其ノ申立タル...

第四十一條 債權者ガ執行ノ申立ヲ爲スコトヲ得ル時...

第四十二條 債權者ガ執行ノ宣言ヲ附シタル支拂命令送達ノ日...

執行法院ハ別段ノ規定アル場合ヲ除ク外執行手續ヲ爲ス...

第二十八條 執行法院ハ職權ヲ以テ事實ノ調査及證據ヲ爲...

第二十九條 執行法院ノ裁判ハ確定ヲ以テ之ヲ爲ス...

第三十條 第六條第二項ノ場合ニ於テ相續人定マラザルトキ...

第三十一條 執行手續ノ關係人又ハ其ノ代理人ハ執行ヲ爲ス...

第三十二條 執行手續ノ關係人ニ對シテ送達ハ前條ノ規定ニ...

第三十三條 執行ニ關スル通知又ハ催告ハ書面又ハ口頭ヲ以...

第三十四條 執行手續ノ關係人又ハ其ノ代理人ハ執行ヲ爲ス...

第三十五條 費用ヲ要スル執行手續ニ付テハ執行官又ハ執行...

第三十六條 強制執行ニ關シテ執行官ノ處分ニ對シテ...

第三十七條 強制執行ニ關シテ執行法院ノ裁判ニ對シ...

第三十八條 前二條ノ規定ハ第三者ガ強制執行ノ目的物ニ付...

第三十九條 異議又ハ抗告ノ理由ガ數箇アルトキハ同時ニ之...

第四十條 異議又ハ抗告ノ理由トシテ主張シタル事由ニシテ...

第四十一條 執行名義ガ實體上ノ事由ニ因リ執行スベカラザ...

第四十二條 左ノ場合ニ於テハ當該事件ノ屬屬スル法院ハ申...

第四十三條 土地ヨリ離レザル果實ハ通常ノ成熟時期ノ一月...

第四十四條 差押ノ效力ハ差押ヘタル物ヨリ生ズル天然果實...

第四十五條 左ニ掲グル物ハ之ヲ差押アルコトヲ得ズ...

第四十六條 債務者及其ノ家族ノ爲メニ通ジテ差押スベカラザル...

第四十七條 債務者及其ノ家族ニ必要ナル三月間ノ食料、薪炭及煙...

第四十八條 債務者及其ノ家族ノ眼鏡、義手、義足其ノ他身體ノ補...

第四十九條 技術者、職工、勞務者及小商人ニ在リテハ其ノ職業上...

第五十條 耕作、牧畜、園藝、養蠶、養魚ヲ業トスル者及林業者...

第五十一條 在リテハ其ノ營業上缺タベカラザル器具、家畜、肥料...

第五十二條 漁業者ニ在リテハ其ノ漁業上缺タベカラザル漁船ニシ...

第五十三條 漁具及餌料其ノ他差押ヲ禁止シタル...

第五十四條 狩獵者ニ在リテハ其ノ狩獵ニ缺タベカラザル物...

第五十五條 農具及農具ニ在リテハ其ノ農具ニ關シテ...

第五十六條 公務員、僧侶其ノ他宗教又ハ祭祀若ハ禮記ノ職ニ在ル...

第五十七條 產士ニ在リテハ其ノ職業ヲ執行スル爲メニ差押スベカラザル...

第五十八條 給料ニ依リテ生活スル者ニ在リテハ債權差押ニ關スル...

ノ住所、居所、事務所又ハ營業所ガ知ラザルトキ又ハ外國...

第三十一條ノ規定ニ依リ届出アリタル場所ニ通知又ハ催告...

第三十二條 強制執行ノ費用ハ必要ナル部分ニ限リ債務者ノ...

第三十三條 前項ノ規定ニ依リ取立タル費用ハ強制執行ニ係ル請求ガ...

第三十四條 費用ヲ要スル執行手續ニ付テハ執行官又ハ執行...

第三十五條 債權者ガ前項ノ費用ヲ負擔セザルトキハ執行官...

第三十六條 強制執行ニ關シテ執行官ノ處分ニ對シテ...

第三十七條 強制執行ニ關シテ執行法院ノ裁判ニ對シ...

第三十八條 前二條ノ規定ハ第三者ガ強制執行ノ目的物ニ付...

第三十九條 異議又ハ抗告ノ理由ガ數箇アルトキハ同時ニ之...

第四十條 異議又ハ抗告ノ理由トシテ主張シタル事由ニシテ...

第四十一條 執行名義ガ實體上ノ事由ニ因リ執行スベカラザ...

第四十二條 左ノ場合ニ於テハ當該事件ノ屬屬スル法院ハ申...

第四十三條 土地ヨリ離レザル果實ハ通常ノ成熟時期ノ一月...

第四十四條 差押ノ效力ハ差押ヘタル物ヨリ生ズル天然果實...

第四十五條 左ニ掲グル物ハ之ヲ差押アルコトヲ得ズ...

第四十六條 債務者及其ノ家族ノ爲メニ通ジテ差押スベカラザル...

第四十七條 債務者及其ノ家族ニ必要ナル三月間ノ食料、薪炭及煙...

第四十八條 債務者及其ノ家族ノ眼鏡、義手、義足其ノ他身體ノ補...

第四十九條 技術者、職工、勞務者及小商人ニ在リテハ其ノ職業上...

第五十條 耕作、牧畜、園藝、養蠶、養魚ヲ業トスル者及林業者...

第五十一條 在リテハ其ノ營業上缺タベカラザル器具、家畜、肥料...

第五十二條 漁業者ニ在リテハ其ノ漁業上缺タベカラザル漁船ニシ...

第五十三條 漁具及餌料其ノ他差押ヲ禁止シタル...

第五十四條 狩獵者ニ在リテハ其ノ狩獵ニ缺タベカラザル物...

第五十五條 農具及農具ニ在リテハ其ノ農具ニ關シテ...

第五十六條 公務員、僧侶其ノ他宗教又ハ祭祀若ハ禮記ノ職ニ在ル...

第五十七條 產士ニ在リテハ其ノ職業ヲ執行スル爲メニ差押スベカラザル...

第五十八條 給料ニ依リテ生活スル者ニ在リテハ債權差押ニ關スル...

第五十九條 執行官ガ爲シタル執行處分ニ對シテ異議ノ申立アリタル...

第六十條 執行官ガ爲シタル執行處分ニ對シテ異議ノ申立アリタル...

第六十一條 執行官ガ爲シタル執行處分ニ對シテ異議ノ申立アリタル...

規定ニ依リ差押ヲ受ケザル金額但シ差押ヨリ次期ノ給料ノ支拂迄ノ日數ニ應ジテ之ヲ計算ス

十一 債務者ノ信譽、帳簿其ノ他ノ記録

十二 勸告及名譽ノ毀損

十三 取引又ハ事務ニ必要ナル印

十四 系譜

十五 神像、佛像、位牌、墓碑、墓標其ノ他禮拜ノ用ニ供スル物及埋葬供用物

十六 債務者及其ノ家族ノ未ダ公ニセザル發明ニ關スル物未ダ公ニセザル著述ノ稿本及未ダ完成セザル藝術的作品

十七 債務者及其ノ家族ノ學習上必要ナル書籍及器具

前項第二號ノ場合ニ於テ食料又ハ服裝ニ各數種ノモノアルトキハ執行官ハ債務者ノ利益ヲ考慮シテ差押ヲ爲サザル範圍ヲ定ムルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テ執行官ハ一應差押ヲ爲シタル上執行法院ニ差押フベキ物ノ指定ヲ求ムルコトヲ得此ノ指定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ズ

債務者ノ承諾アルトキハ第一項第三號乃至第十二號ニ掲グル物ヲ除外シテ差押アルコトヲ得

第五十八條 執行官金額以外ノ物ヲ差押ヘタルトキハ之ヲ換價ルコトヲ要ス

差押物換價ノ處アルトキ又ハ其ノ保管ノ爲ニ相當ナル費用ヲ要スベキトキハ強制執行停止中雖モ執行官ハ執行法院ノ許可ヲ受ケテ之ヲ換價スルコトヲ得

法院ハ前項ノ許可ヲ爲ス前債務者ヲ審訊スルコトヲ要ス但シ急迫ナル事情アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第五十九條 差押物ハ差押債權者ニ便宜スベキ金額ヲ得見込アルトキニ非ザレバ之ヲ換價スルコトヲ得ズ

第六十條 換價ノ別段ノ規定アル場合ヲ除外シテ外賣ノ方法ニ依リテ之ヲ爲ス

第六十一條 競賣期日ハ之ヲ公告スルコトヲ要ス

公告ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 競賣スベキ物ノ種類、數量及其ノ所在地

二 競賣ノ日時及場所

三 競賣ノ方法

公告ハ競賣スベキ物ノ品質及價額ニ應ジ競賣地ニ於ケル適當ノ方法ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第六十二條 競賣ノ日時及場所ハ豫メ之ヲ各債權者及債務者ニ通知スルコトヲ要ス

第六十三條 競賣期日ハ公告ノ日ヨリ少クトモ五日ノ後タルコトヲ要ス但シ特別ノ事情アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第六十四條 競賣ハ差押ヲ爲シタル地ニ於テ之ヲ爲ス但シ執行官相當ト認ムルトキハ他ノ地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得

第六十五條 執行官相當ト認ムルトキハ鑑定人ヲシテ競賣スベキ物ヲ評價セシメ評價額ヲ酌量シテ競賣スベキ物ニ付自ラ買受クベキ價額ヲ申出ヅルコトヲ得

第六十六條 差押債權者ハ競賣期日前競賣スベキ物ニ付自ラ買受クベキ價額ヲ申出ヅルコトヲ得

前項ノ申出ヲ爲スニハ申出價額ニ相當スル金額ヲ現金ヲ以テ執行官ニ提出スルコトヲ要ス

執行官ハ申出價額ヲ審シテ相當ナリト認ムルトキハ第一項ノ申出ヲ許サザルコトヲ得

競賣期日ニ債權者ノ申出タル價額以上ノ買受申込人ナキトキハ其ノ債權者ニ於テ其ノ申出價額ニテ之ヲ買受ケタルモノト看做ス此ノ場合ニ於テ第二項ノ規定ニ依リ換價シタル金額ハ買受代金ニ支拂ヘタルモノト看做ス

第六十七條 執行官ハ競賣ヲ妨グル虞アル者ノ入場ヲ禁ジ又ハ競賣場ニ於テ不當ノ行狀ヲ爲ス者ノ退場ヲ命ズルコトヲ得

第六十八條 競賣期日ノ開始後執行官ハ買受申込ノ催告ヲ爲スコトヲ得

第六十九條 買受申込人ハ申込同時ニ其ノ申込價額ニ相當スル金額ヲ現金ヲ以テ執行官ニ提供スルコトヲ要ス

第七十條 買受申込ハ更ニ高價ノ買受申込アリタルトキ又ハ競落ヲ爲サズシテ競賣ヲ終結シタルトキハ其ノ效力ヲ失フ

競賣期日ハ競賣申込ノ催告後一時間ヲ過グルニ非ザレバ之ヲ終結スルコトヲ得ズ

第七十一條 競賣ハ競賣ノ方法ニ依ルコトヲ要ス但シ執行官相當ト認ムルトキハ競賣期日ノ公告前競賣ニ換ヘテ入札ノ方法ニ依ルベキコトヲ定ムルコトヲ得

第七十二條 入札ノ方法ニ依ルベキ場合ニ於テハ買受申込人ハ執行官ニ入札書ヲ提出スルコトヲ要ス

入札書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 入札人ノ表示

二 競賣ノ求ムル物ノ表示

三 競買價額

第七十三條 執行官ハ最高價買受人ニ對シ競落ノ宣告ヲ爲スコトヲ要ス但シ執行官買價額ヲ審シテ相當ナリト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラズ

競賣ノ方法ニ依リタル場合ニ於テ執行官ハ最高價買價額ヲ三回以上呼上ゲタル後競落ノ宣告ヲ爲スコトヲ要ス

二人以上同價額ノ入札ヲ爲シ最高價ヲ定ムルコト能ハザルトキハ執行官ハ其ノ者ヲシテ更ニ入札ヲ爲サシメ競落ノ宣告ヲ爲スコトヲ要ス

第七十四條 競落代金ヲ以テ債權ノ清償及強制執行ノ費用ノ支拂ヲ爲スニ十分ナルニ至ルトキハ競賣ハ直ニ之ヲ止ムルコトヲ得

第七十五條 競落ノ宣告アリタルトキハ競落人ハ競賣物ノ所有權ヲ取得シ競賣物ノ上ニ存スル留置權及質權ハ消滅ス

第七十六條 競落ノ宣告アリタルトキハ競落人ガ第六十九條

ノ規定ニ依リ提供シタル金額ハ其ノ競落代金ニ支拂ヘラレタルモノト看做ス

競落人以外ノ買受申込人ガ第六十九條ノ規定ニ依リ提供シタル金額ハ競落ノ宣告後直ニ之ヲ返還スルコトヲ要ス

差押債權者ガ第六十六條第二項ノ規定ニ依リ執行官ニ金額ヲ提供シタル場合ニ於テ競落ノ宣告アリタルトキ亦前項ニ同ジ

第七十七條 競賣調書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 差押債權者ノ表示

二 競賣ニ付シタル物ノ表示

三 競賣ノ開始及終結ノ日時

四 競賣ノ申込ノ催告シタル日時

五 競賣ノ場所

六 競賣ノ方法

七 各債權者ニ對スル競落人ノ表示及其ノ買價額又ハ競落ノ爲サザリシトキハ其ノ事由若ハ競買ノ申込ノナカリシコト

競落人ガ代理人ニ依リテ競買ノ申込ヲ爲シタルトキハ其ノ代理人權ヲ證スル書面ヲ調書ニ添附スルコトヲ要ス入札ノ方法ニ依リ競賣ヲ爲シタル場合ニ於テ競買申込人ガ提出シタル入札書亦同ジ

第七十八條 差押物ニ對スル強制執行ノ申立ハ競落ノ宣告アル迄之ヲ取下ルコトヲ得

取下アリタルトキハ既ニ爲シタル執行處分ヲ取消スコトヲ要ス

第七十九條 有價證券ヲ競賣シタル場合ニ於テ執行官ハ從前ノ權利者ニ代リテ權利ノ移轉ニ必要ナル名義書換其ノ他ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第八十條 土地ヨリ離レザル前ニ差押ヘタル果實ハ其ノ成熟シタル後之ヲ競賣スルコトヲ要ス但シ執行法院ノ許可ヲ受

ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

執行官ハ競賣ノ爲果實ヲ收穫ヲ爲サシムルコトヲ得

第八十一條 金銀及金銀ノ製品ハ地金銀ノ相場ニ滿タザル代價ヲ以テ之ヲ競賣スルコトヲ得

前項ニ掲グル物ヲ競賣スル場合ニ於テ相當ナル買受申込人ナキトキハ執行官ハ金銀ノ買價以上ノ代價ヲ以テ任意ニ之ヲ賣却スルコトヲ得

第八十二條 相場アル物ハ相場ニ滿タザル代價ヲ以テ之ヲ競賣スルコトヲ得但シ相場以上ノ代價ヲ以テ任意ニ之ヲ賣却スルコトヲ得

第八十三條 執行官執行法院ノ許可ヲ受ケタルトキハ競賣以外ノ方法ニ依リテ差押物ヲ換價スルコトヲ得

第八十四條 第六十五條、第七十四條、第七十九條及第八十條ノ規定ハ差押物ヲ競賣以外ノ方法ニ依リ換價スル場合ニ之ヲ準用ス

差押物ノ上ニ存スル留置權又ハ質權ハ換價處分ニ因リテ消滅ス

第八十五條 第五十三條第三項ノ規定ハ執行處分ヲ取消シタル場合ニ之ヲ準用ス

第八十六條 同一ノ債務者ニ對スル數個ノ強制執行申立事件及假差押ノ執行申立事件ハ執行官之ヲ併合スルコトヲ要ス

第八十七條 前條ノ規定ニ依リ事件ヲ併合シタルトキハ債權者一人ノ申立ニ因リ既ニ爲シタル差押他ノ債權者ノ爲其ノ效力ヲ生ズ

前項ノ場合ニ於テハ執行官其ノ旨ヲ債務者ニ通知スルコトヲ要ス

第八十八條 配當要求ハ執行力アル正本ニ因ラズシテ之ヲ爲スコトヲ得

第八十九條 配當要求ハ差押物ガ金銀ナル場合ニ於テハ其ノ差押ノ時迄、其ノ他ノ物ナル場合ニ於テハ競賣ノ方法ニ依

リテ換價シタルトキハ競賣期日ノ終ニ至ル迄又其ノ他ノ方法ニ依リテ換價シタルトキハ執行官換價金ヲ收受スル迄之ヲ爲スコトヲ得

第九十條 執行法院ハ留置權者又ハ質權者ガ差押又ハ配當要求ヲ爲サザル場合ニ於テモ其ノ權利ノ順位ニ從ヒ職權ヲ以テ之ヲ配當ニ加フルコトヲ要ス

第九十一條 配當ニ與ル債權者數人アル場合ニ於テ執行官配當ニ充ツベキ金額ヲ收受シタルトキハ執行法院ニ配當手續ヲ爲スベキコトヲ求ムルコトヲ要ス

第九十二條 法院配當手續ヲ爲スベキ場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ相當ノ期間ヲ定メ其ノ期間内ニ計算書ヲ提出スベキコトヲ債權者ニ催告スルコトヲ得

第九十三條 前條ノ期間滿了後法院ハ配當表ヲ作リ之ヲ各債權者及債務者ニ送達スルコトヲ要ス

債權者前條ノ催告ヲ受ケタルニ拘ラズ配當表ヲ作ル迄ニ計算書ヲ提出セザルトキハ法院ハ執行記録ニ依リテ明ナル限度ニ於テ其ノ債權額ヲ計算ス此ノ場合ニ於テハ後ニ債權額ノ補充ヲ爲スコトヲ得

第九十四條 配當表ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 配當スルコトヲ得ベキ金額

二 配當ニ與ル債權者ノ表示

三 配當ニ與ル債權ノ額及順位

四 配當ニ與ル各債權者ニ對シ配當スルコトヲ得ベキ金額

第九十五條 配當ニ與ル債權ノ額ハ配當表作成ノ日ヲ標準トシテ之ヲ定ム

債權ガ確定期限附ナルトキハ配當表作成ノ日ニ準濟期到來シタルモノト看做ス

債權ガ無利息ナルトキハ配當ニ與ル債權ノ額ハ之ニ對スル配當表作成ノ日ヨリ期限ニ至ル迄ノ法定利息ノ債權額ヨリ扣除シテ之ヲ算定ス

金銀及存續期間ノ確定スル定期金債權亦前項ニ同ジ但シ其

ノ總額法定利率ニ依リ其ノ定期金ニ相當スル利息ヲ生ズベキ元本額ヲ超ニルトキハ其ノ元本額ヲ以テ配當ニ與ル債權トス

第九十六條 配當表ノ送達後十日以内ニ之ニ對シ執行法院ニ異議ノ申立ナキトキハ配當表ニ從ヒ配當ヲ爲スコトヲ要ス

第九十七條 配當表ニ對シ異議ノ申立アリタルトキハ法院ハ裁定ヲ以テ異議申立ニ係ル債權ノ如何ナル金額及順位ニ於テ配當ニ加フベキヤヲ定ムルコトヲ要ス

第九十八條 配當ニ加ヘタル債權者ニ現金ヲ交付シテ之ヲ爲ス

第九十九條 配當ニ加ヘタル債權者ニ現金ヲ交付シテ之ヲ爲ス

第一百條 配當ニ加ヘタル債權者ニ現金ヲ交付シテ之ヲ爲ス

スル債權ハ其ノ物ノ所在地ニ在ルモノトス

第一條 強制執行ノ申立ニハ差押フベキ債權ノ種類及範圍ヲ明ニスルコトヲ要ス

第二條 差押命令ハ債務者及第三債務者ヲ審明セズシテ之ヲ發ス

第三條 法院ハ金銀債權ノ差押命令ニ於テ第三債務者ニ對シ債務者ニ支拂フ爲スコトヲ得ザル旨又債務者ニ對シ債權ノ取立其ノ他ノ處分ヲ爲スコトヲ得ザル旨ヲ命ズルコトヲ要ス

第四條 差押命令ハ第三債務者及債務者ニ之ヲ送達シ又債權者ニ對シテハ其ノ送達シタル旨ヲ通知スルコトヲ要ス

第五條 差押命令ニ對スル送達ヲ以テ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第六條 手形其ノ他裏書ヲ以テ移轉スルコトヲ得ル證券債權ノ差押ハ執行官其ノ證券ヲ占有シテ之ヲ爲ス

第七條 差押ハ執行官其ノ證券ヲ占有シテ之ヲ爲ス

第八條 執行法院ハ差押債權者ノ申立ニ因リ第三債務者ニ對シ左ノ陳述ヲ爲スベキ旨ヲ催告スルコトヲ要ス

第九條 債務者及債權者ニ對シテハ其ノ陳述ヲ爲スベキ旨ヲ催告スルコトヲ要ス

債權ニ付ル者ヨリ請求ノ有無及其ノ種類

債權者ニ對シテハ其ノ債權者ヨリ差押ヲ受ケタルコトノ有無及其ノ請求ノ種類並ニ其ノ差押ヲ爲シタル法院

債權者ニ對シテハ其ノ債權者ヨリ差押ヲ受ケタルコトノ有無及其ノ請求ノ種類並ニ其ノ差押ヲ爲シタル法院

債權者ニ對シテハ其ノ債權者ヨリ差押ヲ受ケタルコトノ有無及其ノ請求ノ種類並ニ其ノ差押ヲ爲シタル法院

債權者ニ對シテハ其ノ債權者ヨリ差押ヲ受ケタルコトノ有無及其ノ請求ノ種類並ニ其ノ差押ヲ爲シタル法院

債權者ニ對シテハ其ノ債權者ヨリ差押ヲ受ケタルコトノ有無及其ノ請求ノ種類並ニ其ノ差押ヲ爲シタル法院

トキハ執行官ハ之ヲ取上グルコトヲ得

執行官前項ノ證書ヲ取上グルコトキハ直ニ之ヲ執行法院ニ引渡スコトヲ要ス

執行法院ハ引渡ヲ受ケタル證書ヲ債權取立ノ爲執行官又ハ管理人ニ交付スルコトヲ得

第十條 前條ノ規定ハ債務者ガ差押ヘタル債權ノ擔保物又ハ擔保權ニ關スル證書ヲ所持スル場合ニ之ヲ準用ス

第十一條 執行法院相當ト認ムルトキハ差押ヘタル債權ノ取立ニ換ヘテ執行方法ヲ執行官ニ命ズルコトヲ得

第十二條 執行官債權金ヲ收受シタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ法院ニ届出テ收受シタル債權金ヲ納付スルコトヲ要ス

第十三條 手形其ノ他裏書ヲ以テ移轉スルコトヲ得ル證券債權ノ擔保方法ニ依リ換價シタル場合ニ於テハ執行官ハ證券ニ換價シテ之ヲ執行方法ニ命ズルコトヲ得

第十四條 前項ノ記載ニ因リ裏書ハ其ノ連帶ヲ缺カザルモノト看做ス

第十五條 但シ裏書當時ノ所持人ハ裏書人トシテ其ノ責任ヲ負擔セズ

第十六條 手形其ノ他裏書ヲ以テ移轉スルコトヲ得ル證券債權以外ノ方法ニ依リ換價シタル場合亦前二項ニ同ジ

第十七條 債權ニ對シテ強制執行ノ申立ハ債權ノ取立又ハ換價ヲ了リタル部分ニ付テハ之ヲ取上グルコトヲ得ズ

第十八條 前項ノ規定ハ前項ノ取上アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第十九條 第三百三條乃至第三百八條、第三百九條第一項、第四百條、第四百一一條、第四百二條第一項及第四百三條乃至第四百五條ノ規定ハ物ノ引渡又ハ給付ヲ目的トスル債權ノ差押ニ之ヲ準用ス

第二十條 執行官前項ノ取立又ハ交付ヲ受ケタルトキハ差押物ノ換價ニ關スル規定ニ從ヒテ之ヲ換價スルコトヲ要ス

第二十一條 執行官前項ノ取立又ハ交付ヲ受ケタルトキハ差押物ノ換價ニ關スル規定ニ從ヒテ之ヲ換價スルコトヲ要ス

執行官不動産ノ引渡ヲ受ケタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ執行法院ニ届出テ差押債權者ニ之ヲ通知スルコトヲ要ス

第二十二條 強制執行ノ前項ノ不動産ニ對シ第三條ノ規定ニ依リテ之ヲ爲ス

第二十三條 左ニ掲グル債權ヘ之ヲ差押アルコトヲ得ズ

一 法律上ノ扶養料

二 債務者ガ慈善團體或ハ他ノ第三者ノ慈善ニ因リ受タル利益ノ收入但シ債務者及其ノ家族ノ生活ノ爲必要ナルモノニ限ル

三 下士及兵卒ノ給料

四 出陣ノ軍費又ハ役務ニ關スル船船ニ關スル軍人及軍屬ノ職務上ノ收入

五 公務員及教師ノ職務上ノ收入

六 給料ニ依リテ生活スル者ノ給料

第七條 第一號、第五號及第六號ニ掲グル收入ガ一年間ニ六百圓ヲ超過スルトキハ其ノ超過額ノ半額ヲ差押アルコトヲ得

第八條 同一ノ債權ニ對スル債權ノ強制執行申立事件及假差押ノ執行申立事件ハ執行法院之ヲ併合スルコトヲ要ス

第九條 前條ノ規定ニ依リ事件ノ併合ヲ爲シタルトキハ債權者一人ノ申立ニ因リ既ニ爲シタル差押ハ他ノ債權者ノ爲メノ效力ヲ生ズ

第十條 前項ノ場合ニ於テハ執行法院其ノ旨ヲ債權者及第三債務者ニ通知スルコトヲ要ス

第十一條 債權者ニ對シテ執行法院ガ配當ニ充ツベキ金額ヲ收受スル迄之ヲ爲スコトヲ得

第十二條 第八十八條ノ規定ハ配當要求ニ之ヲ準用ス

第十三條 執行法院ハ債權者ガ差押又ハ配當要求ヲ爲サザル場合ニ於テモ其ノ權利ノ順位ニ從ヒ換價ヲ以テ之ヲ配當ニ加フルコトヲ要ス

債權者及債務者

一 債權者及債務者

二 債權者及債務者

三 債權者及債務者

四 債權者及債務者

五 債權者及債務者

六 債權者及債務者

七 債權者及債務者

八 債權者及債務者

九 債權者及債務者

十 債權者及債務者

十一 債權者及債務者

十二 債權者及債務者

十三 債權者及債務者

十四 債權者及債務者

十五 債權者及債務者

十六 債權者及債務者

十七 債權者及債務者

十八 債權者及債務者

十九 債權者及債務者

二十 債權者及債務者

二十一 債權者及債務者

二十二 債權者及債務者

二十三 債權者及債務者

二十四 債權者及債務者

二十五 債權者及債務者

二十六 債權者及債務者

二十七 債權者及債務者

二十八 債權者及債務者

二十九 債權者及債務者

三十 債權者及債務者

三十一 債權者及債務者

三十二 債權者及債務者

三十三 債權者及債務者

三十四 債權者及債務者

三十五 債權者及債務者

三十六 債權者及債務者

三十七 債權者及債務者

三十八 債權者及債務者

三十九 債權者及債務者

四十 債權者及債務者

四十一 債權者及債務者

四十二 債權者及債務者

四十三 債權者及債務者

四十四 債權者及債務者

四十五 債權者及債務者

四十六 債權者及債務者

四十七 債權者及債務者

四十八 債權者及債務者

四十九 債權者及債務者

五十 債權者及債務者

三 土地ニ付テハ其ノ所在地、地目及面積ヲ登記スル書面
 四 建築物ニ付テハ其ノ所在地、構造及面積ヲ登記スル書面
 前項第一號ノ書面ニ依リ不動産ガ債務者ノ所有タルコト明
 ナラザルトキハ其ノ所有タルコトヲ推スベキ書面ヲモ添附
 スルコトヲ要ス

既ニ強制管理ヲ爲シタル場合ニ於テ其ノ執行記録ニ第一項
 第一號乃至第四號及前項ノ要件ヲ記載シタルモノアルトキ
 ハ其ノ書面ヲ添附スルコトヲ要セズ

第三百三十一條 法院強制執行ノ申立ヲ適法ト認ムルトキハ該
 賣手続ノ開始裁定ヲ爲ス

第三百三十二條 法院開始裁定ヲ爲シタルトキハ直ニ其ノ登録
 簿ヲ管轄登記官ニ囑付スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テ必要アルトキハ法院ハ債權申立人ノ申立
 ニ依リ不動産ノ表示又ハ登録簿本ヲ法院ニ送付スルコトヲ要
 ス

第三百三十三條 前條ノ囑付アリタルトキハ登録官署ハ直ニ其
 ノ登録簿ヲ爲シ且其ノ登録簿本ヲ法院ニ送付スルコトヲ要
 ス

第三百三十四條 開始裁定ヲ登録シタルトキハ該賣スベキ不動
 產ニ付テハ該賣ノ效力ヲ生ズ

第三百三十五條 前條ノ規定ニ依リ差押ノ效力ヲ生ジタルトキ
 ハ執行官ハ不動産ヲ占有スルコトヲ要ス

前項ノ占有ハ告示ヲ貼附其ノ他適當ノ方法ヲ以テ執行官
 ノ占有ヲ明白ニスルコトニ依リテ之ヲ爲スコトヲ得

執行官ハ不動産ヲ占有シタル場合ニ於テハ執行法院ノ許可
 ヲ受テ條件ヲ附シ又ハ附セズシテ債務者其ノ他ノ者ノ居住
 ヲ許スコトヲ得

執行法院ハ何時ニテモ前項ノ許可ヲ取消シ執行官ヲシテ居
 住者ヲ退去セシムルコトヲ得

第三百三十六條 債務者ハ差押ヘタル不動産ノ利用及管理ヲ爲
 ス

スコトヲ得

前項ノ規定ハ前條ノ規定ノ適用ヲ妨グズ

第三百三十七條 前條ノ規定ハ留置權者、債權者又ハ引渡ヲ
 拒マザル第三者ガ不動産ヲ占有スル場合ニ之ヲ準用ス

第三百三十八條 土地ニ對スル強制執行開始ノ效力ガ其ノ土地
 ヨリ離レザル果實ニ及ブベキトキハ適當ノ方法ヲ以テ其ノ
 果實ガ強制執行ノ目的タルコトヲ公示スルコトヲ要ス

第三百三十九條 法院相當ノ認ムルトキハ一面ノ不動産ヲ分割
 シテ該賣ヲ爲スコトヲ得

第四百條 強制執行ノ申立ハ該賣許可裁定確定スル迄之ヲ
 取下グルコトヲ得但シ最高價買入人又ハ該賣人アル場合ニ
 於テハ其ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第四百一條 同一ノ不動産ニ對スル多數ノ強制執行申立事
 件及假差押ノ執行申立事件ハ執行法院之ヲ併合スルコトヲ
 要ス

第四百二條 前條ノ規定ニ依リ事件ヲ併合シタルトキハ債
 權者一人ノ申立ニ依リ既ニ爲シタル開始裁定ハ他ノ債權者
 ノ爲メノ效力ヲ生ズ

第四百三條 前項ノ場合ニ於テハ執行法院其ノ旨ヲ債務者ニ通知スルコ
 トヲ要ス

第四百四條 應當要求ハ不動産ノ換價金ヲ收受スル迄之ヲ
 爲スコトヲ得

第四百五條 規定ハ應當要求ニ之ヲ準用ス

第四百六條 執行法院ハ留置權者又ハ抵押權者ガ賣價開始
 ノ申立又ハ應當要求ヲ爲サザル場合ニ於テモ其ノ權利ノ順
 位ニ從ヒ換價金ヲ以テ之ヲ應當ニ加フルコトヲ要ス

第四百七條 左ニ掲グル者ヲ強制執行手續ノ利害關係人ト
 ス

一 差押債權者及應當要求スル債權者

二 債務者

三 賣價開始ノ登録前ニ登録シタル不動産上ノ權利者

四 賣價開始ノ登録前ニ登録シタル不動産上ノ權利者
 取得シタルコトヲ證明シタル者

第四百八條 利害關係人ニ對スル送達ハ登録簿上ノ住所又
 ハ事務所ニ於テ之ヲ爲シタルトキハ其ノ効ナカリシ場合ニ
 於テモ送達スベキ書類ヲ交付スルコトヲ得ベカリシ時ニ於
 テ其ノ効アリタルモノト看做ス但シ利害關係人ノ住所、居
 所、其ノ他送達ヲ爲スベキ場所ガ明ナルトキハ此ノ限ニ在
 ラズ

前項ノ規定ハ賣價開始裁定ヲ債務者ニ送達スル場合ニハ之
 ヲ適用セズ

第四百九條 利害關係人ニ對シ書面ヲ以テ通知又ハ催告ヲ
 爲ス場合ニ於テ登録簿上ノ住所又ハ事務所ニ通知又ハ催告
 ヲ爲シタルモ其ノ効ナカリシトキハ通知又ハ催告ヲ爲サザ
 ルコトヲ得

第四百十條 手續ノ開始ヲ妨グベキ事實ガ登記官署ノ通知
 ニ依リ明ナルトキハ法院ハ直ニ手續ヲ取消シ又ハ期間ヲ定
 メ其ノ期間内ニ障礙ノ消除シタルコトヲ證明スベキコトヲ
 債權者ニ命ズルコトヲ要ス此ノ期間内ニ證明ヲ爲サザルト
 キハ手續ヲ取消スコトヲ要ス

第四百十一條 法院賣價開始ノ裁定ヲ爲シタルトキハ之ヲ租
 稅其ノ他ノ公課ノ主管官署又ハ公署ニ通知シ其ノ不動
 產ノ換價金ヨリ納付ヲ受タベキ租稅其ノ他ノ公課金ノ有無
 及其ノ額ヲ通知スベキ旨ヲ期間ヲ定メテ催告スルコトヲ要
 ス

第四百十二條 法院ハ鑑定人ヲシテ不動産ノ評價ヲ爲サシムル
 コトヲ要ス

鑑定人ハ評價ノ爲不動産ノ狀態ヲ調査スルコトヲ得若し調査

ノ妨害ヲ受ケ又ハ受ケル虞アルトキハ執行官ノ援助ヲ求ム
 ルコトヲ得

第四百十三條 法院ハ鑑定人ノ評價額ヲ斟酌シテ不動産ノ最
 低價額ヲ定ム

第四百十四條 法院ハ最低價額ヲ以テ差押債權者ニ應當
 スベキ金額ヲ得ル見込ナキモノト認ムルトキハ差押債權者
 ニ其ノ旨ヲ通知スルコトヲ要ス

差押債權者ハ前項ノ通知アリタル日ヨリ一週間以内ニ差押
 債權者ニ應當スベキ金額ヲ得ベキ價額ヲ以テ自ら買受ケベ
 キ旨ヲ申出デ且其ノ價額ニ相當スル金額ヲ現金ヲ以テ法院
 ニ提供スルコトヲ要ス

債權者前項ノ申出ヲ爲シ且現金ヲ提供セザルトキハ該賣手
 續ヲ取消スコトヲ要ス

第四百十五條 差押債權者ノ申出テタル價額以上ノ買受申込人ナキ
 トキハ債權者ニ於テ其ノ申出價額ニテ之ヲ買受ケタルモノ
 ト看做ス此ノ場合ニ於テ第二項ノ規定ニ依リ提供シタル金
 額ハ買受代金ニ支拂ヘラレタルモノト看做ス

第四百十六條 前條第三項ノ場合ヲ除ク外法院ハ該賣期日
 及該賣期日ヲ定メテ之ヲ公告ス

第四百十七條 該賣期日ノ公告ニハ左ノ事項ヲ記載スルコト
 ヲ要ス

一 不動産ノ表示

二 該賣ノ日時及場所

三 該賣ノ方法

四 最低價額

五 執行官ノ不動產ヲ占有スルトキハ其ノ旨

六 該賣期日

第四百十八條 又ハ第五百十八條ノ規定ニ依リ買受價額ノ申
 出アリタルトキハ最低價額額ニ換ヘ其ノ申出價額ヲ記載
 スルコトヲ要ス

公告ハ法院ノ揭示場ニ揭示シテ之ヲ爲ス

第四百十九條 法院ハ前項ニ定ムル揭示ノ外別ニ適當ナル方法ヲ以
 テ公告ヲ爲スコトヲ得

第四百二十條 該賣ノ日時及場所並ニ該賣期日ハ豫メ之ヲ利
 害關係人ニ通知スルコトヲ要ス

第四百二十一條 該賣期日ハ公告ノ日ヨリ少クモ二十日ノ後
 タルコトヲ要ス

第四百二十二條 法院内又ハ法院ガ適當ト認ムル他ノ場所ニ於テ執行
 官ヲシテ之ヲ爲サシム

第四百二十三條 該賣期日ヨリ十日ヲ過グルコトヲ
 得ズ

第四百二十四條 法院ニ於テ之ヲ開ク

第四百二十五條 差押債權者ハ該賣期日前該賣スベキ不動産ニ
 付自ラ買受ケベキ價額ヲ申出グルコトヲ得

第四百二十六條 前項ノ申出價額ハ第五百十一條ノ規定ニ依リ定メタル最低
 價額額ヲ下ルコトヲ得ズ

第四百二十七條 第一項ノ申出ヲ爲スニハ申出價額ノ五分ノ一ニ相當スル金
 額ヲ現金又ハ有價證券ヲ以テ提供スルコトヲ要ス

第四百二十八條 該賣期日ニ債權者ノ申出テタル價額以上ノ買受申込人ナキ
 トキハ其ノ債權者ニ於テ其ノ申出價額ニテ之ヲ買受ケタル
 モノト看做ス

第四百二十九條 賣價ハ入札ノ方法ニ依ルコトヲ要ス但シ法院
 相當ト認ムルトキハ該賣期日ノ公告前に入札ニ換ヘテ賣價ノ
 方法ニ依ルベキコトヲ定ムルコトヲ得

第四百三十條 該賣期日ノ開始後執行官ハ執行記録ヲ各人ノ閱
 覽ニ供シ該賣申込ノ催告ヲ爲スコトヲ要ス

第四百三十一條 該賣申込人ハ申込同時ニ其ノ申込價額ノ五
 分ノ一ニ相當スル金額ヲ現金又ハ有價證券ヲ以テ執行官ニ
 提供スルコトヲ要ス

第四百三十二條 二人以上同價額ノ入札ヲ爲シ最高價ヲ定ムル

コト能ハザルトキハ執行官ハ其ノ者ヲシテ更ニ入札ヲ爲サ
 シメ最高價買入人ヲ定ムルコトヲ要ス

第四百三十三條 該賣ノ方法ニ依リタル場合ニ於テハ執行官ハ最高價額買價
 額ヲ三回以上呼上ゲタル後最高價買入人ヲ定ムルコトヲ要
 ス

第四百三十四條 第五百十九條、第六十七條、第七十條及第七十
 二條ノ規定ハ不動産ノ強制執行ニ之ヲ準用ス

第四百三十五條 最高價買入人以外ノ買受申込人ガ第六十一
 條ノ規定ニ依リテ提供シタル金額又ハ有價證券ハ執行官
 賣價ノ總額後直ニ之ヲ返還スルコトヲ要ス

第四百三十六條 該賣期日ハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 差押債權者ノ表示

二 該賣ニ付シタル不動産ノ表示

三 該賣ノ開始及終結ノ日時

四 該賣ノ申込ノ催告シタル日時

五 各債權者ノ不動產ニ對スル買受申込人ノ表示及其ノ買價
 額又ハ該買申込ノナカリシコト

六 最高價買入人ヨリ第六十一條ノ規定ニ依リ提供シ
 ケタル金額又ハ有價證券ノ表示

七 最高價買入人ノ氏名及其ノ買價額ヲ呼上ゲタルコト
 前買申込人ガ代理人ニ依リテ該買ノ申込ヲ爲シタルトキハ
 其ノ代理權ヲ證明スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス入札
 ノ方法ニ依リ該賣ヲ爲シタル場合ニ於テ該買申込人ガ提出
 シタル入札書亦同シ

第四百三十七條 最高價買入人ガ第六十一條ノ規定ニ依リ提
 供シタル金額又ハ有價證券ハ執行官執行記録ト共ニ之ヲ法
 院ニ引渡スコトヲ要ス第六十四條ノ規定ニ依リテ該買申
 込人ニ對シ返還スベキ金額又ハ有價證券ニシテ未ダ返還ヲ
 結ラザルモノ亦同シ

第四百三十八條 該賣期日ニ於テ許スベキ買價額ノ申込ナキ

トキハ新期日ヲ定ムルコトヲ要ス此ノ場合ニ於テ法院相當トシムルトキハ最低價額ヲ低減スルコトヲ得
 新期日ニ於テ仍許スベキ買價額ノ申込ナキトキ亦前項ニ同ジ
 第六十八條 法院ハ執行期日ニ出頭シタル利害關係人ヲシテ買價ノ許可ニ付テハ買價ハ期日ノ終ニ至ル迄ニ之ヲ申出ヅルコトヲ要ス買價ニ對シテ申出ル理由ニ基テ之ヲ要ス
 第六十九條 買價ノ許可ニ付テハ買價ハ左ノ理由ニ基テ之ヲ要ス
 一 強制執行ヲ許スベカラザルコト又ハ執行ヲ續行スベカラザルコト
 二 最高價額買入買價ノ申込ヲ爲ス能力ニ欠缺アルコト又ハ最高價額買入ノ代理人トシテ買價ノ申込ヲ爲シタル者ノ代理權ニ欠缺アルコト
 三 法律上ノ買價條件ニ抵触シテ買價ヲ爲シタルコト
 四 買價期日ノ公告ニ第五十四條第一項及第二項ニ掲グル要件ノ記載ナキコト
 五 買價期日ノ公告ヲ法律上規定スル方法ニ依リテ爲サザリシコト
 六 第五百五十六條第一項ニ規定スル期間ヲ存セザリシコト
 七 買價ノ催告後一時間ヲ過キズシテ買價ヲ終結シタルコト
 八 第六十一條ノ規定ニ依リ現金又ハ有價證券ヲ提供セザル買價申込人ヲ最高價額買入ト定メタルコト
 九 第六十二條ノ規定ニ違背シテ最高價額買入ヲ定メタルコト
 第七十條 買價ハ他ノ利害關係人ノ權利ニ關スル理由ニ基テ之ヲ爲スコトヲ得ズ
 第七十一條 法院ハ買價ノ申出ヲ正當トスルトキハ買價ヲ許サズ

第六十九條第一項乃至第九條ニ掲グル事項ノ一アルトキハ強制執行ヲ以テモ買價ヲ許サズ但シ第一項ノ場合ニ於テハ買價申込人ノ不動產ノ買價額ノ不足ナルコトキ又ハ買價手續ノ停止ヲ爲シタルコトキ限リ第二項ノ場合ニ於テハ能力又ハ代理權ノ欠缺ヲ補正セラレザルトキニ限リ第三項ノ場合ニ於テハ利害關係人ノ手續ノ續行ニ付承認セザルトキニ限ル
 第七十二條 第六十九條第四項乃至第九條ニ掲グル事項ノ一アル場合ニ於テモ法院ハ最高價額買價額、最高價額買入ノ信用狀態、手續違背實際ノ結果其ノ他一切ノ事情ヲ斟酌シ相當トシムルトキハ前條ノ規定ニ拘ラズ買價ヲ許可スルコトヲ得
 前項ノ規定ハ不正ノ行ハレタルモノト認ムル場合ニハ之ヲ適用セズ
 第七十三條 數箇ノ不動產ヲ買價ニ付シタル場合ニ於テ其ノ一部ノ買得金ヲ以テ各債權者ノ債權ノ清償ヲ爲シ手續ノ費用ヲ支拂フニ足ルトキハ他ノ不動產ニ對スル買價額ハ之ヲ許サズ
 前項ノ場合ニ於テ債權者ハ其ノ不動產中買價スベキモノヲ指定スルコトヲ得
 第七十四條 買價許否ノ裁定ハ之ヲ言渡スコトヲ要ス
 民事訴訟法第二百一十一條乃至第二百十六條ノ規定ハ買價期日ノ開會ニ之ヲ準用ス
 第七十五條 買價許可裁定ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス
 一 買價ノ許可シタル不動產ノ表示
 二 買價ノ表示
 三 買價ノ許否ノ裁定
 第七十六條 買價許否ノ裁定ハ第六十四條第一項ノ規定ニ依リ之ヲ言渡スノ外法院ノ揭示場ニ揭示シテ公告スルコトヲ要ス

第七十七條 買價不許可ノ裁定ヲ爲シタル場合ニ於テ買價額買入スベキトキハ新期日ヲ定メ買價手續ヲ續行スルコトヲ要ス
 第七十八條 買價期日ヨリ買價許可裁定確定ノ日迄ノ間ニ最高價額買入又ハ買價人ノ買價スベカラザル事由ニ因リ不動產ガ著シク毀損シタルトキハ最高價額買入又ハ買價人ハ法院ニ其ノ買價ノ取消ヲ申請スルコトヲ得
 法院ガ買價ノ取消スル場合ニ於テ既ニ買價許可裁定アリタルトキハ併セテ其ノ裁定ヲ取消スルコトヲ要ス
 法院ガ買價ノ取消シタルトキハ買價人ヲシテ其ノ不動產ヲ買價セシメ其ノ買價額ヲ酌量シテ最低價額買價額ヲ定メ買價手續ヲ續行スルコトヲ要ス
 第七十九條 利害關係人ハ買價許否ノ裁定ニ因リ其ノ權利ヲ害セラルル場合ニ於テハ其ノ裁定ニ對シ即時抗告ヲ爲スコトヲ得
 買價ノ許可スベキ理由ナキコトヲ主張スル買價人又ハ自己ノ買價ヲ許スベキコトヲ主張スル買價人モ亦即時抗告ヲ爲スコトヲ得
 前項ノ場合ニ於テ買價ヲ求メタル買價人ハ其ノ申出アル買價額ニ付拘束ヲ受タルモノトス
 第八十條 買價不許可ノ裁定ニ對スル抗告ハ第六十九條ノ規定ニ依リ之ヲ爲スコトヲ得
 買價許可裁定ニ對スル抗告ハ第六十九條ノ規定ニ依リ之ヲ爲スコトヲ得
 買價許可裁定ニ對スル抗告ハ第六十九條ノ規定ニ依リ之ヲ爲スコトヲ得
 買價許可裁定ニ對スル抗告ハ第六十九條ノ規定ニ依リ之ヲ爲スコトヲ得
 第八十一條 買價許否ノ裁定ニ對スル數箇ノ抗告ハ之ヲ併

合シテ審理スルコトヲ要ス
 第七十條乃至第七十二條ノ規定ハ抗告審ニ之ヲ準用ス
 第八十二條 執行法院ノ裁定ヲ變更シ又ハ取消シタル抗告法院ノ裁判ハ執行法院之ヲ裁院ノ揭示場ニ揭示シテ公告スルコトヲ要ス
 第八十三條 買價許可裁定確定シタルトキハ法院ハ直ニ執行官ヲシテ第六十一條ノ規定ニ依リ提供ヲ受ケタル有價證券ヲ差押物ノ換價ニ關スル規定ニ從ヒ換價セシムルコトヲ要ス
 執行官有價證券ヲ換價シタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ法院ニ届出テ換價金ヲ納付スルコトヲ要ス
 第八十四條 買價許可裁定確定シタルトキハ執行法院ハ相當ノ期間ヲ定メ其ノ期間内ニ買價代金ヲ支拂フベキコトヲ買價人ニ命ズルコトヲ要ス
 法院ハ買價人ガ第六十一條ノ規定ニ依リ執行官ニ提供シタル金銀又ハ有價證券ノ換價金ヲ以テ買價代金ノ支拂ニ充テタルコトヲ得
 第八十五條 買價人ガ買價代金ノ支拂ヲ爲シタルトキハ買價人ハ不動產ノ所有權ヲ取得シ不動產ノ上ニ存スル留置權及抵押權ハ消滅ス
 第八十六條 買價人ガ代金ノ支拂ヲ爲シタルトキハ執行官ハ其ノ占有スル不動產ヲ買價人ニ引渡スコトヲ要ス
 前項ノ場合ニ於テハ執行法院ハ第三百三十五條第三項ノ規定ニ依リ買價人ノ許可ヲ取消シ執行官ヲシテ居住者ヲ退去セシムルコトヲ要ス
 第八十七條 買價人ガ買價代金ノ支拂ヲ爲シタルトキハ法院ハ買價代金ノ左ノ事項ノ登錄ヲ囑託スルコトヲ要ス
 一 買價人ノ引受ケザル買價ノ登錄ノ抹消
 二 第三百三十三條ノ規定ニ依リ爲シタル買價開始ノ登錄ノ

抹消前項ノ囑託ヲ爲スニハ買價許可裁定ノ正本ヲ添付スルコトヲ要ス
 第八十八條 買價ノ費用ハ買價人ノ負擔トス
 登錄ニ關スル費用ハ買價人ノ負擔トス
 第八十九條 買價人ガ代金支拂期間内ニ其ノ支拂ヲ爲サザル場合ニ於テ相當トシムルトキハ法院ハ第二位以下ノ買價申込人ノ申出ニ因リ其ノ買價申込人ニ買價許可スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第六十一條ノ規定ヲ準用ス
 前項ノ規定ニ依リテ買價許可シタルトキハ前ノ買價人ハ買價額額額ノ第二位以下ノ買價申込人ノ買價申込額額額ノ差額及手續ノ費用ヲ負擔ス
 第一項ノ規定ハ前ノ買價人ガ第六十一條ノ規定ニ依リテ執行官ニ提供シタル金銀又ハ有價證券ノ換價金ヲ以テ前項ノ負擔ノ支拂ニ充テラザルトキハ之ヲ適用セズ
 第九十條 買價人ガ代金支拂期間内ニ其ノ支拂ヲ爲サザルトキハ第二位以下ノ買價申込人ニ買價許可スル場合又ハ任意買却ヲ命ズル場合ヲ除クノ外法院ハ不動產ノ再買價ヲ命ズルコトヲ要ス
 再買價手續ノ最低價額買價額ハ最初ノ買價ノ爲ニ定メタルモノニ依ル
 買價人ガ再買價期日ノ三日以前ニ買價代金及手續ノ費用ノ支拂ヲ爲シタルトキハ再買價手續ヲ取消スニテ要ス
 再買價ヲ爲シタルトキハ再買價人ハ買價ニ加ヘルコトヲ得ズ
 第九十一條 買價ノ規定ハ再買價ノ爲ス場合ニ之ヲ準用ス
 第九十二條 買價人ガ代金支拂期間内ニ支拂ヲ爲サザル場合ニ於テ法院相當トシムルトキハ不動產ノ任意買却ヲ執行官ニ命ズルコトヲ要ス
 第九十三條 買價ノ規定ハ再買價ノ爲ス場合ニ之ヲ準用ス
 第九十四條 買價ノ規定ハ再買價ノ爲ス場合ニ之ヲ準用ス
 第九十五條 買價ノ規定ハ再買價ノ爲ス場合ニ之ヲ準用ス
 第九十六條 買價ノ規定ハ再買價ノ爲ス場合ニ之ヲ準用ス
 第九十七條 買價ノ規定ハ再買價ノ爲ス場合ニ之ヲ準用ス
 第九十八條 買價ノ規定ハ再買價ノ爲ス場合ニ之ヲ準用ス
 第九十九條 買價ノ規定ハ再買價ノ爲ス場合ニ之ヲ準用ス
 第一百條 買價ノ規定ハ再買價ノ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

買價ノ成立シタルコトヲ證スル書面ヲ添付スルコトヲ要ス
 不動產ノ上ニ存スル留置權及抵押權ハ買却ニ因リテ消滅ス
 買受人ハ代金支拂後生ジタル不動產ノ收益ヲ取得ス
 第九十一條 買價期日ニ於テ買價ノ申込ヲ爲ス者ナキ場合ニ於テ法院相當トシムルトキハ最低價額買價額ヲ下ラザル買價ノ不動產ノ任意買却ヲ執行官ニ命ズルコトヲ得
 第九十二條 買價額額額ノ第一位以下ノ買價申込人ノ買價申込額額額ノ差額及手續ノ費用ヲ負擔ス
 第九十三條 買價ノ規定ハ再買價ノ爲ス場合ニ之ヲ準用ス
 第九十四條 買價ノ規定ハ再買價ノ爲ス場合ニ之ヲ準用ス
 第九十五條 買價ノ規定ハ再買價ノ爲ス場合ニ之ヲ準用ス
 第九十六條 買價ノ規定ハ再買價ノ爲ス場合ニ之ヲ準用ス
 第九十七條 買價ノ規定ハ再買價ノ爲ス場合ニ之ヲ準用ス
 第九十八條 買價ノ規定ハ再買價ノ爲ス場合ニ之ヲ準用ス
 第九十九條 買價ノ規定ハ再買價ノ爲ス場合ニ之ヲ準用ス
 第一百條 買價ノ規定ハ再買價ノ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

トヲ請シ又不動産ノ収益ノ給付ヲ爲スベキ第三者アルトキハ其ノ第三者ニ其ノ後ノ給付ヲ管理人ニ爲スベキコトヲ命ズルコトヲ要ス

既ニ收買シ若ハ收買スベキ果實又ハ期限ノ到来シ若ハ到来スベキ果實ハ收買ニ屬ス

開始決定ハ第三者ニ對シテハ送達ニ因リテ其ノ效力ヲ生ズ

第九十八條 強制執行開始ノ規定ヲ爲シタル場合ニ於テハ法院ハ適當ノ方法ヲ以テ其ノ旨ノ公告ヲ爲スコトヲ要ス但シ法院公告ノ必要ナキモノト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラズ

土地ヨリ離レザル果實ニ付テハ適當ノ方法ヲ以テ其ノ果實ガ強制執行ノ目的タルコトヲ公示スルコトヲ要ス

第九十九條 強制執行開始ノ規定ヲ爲シタル不動産ニ對シテ更ニ強制執行ノ申立アリタル場合ニ於テ事件ノ併合ヲ爲シタルトキハ其ノ旨ヲ管理人ニ通知スルコトヲ要ス

第二〇〇條 配當要求ハ抵押権者ヲ除クノ外執行力アル正本ヲ有スル債権者ニ限リテ之ヲ爲スコトヲ得

配當要求アリタルトキハ其ノ旨ヲ管理人ニ通知スルコトヲ要ス

第二〇一條 管理人ハ法院之ヲ選任ス

前項ノ選任ハ何時ニテモ之ヲ取消シ又ハ變更スルコトヲ得

法院管理人ヲ選任シ又ハ變更シタルトキハ直ニ其ノ登錄ヲ管理監督官署ニ通知スルコトヲ要ス

第二〇二條 管理人ハ管理及収益ノ爲メ不動産ヲ占有スルコトヲ要ス此ノ場合ニ於テ妨害ヲ受ケ又ハ受ケル虞アルトキハ執行官ノ援助ヲ求ムルコトヲ得

管理人ハ第三者ノ給付スベキ収益ヲ取立アルコトヲ得

第二〇三條 強制執行開始アリタルトキハ不動産ノ管理及収益ニ關スル訴訟手續ハ中断ス此ノ場合ニ於テハ管理人訴訟手續ヲ受領スルコトヲ要ス

前項ノ規定ニ依リ訴訟手續中断シタル場合ニ於テ訴訟手續

ノ受領アル迄ニ強制執行ノ取消アリタルトキハ債権者ハ當然訴訟手續ヲ受領ス

第二〇四條 前條第一項ノ規定ニ依リ不動産ノ管理及収益ニ關スル訴訟手續ノ受領アリタル後強制執行ノ取消アリタルトキハ訴訟手續ハ中断ス此ノ場合ニ於テハ債権者ハ訴訟手續ヲ受領スルコトヲ要ス強制執行開始後不動産ノ管理及収益ニ關シ訴訟提起セラレタル場合ニ於テ強制執行ノ取消アリタルトキ亦同シ

第二〇五條 管理人ハ法院ノ監督ニ屬ス

法院ハ管理人ニ報酬ヲ與フルコトヲ得

第二〇六條 第九十一條乃至第九十八條ノ規定ハ配當手續ニ之ヲ準用ス

第二〇七條 管理人ハ善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ管理事務ヲ處理スルコトヲ要ス

管理人ガ前項ノ注意ヲ怠リタルトキハ其ノ管理人ハ利害關係人ニ對シテ連帶シテ損害賠償ノ責任ヲ負フ

第二〇八條 管理人ハ毎年及其ノ業務施行ノ終了後各債権者、債権者及法院ニ計算書ヲ提出スルコトヲ要ス

各債権者及債務者ハ計算書ニ異議アルトキハ計算書ヲ受取リタル日ヨリ十日以内ニ其ノ旨ヲ管理人ニ通知スルコトヲ要ス

前項ノ期間内ニ異議アル旨ノ通知ナキトキハ計算書承認シノ行爲アリタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第二〇九條 強制執行ノ取消ハ確定ヲ以テ之ヲ爲ス

不動産ノ収益ヲ以テ各債権者ノ債權ヲ充済シタルトキハ法院ハ強制執行ノ取消スコトヲ要ス強制執行ノ申立ノ取下アリタルトキ亦同シ

法院強制執行ノ取消シタルトキハ管理監督官署ニ強制執行ニ關スル登録ノ抹消ヲ命ズルコトヲ要ス

第二一〇條 登記スベキ船舶ニ對スル強制執行ハ本條ノ規定ニ依リテ之ヲ爲ス

前項ノ強制執行ニ付テハ本條ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外不動産ノ強制執行ニ關スル規定ヲ準用ス

第二一一條 船舶ノ強制執行ハ差押ノ當時ニ於ケル船舶ノ所在地ヲ管轄スル法院執行法院トシテ之ヲ管轄ス

第二一二條 強制執行ノ申立ニハ左ノ書面ヲ添付スルコトヲ要ス

一 船舶ニ關スル登記簿ノ原本

二 船舶ガ未登記ナルトキハ債権者ノ所有タルコトヲ證スベキ書面

三 債権者ガ船長ナルトキハ船長タルコトヲ證スベキ書面

前項第一號ノ書面ニ依リ船舶ガ債権者ノ所有タルコト明ナラザルトキハ其ノ所有タルコトヲ證スベキ書面ヲ添付スルコトヲ要ス

第二一三條 法院ハ債権者ノ申立ニ因リ船舶ノ監守及保存ノ爲メ必要ナル處分ヲ命ズルコトヲ得

前項ノ處分ヲ爲シタルトキハ開始決定ノ送達前又ハ登記前ト雖モ差押ノ效力ヲ生ズ

第二一四條 船長ヲ債権者トシテ強制執行手續ヲ爲シタル場合ニ於テ執行名義ガ船舶所有者ニ對シテモ效力ヲ有スルモノナルトキハ差押ノ效力ハ船舶所有者ニ及ビ此ノ場合ニ於テハ船舶所有者モ亦利害關係人トス

差押ノ效力ヲ生ジタル後所有者又ハ船長ニ變更アルモ執行認可ヲ要セズシテ執行ヲ續行スルコトヲ得

差押ノ效力ヲ生ジタル後新ニ船長ト爲リタル者ハ前船長ニ代リテ利害關係人ト爲ル

第二一五條 差押ヲ受ケタル船舶ハ執行手續中差押ノ場所ヨリ出航スルコトヲ得ズ但シ法院船舶ノ利用ノ適當ト認

ムルトキハ其ノ出航ヲ許スコトヲ得

第二一六條 船舶ノ現在ノ場所及船籍港ハ之ヲ賣却期日ノ公告ニ記載スルコトヲ要ス

第二一七條 船舶ノ船籍港ヲ管轄スル法院以外ノ法院ニ於テ賣却開始決定ヲ爲シタルトキハ賣却期日ノ公告ハ其ノ法院ニ於テ之ヲ爲ス外船籍港所在地ヲ管轄スル法院ニ其ノ公告ヲ爲スベキコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テ委託ヲ受ケタル法院ハ其ノ指示ニ據シテ公告ヲ爲スコトヲ要ス

第二一八條 本條ノ規定ハ登記ニ關スルモノヲ除クノ外外國船舶ノ強制執行ニ之ヲ準用ス但シ其ノ船舶ガ若洲國船舶ナルトキハ登記スベキモノナル場合ニ限ル

第五款 其ノ他ノ財產權ニ對スル強制執行

第二一九條 不動産上ノ權利ニ對スル強制執行ニ付テハ不動産ニ對スル強制執行ニ關スル規定ヲ準用ス

第二二〇條 前條ノ權利以外ノ財產權ニ對スル強制執行ニ付テハ債權ニ對スル強制執行ニ關スル規定ヲ準用ス

前項ノ財產權ニ對スル強制執行ニ於テ第三債務者ナキトキハ差押ハ債権者ニ權利ノ處分ヲ禁ズル命令ヲ送達シタル時、登錄ニ因リテ發生スル權利ニ付テハ差押命令ヲ登錄シタル時ニ之ヲ爲シタルモノト爲ス

前項ノ場合ニ於テハ法院ハ財產權ノ讓渡又ハ管理其ノ他適當ノ處分ヲ命ズルコトヲ得

第二二一條 登記スベキ船舶ノ持分ニ對スル強制執行ハ前條ノ規定ニ依リテ之ヲ爲ス

前項ノ強制執行ハ船籍港ヲ管轄スル法院執行法院トシテ之ヲ管轄ス

第二二二條 第二百一十二條ノ規定ハ前條ノ強制執行ノ申立ニ之ヲ準用ス

法院差押命令ヲ爲シタルトキハ其ノ登記ヲ管轄登記處ニ

登記スルコトヲ要ス

差押命令ハ債権者ノ外船舶管理人ニモ之ヲ送達スルコトヲ要ス

差押命令ヲ船舶管理人ニ送達シタルトキハ之ヲ債権者ニ送達スル前又ハ第二項ノ規定前ト雖モ差押ノ效力ヲ生ズ

第三款 金銀ノ兌換ノ目的トセザル債權

第二二三條 債権者ガ不動産又ハ有價證券ヲ引渡シ又ハ給付スベキ時ハ執行官ハ之ヲ債権者ヨリ取上ゲテ債権者ニ引渡スコトヲ要ス

第二二四條 債権者ガ不動産又ハ人ノ住居スル船舶ヲ引渡シ又ハ明渡スベキモノキハ執行官ハ債権者ノ占有ヲ解キ債權者ヲシテ之ヲ占有セシムルコトヲ要ス

前項ノ強制執行ノ目的物ニ非ザル不動産ハ執行官之ヲ取除キテ債權者ニ引渡スコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テ債権者不在ナルトキハ其ノ代理人又ハ債權者ノ成長シタル家族若ハ雇人ニ之ヲ引渡スコトヲ要ス若此等ノ者不在ナルトキハ執行官ハ前項ノ不動産ノ債権者ノ費用ヲ以テ保管スルコトヲ要ス

債権者動産ヲ受取ルコトヲ怠リタルトキハ執行官ハ執行法院ノ許可ヲ受ケ差押物ノ換價ニ關スル規定ニ從ヒテ之ヲ換價シ其ノ費用ヲ控除シタル後其ノ代金ヲ供託スルコトヲ要ス

第二二五條 引渡スベキ物ヲ第三者ガ所持スルトキハ申立ニ因リ金銀債權ノ差押ニ關スル規定ニ從ヒ債権者ノ第三者ニ對スル引渡ノ請求權ヲ差押アルコトヲ要ス

法院ハ差押命令ニ於テ債権者ガ直接ニ取立アルコトヲ得ベキ旨ヲ命ズルコトヲ要ス此ノ場合ニ於テ債権者ハ取立ノ

爲裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ爲スコトヲ得

第二二六條 債権者ノ爲スベキ行爲ガ第三者ヲシテ爲サシムルコトヲ得ベキモノナルトキハ執行法院ハ申立ニ因リ債権者ガ債権者ノ費用ヲ以テ第三者ヲ執行法院ノ行爲ヲ爲サシムルコトヲ得ベキ旨ヲ命ズルコトヲ要ス

前項ノ費用ハ申立ニ因リ債権者ニ對シ其ノ前項ヲ爲スベキコトヲ命ズルコトヲ要ス若不足リ生ジタルトキハ後ニ其ノ請求ヲ爲スコトヲ妨ゲズ

第二二七條 前條第一項ノ規定ニ依リテ第三者ガ行爲ヲ爲ス場合ニ於テ妨害ヲ受ケ又ハ受ケル虞アルトキハ債権者ハ執行官ノ援助ヲ求ムルコトヲ得

行爲ヲ爲スニ付債権者ノ所持スル物件ヲ使用スル必要アルトキハ執行法院ハ債権者ノ申立ニ因リ執行官ヲシテ之ヲ取上ゲ債権者ニ交付セシムルコトヲ要ス

行爲ヲ爲スニ付債権者ガ陳述ヲ爲ス必要アルトキハ執行法院ハ債権者ノ申立ニ因リ第三者ニ對シテ其ノ陳述ヲ爲スベキ旨ヲ債権者ニ命ズルコトヲ要ス

第二二八條 債権者ノ爲スベキ行爲ガ第三者ヲシテ爲サシムルコトヲ得ザルモノナル場合ニ於テ其ノ行爲ガ債権者ノ意思ニミズルモノキハ執行法院ハ申立ニ因リ相當ノ期間ヲ定メ債権者ガ其ノ期間内ニ履行ヲ爲サザルトキハ其ノ遲延ノ期間ニ應ジ一定ノ賠償ヲ爲スベキコト又ハ直ニ損害ノ賠償ヲ爲スベキコトヲ命ズルコトヲ要ス

第二二九條 債権者ガ不作爲ノ義務ヲ履行セザルトキハ執行法院ハ申立ニ因リ債権者ノ費用ヲ以テ其ノ爲シタルモノヲ除去シ且將來ノ爲適當ノ處分ヲ爲スベキコトヲ命ズルコトヲ要ス

第二三〇條 第二百二十六條第二項及前二條ノ規定ハ第二條第五號ノ執行名義ニ準ジテ之ヲ執行スルコトヲ得

第二三一條 第二百二十六條、第二百二十七條第二項第

三項、第二百二十八條及第二百二十九條ニ規定スル執行法
院ハ執行名義ガ裁判又ハ訴訟上ノ和解ナルトキハ第一審ノ
受訴法院、調停ナルトキハ調停ノ成立シタル法院トス第二
百二十六條、第二百二十七條第二項第三項、第二百二十八
條及第二百二十九條ノ規定ヲ爲スニハ決定前債務者ヲ審訊
スルコトヲ要ス

第二章 假差押及假處分

第二節 假差押
第二百三十二條 債務者ガ意思ノ陳述ヲ爲スベキコトノ判決
ヲ受ケタルトキハ其ノ判決ノ確定ヲ以テ意思ノ陳述ヲ爲シ
タルモノト看做ス反對給付ノアリタル後意思ノ陳述ヲ爲ス
ベキ場合ニ於テハ第六條、第七條及第九條ノ規定ニ從ヒ執
行可アリタルトキ其ノ效力ヲ生ズ

第二百三十三條 假差押ハ金錢ノ債權又ハ金錢ノ債權ニ換
ルコトヲ得ベキ請求ニ付強制執行ヲ保全スル爲メ之ヲ爲スコ
トヲ得

第二百三十四條 假差押ハ未ダ期限ノ到来セザル請求ニ付テモ亦之ヲ爲スコ
トヲ得

第二百三十五條 假差押ハ之ヲ爲スニ非ザレバ執行ヲ爲スコ
ト能ハズ又ハ執行ヲ爲スニ著シキ困難ヲ生ズル虞アルトキ
ニ限リ之ヲ爲スコトヲ得外國ニ於テ執行ヲ爲スニ至ルベキ
トキ亦同シ

第二百三十六條 假差押ノ命令ハ差押ベキ物ノ所在地ヲ管
轄スル區法院又ハ本案ノ管轄法院之ヲ管轄ス

第二百三十七條 假差押ノ申立ニハ左ノ事項ヲ明ニスルコト
ヲ要ス

一 請求ノ表示
二 假差押ノ理由タル事實ノ表示
請求ガ一定ノ金額ノ支拂ヲ目的トセザルトキハ其ノ債額モ
亦之ヲ記載スルコトヲ要ス

第二百三十八條 假差押ノ理由ハ之ヲ疎明スルコトヲ要ス
於テモ法院ハ擔保ヲ供セシメテ假差押ヲ命ズルコトヲ得
請求又ハ假差押ノ理由ヲ疎明シタル場合ニ於テモ法院ハ擔
保ヲ供セシメテ假差押ヲ命ズルコトヲ得

第二百三十九條 假差押ノ命令ニハ假差押ノ執行ヲ停止スル
コトヲ得ル旨又ハ假差押ノ執行ヲ取消スコトヲ得ル旨債務
者ガ供給スベキ金額ヲ記載スルコトヲ要ス

第二百四十條 假差押ニ關スル裁判ハ決定ヲ以テ之ヲ爲ス
前項ノ規定ニ對シテハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外即時
抗告ヲ爲スコトヲ得

第二百四十一條 債務者ヲ審訊セズ又ハ口頭辯論ヲ經ズシテ
シタル假差押ノ命令ニ對シテハ異議ヲ申立ルコトヲ得
異議ノ申立ニハ理由ヲ明ニスルコトヲ要ス

第二百四十二條 異議ノ申立アリタルトキハ法院ハ口頭辯論
ヲ經テ裁判ヲ爲スコトヲ要ス但シ口頭辯論ノ必要ナシト認
ムルトキハ債務者ヲ審訊スルヲ以テ足ル

法院ハ前項ノ裁判ニ於テ前ニ爲シタル假差押ノ全部若ハ一
部ヲ可シ、變更シ若ハ取消シ又ハ擔保ヲ供セシメテ之ヲ
認可シ、變更シ若ハ取消スコトヲ得

第二百四十三條 第四十二條第一項、第四十三條第一項及第
四十四條ノ規定ハ假差押ヲ命ズル裁判ニ對シテ抗告ヲ爲シタ
ル場合ニ之ヲ準用ス

第二百四十四條 本案ガ未ダ審議セザルトキハ假差押法院ハ
債務者ノ申立ニ因リ期間ヲ定メ其ノ期間内ニ訴ヲ提起スベ
キコトヲ債權者ニ命ズルコトヲ要ス

前項ノ期間内ニ訴ヲ提起セザルトキハ債權者ノ申立ニ因リ
假差押ヲ取消スコトヲ要ス

第二百四十五條 假差押ノ理由消滅シ其ノ他事情ノ變更シタ
ルコトヲ要ス

第二百四十六條 特別ノ事情アルトキハ擔保ヲ供セシメテ假
差押ノ取消ヲ許スコトヲ得

第二百四十七條 假處分ハ爭アル權利關係ニ付假ノ地位ヲ定
ムル旨ニモ亦之ヲ爲スコトヲ得但シ其ノ處分ハ殊ニ顯著ス
ル權利關係ニ付著シキ損害ヲ避ケ若ハ急迫ナル強暴ヲ防
グ又ハ其ノ他ノ理由ニ因リ之ヲ必要トスルトキニ限ル

第二百四十八條 急迫ナル場合ニ於テハ保爭物ノ所在地ヲ管
轄スル區法院モ亦假處分ヲ命ズルコトヲ得

前項ノ假處分ニ對シテハ債務者ヲ審訊シ又ハ口頭辯論ヲ經
タル場合ニ於テモ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

異議ノ申立ハ本案ノ管轄法院ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第二百四十九條 假處分ノ權利ヲ主張シ其ノ他爲計ヲ用ヒ強制
執行又ハ假差押若ハ假處分ニ依ル權利ノ實行又ハ其ノ保全
ヲ妨ゲタル者ハ三年以下ノ徒刑又ハ二千萬圓以下ノ罰金
ニ處ス

第二百五十條 談合其ノ他不正ノ方法ニ依リ不當ニ賠償ニ
關涉セシメタル者ハ三年以下ノ徒刑又ハ二千萬圓以下ノ罰金
ニ處ス

第二百五十一條 強制執行又ハ假差押若ハ假處分ヲ妨グル目
的ヲ以テ執行官ノ職務ヲ阻礙シ又ハ之ニ對シ強暴ノ陳述ヲ
爲シタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百五十二條 第二百二十七條第三項ノ規定ニ依リ陳述ヲ
爲スベキ旨ヲ命ゼラレタル債務者ガ陳述ヲ爲サズ又ハ虛偽
ノ陳述ヲ爲シタルトキハ百圓以下ノ過料ニ處ス

本法施行ノ期日ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム(廣德四年勅令第三二
三號ヲ以テ同年十二月一日ヨリ施行)

第八

第二百五十二條 假差押ノ執行ノ爲強制執行ヲ爲ス場合ニ於
テハ管理人ハ取立タル收益ヲ執行法院ニ引渡スコトヲ要
ス

第二百五十三條 登記スベキ船舶ニ對スル假差押ノ執行ハ假
差押命令ヲ登記スルコトニ依リテ之ヲ爲ス

法院ハ債權者ノ申立ニ因リ船舶ノ監守及保存ノ爲必要ナル
處分ヲ命ズルコトヲ要ス

第二百五十四條 第二百五十一條及第二百五十二條ノ規定ハ
不動産上ノ權利ニ對スル假差押ノ執行ニ之ヲ準用ス

前項ノ權利以外ノ財產權ニ對スル假差押ノ執行ハ當該財產
權ニ對スル差押ト同一ノ方法ニ依リテ之ヲ爲ス但シ差押ヘ
タル財產權ノ換價ハ之ヲ爲サズ

前項ノ財產權ニ對スル假差押ノ執行ハ船舶ノ持分ニ對スル
モノヲ除クノ外命令ヲ爲シタル法院之ヲ管轄ス

第二百五十五條 假差押命令ニ於テ定メタル金額ヲ供託シタ
ルトキハ執行法院ハ假差押ノ執行ヲ取消スコトヲ要ス

第二百五十六條 本節ニ於ケル本案ノ管轄法院ハ第一審法院
トス但シ本案ガ控訴審ニ屬スルトキハ控訴法院トス

第二百五十七條 保爭物ニ關スル假處分ハ現狀ノ變更ニ因リ
當事者ガ權利ノ實行ヲ爲スコト能ハズ又ハ之ヲ爲スニ著シ
キ困難ヲ生ズル虞アルトキ之ヲ爲スコトヲ得

第二百五十八條 假差押ニ關スル規定ハ假處分ニ之ヲ準用ス

第二百五十九條 假處分ノ命令ハ本案ノ管轄法院之ヲ管轄ス

第二百六十條 法院ハ其ノ意見ヲ以テ申立ノ目的ヲ達スルニ
必要ナル處分ヲ定ム

假處分ハ保管人ヲ選キ又ハ相手方ニ行爲ヲ命ジ若ハ之ヲ禁
ズルコトヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

假處分ヲ以テ不動産又ハ登録ニ因リテ發生スル權利ノ處分
ヲ稱シタルトキハ法院ハ其ノ登録ヲ管轄官署ニ電託ス

ルコトヲ要ス
第二百六十一條 特別ノ事情アルトキハ擔保ヲ供セシメテ假
差押ノ取消ヲ許スコトヲ得

第二百六十二條 假處分ハ爭アル權利關係ニ付假ノ地位ヲ定
ムル旨ニモ亦之ヲ爲スコトヲ得但シ其ノ處分ハ殊ニ顯著ス
ル權利關係ニ付著シキ損害ヲ避ケ若ハ急迫ナル強暴ヲ防
グ又ハ其ノ他ノ理由ニ因リ之ヲ必要トスルトキニ限ル

第二百六十三條 急迫ナル場合ニ於テハ保爭物ノ所在地ヲ管
轄スル區法院モ亦假處分ヲ命ズルコトヲ得

前項ノ假處分ニ對シテハ債務者ヲ審訊シ又ハ口頭辯論ヲ經
タル場合ニ於テモ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

異議ノ申立ハ本案ノ管轄法院ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第二百六十四條 虛偽ノ權利ヲ主張シ其ノ他爲計ヲ用ヒ強制
執行又ハ假差押若ハ假處分ニ依ル權利ノ實行又ハ其ノ保全
ヲ妨ゲタル者ハ三年以下ノ徒刑又ハ二千萬圓以下ノ罰金
ニ處ス

第二百六十五條 談合其ノ他不正ノ方法ニ依リ不當ニ賠償ニ
關涉セシメタル者ハ三年以下ノ徒刑又ハ二千萬圓以下ノ罰金
ニ處ス

第二百六十六條 強制執行又ハ假差押若ハ假處分ヲ妨グル目
的ヲ以テ執行官ノ職務ヲ阻礙シ又ハ之ニ對シ強暴ノ陳述ヲ
爲シタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百六十七條 第二百二十七條第三項ノ規定ニ依リ陳述ヲ
爲スベキ旨ヲ命ゼラレタル債務者ガ陳述ヲ爲サズ又ハ虛偽
ノ陳述ヲ爲シタルトキハ百圓以下ノ過料ニ處ス

本法施行ノ期日ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム(廣德四年勅令第三二
三號ヲ以テ同年十二月一日ヨリ施行)

○民事訴訟法施行法
(康德四年十一月二十五日)
(勅令第三一二號)
除組織法第三十六條ニ依リ參議府ノ諮詢ヲ經テ民事訴訟法
行法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ發布セシム

第一條 民事訴訟法ハ本法ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外
其ノ施行前ニ生ジタル事項ニモ亦之ヲ適用ス但シ從前ノ規
定ニ依リテ生ジタル效力ヲ妨グズ

第二條 民事訴訟法施行前ヨリ繫屬スル事件ニ付民事訴訟法
ニ依リ管轄アル法院ハ從前ノ規定ニ依レバ管轄權ナキ場
合ニ於テモ管轄權ヲ有ス

前項ノ事件ニ付從前ノ規定ニ依リ管轄權アル法院ハ民事訴
訟法ニ依レバ管轄權ナキ場合ニ於テモ管轄權ヲ有ス

第三條 民事訴訟法ニ依リ新ニ期間ヲ定メタル訴訟行爲ニシ
テ民事訴訟法施行ノ際爲スベキモノニ付テハ其ノ期間ハ民
事訴訟法施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第四條 民事訴訟法中訴訟費用ノ擔保ニ關スル規定ハ民事訴
訟法施行前ヨリ繫屬スル訴訟ニ付テハ之ヲ適用セズ

第五條 民事訴訟法施行前ヨリ進行シタル訴訟期間及其
ノ計算ハ從前ノ規定ニ依ル

第六條 民事訴訟法施行前申立テタル原狀回復ノ手續ハ仍從
前ノ規定ニ依リテ之ヲ完結ス

第七條 民事訴訟法施行前規定ニ依リテ附屬ニ處スベ
キ行爲ヲ爲シタル者ニシテ民事訴訟法施行ノ際未ダ其ノ裁
判ヲ受ケザルモノハ民事訴訟法ニ於テ過料ニ處スベキ場合
ニ限リ民事訴訟法ニ依リテ之ヲ處罰ス但シ過料ノ額ハ從前ノ
規定ノ額ノ超ユルコトヲ得ズ民事訴訟法施行前民事
訴訟法ニ依リテ過料ニ處スベキ行爲ヲ爲シタル者ハ從前ノ

第八條 從前ノ規定ニ依リテ提起前ニ爲シタル和解ノ申立
 (調停法ニ依リテ爲シタル調停ノ申立ト看做ス)
 第九條 民事訴訟法施行前ニ爲シタル判決ニ對シテハ民事訴
 訟法第三百五十二條及第四百三條ノ規定ニ拘ラズ仍從前ノ
 規定ニ依リテ訴ヲ爲スコトヲ得
 第十條 民事訴訟法施行前第一審法院又ハ控訴法院ガ管轄運
 トシテ訴ヲ却下シタル場合ニ於テ上訴法院ガ第一審法院ニ
 其ノ管轄權ナシトスルコトキハ判決ヲ以テ事件ヲ第一審ノ管
 轄法院ニ移送スルコトヲ要ス
 第十一條 民事訴訟法施行前第一審法院ニ管轄權アリトス
 ルトキハ事件ヲ其ノ法院ニ差戻スコトヲ要ス但シ第一審法
 院ガ管轄權アリト爲シタル事件ニ付控訴法院ガ管轄權トシ
 テ訴ヲ却下シタル場合ニ於テハ上告法院ハ事件ヲ控訴法院
 ニ差戻スコトヲ得
 第十二條 民事訴訟法第四百十七條第三項ノ規定ハ當分ノ間
 之ヲ適用セズ
 第十三條 民事訴訟法施行前ニ爲シタル判決ニシテ原狀回復
 ノ申立ヲ却下シタルモノ又ハ請求ノ原因ヲ不當ナリトシタ
 ルモノニ對シ控訴ノ提起アリタル場合ニ於テ其ノ理由アル
 トキハ從前ノ規定ニ依リテ事件ヲ第一審法院ニ差戻スコトヲ
 要ス
 第十四條 民事訴訟法施行前ヨリ廢止スル證據訴訟ハ仍從前
 ノ規定ニ依リテ之ヲ完結ス但シ訴訟ガ民事訴訟法施行ノ際第
 一審ニ廢止スルコトキハ民事訴訟法施行ノ日ヨリ通常ノ手續
 ニ於テ廢止スルモノト看做ス

附則
 本法ハ民事訴訟法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス(廣徳四年十二月
 一日ヨリ施行)

○強制執行法施行法
 (廣徳四年十一月二十五日
 勅令第三一四號)

第一章 總則
 第一條 強制執行法施行前ニ爲シタル執行ノ方法及執行ノ時遵守
 スベキ手續ニ關シタル事項ノ申立ニ付テハ仍從前ノ規
 定ニ依リテ之ヲ完結ス
 第二條 強制執行法施行前ニ爲シタル執行ノ申立ニ付テハ仍從前ノ申
 立ノ手續ニ依リテ之ヲ完結ス
 第三條 強制執行法施行前ヨリ廢止スル執行事件ニ付強制執
 行法ニ依リテ管轄權ナキ執行機關ハ之ヲ管轄權アル執行機關
 ニ移送スルコトヲ要ス
 第四條 強制執行法施行前ニ爲シタル執行ノ方法及執行ノ時遵守
 スベキ手續ニ關シタル事項ノ申立ニ付テハ仍從前ノ規
 定ニ依リテ之ヲ完結ス
 第五條 強制執行法施行前ニ爲シタル執行ノ申立ニ付テハ仍從前ノ申
 立ノ手續ニ依リテ之ヲ完結ス
 第六條 強制執行法施行前ヨリ廢止スル執行事件ニ付強制執
 行法ニ依リテ管轄權ナキ執行機關ハ之ヲ管轄權アル執行機關
 ニ移送スルコトヲ要ス
 第七條 強制執行法施行前ヨリ廢止スル執行事件ニ付強制執
 行法ニ依リテ管轄權ナキ執行機關ハ之ヲ管轄權アル執行機關
 ニ移送スルコトヲ要ス

○民事手續費用法
 (廣徳四年十一月二十五日
 勅令第三一四號)

第一章 總則
 第一條 民事手續ニ關スル費用ノ算定ニ付テハ法令ニ別段ノ
 規定アル場合ヲ除ク外本章ノ規定ニ依リテ算定スルモノトシ
 第二條 民事手續手續料ノ規定ニ從ヒ貼用シタル印紙ノ費
 額ハ其ノ額面金額ニ依ル
 第三條 醫藥ノ費料ハ半枚十行二十字詰ニ付一角トス半枚
 ニ滿タザルモノ亦同ジ
 第四條 函面ハ一葉ニ付二角トス但シ別ニ測量ヲ要シタルトキハ其
 ノ費用ハ法院ノ定ムル所ニ依ル
 第五條 司法代辦人法ノ規定ニ依リテ代辦料ガ前二項ニ定
 ムルモノト異ナルトキハ其ノ額ニ依ル
 第六條 鑑定料ハ半枚十行二十字詰ニ付五角トス半枚ニ滿タ
 ザルモノ亦同ジ
 第七條 郵便料、電信料及運送料ハ其ノ實費ニ依ル
 第八條 政府公報其ノ他ノ公報又ハ新聞紙ヲ以テ公告スル公
 告料ハ其ノ定價ニ依ル
 第九條 送達更ノ爲メ送達手續料ハ一通ニ付一角トス
 第十條 當事者及證人ノ日當ハ出頭一度ニ付二圓以内ニ於テ
 法院ノ定ム
 第十一條 鑑定人及通事ノ日當ハ出頭一度ニ付五圓以内ニ於テ
 法院ノ定ム
 第十二條 當事者及證人ノ旅費ハ線道又ハ汽船ノ通ル水路ニ
 在リテハ最低ノ汽車賃又ハ船賃ニ依ル
 第十三條 定期ニ通ズル自動車アルトキハ其ノ自動車賃ニ依ル

民事法 民事手續手数料法

第二十一條 證人、鑑定人、通事及鑑定書ノ説明者ノ日當、旅費、止宿料其ノ他ノ費用並ニ調査又ハ鑑定ノ報酬ハ請求ニ因リ法院之ヲ支拂フ

七 千圓ヲ超スルトキハ千圓又ハ其ノ端數ヲ加フル毎ニ二圓ヲ加フ

○民事手續手数料法

(勅令第三一五號)

改正 廣徳六年二月勅令第三二五號 民事手續法(第三十六條)ニ依リ參議府ノ諮詢ヲ經テ民事手續手数料法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

民事法 民事手續費用法

五 百圓迄 六 三圓 六 二百五十圓迄 七 五圓 七 七百五十圓迄 八 七圓 八 千圓迄 九 九圓 九 二千圓迄 十 十一圓 十 三千圓迄 十一 十三圓 十一 五千圓迄 十二 十五圓 十二 五千圓ヲ超スルトキハ千圓又ハ其ノ端數ヲ加フル毎ニ三圓ヲ加フ

半額ノ手数料ヲ納付スルコトヲ要ス

九 拍賣法ニ依ル拍賣ノ申立

○競賣法

(明治四年一月勅令第三五四號) (勅令第五三號)

改正 廣徳四年一月勅令第三五四號 (勅令第五三號) 於租稅法(第四十一條)ニ依リ參議府ノ諮詢ヲ經テ競賣法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一章 通則

第一條 法令ニ基キ競賣ニ依リテ爲ス擔保權ノ實行又ハ擔保權ノ行使ノ手續ハ本法ニ依ル

第二條 競賣手續ノ關係人ノ行爲能力及行爲無能力者ノ法定代理人ニ付テハ民法其ノ他ノ法令ノ定ムルトコトニ依ル

第三條 競賣手續ノ關係人ハ行爲能力及行爲無能力者ノ法定代理人ノ選任ヲ申請スルコトヲ得

第四條 競賣手續ノ關係人ハ行爲能力及行爲無能力者ノ法定代理人ノ選任ヲ申請スルコトヲ得

第五條 前項中法定代理人ニ關スル規定ハ法人ノ代表者及法人ニ非ズシテ訴訟當事者能力ヲ有スル團體ノ代表者ニ之ヲ準用ス

第六條 前條ノ規定ニ依リ特別代理人ノ選任ヲ申請スルコトニ依リ之ヲ爲スコトヲ要ス

第七條 特別代理人ノ選任ニ付必要アリト認ムルコトハ關係人ノ審判スルコトヲ得

第八條 特別代理人ノ選任ニ付必要アリト認ムルコトハ關係人ノ審判スルコトヲ得

第九條 特別代理人ノ選任ニ付必要アリト認ムルコトハ關係人ノ審判スルコトヲ得

第十條 特別代理人ノ選任ニ付必要アリト認ムルコトハ關係人ノ審判スルコトヲ得

第十一條 特別代理人ノ選任ニ付必要アリト認ムルコトハ關係人ノ審判スルコトヲ得

第十二條 特別代理人ノ選任ニ付必要アリト認ムルコトハ關係人ノ審判スルコトヲ得

第十三條 特別代理人ノ選任ニ付必要アリト認ムルコトハ關係人ノ審判スルコトヲ得

第十四條 特別代理人ノ選任ニ付必要アリト認ムルコトハ關係人ノ審判スルコトヲ得

第十五條 特別代理人ノ選任ニ付必要アリト認ムルコトハ關係人ノ審判スルコトヲ得

第十六條 特別代理人ノ選任ニ付必要アリト認ムルコトハ關係人ノ審判スルコトヲ得

第十七條 特別代理人ノ選任ニ付必要アリト認ムルコトハ關係人ノ審判スルコトヲ得

第十八條 特別代理人ノ選任ニ付必要アリト認ムルコトハ關係人ノ審判スルコトヲ得

第十九條 特別代理人ノ選任ニ付必要アリト認ムルコトハ關係人ノ審判スルコトヲ得

第二十條 特別代理人ノ選任ニ付必要アリト認ムルコトハ關係人ノ審判スルコトヲ得

第二十一條 特別代理人ノ選任ニ付必要アリト認ムルコトハ關係人ノ審判スルコトヲ得

第二十二條 特別代理人ノ選任ニ付必要アリト認ムルコトハ關係人ノ審判スルコトヲ得

第二十三條 特別代理人ノ選任ニ付必要アリト認ムルコトハ關係人ノ審判スルコトヲ得

第二十四條 特別代理人ノ選任ニ付必要アリト認ムルコトハ關係人ノ審判スルコトヲ得

第二十五條 特別代理人ノ選任ニ付必要アリト認ムルコトハ關係人ノ審判スルコトヲ得

第二十六條 特別代理人ノ選任ニ付必要アリト認ムルコトハ關係人ノ審判スルコトヲ得

第二十七條 特別代理人ノ選任ニ付必要アリト認ムルコトハ關係人ノ審判スルコトヲ得

第二十八條 特別代理人ノ選任ニ付必要アリト認ムルコトハ關係人ノ審判スルコトヲ得

第二十九條 特別代理人ノ選任ニ付必要アリト認ムルコトハ關係人ノ審判スルコトヲ得

第三十條 特別代理人ノ選任ニ付必要アリト認ムルコトハ關係人ノ審判スルコトヲ得

第三十一條 特別代理人ノ選任ニ付必要アリト認ムルコトハ關係人ノ審判スルコトヲ得

第三十二條 特別代理人ノ選任ニ付必要アリト認ムルコトハ關係人ノ審判スルコトヲ得

第三十三條 特別代理人ノ選任ニ付必要アリト認ムルコトハ關係人ノ審判スルコトヲ得

第三十四條 特別代理人ノ選任ニ付必要アリト認ムルコトハ關係人ノ審判スルコトヲ得

第三十五條 特別代理人ノ選任ニ付必要アリト認ムルコトハ關係人ノ審判スルコトヲ得

法院書記官ノ告知ノ方法、場所及年月日ヲ裁判ノ原本ニ附記シ之ニ捺印スベシ

第九條 擔保權實行ノ爲ニスル競賣手續ニ於テ法院又ハ執行官ガ競賣代金ヲ收受シタルトキハ各債權者ニ交付スベキ金額ノ限度ニ於テ其ノ債權ノ擔保アリタルモノト看做ス

第十條 法院及執行官ハ競賣手續ヲ以テ競賣費用ノ計算ヲ爲シ得金ヨリ之ヲ控除スベシ

第十一條 本法ニ依リ風頭申立ニ基キ爲ス裁定ニ對シテハ不服ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第十二條 一ノ裁定ニ對スル數箇ノ抗告ハ之ヲ併合シテ審判スベシ

第十三條 抗告法院ノ決定ニ對シテハ其ノ裁定ガ法令ニ違反シタルコトヲ理由トスル場合ニ限り更ニ抗告ヲ爲スコトヲ得

第十四條 抗告ハ抗告法院ノ裁定アル迄之ヲ取下グルコトヲ得

第十五條 執行官ガ競賣ノ宣告ヲ爲シタルトキ又ハ競賣許可裁定ニ基キ競賣人ガ競賣代金ヲ支拂ヒタルトキハ競賣人ハ競賣ノ目的ノ上ニ存スル抵押權、質權及之ニ對抗スルコトヲ得ザル權利ハ競賣ニ因リテ消滅ス

第十六條 法院書記官ノ除斥、忌避及回避並ニ訴訟代理人、訴訟費用、送達、期日、期間、證據及抗告ニ關スル民事訴訟法ノ規定ハ別段ノ規定アル場合ヲ除ク外競賣手續ニ之ヲ準用ス

第十七條 勸告ノ競賣ハ債權者其ノ他法令ニ依リ其ノ競賣ヲ爲サントスル者ノ申立ニ因リ競賣ニ付スベキ物ノ所在地ヲ

ノ期日及場所ヲ定ムルコトヲ要ス

第二十三條 競賣ノ期日及場所ハ豫メ之ヲ公告スルコトヲ要ス

公告ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

一 競賣スベキ物ノ種類、數量及其ノ所在地

二 競賣ノ日時及場所

三 競賣ノ方法

公告ハ競賣ニ付スベキ物ノ品質及價格ニ應ジ競賣地ニ於ケル適當ノ方法ヲ以テ之ヲ爲スベシ

第二十四條 競賣ノ期日及場所ハ豫メ之ヲ利害關係人ニ通知スルコトヲ要ス但シ通知ヲ受ケベキ者ノ住所又ハ居所ガ知レザルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第二十五條 本章ニ於テ利害關係人トハ左ニ掲グル者ヲ謂フ

一 競賣申立人

二 債權者

三 所有者

第二十六條 競賣期日ハ公告ノ日ヨリ少クトモ五日ノ後タルコトヲ要ス但シ特別ノ事情アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

競賣ハ競賣ニ付スベキ物ノ存在スル場所又ハ執行官ガ適當ト認ムル他ノ場所ニ於テ之ヲ爲ス

第二十七條 執行官相當ト認ムルコトハ鑑定人ヲシテ競賣スベキ物ヲ評價セシメ評價額ヲ酌量シテ競賣ヲ爲スコトヲ得

第二十八條 申立人ハ競賣期日前競賣スベキ物ニ付目下競賣トベキ價額ヲ申出ザルコトヲ得

執行官ハ申出價額ヲ看シテ相當ナリト認ムルコトハ第一項ノ申出ヲ許サザルコトヲ得

競賣期日ニ申立人ノ申出タル價額以上ノ競賣申込人ナキトキハ其ノ申立人ニ於テ其ノ申出價額ニテ之ヲ買受ケタル

モノト看做ス此ノ場合ニ於テ第二項ノ規定ニ依リ交付シタル金額ハ買受代金ニ支拂ハレタルモノト看做ス

第二十七條 執行官ハ競賣ヲ妨グル處アル者ノ入場ヲ禁止又ハ競賣場ニ於テ不當ノ行狀ヲ爲ス者ノ退場ヲ命ズルコトヲ得

第二十八條 金銀及金銀ノ製品ハ地金銀ノ相場以下ノ代價ヲ以テ之ヲ競賣スルコトヲ得

前項ニ掲グル物ヲ競賣スル場合ニ於テ相當ナル競賣ノ申込ナキトキハ執行官ハ競賣期日ニ於ケル相場以上ノ代價ヲ以テ任意ニ之ヲ買取ルコトヲ得

第二十九條 無記名債權ヲ競賣スル場合ニ於テ相場アルモノハ競賣期日ノ相場ヲ以テ任意ニ之ヲ買取ルコトヲ得

一般ノ規定ニ從ヒテ之ヲ競賣スベシ

第三十條 競賣期日ハ執行官ガ開始ヲ告知スルニ因リテ始マル

執行官ハ競賣期日ノ開始後直ニ競賣申込ノ催告ヲ爲スベシ

第三十一條 競賣申込人ハ申込同時ニ其ノ申込價額ニ相當スル金額ヲ現金ヲ以テ執行官ニ交付スルコトヲ要ス

第三十二條 競賣期日ハ競賣申込ノ催告後一時間ヲ過グルニ非ザレバ之ヲ終結スルコトヲ得

第三十三條 競賣ハ競賣ノ方法ニ依ルコトヲ要ス但シ執行官必要ト認ムル場合ニ於テハ競賣期日ノ公告前競賣ニ換ヘテ入札ノ方法ニ依ルベキコトヲ得

第三十四條 入札ノ方法ニ依ルベキ場合ニ於テハ競賣申込人ハ執行官ニ入札書ヲ提出スベシ

入札書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 入札人ノ氏名、住所

二 競賣ヲ求ムル物ノ表示

三 競賣價額

第三十五條 執行官ハ最高價買入ニ對シテ...

第三十六條 執行官ハ執行代金ノ受領...

第三十七條 執行官ハ執行代金ノ受領...

第三十八條 執行官ハ執行代金ノ受領...

第三十九條 執行官ハ執行代金ノ受領...

第四十條 執行官ハ執行代金ノ受領...

第四十一條 執行官ハ執行代金ノ受領...

第四十二條 執行官ハ執行代金ノ受領...

第四十三條 執行官ハ執行代金ノ受領...

第四十四條 執行官ハ執行代金ノ受領...

第四十五條 執行官ハ執行代金ノ受領...

第四十六條 執行官ハ執行代金ノ受領...

第四十七條 執行官ハ執行代金ノ受領...

第四十八條 執行官ハ執行代金ノ受領...

第四十九條 執行官ハ執行代金ノ受領...

第五十條 執行官ハ執行代金ノ受領...

第五十一條 執行官ハ執行代金ノ受領...

第五十二條 執行官ハ執行代金ノ受領...

第五十三條 執行官ハ執行代金ノ受領...

代理權ヲ設スル...

第三十八條 執行官ハ執行代金ノ中ヨリ...

第三十九條 執行官ハ執行代金ノ中ヨリ...

第四十條 執行官ハ執行代金ノ中ヨリ...

第四十一條 執行官ハ執行代金ノ中ヨリ...

第四十二條 執行官ハ執行代金ノ中ヨリ...

第四十三條 執行官ハ執行代金ノ中ヨリ...

第四十四條 執行官ハ執行代金ノ中ヨリ...

第四十五條 執行官ハ執行代金ノ中ヨリ...

第四十六條 執行官ハ執行代金ノ中ヨリ...

第四十七條 執行官ハ執行代金ノ中ヨリ...

第四十八條 執行官ハ執行代金ノ中ヨリ...

第四十九條 執行官ハ執行代金ノ中ヨリ...

第五十條 執行官ハ執行代金ノ中ヨリ...

第五十一條 執行官ハ執行代金ノ中ヨリ...

第五十二條 執行官ハ執行代金ノ中ヨリ...

第五十三條 執行官ハ執行代金ノ中ヨリ...

第五十四條 執行官ハ執行代金ノ中ヨリ...

第五十五條 執行官ハ執行代金ノ中ヨリ...

執行官ハ執行代金ノ中ヨリ...

執行官ハ執行代金ノ中ヨリ...

執行官ハ執行代金ノ中ヨリ...

執行官ハ執行代金ノ中ヨリ...

執行官ハ執行代金ノ中ヨリ...

執行官ハ執行代金ノ中ヨリ...

執行官ハ執行代金ノ中ヨリ...

執行官ハ執行代金ノ中ヨリ...

執行官ハ執行代金ノ中ヨリ...

執行官ハ執行代金ノ中ヨリ...

執行官ハ執行代金ノ中ヨリ...

執行官ハ執行代金ノ中ヨリ...

執行官ハ執行代金ノ中ヨリ...

執行官ハ執行代金ノ中ヨリ...

執行官ハ執行代金ノ中ヨリ...

執行官ハ執行代金ノ中ヨリ...

執行官ハ執行代金ノ中ヨリ...

執行官ハ執行代金ノ中ヨリ...

執行官ハ執行代金ノ中ヨリ...

民事法 提存物處理規則

○提存物處理規則

(康德二年八月三十一日) (司法部令第三四號)

改正 康德四年二月四日令第二三號、康五二月第二三

目的タル有價證券ノ償還金、利息又ハ配當金ヲ受取リ提存物ニ代ヘ又ハ其ノ從トシテ之ヲ保管ス

保置金ニ代ヘテ有價證券ヲ提存シタル場合ニ於テハ提存者ハ其ノ利息又ハ配當金ノ拂渡ヲ請求スルコトヲ得

第八條 司法部大臣ハ法令ノ規定ニ依リテ提存スル金貨又ハ有價證券ニ非ザル物品ヲ保管スベキ倉庫業者又ハ銀行ヲ指定スルコトヲ得倉庫業者又ハ銀行ハ其ノ營業ノ部類ニ屬スル物ニシテ其ノ保管シ得ベキ數量ニ限リ之ヲ保管スル義務ヲ負フ

第九條 倉庫業者又ハ銀行ハ前條第一項ノ規定ニ依リテ提存シタル物ヲ受取ルベキ者ニ對シ一般ニ同種ノ物ニ付テ請求スル保管料ヲ請求スルコトヲ得

第十條 提存ヲ爲サントスル者ハ提存書ヲ提存物ト共ニ差出スベシ

第十一條 提存物ヲ受取ルベキ者其ノ交付ヲ請求スルトキハ其ノ權利ヲ證明スルコトヲ要ス

提存物ヲ受取ルベキ者ガ反對給付ヲ爲スベキ場合ニ於テハ債務者ノ書面、裁判又ハ公正證書其ノ他ノ公正ノ書面ニ依リ其ノ給付アリタルコトヲ證明スルニ非ザレバ提存物ヲ受取ルコトヲ得ズ

第十二條 提存者ハ民法第四百七十七條ノ規定ニ依レルコト、提存ガ錯誤ニ出デシコト又ハ其ノ原因ガ消滅シタルコトヲ證明スルニ非ザレバ提存物ヲ取戻スコトヲ得ズ

附則
本法ハ康德二年九月一日ヨリ之ヲ施行ス
附則 (康德四年十一月十日令第三二〇號)
本法ハ康德四年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

改正 康德四年二月四日令第二三號、康五二月第二三

茲ニ提存物處理規則ヲ左ノ通り制定ス

第一條 金錢及有價證券ノ提存ニ關スル手續ハ本規則ニ依ル

第二條 提存ヲ爲サントスル者ハ第一號書式ノ提存書ニ通テ提存局ニ提出スヘシ

第三條 提存書ニ付テハ債權者知レサル場合ヲ除ク外第二號書式ノ提存通知書ヲ添付スヘシ

第四條 提存書ニハ左ノ事項ヲ記載シ提存者又ハ其ノ代理人ニ署名捺印スヘシ

一 提存者ノ氏名、住所及代理人ニ依ルトキハ其ノ氏名、住所

二 提存金額、有價證券ニ付テハ其ノ種類、記載、番號、枚數、券面額及拂込額

三 提存ノ原因タル事實及法令ノ條項

四 債務ノ爲ニスル提存ニ付テハ提存物ヲ受取ル者ノ氏名、住所若シテ之ヲ不知スルコトハハサルトキハ其ノ事由

五 反對給付ヲ爲スコトヲ要スルトキハ其ノ目的ノ物ノ表示代理人ニ依リテ提存ヲ爲ス場合ニ於テハ代理權ヲ證明スル書面ヲ添付スヘシ

第五條 提存局書記官提存ヲ受理スベキモノト認ムルトキハ提存書ニ提存番號及拂込又ハ寄託ヲ命ズル旨ノ記載ヲ爲シ之ニ捺印シ其ノ一通ニ第二號書式ノ提存金拂込書又ハ第十三號書式ノ提存金領收書ヲ添付シテ中央銀行ニ提出ス

第六條 提存物ヲ提存局所在地ノ滿洲中央銀行ノ總行、分行支行、辦事處又ハ代理店(以下滿洲中央銀行ト稱ス)ニ納入

第七條 提存局書記官滿洲中央銀行ヨリ提存物受入證書ノ發付ヲ受ケタルトキハ提存原簿ニ之ヲ記載シ且滿洲中央銀行ニ提出スル提存通知書ヲ債權者ニ送付スベシ

第八條 提存者拂込又ハ寄託ヲ爲サザル前ニ提存ノ取消ヲ爲サントスルトキハ第三號書式ノ提存取消書ニ捺込又ハ寄託ヲ命ズル旨ノ記載アル提存書及提存金拂込書又ハ提存者有價證券寄託書ヲ添付シテ提存局ニ之ヲ提出スベシ

第九條 提存ノ目的タル有價證券ノ償還金ノ代提存ヲ請求セんとスル者ハ提存局ニ第四號書式ノ代提存請求書ニ通テ提存物受入ノ記載アル提存書ヲ添付シテ提出スベシ

第十條 提存局書記官前項ノ請求ヲ理由アリト認ムルトキハ代提存請求書ニ受入ヲ爲スベキ旨ノ記載ヲ爲シ之ニ捺印シ第十四號書式ノ提存有價證券拂渡請求書及第十二號書式ノ提存金拂込書ヲ作成シ且之ヲ代提存請求書一通ト共ニ請求者ニ交付シ滿洲中央銀行ニ提出スルベシ

第十一條 提存ノ目的タル有價證券ノ利息又ハ配當金ノ附屬提存ヲ請求セントスル者ハ提存局ニ第五號書式ノ附屬提存請求書ニ受入ヲ爲スベキ旨ノ記載ヲ爲シ之ニ捺印シ第十五號書式ノ提存有價證券利札拂渡請求書及第十二號書式ノ提存金拂込書ヲ作成シ且之ヲ附屬提存請求書一通ト共ニ請求者ニ交付シ滿洲中央銀行ニ提出スルベシ

第十二條 提存ノ目的タル有價證券ノ利息又ハ配當金ノ代提存ヲ爲ストキハ提存局書記官ハ第一項ノ提存書ニ其ノ種類、記載、番號枚數及券面額ヲ記載シテ捺印シ之ヲ請求者ニ返還スベシ

第十三條 提存ノ目的タル有價證券ノ利息又ハ配當金ノ代提存ヲ爲ストキハ提存局書記官前項ノ請求ヲ理由アリト認ムルトキハ附屬提存請求書ニ受入ヲ爲スベキ旨ノ記載ヲ爲シ之ニ捺印シ第十五號書式ノ提存有價證券利札拂渡請求書及第十二號書式ノ提存金拂込書ヲ作成シ且之ヲ附屬提存請求書一通ト共ニ請求者ニ交付シ滿洲中央銀行ニ提出スルベシ

第十四條 提存ノ目的タル有價證券ノ利息又ハ配當金ノ代提存ヲ爲ストキハ提存局書記官前項ノ請求ヲ理由アリト認ムルトキハ附屬提存請求書ニ受入ヲ爲スベキ旨ノ記載ヲ爲シ之ニ捺印シ第十五號書式ノ提存有價證券利札拂渡請求書及第十二號書式ノ提存金拂込書ヲ作成シ且之ヲ附屬提存請求書一通ト共ニ請求者ニ交付シ滿洲中央銀行ニ提出スルベシ

第十五條 提存ノ目的タル有價證券ノ利息又ハ配當金ノ代提存ヲ爲ストキハ提存局書記官前項ノ請求ヲ理由アリト認ムルトキハ附屬提存請求書ニ受入ヲ爲スベキ旨ノ記載ヲ爲シ之ニ捺印シ第十五號書式ノ提存有價證券利札拂渡請求書及第十二號書式ノ提存金拂込書ヲ作成シ且之ヲ附屬提存請求書一通ト共ニ請求者ニ交付シ滿洲中央銀行ニ提出スルベシ

民事法 提存物處理規則

記載アル提存書ヲ提存物ノ交付ヲ受ケキ者ニ交付スヘシ

第十條 提存物ヲ二人以上ノ者ニ分割シテ交付スヘキ場合ニ於テハ提存者ハ提存物受入ノ記載アル提存書及第七號書式ノ支拂又ハ引渡シ證明書ヲ提存局ニ提出シ且分割交付ヲ受ケキ者ニ第八號書式ノ權利者タルコトノ證明書ヲ交付スヘシ

第十一條 提存物ノ交付ヲ受ケントスル者ハ第九號書式ノ提存物交付請求書ニ左ニ捺タル書類ヲ添付シテ之ヲ提存局ニ提出スヘシ

一 提存物受入ノ記載アル提存書又ハ前條ニ規定スル證明書

二 債務ノ爲ニスル提存ニ付テハ提存通知書

三 法令ニ依リテ定マリタル者ハ其ノ受取ルベキ事由ヲ證明スル書類

四 提存物ノ交付ガ反對給付ニ係ルトキハ提存法第十一條ノ規定ニ依リテ定マリタルコトヲ證明スル書類

五 提存物ノ交付ヲ受ケタルコトヲ證明スル書類

六 提存物ノ交付ヲ受ケタル權利ヲ證明スル書類

七 取得シタルトキハ之ヲ證明スル書類

八 提存物ノ取戻ヲ爲サントスル者ハ第十號書式ノ提存物取戻請求書ニ左ニ捺タル書類ヲ添付シテ之ヲ提存局ニ提出スヘシ

一 提存物受入ノ記載アル提存書

二 債權者ガ提存ヲ受取ルベキ場合ニ於テハ其ノ旨ヲ記載シタル債權者ノ書面及提存ヲ有テト宣言シタル確定判決ナキコトヲ證明スル書面

三 民法第四百七十七條第二項ノ場合ニ該當セザルトキハ提存ノ原因消滅シ又ハ提存力消滅ニ出テタル事實ヲ證明スル書面

スルニ足ル裁判ノ正本其ノ他ノ書類

第十二條 提存物ノ取戻ヲ受ケタル權利ヲ證明スル書類

第十三條 提存局書記官提存金ノ交付又ハ取戻ノ請求ヲ理由アリト認ムルトキハ提存物受入ノ記載アル提存書又ハ第十條ノ規定ニ依リテ定マリタルコトヲ證明シ且滿洲中央銀行ニ提出スル書類

第十四條 提存局書記官前項ノ請求ヲ理由アリト認ムルトキハ提存物受入ノ記載アル提存書又ハ第十條ノ規定ニ依リテ定マリタルコトヲ證明シ且滿洲中央銀行ニ提出スル書類

第十五條 提存局書記官前項ノ請求ヲ理由アリト認ムルトキハ提存物受入ノ記載アル提存書又ハ第十條ノ規定ニ依リテ定マリタルコトヲ證明シ且滿洲中央銀行ニ提出スル書類

第十六條 提存局書記官前項ノ請求ヲ理由アリト認ムルトキハ提存物受入ノ記載アル提存書又ハ第十條ノ規定ニ依リテ定マリタルコトヲ證明シ且滿洲中央銀行ニ提出スル書類

第十七條 提存局書記官前項ノ請求ヲ理由アリト認ムルトキハ提存物受入ノ記載アル提存書又ハ第十條ノ規定ニ依リテ定マリタルコトヲ證明シ且滿洲中央銀行ニ提出スル書類

第十八條 提存局書記官前項ノ請求ヲ理由アリト認ムルトキハ提存物受入ノ記載アル提存書又ハ第十條ノ規定ニ依リテ定マリタルコトヲ證明シ且滿洲中央銀行ニ提出スル書類

第十九條 提存局書記官前項ノ請求ヲ理由アリト認ムルトキハ提存物受入ノ記載アル提存書又ハ第十條ノ規定ニ依リテ定マリタルコトヲ證明シ且滿洲中央銀行ニ提出スル書類

第二十條 提存局書記官前項ノ請求ヲ理由アリト認ムルトキハ提存物受入ノ記載アル提存書又ハ第十條ノ規定ニ依リテ定マリタルコトヲ證明シ且滿洲中央銀行ニ提出スル書類

第二十一條 提存局書記官前項ノ請求ヲ理由アリト認ムルトキハ提存物受入ノ記載アル提存書又ハ第十條ノ規定ニ依リテ定マリタルコトヲ證明シ且滿洲中央銀行ニ提出スル書類

第二十二條 提存局書記官前項ノ請求ヲ理由アリト認ムルトキハ提存物受入ノ記載アル提存書又ハ第十條ノ規定ニ依リテ定マリタルコトヲ證明シ且滿洲中央銀行ニ提出スル書類

第二十三條 提存局書記官前項ノ請求ヲ理由アリト認ムルトキハ提存物受入ノ記載アル提存書又ハ第十條ノ規定ニ依リテ定マリタルコトヲ證明シ且滿洲中央銀行ニ提出スル書類

第二十四條 提存局書記官前項ノ請求ヲ理由アリト認ムルトキハ提存物受入ノ記載アル提存書又ハ第十條ノ規定ニ依リテ定マリタルコトヲ證明シ且滿洲中央銀行ニ提出スル書類

第二十五條 提存局書記官前項ノ請求ヲ理由アリト認ムルトキハ提存物受入ノ記載アル提存書又ハ第十條ノ規定ニ依リテ定マリタルコトヲ證明シ且滿洲中央銀行ニ提出スル書類

第二十六條 提存局書記官前項ノ請求ヲ理由アリト認ムルトキハ提存物受入ノ記載アル提存書又ハ第十條ノ規定ニ依リテ定マリタルコトヲ證明シ且滿洲中央銀行ニ提出スル書類

第二十七條 提存局書記官前項ノ請求ヲ理由アリト認ムルトキハ提存物受入ノ記載アル提存書又ハ第十條ノ規定ニ依リテ定マリタルコトヲ證明シ且滿洲中央銀行ニ提出スル書類

第二十八條 提存局書記官前項ノ請求ヲ理由アリト認ムルトキハ提存物受入ノ記載アル提存書又ハ第十條ノ規定ニ依リテ定マリタルコトヲ證明シ且滿洲中央銀行ニ提出スル書類

第二十九條 提存局書記官前項ノ請求ヲ理由アリト認ムルトキハ提存物受入ノ記載アル提存書又ハ第十條ノ規定ニ依リテ定マリタルコトヲ證明シ且滿洲中央銀行ニ提出スル書類

第三十條 提存局書記官前項ノ請求ヲ理由アリト認ムルトキハ提存物受入ノ記載アル提存書又ハ第十條ノ規定ニ依リテ定マリタルコトヲ證明シ且滿洲中央銀行ニ提出スル書類

○非訟事件法

改正 康徳七年四月勅令第六三三號(勅令第三三三號)
裁判法(第三十六條)ニ依リ參議府ノ諮詢ヲ經テ非訟事件法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 法院ノ管轄ニ屬スル非訟事件ニ付テハ本法其ノ他ノ法令ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外本編ノ規定ヲ適用ス
第二條 法院ノ土地ノ管轄ガ事件關係人ノ住所ニ依リテ定マル場合ニ於テ滿洲國ニ住所ナキトキ又ハ住所ノ知レザルトキハ居所ニ依リテ定マリ、居所ナキトキ又ハ居所ノ知レザルトキハ最後ノ住所ニ依リテ定マル
前項ノ場合ニ於テ最後ノ住所ナキトキ又ハ住所ノ知レザルトキハ新設特別市ヲ管轄スル法院ヲ以テ管轄法院トス
第三條 數箇ノ管轄法院アル場合ニ於テハ最初ノ事件ノ申立ヲ受ケタル法院其ノ事件ヲ管轄ス但シ法院ハ職權ヲ以テ事件ヲ適當ト認ムル他ノ管轄法院ニ移送スルコトヲ得
移送ヲ受ケタル法院ハ更ニ事件ヲ他ノ法院ニ移送スルコトヲ得ズ
第四條 左ノ場合ニ於テハ關係アル法院ニ共通スル直近上級法院ハ事件關係人ノ申立又ハ檢察官ノ請求ニ因リ裁定ヲ以テ管轄法院ヲ指定ス
一 管轄法院及法院組織法第九十一條ノ規定ニ依リテ其ノ事務ヲ代行スベキ法院ガ法律上又ハ事實上裁判權ヲ行使スルコト能ハザルトキ
二 數箇ノ法院ノ土地ノ管轄ニ付疑アルトキ
前項ノ裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ルコトヲ得ズ
第五條 非訟事件手續ニ於ケル事件關係人ノ行為能力及行為無能力者ノ法定代理(民法其ノ他ノ法令ニ從フ

第六條 事件關係人ノ行為能力及行為無能力者ヲシテ代理セシムルコトヲ得但シ自身出頭ヲ命ゼラレタルトキハ此ノ限ニ在ラズ
第七條 出頭ヲ命ゼラレタル事件關係人ガ正當ノ事由ナクシテ出頭セザルトキハ法院ハ之ニ因リテ生ジタル費用ノ負擔ヲ命ジ且三百圓以下ノ過料ニ處ス
第八條 申立ハ書面ニ依リテ之ヲ爲スコトヲ要ス
申立書ニハ左ノ事項ヲ記載シ申立人又ハ其ノ代理人之ニ署名捺印スルコトヲ要ス
一 申立人ノ氏名及住所
二 代理人ニ依リテ申立ヲ爲スベキ其ノ氏名及住所
三 申立ノ趣旨及其ノ原因タル事實
四 年月日
五 法院
申立書ニハ代理權ヲ證スル書面及證據書類ノ原本又ハ原本ヲ添附スルコトヲ要ス
前項ノ規定ハ檢察官ノ請求ニ之ヲ準用ス
第九條 官署又ハ公署檢察官ノ請求ニ因リ裁判ヲ爲スベキ事項ノ生ジタルコトヲ知リタルトキハ之ヲ管轄檢察廳ニ通知スルコトヲ要ス
第十條 法令ニ依リテ申立ヲ爲スコトヲ得ル者ハ共同ノ申立人トシテ手續ニ加ハリ又ハ申立人ニ代リテ手續ヲ履行スルコトヲ得
第十一條 數箇ノ申立アルトキハ法院ハ之ヲ併合スルコトヲ得
第十二條 法院ハ職權ヲ以テ事實ノ調査及證據調ヲ爲スコトヲ得
第十三條 法院ハ審問ニ付期日毎ニ法院書記官ヲシテ調書ヲ作成セシムルコトヲ要ス
第十四條 調書ニハ左ノ事項ヲ記載シ審判官及法院書記官之ニ署名捺印スルコトヲ要ス但シ審判官支障アルトキハ書記

官其ノ旨ヲ記載スルヲ以テ足ル
一 事件ノ表示
二 審判官及法院書記官ノ氏名
三 立會ヒタル檢察官ノ氏名及其ノ陳述
四 出頭シタル事件關係人、代理人及通事ノ氏名
五 審判官ノ記載ヲ命ジタル事項
六 證人及鑑定人ノ宣誓及陳述
七 檢證ノ結果
八 審問ノ場所及年月日
審判官ハ前項ノ調書ニ書面其ノ他適當ト認ムルモノヲ引用シ記録ニ添附シテ之ヲ調書ノ一部ト爲サシムルコトヲ得
第十五條 裁判ハ裁定ヲ以テ之ヲ爲ス
裁定ニハ左ノ事項ヲ記載シ裁定ヲ爲シタル審判官之ニ署名捺印スルコトヲ要ス
一 主文及理由
二 事件關係人及法定代理人
三 年月日
四 法院
第一審ノ裁判ニハ理由ヲ附セザルコトヲ得
第十六條 裁判ハ告知ニ因リテ其ノ效力ヲ生ズ
告知ノ告知ハ之ニ因リテ不服申立ノ期間ノ進行ヲ始ムルモノニ在リテハ裁判ヲ通過シテ之ヲ爲ス
前項以外ノ裁判ノ告知ハ相當ト認ムル方法ヲ以テ之ヲ爲ス此ノ場合ニ於テハ法院書記官ハ告知ノ方法、場所及年月日ヲ裁判ノ原本ニ附記シ之ニ捺印スルコトヲ要ス
第十七條 裁判ノ公告ヲ爲スベキ場合ニ於テハ其ノ裁判ニ對シ不服申立ノ期間ハ公告ノ日ヨリ起算ス但シ通過ヲ受ケタル者ノ不服申立ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ
第十八條 本法ノ規定ニ依リ爲スベキ公告ハ政府公報及登記事項ノ公告ヲ掲載スベキ新聞紙ヲ以テ之ヲ爲ス

公告ハ最終ノ掲載アリタル日ノ翌日ニ於テ其ノ效力ヲ生ズ
法院ノ管轄區域内ニ第一項ノ新聞紙ナキトキハ新聞紙ヲ以テスル公告ニ代ヘ法院ノ掲示場ニ掲示シテ公告ヲ爲ス此ノ場合ニ於テハ公告ハ掲示ノ日ヨリ三日ヲ經過シタル後其ノ效力ヲ生ズ
第十九條 法院ハ其ノ爲シタル裁判ヲ不當ト認ムルトキハ之ヲ取消シ又ハ變更スルコトヲ得
即時抗告ヲ以テ不服ヲ申立ルコトヲ得ル裁判ハ之ヲ取消シ又ハ變更スルコトヲ得ズ
第二十條 事件關係人ハ法院書記官ニ對シ裁判ノ正本及原本ノ付與ヲ申請スルコトヲ得
事件關係人ニ非ザル者ハ法律上利害關係アルコトヲ證明スルトキニ限リ前項ノ申請ヲ爲スコトヲ得
裁判ノ正本又ハ原本ニハ其ノ正本又ハ原本ナルコトヲ記載シ書記官之ニ署名捺印シ且法院ノ印ヲ捺捺スルコトヲ要ス
第二十一條 裁判ニ因リテ權利ヲ得セザレタル者ハ其ノ裁判ニ對シテ抗告ヲ爲スコトヲ得
申立ニ因リテノミ裁判ヲ爲スベキ場合ニ於テ申立ヲ却下シタル裁判ニ對シテハ申立人ニ限リ抗告ヲ爲スコトヲ得
第二十二條 第十條及第十一條ノ規定ハ抗告法院ノ手續ニ之ヲ準用ス
第二十三條 申立ハ之ニ基テ裁判アル迄之ヲ取下ルコトヲ得
第二十四條 法院ハ事件ヲ完結スル裁判ニ於テ手續費用ニ付裁判ヲ爲スコトヲ要ス
第二十五條 手續費用ハ申立人ノ負擔トス但シ事件ノ開始ガ法院ノ職權ニ依リ又ハ檢察官ノ請求ニ因リタル場合ニ於テハ關係ノ負擔トス

第二十六條 法院(特別ノ事情アルトキハ本法ノ規定ニ依リテ手續費用ノ負擔スベキ者ニ非ザル事件關係人ニ手續費用ノ全部又ハ一部ノ負擔ヲ命ズルコトヲ得
第二十七條 共同ニテ手續費用ヲ負擔スベキ者數人アルトキハ平等ノ割合ヲ以テ其ノ費用ヲ負擔ス但シ法院ハ事情ニ從ヒ適當シテ手續費用ヲ負擔セシメ又ハ他ノ方法ニ依リテ之ヲ負擔セシムルコトヲ得
第二十八條 手續費用ノ裁判ニ對シテハ獨立シテ不服ヲ申立ルコトヲ得ズ
第二十九條 法院ガ手續費用ノ負擔ヲ命ズル裁判ニ於テ其ノ額ヲ定メザルトキハ第一審ノ法院ハ其ノ裁判ノ確定シタル前項ノ裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得
第三十條 手續費用ノ裁判ハ強制執行法第二條第五號ノ執行名稱ニ準ジテ之ヲ執行スルコトヲ得
第三十一條 費用ヲ要スル行為ニ付テハ法院ハ申立人ヲシテ費用ハ國庫ニ於テ之ヲ立替フルコトヲ得
第三十二條 法院職員ノ除斥、忌避及回避、訴訟代理人ノ期間、送達、證據調及抗告ニ關スル民事訴訟法ノ規定ハ別段ノ定アル場合ヲ除ク外非訟事件手續ニ之ヲ準用ス

第一章 準禁治產及禁治產ニ關スル事件
第三十三條 準禁治產宣告ノ申立ハ準禁治產ノ宣告ヲ受タベキ者ノ住所ノ區法院ノ管轄トス
第三十四條 準禁治產宣告ノ手續ハ之ヲ公行セズ
第三十五條 檢察官ハ事件ニ付意見ヲ陳述シ審問ニ立會フコトヲ得
事件及審問期日ハ之ヲ檢察官ニ通知スルコトヲ要ス
第三十六條 法院ハ申立人ニ對シ準禁治產ノ宣告ヲ受タベキ者ノ診斷書ヲ提出ヲ命ズルコトヲ得
第三十七條 法院ハ鑑定人ヲ立會ハシ準禁治產ノ宣告ヲ受タベキ者ヲ審訊スルコトヲ要ス但シ其ノ審訊ヲ爲シ難キトキ又ハ其ノ者ノ健康ニ害アルトキハ此ノ限ニ在ラズ
前項ノ審訊ハ他ノ區法院ニ委託シテ之ヲ爲スコトヲ得
第三十八條 準禁治產ノ宣告ハ心神ノ狀況ニ付鑑定人ヲ訪問シタル後ニ非ザレバ之ヲ爲スコトヲ得ズ
第三十九條 前三條ノ規定ハ消費ノ爲己又ハ家族ヲ養育ニ附ラシムル處アル者ニ付爲ス準禁治產宣告ノ手續ニハ之ヲ準用セズ
第四十條 準禁治產ノ宣告アリタル場合ニ於テハ手續費用ハ準禁治產者ノ負擔トス
第四十一條 法院ハ準禁治產ノ宣告前其ノ宣告ヲ受タベキ者ノ監護又ハ其ノ財產ノ保存ニ付必要ナル處分ヲ命ズルコトヲ得準禁治產ノ宣告後其ノ處分ヲ必要ト認ムルトキ亦同ジ
第四十二條 準禁治產宣告ノ裁判及準禁治產宣告ノ申立ヲ却下スル裁判ニハ理由ヲ附スルコトヲ要ス
第四十三條 申立人ハ準禁治產宣告ノ申立 却トスル裁判ニ對シテ即時抗告ヲ爲スコトヲ得
第四十四條 準禁治產宣告ノ裁判ハ之ヲ檢察官及準禁治產者ノ法定代理人又ハ法定代理人ト爲ルベキ者ニ告知シ且之ヲ公告スルコトヲ要ス
第四十五條 準禁治產宣告ノ裁判ハ準禁治產者ノ法定代理人又ハ法定代理人ト爲ルベキ者ニ告知スルニ因リテ其ノ效力ヲ生ズ
法定代理人又ハ法定代理人ト爲ルベキ者ナキ場合ニ於テハ檢察官ニ告知スルニ因リテ其ノ效力ヲ生ズ

第六十六條 民法ノ規定ニ依リテ準據治産宣告ノ申立ヲ爲スコトヲ得ル者ハ準據治産宣告ノ裁判ニ對シテ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第六十七條 前項ノ即時抗告ノ期間ハ之ヲ三十日トス

第六十八條 前項ノ即時抗告ハ執行停止ノ效力ヲ有セズ

第六十九條 第三十四條及第三十五條ノ規定ハ抗告法院ノ手続ニ之ヲ準用ス

第七十條 抗告法院ガ準據治産宣告ノ裁判ヲ取消ス場合ニ於テハ其ノ裁判ノ確定ニ至ル迄準據治産者ノ監護又ハ其ノ財産ノ保存ニ付既ニ爲シタル處分ノ取消ノ變更其ノ他必要ナル處分ヲ命ズルコトヲ得

第七十一條 法定代理人ガ準據治産宣告ノ裁判ヲ取消ス前ニ爲シタル行爲ハ取消ニ因リテ其ノ效力ヲ妨ゲラルコトナシ

第七十二條 準據治産者ガ準據治産宣告ノ裁判ヲ取消ス前ニ爲シタル行爲ハ準據治産宣告ノ裁判ニ基キテ之ヲ取消スコトヲ得

第七十三條 準據治産宣告ノ裁判ヲ取消ス裁判ガ確定シタルトキハ第一審ノ法院ヘ之ヲ公告スルコトヲ要ス

第七十四條 準據治産ノ原因止ミタルコトヲ確トシテ其ノ宣告ノ取消ヲ求ムル申立ハ準據治産者ノ住所ノ法院ノ管轄トス

第七十五條 第三十四條乃至第三十九條、第四十二條及第四十三條ノ規定ハ前條ノ規定ニ依リテ準據治産宣告ノ取消ノ手續ニ之ヲ準用ス

第七十六條 準據治産宣告ノ取消アリタル場合ニ於テハ手續費用ハ準據治産者ノ負擔トス

第七十七條 準據治産ノ宣告ヲ取消ス裁判ヘ之ヲ檢察官及準據治産者ニモ告知スルコトヲ要ス

第七十八條 民法第六百六十條、第六百六十條第一項、第六百七十二條乃至第六百七十五條及第六百七十八條ノ規定ハ執行官ガ保管人ヲ選任シタル場合ニ之ヲ準用ス但シ民法第六百七十四條ノ通知ヘ之ヲ檢察官及保管人ニ爲スコトヲ要ス

第七十九條 法院ハ利害關係人、管理人又ハ檢察官ノ請求ニ因リ第七十八條及民法第二十一條第二項以外ノ場合ニ於テモ封印ノ除去ヲ命ズルコトヲ得

第八十條 執行官封印ヲ爲シ又ハ封印ヲ除去シタルトキハ其ノ封印ヲ爲サザリシ物件ノ概略及其ノ事由

第八十一條 封印ヲ除去シタルトキハ其ノ封印ノ目録ヲ調製シタルコト又ハ之ヲ調製セザルコト並ニ封印ノ状況及異狀アルトキハ其ノ事由

第八十二條 調製ハ之ヲ二通作り其ノ一通ハ之ヲ法院ニ提出シ其ノ一通ハ之ヲ保管人ニ交付スルコトヲ要ス

第八十三條 執行官封印ヲ除去シタルトキハ直ニ財産ノ目録ヲ調製スルコトヲ要ス但シ第七十八條及民法第二十一條第一項ノ場合ニ於テ立會人ガ之ヲ調製セザルコトニ同意シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第八十四條 前條及民法第二十三條第一項第三項ノ規定ニ依リ調製スベキ財産ノ目録ニハ左ノ事項ヲ記載シ調製シタル者之ニ署名捺印スルコトヲ要ス

第六十條 法院ハ管理人之供シタル擔保ノ増減、變更又ハ免除ヲ命ズルコトヲ得

第六十一條 法院ハ管理人之不動產又ハ船舶ノ上ニ抵押權ヲ設定スベキコトヲ命ズルコトヲ得

第六十二條 法院ハ管理人之登記官署ニ登記スルコトヲ要ス

第六十三條 前項ノ抵押權ニハ抵押權ノ設定ヲ命ズル裁判ノ原本ヲ心附スルコトヲ要ス

第六十四條 前二項ノ規定ハ設定シタル抵押權ノ變更又ハ消滅ノ發覺又ハ登記ニ之ヲ準用ス

第六十五條 封印ヲ命ズル裁判及封印ノ除去ヲ命ズル裁判ハ之ヲ管理人ニモ告知スルコトヲ要ス

第六十六條 申立人及管理人ハ前項ノ裁判ニ對シテ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第六十七條 封印ヲ命ズル裁判ニ對シテ即時抗告ハ執行停止ノ效力ヲ有セズ

第六十八條 封印ヲ命ズル裁判及封印ノ除去ヲ命ズル裁判ノ執行ハ財産ノ所在地ヲ管轄スル法院所屬ノ執行官之ヲ爲ス

第六十九條 執行官ハ執行ノ期日ヲ定メ申立人、管理人及保管人ニ之ヲ通知スルコトヲ要ス申立人、管理人及保管人ハ第一項ノ執行ニ立會フコトヲ得

第七十條 強制執行法第二十四條ノ規定ハ封印ヲ命ズル裁判及封印ノ除去ヲ命ズル裁判ノ執行手續ニ之ヲ準用ス

第七十一條 不在者ノ家族ノ日用品

第七十二條 不在者ノ家族ノ日用品

第七十三條 不在者ノ占有ニ關スル物但シ其ノ提出ヲ拒マザルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第七十四條 執行官封印ヲ爲シタルトキハ財産ノ保管人ヲ選任スルコトヲ要ス

第五十八條 第六十條、民法第六百六十條第一項、第六百七十二條乃至第六百七十五條及第六百七十八條ノ規定ハ執行官ガ保管人ヲ選任シタル場合ニ之ヲ準用ス但シ民法第六百七十四條ノ通知ヘ之ヲ檢察官及保管人ニ爲スコトヲ要ス

第七十一條 法院ハ利害關係人、管理人又ハ檢察官ノ請求ニ因リ第七十八條及民法第二十一條第二項以外ノ場合ニ於テモ封印ノ除去ヲ命ズルコトヲ得

第七十二條 執行官封印ヲ爲シ又ハ封印ヲ除去シタルトキハ其ノ封印ヲ爲サザリシ物件ノ概略及其ノ事由

第七十三條 封印ヲ除去シタルトキハ其ノ封印ノ目録ヲ調製シタルコト又ハ之ヲ調製セザルコト並ニ封印ノ状況及異狀アルトキハ其ノ事由

第七十四條 調製ハ之ヲ二通作り其ノ一通ハ之ヲ法院ニ提出シ其ノ一通ハ之ヲ保管人ニ交付スルコトヲ要ス

第七十五條 執行官封印ヲ除去シタルトキハ直ニ財産ノ目録ヲ調製スルコトヲ要ス但シ第七十八條及民法第二十一條第一項ノ場合ニ於テ立會人ガ之ヲ調製セザルコトニ同意シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第七十六條 前條及民法第二十三條第一項第三項ノ規定ニ依リ調製スベキ財産ノ目録ニハ左ノ事項ヲ記載シ調製シタル者之ニ署名捺印スルコトヲ要ス

一 申立人ノ氏名及住所

二 調製ノ日時及場所

三 不動產ノ表示

四 動產ノ種類及數量

五 價額及債務ノ表示

六 債權ノ履得ノ他ノ事項

七 債權ノ目録

八 債權ノ目録

九 債權ノ目録

十 債權ノ目録

十一 債權ノ目録

十二 債權ノ目録

十三 債權ノ目録

十四 債權ノ目録

十五 債權ノ目録

十六 債權ノ目録

十七 債權ノ目録

十八 債權ノ目録

十九 債權ノ目録

二十 債權ノ目録

二十一 債權ノ目録

二十二 債權ノ目録

二十三 債權ノ目録

二十四 債權ノ目録

二十五 債權ノ目録

二十六 債權ノ目録

二十七 債權ノ目録

二十八 債權ノ目録

二十九 債權ノ目録

三十 債權ノ目録

三十一 債權ノ目録

三十二 債權ノ目録

三十三 債權ノ目録

三十四 債權ノ目録

三十五 債權ノ目録

三十六 債權ノ目録

三十七 債權ノ目録

三十八 債權ノ目録

三十九 債權ノ目録

四十 債權ノ目録

四十一 債權ノ目録

四十二 債權ノ目録

四十三 債權ノ目録

四十四 債權ノ目録

四十五 債權ノ目録

四十六 債權ノ目録

四十七 債權ノ目録

四十八 債權ノ目録

四十九 債權ノ目録

五十 債權ノ目録

五十一 債權ノ目録

五十二 債權ノ目録

五十三 債權ノ目録

五十四 債權ノ目録

五十五 債權ノ目録

五十六 債權ノ目録

五十七 債權ノ目録

五十八 債權ノ目録

五十九 債權ノ目録

六十 債權ノ目録

六十一 債權ノ目録

六十二 債權ノ目録

六十三 債權ノ目録

六十四 債權ノ目録

六十五 債權ノ目録

六十六 債權ノ目録

六十七 債權ノ目録

六十八 債權ノ目録

六十九 債權ノ目録

七十 債權ノ目録

七十一 債權ノ目録

七十二 債權ノ目録

七十三 債權ノ目録

七十四 債權ノ目録

七十五 債權ノ目録

七十六 債權ノ目録

七十七 債權ノ目録

七十八 債權ノ目録

七十九 債權ノ目録

八十 債權ノ目録

八十一 債權ノ目録

八十二 債權ノ目録

八十三 債權ノ目録

八十四 債權ノ目録

八十五 債權ノ目録

八十六 債權ノ目録

八十七 債權ノ目録

八十八 債權ノ目録

八十九 債權ノ目録

九十 債權ノ目録

九十一 債權ノ目録

九十二 債權ノ目録

九十三 債權ノ目録

九十四 債權ノ目録

九十五 債權ノ目録

九十六 債權ノ目録

九十七 債權ノ目録

九十八 債權ノ目録

九十九 債權ノ目録

一百 債權ノ目録

第八十一條 法院ガ抗告人ノ申立ニ相當スル裁判ヲ爲シタル場合ニ於テハ抗告手續ノ費用及抗告人ノ負擔ニ屬シタル前項ノ費用ハ不在者ノ財産ノ負擔トス

第八十二條 第五十八條乃至第六十條及第八十條ノ規定ハ國稅徵收法第二十三條第二項ノ規定ニ依リ遺產管理人ヲ選任スル場合ニ之ヲ準用ス

第八十三條 失踪ニ關スル事件

第八十四條 失踪ノ宣告ヲ求ムル申立ハ不在者ノ住所ノ法院ノ管轄トス

第八十五條 第三十五條ノ規定ハ失踪宣告ノ手續ニ之ヲ準用ス

第八十六條 失踪宣告ノ申立理由アリト認ムルトキハ法院ハ公示催告ヲ爲スコトヲ要ス

第八十七條 公示催告ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 申立人ノ表示

二 不在者ノ生死ヲ知ル者ハ公示催告期日迄ニ其ノ届出ヲ爲スベキコト

三 不在者ハ公示催告期日迄ニ其ノ生存ノ届出ヲ爲スベキコト

四 其ノ届出ヲサザルトキハ失踪ノ宣告ヲ受タベキコト

五 公示催告期日ノ指定

六 公示催告ノ期間ハ六月ヲ下ルコトヲ得

七 公示催告ノ公告ハ法院ノ揭示場ニ揭示シ且政府公報ニ掲載シテ之ヲ爲ス

八 法院相當ト認ムルトキハ新聞紙ニ掲載シ其ノ他適當ノ方法ニ依リ公告スルコトヲ得

九 第八十七條 公示催告期日ノ終リタル後ト雖モ失踪ノ宣告前ニ届出ヲ爲ストキハ公示催告期日迄ニ之ヲ爲シタルモノト爲ス

第八十八條 不在者ノ出生後百年以上ヲ經過シタル場合ニ於テハ公示催告ノ公告ハ法院ノ揭示場ニ揭示スルヲ以テ足ル

前項ノ場合ニ於テハ公示催告ノ期間ハ其ノ公告ノ日ヨリ二
 月以上ナルヲ以テ足ル
 第八十九條 失除宣告ノ裁判及失除宣告ノ申立ヲ却下スル裁
 判ニハ理由ヲ附スルコトヲ要ス
 第九十條 失除ノ宣告アリタル場合ニ於テハ手續費用ハ相續
 財產ノ負擔トス
 第九十一條 失除宣告ノ裁判ハ之ヲ公告スルコトヲ要ス
 第九十二條 利害關係人ハ失除宣告ノ裁判ニ對シテ即時抗告
 ヲ爲スコトヲ得但シ民法第二十八條第一項ニ定ムル事由ハ
 之ヲ抗告ノ理由ト爲スコトヲ得ズ
 第四十六條第二項及第四項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用
 ス
 第九十三條 失除宣告ノ裁判ヲ取消ス裁判ガ確定シタルトキ
 ハ第一審ノ法院ハ之ヲ公告スルコトヲ要ス
 第九十四條 民法第二十八條第一項但書及第二項ノ規定ハ失
 除宣告ノ裁判ヲ取消ス裁判アリタル場合ニ之ヲ準用ス
 第九十五條 民法第二十八條第一項ノ規定ニ依リ失除宣告ノ
 取消ヲ求ムル申立ハ不在者ノ住所ノ區法院ノ管轄トス
 第九十六條 第三十五條ノ規定ハ失除ノ宣告ヲ取消ス手續ニ
 之ヲ準用ス
 第九十七條 失除宣告ノ取消ヲ求ムル申立ハ申立人ガ失除宣
 告ノ裁判アリタルコトヲ知リタル日ヨリ三十日以内ニ之ヲ
 爲スコトヲ要ス
 前項ノ期間ハ之ヲ不變期間トス
 失除宣告ノ裁判アリタル日ヨリ五年ヲ經過シタルトキハ第
 一項ノ申立ハ之ヲ爲スコトヲ得ズ
 失除者ノ生存スルコトヲ理由トスル場合ニ於テハ前項ノ
 規定ハ之ヲ適用セズ
 第九十八條 失除ノ宣告ヲ取消ス裁判及失除宣告ノ取消ノ申
 立ヲ却下スル裁判ニハ理由ヲ附スルコトヲ要ス

第九十九條 失除ノ宣告ヲ取消ス裁判ハ之ヲ檢察官ニモ告知
 スルコトヲ要ス
 檢察官ハ前項ノ裁判ニ對シテ即時抗告ヲ爲スコトヲ得
 第十條 失除ノ宣告ヲ取消ス裁判ガ確定シタルトキハ第一審
 ノ法院ハ之ヲ公告スルコトヲ要ス
 第十條 法人ニ關スル事件
 第一條 民法第四十一條ニ定ムル事件ハ法人ノ設立者ノ死
 亡ノ時ニ於ケル住所ノ區法院ノ管轄トス
 法人ノ設立者ガ滿洲國ニ住所ヲ有セザリシトキ又ハ其ノ住
 所ガ知レザルトキハ其ノ死亡ノ時ニ於ケル居所地又ハ法人
 ノ設立地ノ區法院ノ管轄トス
 第二條 假理事又ハ特別代理人ノ選任及解散又ハ清算ノ監
 督ハ法人ノ主事務所ノ所在地ノ區法院ノ管轄トス
 第三條 法院ハ特ニ選任シタル者ヲシテ法人ノ解散又ハ清
 算ノ監督ニ必要ナル検査ヲ爲サシムルコトヲ得
 第四條 假理事、特別代理人又ハ前條ノ規定ニ依リ検査ヲ
 爲スベキ者ヲ選任スル裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコト
 ヲ得ズ
 第五條 第三百三條ノ規定ニ依リ選任セラレタル者ハ調査ノ
 結果ヲ書面ヲ以テ法院ニ報告スルコトヲ要ス
 法院ハ検査ニ付説明ヲ必要トスルトキハ検査ヲ爲シタル者
 ヲ審訊スルコトヲ得
 第六條 民法第六十七條第二項及第九十三條ニ定ムル事件
 ハ法人ノ主事務所ノ所在地ノ區法院ノ管轄トス
 第七條 民法第六十七條第二項又ハ第九十三條ノ規定ニ依
 リ總會召集ノ許可ヲ求ムル申立ヲ爲ス場合ニ於テハ理事又
 ハ清算人ガ總會ノ召集ヲ怠リタルコトヲ證明スルコトヲ要
 ス
 第八條 總會ノ召集ヲ許可スル裁判ニ對シテハ不服ヲ申立
 ツルコトヲ得ズ

第九條 清算人ノ選任及解任ニ關スル事件ハ法人ノ主事務
 所ノ所在地ノ區法院ノ管轄トス
 第十條 清算人ノ選任又ハ解任ノ裁判ニ對シテハ不服ヲ申
 立ツルコトヲ得ズ
 第十一條 法院ガ法人ノ清算人又ハ第三百三條ノ規定ニ依リ
 検査ヲ爲スベキ者ヲ選任シタル場合ニ於テハ法人ヲシテ之
 ニ關シテ之ヲ爲スルコトヲ得其ノ額ハ理事及監事ノ陳述ヲ
 聽キ法院之ヲ定ム
 法人及清算人又ハ検査ヲ爲スベキ者ハ前項ノ裁判ニ對シテ
 即時抗告ヲ爲スコトヲ得
 第十二條 民法第八十八條第二項ニ定ムル事件ハ法人ノ主
 事務所ノ所在地ノ區法院ノ管轄トス
 第十三條 法院ガ鑑定人ヲ選任シタル場合ニ於テハ其ノ手
 續費用ハ法人ノ負擔トス呼出及訊問ノ手續費用亦同ジ
 第十四條 鑑定人ノ選任ノ裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツル
 コトヲ得ズ
 第十五條 電匯及信託ニ關スル事件
 第九條 民法第九條ノ意思表示ノ送達ハ相手方ノ氏名
 不明ナル場合ニ於テハ表意者ノ住所ノ區法院之ヲ管轄シ
 相手方ノ所在不明ナル場合ニ於テハ相手方ノ滿洲國ニ於ケ
 ル最後ノ住所ノ區法院ノ管轄トス
 表意者ノ住所ノ區法院之ヲ管轄トス
 第十六條 法院ハ公示送達ノ許可ヲ爲ス前表意者ヲ審訊ス
 ルコトヲ要ス
 第十七條 民法第二百二十四條ニ定ムル事件ハ不動產ノ所
 在地ノ區法院ノ管轄トス
 第十八條 民法第三百三十條第二項ニ定ムル事件ハ債務履
 行地ノ區法院ノ管轄トス
 第十九條 法院ハ前條ニ定ムル事件ニ付裁判ヲ爲ス前債權

者及債務者ヲ審訊スルコトヲ要ス
 法院ガ申立ヲ許可シタル場合ニ於テハ其ノ手續費用並ニ鑑
 定人ノ呼出及訊問ノ手續費用ハ債務者ノ負擔トス
 第二十條 民法第三百九十一條第二項ニ定ムル事件ハ債務
 者ノ住所ノ區法院ノ管轄トス
 第二十一條 代位ノ申立ニハ第八條第二項ニ掲グル事項ノ
 外左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス
 一 債務者及第三債務者ノ氏名及住所
 二 申立人ガ保全セントスル債權及其ノ行ハントスル權
 利
 第二十二條 法院ハ代位ノ申立ヲ理由アリト認ムルトキハ
 擔保ヲ供セシメ又ハ供セシメズシテ之ヲ許可スルコトヲ
 得
 第二十三條 代位ノ申立ヲ許可スル裁判ハ之ヲ債務者ニ告
 知スルコトヲ要ス
 前項ノ告知ハ民法第三百九十二條ニ定ムル通知ト同一ノ效
 力ヲ有ス
 第二十四條 代位ノ申立ヲ却下スル裁判ニ對シテハ即時抗
 告ヲ爲スコトヲ得
 代位ノ申立ヲ許可スル裁判ニ對シテハ債務者ハ即時抗告ヲ
 爲スコトヲ得
 第二十五條 代位ノ申立ヲ許可スル場合ニ於テハ手續費用
 ハ債務者ノ負擔トス
 第二十六條 代位ノ申立ヲ許可スル裁判ニ對シテ抗告アリタ
 ル場合ニ於テ法院ガ抗告人ノ申立ニ相當スル裁判ヲ爲スト
 キハ抗告手續ノ費用及抗告人ノ負擔ニ關シタル前審ノ費用
 ハ申立人ノ負擔トス
 第二十七條 第三百十八條及第三百十九條第一項ノ規定ハ民法
 第四百七十六條第二項ニ定ムル事件ニ之ヲ準用ス
 法院ガ供託所ノ指定及供託物保管者ノ選任ヲ爲シタル場合

ニ於テハ其ノ手續費用ハ債權者ノ負擔トス
 第二十八條 第五十八條、第六十條、民法第六百六十條第
 一項、第六百七十二條乃至第六百七十五條及第六百七十八
 條ノ規定ハ前條ノ規定ニ依リ保管者ヲ選任シタル場合ニ之
 ヲ準用ス但シ民法第六百七十四條ノ通知ハ之ヲ轉讓者ニ爲
 スコトヲ要ス
 第二十九條 第三百十八條及第三百十九條第一項ノ規定ハ民法
 第四百七十八條ノ規定ニ依リ之ヲ準用ス
 法院ガ費用ノ許可ヲ求ムル申立ヲ許可シタル場合ニ於テハ
 其ノ手續費用ハ債權者ノ負擔トス
 第三十條 本章ノ規定ニ依リテ指定若ハ選任ヲ爲シ又ハ許
 可ヲ與フル裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ズ
 第六條 匿名組合及團體ニ關スル事件
 第三十一條 商人通法第七十二條第二項ニ定ムル事件ハ營
 業者ノ主たる營業所ノ所在地ノ區法院ノ管轄トス
 第三十二條 商人通法第七十二條第二項ノ規定ニ依リ検査
 ノ許可ヲ求ムル申立ヲ爲ス場合ニ於テハ検査ヲ要スル事由
 ヲ證明スルコトヲ要ス
 第三十三條 商人通法第六十五條、第九十一條第一項及第
 九十二條ニ定ムル事件ハ債權ニ付スベキ物品又ハ有價證券
 ノ所在地ノ區法院ノ管轄トス
 第三十四條 會社法第六十八條第一項、第二百四十九條第
 二項第三項及第二百九十一條第二項ノ規定ニ依リ株式ノ
 買賣ハ會社ノ本店ノ所在地ノ區法院所屬ノ執行官之
 ヲ爲ス
 前項ノ買賣ハ拍賣法ノ規定ニ依リテ之ヲ爲ス
 第三十五條 會社法第六十八條第一項但書、第二百四十九
 條第二項第三項及第二百九十一條第二項ニ定ムル事件ハ會
 社ノ本店ノ所在地ノ區法院ノ管轄トス

第七條 會社ニ關スル事件
 第三十六條 會社法第八條、第二十條第一項第二項、第二
 十七條、第三十條第一項、第九十二條第二項、第三百十五條
 第二項、第三百二十二條第一項、第三百二十九條、第三百五十二條
 第二項、第三百五十三條第三項、第三百五十六條、第三百七十五
 條、第三百七十六條、第三百七十七條第二項、第三百八十六條、
 第三百八十七條第三項、第三百九十三條、第二百四十三條第一項、
 第二百四十五條第三項、第二百四十九條第三項、第二百九十七條
 第一項、第二百九十九條第一項、第二百九十九條第三項、第三百
 九十四條、第四百二十條第二項、第四百二十四條及第四百三
 十條第二項ニ定ムル事件ハ會社ノ本店ノ所在地ノ地方法院
 ノ管轄トス
 第三十七條 會社法第八條第一項又ハ第二項ノ規定ニ依リ
 テ爲ス會社ノ解散ノ命令ニハ理由ヲ附スルコトヲ要ス
 法院ハ裁判ヲ爲ス前取締役及利害關係人ノ陳述ヲ聽キ檢察
 官ノ意見ヲ求ムルコトヲ要ス
 第三十八條 會社及檢察官ハ前條第一項ノ裁判ニ對シテ即
 時抗告ヲ爲スコトヲ得
 第三十九條 會社ノ解散ノ命令アリタルトキハ手續費用ハ
 會社ノ負擔トス
 法院ガ抗告人ノ申立ニ相當スル裁判ヲ爲シタルトキハ抗告
 手續ノ費用及會社ノ負擔ニ關シタル前審ノ費用ハ國庫ノ負擔
 トス
 第四十條 第五十八條乃至第六十五條ノ規定ハ會社法第八
 條第三項ノ規定ニ依リ管理人ヲ選任スル場合ニ之ヲ準用
 ス
 第四十一條 會社法第五十六條第一項ノ規定ニ依リ検査
 役ノ選任ノ申立アリタルトキハ法院ハ裁判ヲ爲ス前取締役
 及監査役ノ陳述ヲ聽クコトヲ要ス

第五百五十二條 會社法第五百二十二條第二項又ハ第五百五十三條第三項ノ規定ニ依リ...

第五百五十一條 會社法第九十三條ノ規定ニ依リ社債權者集會ノ決議...

第五百五十三條 會社法第二百四十二條第二項ノ規定ニ依リ...

第五百五十四條 會社法第二百四十六條第二項又ハ第二百四十九條第一項ノ規定...

第五百五十五條 會社法第二百四十六條第三項、第二百四十七條第二項、第二百四十八條第二項...

第五百五十六條 會社法第二百四十九條ノ規定ニ依リ會社ノ負擔部分...

第五百五十七條 會社法第二百五十一條、第二百五十二條、第二百五十三條...

第五百五十八條 會社法第二百五十四條、第二百五十五條、第二百五十六條...

第五百五十九條 會社法第二百五十七條、第二百五十八條、第二百五十九條...

第五百六十條 會社法第二百五十二條第二項又ハ第五百五十三條第三項ノ規定...

第五百六十一條 會社法第九十三條ノ規定ニ依リ社債權者集會ノ決議...

第五百六十二條 會社法第二百四十二條第二項ノ規定ニ依リ...

第五百六十三條 會社法第二百四十六條第二項又ハ第二百四十九條第一項ノ規定...

第五百六十四條 會社法第二百四十六條第三項、第二百四十七條第二項、第二百四十八條第二項...

第五百六十五條 會社法第二百四十九條ノ規定ニ依リ會社ノ負擔部分...

第五百六十六條 會社法第二百五十一條、第二百五十二條、第二百五十三條...

第五百六十七條 會社法第二百五十四條、第二百五十五條、第二百五十六條...

第五百六十八條 會社法第二百五十七條、第二百五十八條、第二百五十九條...

第五百六十九條 會社法第二百五十二條第二項又ハ第五百五十三條第三項ノ規定...

第五百七十條 會社法第九十三條ノ規定ニ依リ社債權者集會ノ決議...

第五百七十一條 會社法第二百四十二條第二項ノ規定ニ依リ...

第五百七十二條 會社法第二百四十六條第二項又ハ第二百四十九條第一項ノ規定...

第五百七十三條 會社法第二百四十六條第三項、第二百四十七條第二項、第二百四十八條第二項...

第五百七十四條 會社法第二百四十九條ノ規定ニ依リ會社ノ負擔部分...

第五百七十五條 會社法第二百五十一條、第二百五十二條、第二百五十三條...

第五百七十六條 會社法第二百五十四條、第二百五十五條、第二百五十六條...

第五百七十七條 會社法第二百五十七條、第二百五十八條、第二百五十九條...

○調停委員及調停補助者ノ旅費、日當及止宿料ニ關スル件

(廣徳四年十二月七日) 司法部令第三七號

一 調停委員及調停補助者ノ旅費、日當及止宿料ニ關スル件
二 調停委員及調停補助者ノ旅費、日當及止宿料ニ關スル件
三 調停委員及調停補助者ノ旅費、日當及止宿料ニ關スル件

○公證法

(廣徳四年十一月二十九日) 勅令第三三九號

改正 廣徳五年九月第二四〇號、七年四月第六二號
一 公證法(第三十六條)ニ依リ參照府ノ諮詢ヲ經テ公證法ヲ設
可シ茲ニ之ヲ公布セシム

申立書ニハ左ノ事項ヲ記載シ申立人又ハ其ノ代理人ノ署名
捺印スルコトヲ要ス
一 申立人及代理人ノ氏名及住所
二 異議ノ目的タル處分
三 異議ヲ申立ル旨ノ陳述
四 年月日
五 法院

住所、職業、氏名及年齢
四 第三者ノ許可又ハ同意アリタルコトヲ證スベキ證書ヲ提出
出セシメタルトキハ其ノ旨及其事由並ニ第三者ノ住所、
職業、氏名及年齢
五 通事又ハ立言人ヲ立言ハシメタルトキハ其ノ旨及其事
由並ニ通事又ハ立言人ノ住所、職業、氏名及年齢
六 書記官ヲ立言ハシメタルトキハ其ノ旨及書記官ノ氏名

第二十七條 證書ノ原本滅失タルトキハ法院ハ既ニ交付シタ
ル證書ノ正本又ハ原本ヲ復シ滅失タル證書ニ代ヘテ之ヲ保
存スルコトヲ要ス
前項ノ證書ガ執行力アル正本ナルトキ、登録若ハ登記ヲ證明
スルモノナルトキ又ハ滅失ノ虞アルモノナルトキハ新ニ原本
ヲ作成シ原本ニ代ヘテ之ヲ保存スルコトヲ要ス
前項ノ證書ニハ滅失シタル證書ニ代ヘテ之ヲ保存スル旨ヲ
記載シ審判官ニ署名捺印スルコトヲ要ス

第三十三條 證書ノ正本ヲ交付シタルトキハ原本ノ末尾ニ何某ノ爲正本ヲ交付シタル旨及其ノ交付ノ年月日ヲ記載シ法院書記官之ニ署名捺印スルコトヲ要ス

第三十四條 申請人、其ノ承継人若ハ法令ニ依リ權利ヲ行使スル者又ハ證書ノ趣旨ニ付法律上利害關係ヲ有スルコトヲ證明シタル者ハ法院書記官ニ證書又ハ其ノ附屬書類ノ原本ノ交付ヲ申請スルコトヲ得

第三十五條 證書ノ原本ニハ左ノ事項ヲ記載シ法院書記官之ニ署名捺印シ且法院ノ印ヲ捺捺スルコトヲ要ス

一 證書ノ全文

二 原本タルコト

三 作成ノ年月日

第三十六條 證書ノ原本ハ其ノ一部ニ付之ヲ作成スルコトヲ得

前項ノ原本ニハ抄本原本タルコトヲ記載スルコトヲ要ス

第三十七條 前二條ノ規定ハ證書ノ附屬書類ノ原本ノ作成ニ之ヲ準用ス

第三十八條 證書ノ正本又ハ證書若ハ附屬書類ノ原本ノ交付ヲ申請スル者ハ之ニ記載スベキ事項ヲ自ら記載シ法院書記官ノ署名捺印及法院ノ印ヲ捺捺申請スルコトヲ得

法院書記官前項ノ正本又ハ原本ニ署名捺印シ且法院ノ印ヲ捺捺シタルトキハ其ノ正本又ハ原本ハ法院書記官ノ作成シタルモノト同一ノ效力ヲ有ス

第三章 遺言

第三十九條 私書遺言ノ承認ハ當事者審判官ノ面前ニ於テ證書ニ署名捺印シタルトキ又ハ證書ノ署名捺印ヲ自認シタルトキ其ノ旨ヲ記載シタルコトヲ要ス

私書遺言ノ原本ノ承認ハ遺言ト對照シ其ノ符合スルコトヲ認メタルトキ其ノ旨ヲ記載シタルコトヲ要ス

私書遺言ニ文字ノ挿入、削去、改竄、欄外ノ記載其ノ他ノ訂

正アルトキ又ハ遺言若ハ外地上書シタルベキ點アルトキハ其ノ状況ヲ記載スルコトヲ要ス

第四十條 遺言ノ原本ニハ遺言ノ署名捺印、承認ノ年月日及其ノ場所ヲ記載シ審判官及立會人之ニ署名捺印シ且其ノ證書ト對照事件簿ニ署名捺印スルコトヲ要ス

第四章 遺囑

第四十一條 區法院ニ證書事件簿及承認事件簿ヲ備フ

前項ノ帳簿ノ様式ハ司法部大臣之ヲ定ム

第四十二條 證書事件簿ニハ證書ノ作成毎ニ進行ノ順序ヲ逐ヒ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 證書ノ號數及種類

二 申請人ノ氏名及住所

三 作成ノ年月日

第四十三條 承認事件簿ニハ承認ヲ與フル毎ニ進行ノ順序ヲ逐ヒ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 證書號數

二 申請人ノ氏名及住所

三 證書ノ種類及署名捺印者

四 承認ノ方法

五 立會人ノ氏名及住所

六 承認ノ年月日

第四十四條 帳簿ニ申請人ノ氏名及住所ヲ記載スル場合ニ於テ申請人多數ナルトキハ當事者雙方各一名ノ氏名、住所及他ノ人員ヲ記載スルヲ以テ足ル

第四十五條 帳簿ハ一司法年度ニ付一冊トス

記載事項多キトキハ一司法年度ニ分テ分冊スルコトヲ得

記載事項少キトキハ一冊ノ年度間通テ使用スルコトヲ得

第四十六條 證書事件簿及承認事件簿ニハ高等法院長其ノ枚數ヲ表紙ノ裏面ニ記載シ職氏名ヲ署名捺印シ且毎冊ノ目録ニ署名捺印スルコトヲ要ス

第四十七條 第十三條及第十四條ノ規定ハ證書事件簿及承認事件簿ノ記載ニ之ヲ準用ス

附則

第四十八條 本法ハ廣徳四年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

第四十九條 従前ノ規定ニ依リ公證人ノ作成シタル公正證書ノ原本、附屬書類及帳簿ハ本法施行後遺漏ナク之ヲ公證人ノ事務所ノ所在地ヲ管轄スル區法院ニ引渡スコトヲ要ス

第五十條 前條ノ規定ニ依リ引渡ヲ受ケタル公正證書ノ正本若ハ原本又ハ附屬書類ノ原本ハ引渡ヲ受ケタル區法院ノ書記官之ヲ作成ス

附則

附則 (廣徳五年九月二二日勅令第二四〇號)

本法ハ廣徳五年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

○公證手数料規則

(廣徳四年十一月二十九日勅令第三四〇號)

公證手数料規則

第一條 公證ニ關スル手数料ノ納付ハ本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條 法律行為ニ付テハ證書作成ノ手数料ハ別段ノ定アル場合ヲ除ク外法律行為ノ目的ノ價額ニ應ジ左ノ區別ニ從テ

一 一百圓迄 一圓

二 二百五十圓迄 一圓三角

三 五百圓迄 一圓五角

四 七百五十圓迄 一圓八角

五 一千圓迄 二圓

六 二千五百圓迄 二圓五角

七 五千圓迄 三圓

八 五千圓ヲ超過スルトキハ五千圓迄ハ五千圓又ハ其ノ端數ヲ加フル毎ニ五角ヲ加フ

九 五千圓ヲ超過スルトキハ一萬圓又ハ其ノ端數ヲ加フル毎ニ五角ヲ加フ

第三條 法律行為ノ目的ノ價額ハ證書ノ作成ニ着手シタル時ノ價額ニ依ル

第四條 當事者雙方ノ申請ニ因リ證書ヲ作成スル場合ニ於テハ法律行為ノ目的ノ價額ハ各給付ノ價額ヲ合算シタル額ニ依ル但シ當事者ノ一方ノ給付ノミガ金額ヲ目的トスルモノナルトキハ其ノ二倍ノ額ニ依ル

第五條 當事者ノ一方ノ申請ニ因リ證書ヲ作成スル場合ニ於テハ申請人ノ給付ノ價額ヲ以テ法律行為ノ目的ノ價額トス但シ

相手方ノ給付ノ金額ヲ目的トスルモノナルトキハ其ノ額ニ依ル

第六條 主タル法律行為ト共ニ附隨ノ法律行為ニ付證書ヲ作成スル場合ニ於テハ主タル法律行為ニ依リテ手数料ヲ算定ス

第七條 債權ノ擔保ノ價額ハ其ノ目的ノ價額ト償額ノ額トヲ比較シ其ノ少キ額ニ依ル

第八條 擔保ノ移轉ノ目的トスル法律行為ニ付ハ擔保ノ價額ト移轉ニ因リ擔保ヲ附セラルベキ債權ノ額トヲ比較シ其ノ少キ額ニ依ル

第九條 擔保ノ順位ノ移轉ノ目的トスル法律行為ニ付ハ其ノ移轉ニ因リテ優先ノ順位ヲ取得スベキ擔保ノ價額ト之ヲ喪フベキ擔保ノ價額トヲ比較シ其ノ少キ額ニ依ル

第十條 定期ノ給付ノ價額ハ全期間ノ給付ノ總價額ニ依ル但シ其ノ價額ハ動産ノ質貸借ニ付テハ一年、不動産ノ質貸借及商工業ノ見習ノ目的トセザル雇傭契約ニ付テハ五年、其ノ他ノ場合ニ於テハ十年分ノ給付ノ價額ヲ超ユルコトヲ得ズ

第十一條 期間ノ定キ定時ノ給付ノ價額ハ前項但書ニ定ムル期間内ノ給付ノ總額ニ依ル

第十二條 前二項ノ場合ニ於ケル相手方ノ給付ノ目的ノ金額ニ非ザルトキハ其ノ價額ハ定時ノ給付ノ價額ト同一ト看做ス

第十三條 地役ノ價額ハ地役ニ因リテ生ズル要役地ノ増價額ト承役地ノ減價額トヲ比較シ其ノ多キ額ニ依ル

第十四條 當事者ノ一方ノ給付ノミガ金額ヲ算定スルコト能ハザルトキハ其ノ給付ノ相手方ノ給付ノ同一ノ價額ヲ有スルモノト看做ス

第十五條 果實、損害賠償、違約金又ハ費用ガ法律行為ノ附帶ノ目的ナルトキハ其ノ價額ハ之ヲ法律行為ノ目的ノ價額ニ算入セズ

第十六條 法律行為ノ目的ノ價額ヲ算定スルコト能ハザルトキハ其ノ目的ノ價額ヲ有スルモノト看做ス但シ其ノ最

低價額ガ五百圓ヲ超エ又ハ其ノ最高價額ガ之ニ滿タザルコト明ナルトキハ其ノ最低價額又ハ最高價額ヲ以テ法律行為ノ目的ノ價額トス

第十七條 左ノ掲グル事項ニ付テハ證書作成ノ手数料ハ第二條ノ區別ニ從ヒ其ノ二分ノ一ノ割合ニ依ル

一 承認、許可及同意

二 當事者雙方ノ履行セザル契約ノ解除

三 遺言ノ全部又ハ一部ノ取消

第十八條 法律行為ニ付公正證書ヲ作成シタル法院ニ於テ其ノ法律行為ノ補充又ハ更正ニ付證書ヲ作成スル場合ノ手数料ハ前條ノ例ニ依ル

第十九條 法律行為ニ付テハ證書作成ノ手数料ハ證書ノ紙數四枚ヲ超過スルトキハ超過スル部分ニ付一枚毎ニ二角ヲ加フ但シ一枚ニ滿タザルトキト雖モ之ヲ一枚トス

第二十條 法律行為ニ付テハ證書作成ノ手数料ハ別段ノ定アル場合ヲ除ク外其ノ事實ノ實態及證書ノ作成ニ要シタル時間一時間ニ付一圓トス但シ一時間ヲ超過スルトキハ一時間毎ニ五角ヲ加フ

第二十一條 前項ノ時間ハ一時間ニ滿タザルトキト雖モ之ヲ一時間トス

第二十二條 株主總會其ノ他ノ集會ノ決議ニ關スル證書作成ノ手数料ハ前條ノ例ニ依ル

第二十三條 法律行為ト共ニ之ト牽連スル事實ニ付證書ヲ作成スル場合ニ於ケル手数料ハ第十六條ノ例ニ依ル但シ其ノ額ガ法律行為ノミニ付テハ證書作成ノ手数料ノ額ヨリ少キトキハ其ノ多キ額ニ依ル

第二十四條 數箇ノ事實ニ付證書ヲ作成スル場合ニ於テ其ノ事實ガ牽連スルモノナルトキハ手数料ノ額ノ算定ニ付テハ之ヲ一箇ノ事實トス

第二十五條 委任狀又ハ受取書作成ノ手数料ハ五角トス

第二十六條 第一項但書及第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用

第二十一條 公正證書ノ原本ニ辨濟又ハ契約ノ解除アリタルコトヲ附記スル手数料ハ一圓トス

第二十二條 會社ノ定款ノ認證ノ手数料ハ會社ノ資本額ニ應ジ左ノ區別ニ從フ

- 一 十萬圓迄 五圓
- 二 五十萬圓迄 十圓
- 三 百萬圓迄 十五圓
- 四 五百萬圓迄 二十圓
- 五 五百萬圓ヲ超過スルトキハ百萬圓又ハ其端數ヲ加フル毎ニ五圓ヲ加フ

第二十三條 前條ノ場合ヲ除クノ外認證ノ手数料ハ證書作成ノ手数料ノ二分ノ一トス

第二十四條 證書ノ正本若ハ謄本又ハ附屬書類ノ謄本ノ交付ニ付テノ手数料ハ一枚ニ付一角五分トス但シ公證法第三十八條第一項ノ場合ニ於テハ一枚ニ付一角トス

第二十五條 證書ノ原本又ハ附屬書類ノ閱覽ニ付テノ手数料ハ一回ニ付一角トス

第二十六條 手数料ノ定ナキ事項ニ付テハ最モ類似スル事項ト同一ノ手数料ニ依ル

第二十七條 手数料ハ收入印紙ヲ納付書ニ貼附シテ納付スルコトヲ要ス

第二十八條 數人ノ申請アル場合ニ於テハ手数料ハ各申請人連帶シテ之ヲ納付スル義務ヲ負フ

第二十九條 法院ハ申請人ニ對シテ手数料ノ概算額ノ豫納ヲ命ズルコトヲ得

申請人が前項ノ豫納ヲ爲サザルトキハ法院ハ其ノ申請ヲ拒絕スルコトヲ得

第三十條 申請人手数料ノ納付ヲ爲サザルトキハ法院ハ公正證書

書ノ正本又ハ謄本ヲ付與ヲ拒絕スルコトヲ得

附 則

本令ハ公證法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス(廣徳四年十二月一日施行)

商 事 法

- 商人通法
- 會社法
- 手形法
- 小切手法
- 運送法
- 倉庫法
- 海商法
- 商人通法施行法

- 會社法施行法
- 海商法施行法
- 小切手ノ呈示期間ノ特例ニ關スル件
- 小切手法ノ適用ニ付銀行ト同視スベキ人又ハ施設ヲ定ムルノ件
- 手形法第八十二條及小切手法第六十七條ノ規定ニ依ル手形交換所ニ關スル件

- 拒絕證書令
- 小商人ノ範圍ニ關スル件
- 湖川又ハ港灣ト海上トノ境界ニ關スル件
- 運送法、倉庫法及海商法ノ規定ニ依ル公告方法ニ關スル件
- 沿岸小航海ノ範圍ニ關スル件
- 商業登記法

商 事 法 目 次

○商人通法 (廣四、勅令、一三三)	一
第一章 總 則	一
第二章 商業登記	一
第三章 商 號	一
第四章 商業標幟	一
第五章 營業讓渡	一
第六章 商業代理及商業使用人	一
第七章 代理商	一
第八章 仲立人	一
第九章 問 議	一
第十章 匿名組合	一
第十一章 商人ノ行為ニ關スル特別	一
○會 社 法 (廣四、勅令、一三三)	一
第一章 總 則	一
第二章 株式會社	一
第三章 株式會社ノ立	一
第四章 株式會社ノ機	一
第五章 株式會社ノ機	一
第六章 株式會社ノ機	一
第七章 株式會社ノ機	一
第八章 株式會社ノ機	一
第九章 株式會社ノ機	一
第十章 株式會社ノ機	一
第十一章 株式會社ノ機	一
○手 形 法 (廣四、勅令、八九)	一
第一章 總 則	一
第二章 爲替手形ノ提出及方式	一
第三章 爲替手形ノ提出及方式	一
第四章 爲替手形ノ提出及方式	一
第五章 爲替手形ノ提出及方式	一
第六章 爲替手形ノ提出及方式	一
第七章 爲替手形ノ提出及方式	一
第八章 爲替手形ノ提出及方式	一
第九章 爲替手形ノ提出及方式	一
第十章 爲替手形ノ提出及方式	一
○運 送 法 (廣四、勅令、一三三)	一
第一章 總 則	一
第二章 物品運送	一
第三章 旅客運送	一
○小切手法 (廣四、勅令、九〇)	一
第一章 小切手ノ提出及方式	一
第二章 保 證	一
第三章 保 證	一
第四章 保 證	一
第五章 保 證	一
第六章 保 證	一
第七章 保 證	一
第八章 保 證	一
第九章 保 證	一
第十章 保 證	一
第十一章 保 證	一
○支 拂 法 (廣四、勅令、一三三)	一
第一章 總 則	一
第二章 爲替手形ノ提出及方式	一
第三章 爲替手形ノ提出及方式	一
第四章 爲替手形ノ提出及方式	一
第五章 爲替手形ノ提出及方式	一
第六章 爲替手形ノ提出及方式	一
第七章 爲替手形ノ提出及方式	一
第八章 爲替手形ノ提出及方式	一
第九章 爲替手形ノ提出及方式	一
第十章 爲替手形ノ提出及方式	一
第十一章 爲替手形ノ提出及方式	一

第二章 運送取扱營業

○倉庫法 (廣四、勅令、一三五)..... 六

○海商法 (廣四、勅令、二八七)..... 六

第一章 船舶及船舶所有者

第二章 船長

第三章 運送

第四章 物品運送

第五章 船務

第六章 海難救助

第七章 船舶債權及船舶抵押權

○商人通法施行法 (廣四、勅令、二八七)..... 六

○海商法施行法 (廣四、勅令、二八九)..... 六

○小切手ノ呈示期間ノ特例ニ關スル件 (廣四、勅令、二八六)..... 六

○小切手法ノ適用ニ付銀行ト同視スベキ人又ハ施設ヲ定ムルノ件 (廣四、勅令、二八七)..... 六

○手形法第八十二條及小切手法第六十七條ノ規定ニ依ル手形交換所ニ關スル件 (廣四、勅令、二八七)..... 六

改正 第六條二號、第七條一號

○郵便證書令 (廣四、勅令、二八五)..... 六

○小商人ノ範圍ニ關スル件 (廣四、勅令、三三四)..... 六

○湖川又ハ港灣ト海上トノ境界ニ關ル件 (廣四、交令、六三)..... 六

○運送法倉庫法及海商法ノ規定ニ依ル公告方法ニ關スル件 (廣四、勅令、二四)..... 六

○沿岸小航海ノ範圍ニ關スル件 (廣四、交令、六八)..... 六

○商號登記法 (廣四、勅令、三四一)..... 六

第一章 通則

第二章 商號ノ登記

第三章 無能力者及法定代理人ノ登記

第四章 支配人ノ登記

第五章 會社ノ登記

第一節 總則

第二節 株式會社

第三節 合名會社及合資會社

第四節 外國會社

第四編 商 事 法

○商人通法

(廣四、勅令、二八六) (廣四、勅令、二八七)

第一章 總則

第一條 商人トハ左ニ稱スル行為ヲ營業トスル者ヲ謂フ但シ專ラ資金ヲ得ル目的ヲ以テ物ノ製造加工ヲ爲シ又ハ勞務ニ従スル者ハ此ノ限ニ在ラズ

一 製造、不動產其ノ他ノ財產ノ有價取得及之ニ製造加工ヲ爲スト否ト問ヘズ其ノ財產ノ有價取得又ハ賃借及其ノ財產ノ賃貸

二 製造、不動產其ノ他ノ財產ノ有價取得又ハ賃借及其ノ財產ノ賃貸

三 他人ノ爲ニスル製造又ハ加工

四 電氣、瓦斯ノ供給又ハ水道ニ依ル水ノ供給

五 運送又ハ現物ノ引受

六 作業又ハ勞務ノ引受

七 出版、印刷又ハ攝影ニ關スル行為

八 通關ニ關スル行為

九 客ノ來來ヲ目的トスル場屋ノ取引

十 兩替其ノ他ノ銀行取引

十一 金貨又ハ有價證券ノ貸付

(廣四、勅令、二八六) (廣四、勅令、二八七)

第二章 代理ノ引受

第十二條 無償

第十三條 保險

第十四條 寄託ノ引受

第十五條 仲立

第十六條 取次

第十七條 代理ノ引受

第十八條 信託ノ引受

第十九條 店舖其ノ他之ニ類似スル設備ニ依リテ物品ノ販賣ヲ爲スル者トスル者及會社ハ前條各號ノ行為ヲ爲スル者トモナルモ之ヲ商人ト看做ス營業ヲ營ム者亦同ジ

第二十條 未成年者ガ前二條ノ營業ヲ爲ストキハ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第二十一條 法定代理人ガ親族會ノ同意ヲ得テ未成年者、準親族者又ハ養子者ノ爲ニ前二條ノ營業ヲ爲ストキ亦前項ニ同ジ

第二十二條 前項ノ場合ニ於テハ法定代理人ノ代理權ニ加ヘタル制限ハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ

第二十三條 本法中商號登記、商號、商業帳簿及支配人ニ關スル規定ハ小商人ニハ之ヲ適用セズ

第二十四條 前項ノ小商人ノ範圍ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十五條 第二章 商號登記

第二十六條 本法又ハ會社法ノ規定ニ依リ登記スベキ事項ノ登記ハ法院ニ於テ之ヲ爲ス

第二十七條 本店ノ所在地ニ於テ登記スベキ事項ハ別段ノ定ナキトキハ支店ノ所在地ニ於テモ亦之ヲ登記スルコトヲ要ス

第七條 登記シタル事項ニ變更ヲ生ジ又ハ其ノ事項ガ消滅シタルトキハ通稱ナク變更又ハ消滅ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第八條 登記官吏ハ登記申請ニ係ル事實ノ存否ヲ調査スルコトヲ得

第九條 登記シタル事項ハ法院ニ於テ通稱ナク之ヲ公告スルコトヲ要ス

第十條 公告ガ登記ト相違スルトキハ公告ナカリシモノトス

第十一條 登記スベキ事項ハ登記及公告ノ後ニ非ザレバ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ登記及公告ノ後ト雖モ第三者ガ正當ノ事由ニ因リテ之ヲ知ラザリシトキ亦同ジ

第十二條 支店ニ於テ爲シタル取引ニ付テハ登記及公告ノ有無ハ其ノ支店所在地ニ於ケル登記及公告ヲ以テ之ヲ決定ス

第十三條 故意又ハ過失ニ因リ不實ノ事項ヲ登記シタル者ハ其ノ事項ノ不實ナルコトヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ

第三章 商 號

第十二條 商人ハ氏、氏名其ノ他ノ名稱ヲ以テ商號ト爲スコトヲ得

第十三條 會社ノ商號中ニハ其ノ種類ニ從ヒ株式會社、合名會社又ハ合資會社ナル文字ヲ用フルコトヲ要ス

第十四條 會社ニ非ズシテ商號中ニ會社タルコトヲ示スベキ文字ヲ用フルコトヲ得ズ會社ノ營業ヲ受ケタルトキト雖モ亦同ジ

第十五條 前項ノ規定ニ違反シタル者ハ千圓以下ノ過料ニ處ス

第十六條 商號ノ登記ヲ爲シタル者ハ其ノ登記後同列市、同町、同縣又ハ同縣ニ於テ同一ノ營業ノ爲同一又ハ類似ノ商號ヲ登記シタル者ニ對シテ其ノ登記ノ未前ヲ請求スルコトヲ得

第十七條 商號ノ登記ヲ爲シタル者ハ不正ノ競爭ノ目的ヲ以テ同一又ハ類似ノ商號ヲ使用スル者ニ對シテ其ノ使用ヲ止

商事法 商人通法

ムベキコトヲ請求スルコトヲ得
 同特別市、同市、同縣又ハ同郡ニ於テ同一ノ營業ノ部ニ他
 人ノ登記シタル商號ヲ使用スル者ハ不正ノ競争ノ目的ヲ以
 テ之ヲ使用スルモノト推定ス
 第十七條 何人トモ不正ノ目的ヲ以テ他人ノ營業ナリト誤
 認セシムベキ商號ヲ使用スルコトヲ得ズ
 前項ノ規定ニ違反シテ商號ヲ使用スル者ハトキハ之ニ因
 リテ利益ヲ害セラルル虞アル者ハ其ノ使用ヲ止ムベキコト
 ヲ請求スルコトヲ得
 第十八條 不正ノ競争ノ目的ヲ以テ登記シタル他人ノ商號ト
 同一又ハ類似ノ商號ヲ使用シタル者ハ千圓以下ノ過料ニ處
 ス前條第一項ノ規定ニ違反シタル者亦同ジ
 第十九條 自己ノ氏、氏名又ハ商號ヲ使用シテ營業ヲ爲スコ
 トヲ他人ニ許諾シタル者ハ自己ノ營業主ナリト誤認シテ取
 引ヲ爲シタル者ニ對シテ其ノ取引ニ因リテ生ジタル債務ニ付
 其ノ他人ト連帯シテ擔當スル責任ニ任ズ
 第二十條 商號ハ營業ト共ニスル場合又ハ營業ヲ廢止スル場
 合ニ限リテ之ヲ讓渡スルコトヲ得
 商號ノ讓渡ハ其ノ登記ヲ爲スニ非ザレバ之ヲ以テ第三者ニ
 對抗スルコトヲ得ズ
 第二十一條 商號ノ登記ヲ爲シタル者ガ正當ノ事由ナクシテ
 二年間其ノ商號ヲ使用セザルトキハ商號ヲ廢止シタルモノ
 ト推定ス
 第二十二條 商號ノ廢止又ハ變更アリタル場合ニ於テ其ノ商
 號ノ登記ヲ爲シタル者ガ廢止又ハ變更ノ登記ヲ爲サザルト
 キハ利害關係人ハ其ノ登記ノ抹消ヲ法院ニ請求スルコトヲ
 得

要ス但シ其ノ費用ハ一月毎ニ其ノ總額ヲ記載スルヲ以テ
 足ル
 小賣ノ取引ハ現金賣ト稱號ト分テ日ノ賣上總額ニミテ
 記載スルコトヲ得
 第二十四條 商人ハ開帳ノ時及毎年一回一定ノ時期ニ於テ開
 帳、不動產、債權、債務其ノ他ノ財產ノ總目録及貸借對照
 表ヲ作ルコトヲ要ス
 會計ニ在リテハ成立ノ時及毎決算期ニ前項ノ書類ヲ作ルコ
 トヲ要ス
 財產目録及貸借對照表ハ之ヲ總額シ又ハ特ニ設ケタル帳簿
 ニ之ヲ記載スルコトヲ要ス
 財產目録及貸借對照表ニ作成者之ニ署名スルコトヲ要ス
 第二十五條 財產目録ニハ財產ニ價額ヲ附シテ之ヲ記載スル
 コトヲ要ス其ノ價額ハ財產目録ヲ編製スベキ時ニ於ケル價
 格ヲ超ニルコトヲ得ズ
 營業用ノ固定財產ニ付テハ前項ノ規定ニ拘ラズ其ノ取得價
 額又ハ製作價額ヨリ相當ノ減價額ヲ控除シタル價額ヲ附ス
 ルコトヲ得
 第二十六條 商人ハ十年間其ノ商業帳簿及其ノ營業ニ關スル
 重要書類ヲ保存スルコトヲ要ス
 前項ノ期間ハ商業帳簿ニ付テハ最後ノ記載ヲ爲シタル日ヨ
 リ之ヲ起算ス

一ノ營業ヲ爲スコトヲ得ズ
 第二十八條 營業ノ讓受人ガ讓渡人ノ商號ヲ讓渡スル場合ニ
 於テハ讓渡人ノ營業ニ因リテ生ジタル債務ニ付テハ讓受人
 モ亦其ノ擔當スル責任ニ任ズ
 前項ノ規定ハ營業ノ讓受後連帶ナク讓受人ガ讓渡人ノ債務
 ニ付實ニ任ゼザル旨ヲ登記シタル場合ニハ之ヲ適用セズ
 讓受後連帶ナク讓渡人及讓受人ヨリ第三者ニ對シテ其ノ
 旨ノ通知ヲ爲シタル場合ニ於テ其ノ通知ヲ受ケタル第三者
 ニ付亦同ジ
 第二十九條 營業ノ讓受人ガ讓渡人ノ商號ヲ讓渡スル場合ニ
 於テ讓渡人ノ營業ニ因リテ生ジタル債務ニ付讓受人ニ爲シ
 タル擔當ハ擔當者ガ擔當ニシテ且重大ナル過失ナカリシト
 キニ限リ其ノ效力ヲ有ス
 第三十條 營業ノ讓受人ガ讓渡人ノ商號ヲ讓渡セザル場合ニ
 於テモ讓渡人ノ營業ニ因リテ生ジタル債務ヲ引受タル旨ヲ
 廣告シタルトキハ債權者ハ其ノ讓受人ニ對シテ擔當ノ請求
 ヲ爲スコトヲ得
 第三十一條 營業ノ讓受人ガ第二十八條第一項又ハ前條ノ規
 定ニ依リ讓渡人ノ債務ニ付實ニ任ズル場合ニ於テハ讓渡人
 ノ責任ハ營業ノ讓渡又ハ前條ノ廣告ノ後二年以内ニ請求又
 ハ請求ノ警告ヲ爲サザル債權者ニ對シテハ二年ヲ經過シタ
 ルトキ消滅ス
 第六條 商業代理及商業使用人
 第三十二條 商人ハ支店人ヲ選任シ本店又ハ支店ニ於テ其ノ
 營業ヲ爲サシムルコトヲ得
 第三十三條 支店人ハ營業主ニ代リテ其ノ營業ニ關スル一切
 ノ裁判上又ハ裁判外ノ行為ヲ爲ス權限ヲ有ス
 支店人ハ他ノ支店人ヲ選任又ハ解任スルコトヲ得ズ
 支店人ノ代理權ニ加ヘタル制限ハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ
 對抗スルコトヲ得ズ

第五十條 商人ハ數人ノ支店人ガ共同シテ代理權ヲ行使ス
 ベキ旨ヲ定ムルコトヲ得
 前項ノ場合ニ於テ支店人ノ一人ニ對シテ爲シタル意思表示
 ハ營業主ニ對シテ其ノ效力ヲ生ズ
 第五十一條 支店人ノ選任ハ之ヲ爲シタル本店又ハ支店ノ所
 在地ニ於テ營業主之ヲ登記スルコトヲ要ス前條第一項ニ定
 ムル事項亦同ジ
 第三十六條 本店又ハ支店ノ營業ノ主任者タルコトヲ示スベ
 キ名稱ヲ附シタル者ハ之ヲ其ノ本店又ハ支店ノ支店人ト同
 一ノ權限ヲ有スルモノト推定ス但シ裁判上ノ行為ニ付テハ
 此ノ限ニ定ラズ
 前項ノ規定ハ相手方ガ同意ナリシ場合ニハ之ヲ適用セズ
 第三十七條 商人ノ營業ニ關スル或種權又ハ特定期間ニ付
 代理權ヲ授與セラレタル者ハ其ノ事項ニ關シ一切ノ裁判外
 ノ行為ヲ爲ス權限ヲ有ス
 第三十三條第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ適用ス
 第三十八條 支店人及前條ノ代理人ノ代理權ハ營業主ノ死亡
 ニ因リテ消滅セズ
 第三十九條 物品ノ販賣ノ目的トスル店舗ノ從業員ハ其ノ店
 舖内ニ於テ爲ス物品ノ販賣ニ關スル權限ヲ有スルモノト推
 定ス
 第三十六條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ適用ス
 第四十條 商業使用人ハ營業主ノ許諾アルニ非ザレバ左ノ行
 爲ヲ爲スコトヲ得ズ
 一 自己又ハ第三者ノ爲ニ營業ヲ爲スコト
 二 自己又ハ第三者ノ爲ニ營業主ノ營業ノ部類ニ屬スル取
 引ヲ爲スコト
 三 會社ノ無限責任社員又ハ取締役ト爲ルコト
 四 他人ノ使用人ト爲ルコト
 商業使用人ガ前項ノ規定ニ違反シテ取引ヲ爲シタル場合ニ

於テ其ノ取引ガ自己ノ爲ニ爲シタルモノナルトキハ營業主
 ハ之ヲ以テ營業主ノ爲ニ爲シタルモノト推定スコトヲ得第
 三者ノ爲ニ爲シタルモノナルトキハ營業主ハ使用人ニ對シ
 之ニ因リテ取得シタル報酬ノ交付ヲ請求スルコトヲ得
 前項ノ規定ハ營業主ヨリ使用人ニ對スル損害賠償ノ請求ヲ
 妨グズ
 第二項ニ定ムル權利ハ營業主ガ其ノ取引ヲ知りタル時ヨリ
 二週間之ヲ行使セザルトキハ消滅ス取引ノ時ヨリ一年ヲ經
 過シタルトキ亦同ジ
 第七條 代理
 第四十一條 代理商トハ使用人ニ非ズシテ一定ノ商人ノ爲ニ
 代理シテ其ノ營業ノ部類ニ屬スル取引ノ代理又ハ媒介ヲ爲
 スコトヲ引受タル者ヲ謂フ
 第四十二條 代理商ガ取引ノ代理又ハ媒介ヲ爲シタルトキハ
 讓渡ナク本人ニ對シテ其ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス
 第四十三條 物品又ハ有價證券ノ販賣又ハ其ノ媒介ノ委託ヲ
 受ケタル代理商ハ賣買ノ目的物ノ瑕疵又ハ數量ノ不足其ノ
 他賣買ノ履行ニ關スル通知ヲ受タル權限ヲ有ス
 第四十四條 代理商ノ代理權ハ本人ノ死亡ニ因リテ消滅セズ
 第四十五條 當事者ガ契約ノ期間ヲ定メザリシトキハ各當事
 者ハ二月ヲ下ラザル期間ヲ附シテ契約ノ申入ヲ爲スコトヲ
 得
 當事者ガ契約ノ期間ヲ定メタルトキトモ已ムコトヲ得ザ
 ル事由アルトキハ各當事者ハ何時ニテモ契約ノ申入ヲ爲ス
 コトヲ得
 第四十六條 代理商ハ取引ノ代理又ハ媒介ヲ爲シタルニ因リ
 テ生ジタル債務ガ擔當期ニ在ルトキハ其ノ擔當ヲ受タル迄
 本人ノ爲ニ占有スル物品又ハ有價證券ヲ留置スルコトヲ得
 但シ留置ノ意思表示アリタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第八條 仲立人
 第四十七條 仲立人トハ商人ノ營業ノ部類ニ屬スル契約ノ媒
 介ヲ引受タル者トスル者ヲ謂フ
 第四十八條 仲立人ハ其ノ媒介シタル契約ニ付當事者ノ爲ニ
 支拂其ノ他ノ給付ヲ受タルコトヲ得ズ但シ別段ノ意思表示
 又ハ慣習アルトキハ此ノ限ニ在ラズ
 第四十九條 仲立人ガ其ノ媒介シタル契約ニ付見本ヲ受取リタ
 ルトキハ其ノ契約ガ完了スル迄之ヲ保管スルコトヲ要ス但
 シ別段ノ意思表示又ハ慣習アルトキハ此ノ限ニ在ラズ
 第五十條 當事者間ニ於テ契約ガ成立シタルトキハ仲立人ハ
 連帶ナク各當事者ノ氏名又ハ商號、契約ノ年月日及其ノ要
 領ヲ記載シテ署名シタル書面ヲ各當事者ニ交付スルコトヲ
 要ス
 當事者ガ直ニ履行ヲ爲スベキ場合ヲ除ク外仲立人ハ各當
 事者ヲシテ前項ノ書面ニ署名セシメタル後之ヲ其ノ相手方
 ニ交付スルコトヲ要ス
 前二項ノ場合ニ於テ當事者ノ一方ガ書面ヲ受領セズ又ハ之
 ニ署名セザルトキハ仲立人ハ連帶ナク相手方ニ對シテ其ノ
 通知ヲ發スルコトヲ要ス
 第五十一條 仲立人ハ債權ヲ備ヘ之ニ前條第一項ニ掲グル事
 項ヲ記載スルコトヲ要ス
 第二十六條ノ規定ハ前項ノ債權ニ之ヲ適用ス
 第五十二條 當事者ハ何時ニテモ仲立人ガ自己ノ爲ニ媒介シ
 タル契約ニ付前條第一項ノ債權ノ原本ノ交付ヲ請求スルコ
 トヲ得
 第五十三條 當事者ガ其ノ氏名又ハ商號ヲ相手方ニ示サザル
 ベキ旨ヲ仲立人ニ命ジタルトキハ仲立人ハ第五十條第一項
 ノ書面及前條ノ原本ニ其ノ氏名又ハ商號ヲ記載スルコトヲ
 得ズ
 第五十四條 前四條ノ規定ハ小賣ノ取引ヲ媒介シタル場合ニ

ハ之ヲ適用セズ
 第六十三條 問屋が取引所ノ相場アル物品又ハ有價証券ノ買入又ハ買入ノ委託ヲ受ケタルトキハ自ラ買主又ハ買主ト爲ルコトヲ得比ノ場合ニ於テハ買主ノ代價ハ問屋が買主又ハ買主ト爲リタルコトノ通知ヲ受ケタル時ニ於ケル取引所ノ相場ニ依リテ之ヲ定ム
 第六十四條 問屋が買入ノ委託ヲ受ケタル場合ニ於テ委託者ガ買入レタル物品又ハ有價証券ヲ受取ルコトヲ拒ミ又ハ之ヲ受取ルコト能ハザルトキハ第八十九條ノ規定ヲ準用ス
 第六十五條 商人タル委託者ガ其ノ營業ノ範圍内ニ於テ買入ノ委託ヲ爲シタル場合ニハ委託者ト問屋トノ間ニ於テ第九十條乃至第九十二條ノ規定ヲ準用ス
 第六十六條 第四十二條及第四十六條ノ規定ハ問屋ニ之ヲ準用ス
 第六十七條 本章ノ規定ハ自己ノ名ヲ以テ他人ノ爲ニ物品又ハ有價証券ノ買入又ハ買入ニ非ザル行爲ヲ爲スコトヲ引受ケタル者ニ之ヲ準用ス
 第六十八條 匿名組合契約ノ當事者ノ一方ガ相手方タル商人ノ營業ノ爲ニ出資シタル相手方ガ其ノ營業ノ利益ノ分額ニベキコトヲ約スルニ因リテ其ノ効力ヲ生ズ
 第六十九條 匿名組合員ノ出資ノ目的ハ金銭其ノ他ノ財産ニ限ル
 第七十條 匿名組合員ハ營業者ノ行爲ニ付第三者ニ對シテ權利義務ヲ有セズ
 第七十一條 匿名組合員ノ規定ハ適用ヲ妨ゲズ
 第七十二條 出資ノ損失ニ因リテ減少シタルトキハ其ノ填補ノ後ニ非ザレバ匿名組合員ハ利益ノ配當ヲ請求スルコトヲ得

第七十二條 匿名組合員ハ營業年度ノ終ニ於テ營業者ノ財産目録及貸借對照表ノ閲覧ヲ求メ且其ノ業務及財産ノ狀況ヲ検査スルコトヲ得
 第七十三條 營業者ノ業務及財産ノ狀況ヲ検査スルコトヲ得可ク得テ營業者ノ業務及財産ノ狀況ヲ検査スルコトヲ得重要ナル事由アルトキハ匿名組合員ハ何時ニテモ法院ノ許可ヲ得テ營業者ノ業務及財産ノ狀況ヲ検査スルコトヲ得
 第七十四條 營業者ノ終身間組合ノ存続ニベキコトヲ定メタルトキハ各當事者ハ營業年度ノ終ニ於テ組合契約ノ解除ヲ申入ラズ
 第七十五條 得但シ六月以前ニ其ノ預告ヲ爲スコトヲ要ス
 第七十六條 匿名組合員ノ權利ヲ差押ハ匿名組合員ガ將來利益ノ配當又ハ出資ノ價額ノ返還ヲ請求スル權利ニ對シテモ亦其ノ効力ヲ有ス
 第七十七條 匿名組合員ノ權利ヲ差押ヘタル債權者ハ營業年度ノ終ニ於テ匿名組合契約ノ解除ヲ申入ラズスコトヲ得但シ營業者及其ノ匿名組合員ニ對シテ六月以前ニ其ノ預告ヲ爲スコトヲ要ス
 第七十八條 匿名組合員ガ擔保ヲ爲シ又ハ相當ノ擔保ヲ供シタルトキハ其ノ効力ヲ失フ
 第七十九條 第七十三條及前條ニ定ムル場合ノ外組合契約ハ左ノ事由ニ因リテ終了ス
 一 營業者ノ死亡又ハ禁治産
 二 營業者又ハ匿名組合員ノ破産
 三 營業者ノ廢止又ハ解散
 第七十條 組合契約ガ終了シタルトキハ營業者ハ匿名組合員ニ其ノ出資ノ價額ヲ返還スルコトヲ要ス但シ出資ガ損失ニ因リテ減少シタルトキハ其ノ殘額ヲ返還スルヲ以テ足ル組合契約終了ノ當時ニ於テ未ダ終了セザル事項ニ付テハ其ノ終了後ニ計算ヲ爲スコトヲ得

第十一條 商人ノ行爲ニ關スル特則
 第七十八條 商人ガ平常取引ヲ爲ス者ヨリ其ノ營業ノ範圍ニ關スル契約ノ申込ヲ受ケタルトキハ運滯ナク諾否ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス若シテ發スルコトヲ怠リタルトキハ申込ヲ承諾シタルモノト看做ス
 第七十九條 商人ガ其ノ營業ノ範圍ニ關スル契約ノ申込ヲ受ケタル場合ニ於テ申込ト共ニ受取リタル物品又ハ有價証券アルトキハ其ノ申込ヲ拒絶シタルトキト雖モ申込者ノ費用ヲ以テ其ノ物品又ハ有價証券ヲ保管スルコトヲ要ス但シ其ノ物品又ハ有價証券ノ價額ガ其ノ費用ヲ價付ニ足ラザルトキ又ハ商人ガ其ノ保管ニ因リテ損害ヲ受ケベキトキハ此ノ限ニ在ラズ
 第八十條 商人ガ其ノ營業ノ範圍内ニ於テ他人ノ爲ニ成行爲ヲ爲シタルトキハ相當ノ報酬ヲ請求スルコトヲ得
 第八十一條 商人ガ其ノ營業ノ範圍内ニ於テ他人ニ金銀ヲ貸付ケ又ハ他人ノ爲ニ金銀ノ立書ヲ爲シタルトキハ其ノ貸付又ハ立書ノ日以後ノ法定利息ヲ請求スルコトヲ得
 第八十二條 商人ガ他ノ商人ニ對シテ其ノ營業ノ範圍内ニ於テ自己ノ利益ヲ得ルコトヲ爲シタル場合ニ於テ其ノ利益ノ一部ハ債權者ハ擔保ヲ受ケタル迄債權者所有ノ物品又ハ有價証券ヲ留置スルコトヲ得但シ擔保者ノ納レカノ一方ノ營業ノ範圍内ニ關スル行爲ニ因リテ其ノ占有ヲ取得シタル場合ニ限ル
 第八十三條 民法第三百三十一條ノ規定ハ商人ノ營業ノ範圍内ニ關スル行爲ニ因リテ生ジタル債權ヲ擔保スル爲メ規定シタル債權ニハ之ヲ適用セズ
 第八十四條 商人間又ハ商人ト商人ニ非ザル者トノ間ニ平常取引ヲ爲ス場合ニ於テ一定ノ期間内ノ取引ヨリ生ジタル債權債務ノ總額ニ付相殺ヲ爲シ其ノ殘額ノ支拂ヲ爲スベキ旨ノ交互計算契約ヲ爲シタルトキハ計算ニ因リテ生ジタル債權債務

ニ付債權者ハ計算閉鎖ノ日以後ノ法定利息ヲ請求スルコトヲ得
 第八十五條 各項目ノ交互計算ニ組入レタル日ヨリ之ニ利息ヲ附スルコトヲ妨ゲズ
 第八十六條 當事者ガ交互計算ニ於ケル相殺ノ爲ニベキ期間ヲ定メザルシトキハ其ノ期間ハ之ヲ六月トス
 第八十七條 手形、小切手其ノ他ノ有價証券ノ收受ニ因リテ生ジタル對價支拂ノ債務ヲ交互計算ニ組入レタル場合ニ於テ支拂其ノ他ノ債務上ノ債務ノ擔保ガ拒マレタルトキハ當事者ハ其ノ債務ニ關スル項目ノ交互計算ヨリ除去スルコトヲ得
 第八十八條 交互計算ノ當事者ガ債權債務ノ各項目ヲ記載シタル計算書ノ承認ヲ爲シタルトキハ其ノ各項目ニ付異議ヲ述ブルコトヲ得但シ錯誤又ハ脱漏アリタルトキハ此ノ限ニ在ラズ
 第八十九條 各當事者ハ何時ニテモ交互計算契約ノ解除ノ申入ヲ爲スコトヲ得比ノ場合ニ於テハ直ニ計算ヲ閉鎖シテ債權ノ支拂ヲ請求スルコトヲ得
 第九十條 商人ガ其ノ營業ノ範圍内ニ於テ物品又ハ有價証券ヲ留置シタル場合ニ於テ買主ガ其ノ目的物ヲ受取ルコトヲ拒ミ又ハ之ヲ受取ルコト能ハザルトキハ買主ハ相當ノ期間ヲ定メテ預告ヲ爲シタル後之ヲ賣買スルコトヲ得比ノ場合ニ於テハ運滯ナク買主ニ對シテ其ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス
 第九十一條 買主ノ目的物ガ損毀シ易キモノナルトキハ前項ノ預告ヲ爲サズシテ之ヲ賣買スルコトヲ得買主ニ對シテ預告ヲ爲スコト能ハザルトキ亦同ジ
 第九十二條 規定ニ依リ買主ガ賣買ノ目的物ヲ賣買シタルトキハ其ノ代價ヲ供託スルコトヲ要ス但シ其ノ全部又ハ一部ヲ代金ニ充當スルコトヲ妨ゲズ

第九十條 本條ノ規定ニ依ル債權ノ費用ハ買主ノ負擔トス
 第九十一條 商人間ノ賣買ガ其ノ雙方ノ營業ノ範圍内ニ於テ爲サレタル場合ニ於テ買主ガ其ノ目的物ヲ受取リタルトキハ運滯ナク之ヲ検査シ若シテ瑕疵アルコト又ハ其ノ數量ニ不足アルコトヲ發見シタルトキハ直ニ買主ニ對シテ其ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス若シテ瑕疵又ハ不足ニ因リテ契約ノ解除又ハ代金ノ減額若ハ損害賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ得又ハ買主ガ六月以内ニ之ヲ發見シタルトキハ亦同ジ
 第九十二條 前條ノ規定ハ買主ガ瑕疵アリタル場合ニ於テ買主ガ六月以内ニ之ヲ發見シタルトキハ亦同ジ
 第九十三條 前條ノ規定ニ於テ買主ハ契約ノ解除ヲ爲シタルトキト雖モ他ノ地ヨリ送付ヲ受ケタル買主ノ目的物ヲ保管又ハ供託スルコトヲ要ス但シ其ノ目的物ニ付損失又ハ毀損ノ虞アルトキハ法院ノ許可ヲ得テ之ヲ賣買シ其ノ代價ヲ保管又ハ供託スルコトヲ要ス
 第九十四條 前條ノ規定ニ依リ買主ガ賣買ヲ爲シタルトキハ運滯ナク買主ニ對シテ其ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス
 第九十五條 前項ノ手續ニ因リテ生ジタル費用ハ買主ノ負擔トス
 第九十六條 前條ノ規定ハ買主ヨリ買主ニ引渡シタル物品又ハ有價証券ガ注文シタルモノト異リタル場合ニ之ヲ準用ス其ノ物品又ハ有價証券ガ注文シタル數量ヲ超過シタル場合ニ於テ其ノ超過額ニ付亦同ジ
 第九十七條 商人ガ其ノ營業ノ範圍内ニ於テ委託ヲ受ケタルトキハ報酬ヲ受ケザルトキト雖モ善良ナル管理者ノ注意ヲ爲スコトヲ要ス
 附則
 本法施行ノ期日ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム(廣徳四年勅令第三一七號ヲ以テ同年十二月一日ヨリ施行)

○會社法

(明治四十四年六月二十四日) 勅令第一三二號

第一章 總則

第一條 本法ニ於テ會社トハ權利ヲ目的トシテ設立シタル社

第二條 會社ハ株式會社、合名會社及合資會社ト三種トス

第三條 會社ハ其ノ本店ノ所在地ニ在ルモノトス

第四條 會社ハ本店ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲スニ因リ

第五條 會社ハ他ノ會社ノ無限責任社員ト爲ルコトヲ得ズ

第六條 會社ハ合併ヲ爲スコトヲ得

第七條 合併ニ因リテ會社ヲ設立スル場合ニ於テハ定款ノ作

第八條 會社ガ正當ノ事由ナクシテ其ノ成立後一年以内ニ開

第九條 會社ガ正當ノ事由ナクシテ其ノ成立後一年以内ニ開

第十條 會社ガ正當ノ事由ナクシテ其ノ成立後一年以内ニ開

第十一條 會社ガ正當ノ事由ナクシテ其ノ成立後一年以内ニ開

第十二條 株式會社ノ設立ニハ七人以上ノ發起人アルコトヲ

第十三條 發起人ハ定款ヲ作り之ニ左ノ事項ヲ記載シテ署名

第十四條 發起人ハ定款ヲ作り之ニ左ノ事項ヲ記載シテ署名

第十五條 發起人ハ定款ヲ作り之ニ左ノ事項ヲ記載シテ署名

第十六條 發起人ハ定款ヲ作り之ニ左ノ事項ヲ記載シテ署名

第十七條 發起人ハ定款ヲ作り之ニ左ノ事項ヲ記載シテ署名

第十八條 發起人ハ定款ヲ作り之ニ左ノ事項ヲ記載シテ署名

第十九條 發起人ハ定款ヲ作り之ニ左ノ事項ヲ記載シテ署名

第二十條 發起人ハ定款ヲ作り之ニ左ノ事項ヲ記載シテ署名

第二十一條 發起人ハ定款ヲ作り之ニ左ノ事項ヲ記載シテ署名

第二十二條 株式ノ申込ヲ爲サントスル者ハ株式申込證ニ通

第二十三條 株式ノ申込ヲ爲サントスル者ハ株式申込證ニ通

第二十四條 株式ノ申込ヲ爲サントスル者ハ株式申込證ニ通

第二十五條 株式ノ申込ヲ爲サントスル者ハ株式申込證ニ通

第二十六條 株式ノ申込ヲ爲サントスル者ハ株式申込證ニ通

第二十七條 株式ノ申込ヲ爲サントスル者ハ株式申込證ニ通

第二十八條 株式ノ申込ヲ爲サントスル者ハ株式申込證ニ通

第二十九條 株式ノ申込ヲ爲サントスル者ハ株式申込證ニ通

第三十條 株式ノ申込ヲ爲サントスル者ハ株式申込證ニ通

第三十一條 株式ノ申込ヲ爲サントスル者ハ株式申込證ニ通

第三十二條 株式ノ申込ヲ爲サントスル者ハ株式申込證ニ通

第三十三條 株式ノ申込ヲ爲サントスル者ハ株式申込證ニ通

第三十四條 株式ノ申込ヲ爲サントスル者ハ株式申込證ニ通

刊新聞紙ニ掲ゲテ之ヲ爲スコトヲ要ス

第十四條 定款ハ公證人ノ認證ヲ受タルニ非ザレバ其ノ效力

第十五條 左ノ事項ハ之ヲ定款ニ記載スルニ非ザレバ其ノ効

第十六條 存立時期又ハ解散ノ事由

第十七條 株式ノ額面以上ノ發行

第十八條 發起人ガ受タベキ特別ノ利益及之ヲ受タベキ者ノ氏名

第十九條 現物出資ヲ爲ス者ノ氏名、出資ノ目的タル財產、其ノ

第二十條 價格及之ニ對シテ與フル株式ノ種類及數

第二十一條 會社ノ成立後ニ讓受タルコトヲ約シタル財產、其ノ價

第二十二條 格及讓渡人ノ氏名

第二十三條 會社ノ負擔ニ歸スベキ設立費用

第二十四條 發起人ガ受タベキ報酬ノ額

第二十五條 現物出資ハ發起人ニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

第二十六條 現物出資ハ發起人ニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

第二十七條 現物出資ハ發起人ニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

第二十八條 現物出資ハ發起人ニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

第二十九條 現物出資ハ發起人ニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

第三十條 現物出資ハ發起人ニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

第三十一條 現物出資ハ發起人ニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

第三十二條 現物出資ハ發起人ニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

第三十三條 現物出資ハ發起人ニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

第三十四條 現物出資ハ發起人ニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

第三十五條 現物出資ハ發起人ニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

第三十六條 現物出資ハ發起人ニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

第三十七條 現物出資ハ發起人ニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

第三十八條 現物出資ハ發起人ニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

第三十九條 現物出資ハ發起人ニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

第四十條 現物出資ハ發起人ニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

第四十一條 現物出資ハ發起人ニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

第四十二條 現物出資ハ發起人ニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

第四十三條 現物出資ハ發起人ニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

第四十四條 現物出資ハ發起人ニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

第四十五條 現物出資ハ發起人ニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

第四十六條 現物出資ハ發起人ニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

第四十七條 現物出資ハ發起人ニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

第四十八條 現物出資ハ發起人ニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

第四十九條 現物出資ハ發起人ニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

第二十七條 第二項及第三十七條第一項但書ノ規定ハ前項ノ場合ニテハ適用ス

第五十條 株主總會ニ於テ發起人ニ對シテハ提起スルコトヲ否決シタル場合ニ於テ會日ノ三月以前ヨリ引續キ資本ノ十分ノ一以上ニ當ル株式ヲ有スル株主ガ所ノ提起ヲ取銷シテ請求シタルトキハ會社ハ請求ノ日ヨリ一月以内ニ之ヲ提起スルコトヲ要ス

第五十一條 發起人ニ非ズシテ株式申込度、目録見書、株式募集ノ廣告其ノ他株式募集ニ關スル文書ニ自己ノ氏名及會社ノ設立ヲ贊助スル旨ノ記載ヲ爲スコトヲ承諾シタル者ハ自己ノ發起人ナリト認認シテ株式ノ申込ヲ爲シタル者ニ對シテ發起人ト同一ノ責任ヲ負フ

第五十二條 株式會社ノ資本ハ之ヲ株式ニ分ツコトヲ要ス

第五十三條 株主ノ責任ハ其ノ引受ケ又ハ贈受ケタル株式ノ金額、額面以上ノ額額ヲ以テ株式ヲ發行シタル場合ニ於テハ引受額ヲ限度トス

第五十四條 假設人ノ名義ヲ以テ株式ヲ引受ケ又ハ贈受ケタル者ハ株式引受人又ハ株主タル責任ヲ負フ他人ノ承諾ヲ得ズシテ其ノ名義ヲ以テ株式ヲ引受ケ又ハ贈受ケタル者亦同ジ

第五十五條 他人ト通ジテ其ノ名義ヲ以テ株式ヲ引受ケ又ハ贈受ケタル者ハ其ノ他人ト通ジテ株式ヲ引受ケ又ハ贈受ケタル者トシテ同前ノ責任ヲ負フ

第五十六條 株式ノ金額ハ均一ナルコトヲ要ス

第五十七條 株式ノ金額ハ五十圓ヲ下ルコトヲ得ズ但シ一時ニ株金ノ全額ヲ拂込ムベキ場合ニ限リ之ヲ二十圓迄ニ下スコトヲ得

第五十八條 株式ガ數人ノ共有ニ屬スルトキハ共有者ハ株主ノ權利ヲ行使スベキ者一人ヲ定ムルコトヲ要ス

第十一條 一人ノ取締役ガ共同シ又ハ取締役ガ支那人ト共同シテ會社ヲ代表スベキコトヲ定ムルトキハ其ノ規定

第三十七條 會社ハ設立ノ登記ヲ爲シタル後二週間以内ニ支店ノ所在地ニ於テ前條第二項ニ掲グル事項ヲ登記スルコトヲ要ス

第三十八條 會社ノ成立後支店ヲ設ケタルトキハ本店ノ所在地ニ於テ二週間以内ニ支店ヲ設ケタルコトヲ登記シ其ノ支店ノ所在地ニ於テ三週間以内ニ第三十六條第二項ニ掲グル事項ヲ登記シ其ノ支店ノ所在地ニ於テ三週間以内ニ移轉ノ登記ヲ爲シ新所在地ニ於テ四週間以内ニ第三十六條第二項ニ掲グル事項ヲ登記スルコトヲ要ス

第三十九條 會社ガ其ノ本店ヲ移轉シタルトキハ舊所在地ニ於テ二週間以内ニ移轉ノ登記ヲ爲シ新所在地ニ於テ三週間以内ニ第三十六條第二項ニ掲グル事項ヲ登記シ其ノ支店ヲ移轉シタルトキハ舊所在地ニ於テ三週間以内ニ移轉ノ登記ヲ爲シ新所在地ニ於テ四週間以内ニ第三十六條第二項ニ掲グル事項ヲ登記スルコトヲ要ス

第四十條 第三十六條第二項ニ掲グル事項ニ變更ヲ生ジタルトキハ本店ノ所在地ニ於テ二週間、支店ノ所在地ニ於テ三週間以内ニ變更ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第四十一條 株金ノ拂込ヲ取銷ヒタル銀行ハ發起人又ハ取締役ノ請求ニ因リ拂込金ノ保管ニ關シテ證明ヲ爲スコトヲ要ス前項ノ銀行ハ其ノ證明シタル拂込金額ニ付拂込ナカリシコト又ハ其ノ返還ニ關スル制限ヲ以テ會社ニ對抗スルコトヲ得ズ

第十二條 株式ノ引受ニ因リ權利ノ讓渡ハ會社ニ對シ其ノ效力ヲ生ゼズ

第十三條 株式ヲ引受ケタル者ハ會社ノ成立後株式申込ノ要件ノ欠缺ヲ理由トシテ其ノ引受ノ無効ヲ主張シ又ハ會社ノ成立後株式申込ノ要件ニ關シテ其ノ引受ヲ取消スルコトヲ得

第十四條 引受ケタル株式又ハ第一回ノ拂込ノ未済ナル株式アルトキハ發起人ハ連帶シテ其ノ株式ノ引受又ハ拂込ヲ爲ス義務ヲ負フ株式ノ申込方取消サレタルトキ亦同ジ

第十五條 發起人ガ會社ニ對シテ損害賠償ノ請求ヲ妨グズ

第十六條 發起人ガ會社ニ對シテ損害賠償ノ責任ヲ負フ

第十七條 發起人ニ屬シ又ハ重大ナル過失アリタルトキハ其ノ發起人ハ第三項ニ對シテモ亦連帶シテ損害賠償ノ責任ヲ負フ

第十八條 會社ガ成立セザル場合ニ於テハ發起人ハ會社ノ設立ニ關シテ爲シタル行為ニ付連帶シテ其ノ責任ヲ負フ

第十九條 發起人ニ對シテ會社ノ設立ニ關シテ支出シタル費用ハ發起人ノ負擔トス

第二十條 取締役又ハ監査役ガ損害賠償ノ責任ヲ負フ

第二十一條 取締役又ハ監査役ガ損害賠償ノ責任ヲ負フ

第二十二條 取締役又ハ監査役ガ損害賠償ノ責任ヲ負フ

第二十三條 取締役又ハ監査役ガ損害賠償ノ責任ヲ負フ

第二十四條 取締役又ハ監査役ガ損害賠償ノ責任ヲ負フ

第二十五條 取締役又ハ監査役ガ損害賠償ノ責任ヲ負フ

第二十六條 取締役又ハ監査役ガ損害賠償ノ責任ヲ負フ

第二十七條 取締役又ハ監査役ガ損害賠償ノ責任ヲ負フ

第二十八條 取締役又ハ監査役ガ損害賠償ノ責任ヲ負フ

第二十九條 取締役又ハ監査役ガ損害賠償ノ責任ヲ負フ

第三十條 取締役又ハ監査役ガ損害賠償ノ責任ヲ負フ

第二百二十七條 第二項及第三十七條第一項但書ノ規定ハ前項ノ場合ニテハ適用ス

第五十條 株主總會ニ於テ發起人ニ對シテハ提起スルコトヲ否決シタル場合ニ於テ會日ノ三月以前ヨリ引續キ資本ノ十分ノ一以上ニ當ル株式ヲ有スル株主ガ所ノ提起ヲ取銷シテ請求シタルトキハ會社ハ請求ノ日ヨリ一月以内ニ之ヲ提起スルコトヲ要ス

第五十一條 發起人ニ非ズシテ株式申込度、目録見書、株式募集ノ廣告其ノ他株式募集ニ關スル文書ニ自己ノ氏名及會社ノ設立ヲ贊助スル旨ノ記載ヲ爲スコトヲ承諾シタル者ハ自己ノ發起人ナリト認認シテ株式ノ申込ヲ爲シタル者ニ對シテ發起人ト同一ノ責任ヲ負フ

第五十二條 株式會社ノ資本ハ之ヲ株式ニ分ツコトヲ要ス

第五十三條 株主ノ責任ハ其ノ引受ケ又ハ贈受ケタル株式ノ金額、額面以上ノ額額ヲ以テ株式ヲ發行シタル場合ニ於テハ引受額ヲ限度トス

第五十四條 假設人ノ名義ヲ以テ株式ヲ引受ケ又ハ贈受ケタル者ハ株式引受人又ハ株主タル責任ヲ負フ他人ノ承諾ヲ得ズシテ其ノ名義ヲ以テ株式ヲ引受ケ又ハ贈受ケタル者亦同ジ

第五十五條 他人ト通ジテ其ノ名義ヲ以テ株式ヲ引受ケ又ハ贈受ケタル者ハ其ノ他人ト通ジテ株式ヲ引受ケ又ハ贈受ケタル者トシテ同前ノ責任ヲ負フ

第五十六條 株式ノ金額ハ均一ナルコトヲ要ス

第五十七條 株式ノ金額ハ五十圓ヲ下ルコトヲ得ズ但シ一時ニ株金ノ全額ヲ拂込ムベキ場合ニ限リ之ヲ二十圓迄ニ下スコトヲ得

第五十八條 株式ガ數人ノ共有ニ屬スルトキハ共有者ハ株主ノ權利ヲ行使スベキ者一人ヲ定ムルコトヲ要ス

株主ノ權利ヲ行使スベキ者ナキトキハ共有者ニ對スル會社ノ通知又ハ催告ハ其ノ一人ニ對シテ之ヲ爲スヲ以テ足ル

共有者ハ會社ニ對シテ連帶シテ株金ノ拂込ヲ爲ス義務ヲ負フ

第五十七條 株式ハ之ヲ他人ニ讓渡スルコトヲ得但シ定款ヲ以テ其ノ讓渡ノ禁止又ハ制限ヲ定ムルコトヲ妨グズ

株式ノ發行前ニ爲シタル株式ノ讓渡ハ會社ニ對シ其ノ效力ヲ生ゼズ

第五十八條 記名株式ノ讓渡ハ株券ノ裏面ニ依リテ之ヲ爲スコトヲ得但シ定款ニ別段ノ定アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

民法第四百九十八條乃至第五百條ノ規定ハ株券ノ裏面ニ之ヲ適用ス

第五十九條 株券ノ裏面ニ依リ記名株式ノ移轉ハ取得者ノ氏名及住所ヲ株主名簿ニ記載スルニ非ザレバ之ヲ以テ會社ニ對抗スルコトヲ得ズ

第六十條 記名株式ヲ以テ質權ノ目的ト爲スニハ株券ヲ交付スルコトヲ要ス

第六十一條 株式ノ消却、併合又ハ轉換アリタルトキハ從前ノ株式ノ目的ト爲スル質權ハ消却、併合又ハ轉換ニ因リテ株主ガ受テベキ金額又ハ株式ノ上ニ存在ス

第六十二條 第六十八條第一項又ハ第六十九條第二項ノ規定ニ依リ株式ノ質權アリタルトキハ其ノ株式ノ目的ト爲スル質權ハ從前ノ株主ガ第六十八條第二項ノ規定ニ依リテ擔保ヲ受テベキ金額ノ上ニ存在ス

第六十三條 記名株式ヲ以テ質權ノ目的ト爲シタル場合ニ於テ會社ガ質權設定者ノ請求ニ因リ質權者ノ氏名及住所ヲ株

主名簿ニ記載シ且其ノ氏名ヲ株券ニ記載シタルトキハ質權者ハ會社ニ對シテ利息ノ配當、殘餘財産ノ分配又ハ前條ノ決議ニ充ツルコトヲ得

利益者ハ利息ノ配當、殘餘財産ノ分配又ハ前條ノ決議ノ支拂ガ質權者ノ債權ノ擔保期前ニ爲サルベキトキハ質權者ハ會社ヲシテ其ノ金額ヲ供託セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ質權者ハ其ノ供託金ノ上ニ存在ス

第六十三條 無記名株式ノ讓渡及買入ハ無記名式ノ讓渡債權ニ關スル規定ニ從フ

第六十四條 會社ハ左ノ場合ヲ除ク外自己ノ株式ヲ取得シ一株式ノ消却ノ爲ニスルトキ

一 合併又ハ他ノ會社ノ營業全部ヲ譲受ニ因ルトキ

二 合併又ハ他ノ會社ノ營業全部ヲ譲受ニ因ルトキ

三 會社ノ權利ノ實行ニ當リ其ノ目的ヲ達スル爲ニ必要ナルトキ

第六十五條 問屋タル會社ガ買入ノ委託ノ履行ノ爲ニスルトキ

第六十六條 信託業ヲ目的トスル會社ガ信託ノ引受ニ因ルトキ

第六十七條 前條第一號ノ場合ニ於テハ會社ハ還付ナク株式ノ失効ノ手續ヲ爲シ第二號及第三號ノ場合ニ於テハ相當ノ時期ニ株式又ハ質權ノ處分ヲ爲スコトヲ要ス

第六十八條 株式ハ資本減少ノ規定ニ從フニ非ザレバ之ヲ消却スルコトヲ得ズ但シ定款ノ規定ニ基キ株主ニ配當スベキ利益ヲ以テスル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第六十九條 株式ノ消却ハ株式ヲ消却スル場合ニテハ適用ス

第七十條 第二百四十七條ノ規定ハ株式ヲ消却スル場合ニテハ適用ス

第七十一條 株金ノ拂込ハ其ノ期日ノ一月以前ニ之ヲ各株主ニ備付スルコトヲ要ス

第七十二條 株主ガ拂込ヲ爲サルトキハ會社ハ更ニ期日ヲ定メ其ノ期

商事法 會社法

日迄ニ拂込ラザルトキハ會社ニ於テ株式ノ處分ニ...

メタル運約金ノ請求ヲ爲スコトヲ妨グズ...

格別ノ定ヲ爲スコトヲ得...

商事法 會社法

六 株式ノ讓渡ノ禁止若ハ制限又ハ株券ノ裏書ノ禁止...

前三項ノ規定ハ議決權ナキ株主ニ付テハ之ヲ適用セズ...

無記名式ノ株券ヲ有スル者ハ會日ヨリ一週間以前ニ株券ヲ...

二 營業全部ノ貨物、其ノ經營ノ委任、他人ト營業上ノ擔
任全部ヲ共通ニスル契約、其ノ他之ニ準ズル契約ノ締結、
變更又ハ解約

第二百二十六條 又ハ第三百二十九條ノ規定ニ依リ取締役又ハ監
査役ノ責任ノ免除
第二百二十八條 又ハ第三百二十九條ノ規定ニ依リ前項第四號ノ決議
アリタル場合ニテハ準用ス

第二百二十九條 前項第一號ノ規定ハ會社ガ其ノ成立後二年以内ニ
其ノ成立前ヨリ存在スル財産ニシテ營業ノ爲ニ繼續シテ使
用スベキモノヲ資本ノ二十分ノ一以上ニ當ル對價ヲ以テ取
得スル契約ヲ爲ス場合ニテハ準用ス

第二百三十條 總會招集ノ手續又ハ其ノ決議ノ方法ガ法令若ハ定
款ニ違反シ又ハ著シク不正ナルトキハ株主、取締役又ハ監
査役ハ訴ヲ以テ決議ノ取消ヲ請求スルコトヲ得決議ガ第
二百十條ノ規定ニ違反シテ爲サレタルトキ亦同ジ

第二百三十一條 前條ノ訴ハ本店ノ所在地ノ地方法院ノ管轄ニ專屬
ス
第二百三十二條 決議取消ノ訴ハ決議ノ日ヨリ一月以内ニ之ヲ提起
スルコトヲ要ス

第二百三十三條 口頭決議ノ前項ノ期間ヲ經過シタル後ニ非ザレバ之ヲ開始
スルコトヲ得ズ
第二百三十四條 決議ノ訴ガ同時ニ廢止スルトキハ廢止及裁判ハ併合シテ之
ヲ爲スコトヲ要ス

第二百三十五條 訴ノ提起アリタルトキハ會社ハ通達ナク其ノ旨ヲ公告スル
コトヲ要ス
第二百三十六條 株主ガ決議取消ノ訴ヲ提起シタルトキハ會社ノ請
求ニ因リ相當ノ擔保ヲ供スルコトヲ要ス但シ其ノ株主ガ取
締役又ハ監査役ナルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第二百三十七條 決議取消ノ訴ハ第三者ニ對シテモ其ノ效力ヲ
及ボス
第二百三十八條 決議取消ノ訴ハ決議ノ日ヨリ一月以内ニ之
ヲ提起スルコトヲ要ス

第二百三十九條 前項ノ請求ハ總會終結ノ日ヨリ三月以内ニ之ヲ爲スコト
ヲ要ス
第二百四十條 前項ノ請求ハ總會終結ノ日ヨリ三月以内ニ之ヲ爲スコト
ヲ要ス

第二百四十一條 前項ノ請求ハ總會終結ノ日ヨリ三月以内ニ之ヲ爲スコト
ヲ要ス
第二百四十二條 前項ノ請求ハ總會終結ノ日ヨリ三月以内ニ之ヲ爲スコト
ヲ要ス

第二百四十三條 前項ノ請求ハ總會終結ノ日ヨリ三月以内ニ之ヲ爲スコト
ヲ要ス
第二百四十四條 前項ノ請求ハ總會終結ノ日ヨリ三月以内ニ之ヲ爲スコト
ヲ要ス

第二百四十五條 前項ノ請求ハ總會終結ノ日ヨリ三月以内ニ之ヲ爲スコト
ヲ要ス
第二百四十六條 前項ノ請求ハ總會終結ノ日ヨリ三月以内ニ之ヲ爲スコト
ヲ要ス

第二百四十七條 前項ノ請求ハ總會終結ノ日ヨリ三月以内ニ之ヲ爲スコト
ヲ要ス
第二百四十八條 前項ノ請求ハ總會終結ノ日ヨリ三月以内ニ之ヲ爲スコト
ヲ要ス

第二百四十九條 前項ノ請求ハ總會終結ノ日ヨリ三月以内ニ之ヲ爲スコト
ヲ要ス
第二百五十條 前項ノ請求ハ總會終結ノ日ヨリ三月以内ニ之ヲ爲スコト
ヲ要ス

第二百五十一條 前項ノ請求ハ總會終結ノ日ヨリ三月以内ニ之ヲ爲スコト
ヲ要ス
第二百五十二條 前項ノ請求ハ總會終結ノ日ヨリ三月以内ニ之ヲ爲スコト
ヲ要ス

第二百五十三條 前項ノ請求ハ總會終結ノ日ヨリ三月以内ニ之ヲ爲スコト
ヲ要ス
第二百五十四條 前項ノ請求ハ總會終結ノ日ヨリ三月以内ニ之ヲ爲スコト
ヲ要ス

第二百五十五條 前項ノ請求ハ總會終結ノ日ヨリ三月以内ニ之ヲ爲スコト
ヲ要ス
第二百五十六條 前項ノ請求ハ總會終結ノ日ヨリ三月以内ニ之ヲ爲スコト
ヲ要ス

第二百五十七條 前項ノ請求ハ總會終結ノ日ヨリ三月以内ニ之ヲ爲スコト
ヲ要ス
第二百五十八條 前項ノ請求ハ總會終結ノ日ヨリ三月以内ニ之ヲ爲スコト
ヲ要ス

第二百五十九條 前項ノ請求ハ總會終結ノ日ヨリ三月以内ニ之ヲ爲スコト
ヲ要ス
第二百六十條 前項ノ請求ハ總會終結ノ日ヨリ三月以内ニ之ヲ爲スコト
ヲ要ス

第二百六十一條 前項ノ請求ハ總會終結ノ日ヨリ三月以内ニ之ヲ爲スコト
ヲ要ス
第二百六十二條 前項ノ請求ハ總會終結ノ日ヨリ三月以内ニ之ヲ爲スコト
ヲ要ス

第二百六十三條 前項ノ請求ハ總會終結ノ日ヨリ三月以内ニ之ヲ爲スコト
ヲ要ス
第二百六十四條 前項ノ請求ハ總會終結ノ日ヨリ三月以内ニ之ヲ爲スコト
ヲ要ス

第二百六十五條 前項ノ請求ハ總會終結ノ日ヨリ三月以内ニ之ヲ爲スコト
ヲ要ス
第二百六十六條 前項ノ請求ハ總會終結ノ日ヨリ三月以内ニ之ヲ爲スコト
ヲ要ス

第二百六十七條 前項ノ請求ハ總會終結ノ日ヨリ三月以内ニ之ヲ爲スコト
ヲ要ス
第二百六十八條 前項ノ請求ハ總會終結ノ日ヨリ三月以内ニ之ヲ爲スコト
ヲ要ス

第二百六十九條 前項ノ請求ハ總會終結ノ日ヨリ三月以内ニ之ヲ爲スコト
ヲ要ス
第二百七十條 前項ノ請求ハ總會終結ノ日ヨリ三月以内ニ之ヲ爲スコト
ヲ要ス

第二百七十一條 前項ノ請求ハ總會終結ノ日ヨリ三月以内ニ之ヲ爲スコト
ヲ要ス
第二百七十二條 前項ノ請求ハ總會終結ノ日ヨリ三月以内ニ之ヲ爲スコト
ヲ要ス

第二百七十三條 前項ノ請求ハ總會終結ノ日ヨリ三月以内ニ之ヲ爲スコト
ヲ要ス
第二百七十四條 前項ノ請求ハ總會終結ノ日ヨリ三月以内ニ之ヲ爲スコト
ヲ要ス

有ス
原告ガ敗訴シタル場合ニ於テ損害又ハ重大ナル損失アリタ
ルトキハ會社ニ對シテ損害賠償ノ責任ヲ負フ

第二百七十五條 決議取消ノ訴ハ總會終結ノ日ヨリ三月以内ニ之ヲ提起
スルコトヲ要ス

第二百七十六條 決議取消ノ訴ハ總會終結ノ日ヨリ三月以内ニ之ヲ提起
スルコトヲ要ス

第二百七十七條 決議取消ノ訴ハ總會終結ノ日ヨリ三月以内ニ之ヲ提起
スルコトヲ要ス

第二百七十八條 決議取消ノ訴ハ總會終結ノ日ヨリ三月以内ニ之ヲ提起
スルコトヲ要ス

第二百七十九條 決議取消ノ訴ハ總會終結ノ日ヨリ三月以内ニ之ヲ提起
スルコトヲ要ス

第二百八十條 決議取消ノ訴ハ總會終結ノ日ヨリ三月以内ニ之ヲ提起
スルコトヲ要ス

第二百八十一條 決議取消ノ訴ハ總會終結ノ日ヨリ三月以内ニ之ヲ提起
スルコトヲ要ス

第二百八十二條 決議取消ノ訴ハ總會終結ノ日ヨリ三月以内ニ之ヲ提起
スルコトヲ要ス

第二百八十三條 決議取消ノ訴ハ總會終結ノ日ヨリ三月以内ニ之ヲ提起
スルコトヲ要ス

第二百八十四條 決議取消ノ訴ハ總會終結ノ日ヨリ三月以内ニ之ヲ提起
スルコトヲ要ス

第二百八十五條 決議取消ノ訴ハ總會終結ノ日ヨリ三月以内ニ之ヲ提起
スルコトヲ要ス

第二百八十六條 決議取消ノ訴ハ總會終結ノ日ヨリ三月以内ニ之ヲ提起
スルコトヲ要ス

第二百八十七條 決議取消ノ訴ハ總會終結ノ日ヨリ三月以内ニ之ヲ提起
スルコトヲ要ス

第二百八十八條 決議取消ノ訴ハ總會終結ノ日ヨリ三月以内ニ之ヲ提起
スルコトヲ要ス

第二百八十九條 決議取消ノ訴ハ總會終結ノ日ヨリ三月以内ニ之ヲ提起
スルコトヲ要ス

第二百九十條 決議取消ノ訴ハ總會終結ノ日ヨリ三月以内ニ之ヲ提起
スルコトヲ要ス

第二百九十一條 決議取消ノ訴ハ總會終結ノ日ヨリ三月以内ニ之ヲ提起
スルコトヲ要ス

第二百九十二條 決議取消ノ訴ハ總會終結ノ日ヨリ三月以内ニ之ヲ提起
スルコトヲ要ス

第二百九十三條 決議取消ノ訴ハ總會終結ノ日ヨリ三月以内ニ之ヲ提起
スルコトヲ要ス

第二百九十四條 決議取消ノ訴ハ總會終結ノ日ヨリ三月以内ニ之ヲ提起
スルコトヲ要ス

第二百九十五條 決議取消ノ訴ハ總會終結ノ日ヨリ三月以内ニ之ヲ提起
スルコトヲ要ス

第二百九十六條 決議取消ノ訴ハ總會終結ノ日ヨリ三月以内ニ之ヲ提起
スルコトヲ要ス

第二百九十七條 決議取消ノ訴ハ總會終結ノ日ヨリ三月以内ニ之ヲ提起
スルコトヲ要ス

第二百九十八條 決議取消ノ訴ハ總會終結ノ日ヨリ三月以内ニ之ヲ提起
スルコトヲ要ス

第二百九十九條 決議取消ノ訴ハ總會終結ノ日ヨリ三月以内ニ之ヲ提起
スルコトヲ要ス

其ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス
 第一項ノ規定ニ依リテ取締役ノ職務ヲ行フ監督後ハ第四百四十二條第一項ノ規定ニ從ヒ株主總會ノ承認ヲ得ル迄ハ監督ノ職務ヲ行フコトヲ得ズ
 第三十七條 會社ガ取締役ニ對シテハ又ハ取締役ガ會社ニ對シテハ但シ株主總會ハ他人ヲシテ之ヲ代表セシムルコトヲ得
 第三十八條 監督役ガ會社又ハ第三者ニ對シテ損害賠償ノ責任ズベキ場合ニ於テ取締役モ亦其ノ責任ズベキトキハ其ノ監督役及取締役ヘ之ヲ連帶債務者トス
 第三十九條 第四十九條、第五十條、第五十一條、第一百三十六條、第二百二十九條、第三百三十條及第三百三十二條ノ規定ハ監督役ニ之ヲ準用ス
 第四十條 取締役ハ定時總會ノ會日ヨリ二週間以前ニ左ノ書類ヲ監督役ニ提出スルコトヲ要ス
 一 財産目錄
 二 貸借對照表
 三 營業報告書
 四 損益計算書
 五 準備金及利益又ハ利息ノ配當ニ關スル議案
 第六十一條 取締役ハ定時總會ノ會日ノ一週間以前ヨリ前條ニ掲グル書類及監督役ノ報告書ヲ本店ニ備置スルコトヲ要ス
 株主及會社ノ債權者ハ營業時間内何時ニテモ前項ニ掲グル書類ノ閲覧ヲ求メ又ハ會社ノ定メタル費用ヲ支拂ヒテ其ノ

原本若ハ抄本ノ交付ヲ求ムルコトヲ得
 第四十二條 取締役ハ第四百四十條ニ掲グル書類ヲ定時總會ニ提出シテ其ノ承認ヲ求ムルコトヲ要ス
 取締役ハ前項ノ承認ヲ得タル後通過ナクハ貸借對照表ヲ公告スルコトヲ要ス
 第四十三條 定時總會ニ於テ前條第一項ノ承認ヲ爲シタル後二年以内ニ別段ノ決議ナキトキハ會社ハ取締役又ハ監督役ニ對シテ其ノ責任ヲ解除シタルモノト爲ス但シ取締役又ハ監督役ニ不正ノ行為アリタルトキハ此ノ限ニ在ラズ
 第四十四條 財産目錄ニ記載スル營業用ノ固定財産ニ付テハ其ノ取得價額又ハ製作價額ヲ超スル價額、取引所ノ相場アル有價證券ニ付テハ其ノ決算期前一月ノ平均價格ヲ超スル價額ヲ附スルコトヲ得ズ
 第四十五條 第十五條第一項第七號及第八號ノ規定ニ依リテ支出シタル金額並ニ設立登記ノ爲ニ支出シタル税額ハ之ヲ貸借對照表ノ資產ノ部ニ計上スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ會社成立ノ後、若開業前ニ利息ヲ配當スベキコトヲ定メタルトキハ其ノ配當ヲ止メタル後五年以内ニ毎決算期ニ於テ均等額以上ノ償却ヲ爲スコトヲ要ス
 第四十六條 社債權者ニ超過スベキ金額ノ總額ガ社債ノ募集ニ依リテ得タル實額ヲ超スルコトキハ其ノ總額ハ之ヲ貸借對照表ノ資產ノ部ニ計上スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ社債權者ノ期限內ニ毎決算期ニ於テ均等額以上ノ償却ヲ爲スコトヲ要ス
 第四十七條 資本總額ヘ之ヲ貸借對照表ノ負債ノ部ニ計上スルコトヲ要ス
 會社ガ數額ノ株式ヲ發行シタルトキハ各種額ノ株式ノ總額ヲモ表示スルコトヲ要ス
 第四十八條 會社ガ自己ノ株式ヲ取得シ又ハ買入ルノ目的トシテ之ヲ受ケタルトキハ其ノ株式ノ種類及金額ヲ營業報告

書中ニ記載スルコトヲ要ス其ノ株式ヲ處分シタルトキ亦同
 第四十九條 會社ハ其ノ資本ノ四分ノ一ニ過スル迄ハ毎決算期ノ利益ノ二十分ノ一以上ヲ準備金トシテ積立スルコトヲ要ス
 第五十條 前條ノ準備金ハ資本ノ缺損ノ填補ニ充ツル場合ヲ除ク外之ヲ使用スルコトヲ得ズ
 第五十一條 會社ハ損失ヲ填補シ且第四百四十九條第一項ノ準備金ヲ控除シタル後ニ非ザレバ利益ノ配當ヲ爲スコトヲ得ズ
 前項ノ規定ニ違反シテ配當ヲ爲シタルトキハ會社ノ債權者ヘ之ヲ返還セシムルコトヲ得
 第五十二條 會社ノ目的タル事業ノ性質ニ依リ會社ノ成立後二年以上其ノ營業全部ノ閉業ヲ爲スコト雖ハザルモ其ノ額ムルトキハ會社ハ定款ヲ以テ其ノ閉業前一定ノ期間内一定ノ利息ヲ株主ニ配當スベキコトヲ定ムルコトヲ得但シ其ノ利率ハ年五分ヲ超スルコトヲ得ズ
 前項ノ規定ニ依リテ配當シタル金額ハ之ヲ貸借對照表ノ負債ノ部ニ計上スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ年六分ヲ超スル利益ヲ配當スル毎ニ其ノ超過額ト同額以上ノ金額ヲ償却スルコトヲ要ス
 第五十三條 前條第一項ノ規定ニ依リテ利息ヲ配當スル會社ガ其ノ資本ヲ増加スル場合ニ於テハ新株ニ對シテモ亦利息ヲ配當スルコトヲ要ス但シ定款ニ別段ノ定メタルトキハ此ノ限ニ在ラズ
 前項ノ規定ヲ爲ス場合ニ於テハ配當期間ヲ延長スルコトヲ

得
 前條ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス
 第五十四條 利益又ハ利息ノ配當ニ關シテハ株主總會ノ議決ニ從ヒ之ヲ爲ス但シ第七十七條第一項ノ規定ノ適用ヲ妨グズ
 第五十五條 會社ノ年度中ニ拂込アリタル株式ノ利益又ハ利息ノ配當ハ其ノ拂込期日以後ノ日數ニ應ジテ之ヲ爲ス
 第五十六條 定款ヲ以テ利益又ハ利息ノ配當請求權ニ付清償期間ヲ定メタルトキハ其ノ期間ハ三年ヲ下ルコトヲ得ズ若シテ之ノ短キ期間ヲ定メタルトキハ其ノ期間ハ之ヲ三年ニ延長ス
 第五十七條 會社ノ業務ノ執行ニ關シ不正ノ行為又ハ法令若ハ定款ニ違反スル重大ナル事實アルコトヲ疑フベキ事由アルトキハ三月以前ヨリ引續キ資本ノ十分ノ一以上ニ當ル株式ヲ有スル株主ハ會社ノ業務及財産ノ狀況ヲ調査セシムル爲メ法院ニ検査役ノ選任ヲ請求スルコトヲ得
 検査役ハ其ノ調査ノ結果ヲ法院ニ報告スルコトヲ要ス
 前項ノ場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ法院ハ検査役ヲシテ株主總會ヲ招集セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第三十條第二項及第三十三條第二項ノ規定ヲ準用ス
 第五十八條 第一條 會社ノ業務ノ執行ニ關シ不正ノ行為又ハ法令若ハ定款ニ違反スル重大ナル事實アルコトヲ疑フベキ事由アルトキハ三月以前ヨリ引續キ資本ノ十分ノ一以上ニ當ル株式ヲ有スル株主ハ會社ノ業務及財産ノ狀況ヲ調査セシムル爲メ法院ニ検査役ノ選任ヲ請求スルコトヲ得
 検査役ハ其ノ調査ノ結果ヲ法院ニ報告スルコトヲ要ス
 前項ノ場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ法院ハ検査役ヲシテ株主總會ヲ招集セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第三十條第二項及第三十三條第二項ノ規定ヲ準用ス
 第五十九條 第一條 會社ノ業務ノ執行ニ關シ不正ノ行為又ハ法令若ハ定款ニ違反スル重大ナル事實アルコトヲ疑フベキ事由アルトキハ三月以前ヨリ引續キ資本ノ十分ノ一以上ニ當ル株式ヲ有スル株主ハ會社ノ業務及財産ノ狀況ヲ調査セシムル爲メ法院ニ検査役ノ選任ヲ請求スルコトヲ得
 検査役ハ其ノ調査ノ結果ヲ法院ニ報告スルコトヲ要ス
 前項ノ場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ法院ハ検査役ヲシテ株主總會ヲ招集セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第三十條第二項及第三十三條第二項ノ規定ヲ準用ス
 第六十條 第一條 會社ノ業務ノ執行ニ關シ不正ノ行為又ハ法令若ハ定款ニ違反スル重大ナル事實アルコトヲ疑フベキ事由アルトキハ三月以前ヨリ引續キ資本ノ十分ノ一以上ニ當ル株式ヲ有スル株主ハ會社ノ業務及財産ノ狀況ヲ調査セシムル爲メ法院ニ検査役ノ選任ヲ請求スルコトヲ得
 検査役ハ其ノ調査ノ結果ヲ法院ニ報告スルコトヲ要ス
 前項ノ場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ法院ハ検査役ヲシテ株主總會ヲ招集セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第三十條第二項及第三十三條第二項ノ規定ヲ準用ス

一 會社ノ商號
 二 社債ノ種類
 三 各社債ノ金額
 四 社債ノ利率
 五 社債ノ償還ノ方法及期限
 六 利息支拂ノ方法及期限
 七 數回ニ分テ社債ノ拂込ヲ爲サシムルトキハ各回ノ拂込ノ金額及時期
 八 社債發行ノ價額又ハ其ノ最低價額
 九 債券ノ記名式又ハ無記名式ニ限リタルトキハ其ノ旨
 十 會社ノ資本及拂込ミタル株主ノ總額
 十一 社債ノ貸借對照表ニ依リ會社ニ現存スル社債ノ總額
 十二 前條ニ依リ社債ノ募集スルトキハ其ノ旨
 第十三 前二社債ヲ募集シタルトキハ其ノ償還ヲ了セザル總額
 第十四 社債募集ノ委託ヲ受ケタル會社アルトキハ其ノ商號
 第十五 社債ノ募集額ガ總額ニ過セザル場合ニ於テ前條ノ會社ガ其ノ商號ヲ引受ケベキコトヲ約シタルトキハ其ノ旨
 第十六 社債發行ノ最低價額ヲ定メタル場合ニ於テハ社債權者ハ社債申込額ニ應ジテ社債額ヲ配當スルコトヲ要ス
 第十七 前條ノ規定ハ契約ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル場合ニ之ヲ適用セズ社債募集ノ委託ヲ受ケタル會社ガ自ラ社債ノ一部ヲ引受ケタル場合ニ於テ其ノ一部ニ付亦同ジ
 第十八 社債ノ募集ガ完了シタルトキハ取締役ハ總額ナク各社債ニ付其ノ全額又ハ第一回ノ拂込ヲ爲サシムルコトヲ要ス
 第十九 社債募集ノ委託ヲ受ケタル會社ハ自己ノ名ヲ以テ會社ノ爲メ第六十二條第二項及前條ニ定ムル行為ヲ爲スコトヲ得
 第二十 會社ハ第六十四條ノ拂込アリタル日ヨリ本店ノ所在地ニ於テハ二週間、支店ノ所在地ニ於テハ三週間以内ニ社債ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス
 第二十一 前項ノ登記ニ在リテハ左ノ事項ヲ登記スルコトヲ要ス
 一 第六十二條第二項第二號乃至第六號及第十四條ニ掲グル事項
 二 各社債ニ付拂込ミタル金額
 第四十條ノ規定ハ第一項ノ登記ニ之ヲ準用ス
 外國ニ於テ社債ヲ募集シタル場合ニ於テ登記スベキ事項ガ外國ニ於テ生ジタルトキハ登記ノ期間ハ其ノ通知ノ到達シタル時ヨリ之ヲ起ス
 第六十七條 第五十六條ノ規定ハ社債ガ個人ノ共有ニ屬スル場合ニ之ヲ準用ス
 第六十八條 債券ハ社債金額ノ拂込アリタル後ニ非ザレバ

ノ負擔トス但シ法院ハ利害關係人ノ申立ニ因リ又ハ債權ヲ以テ其ノ全部又ハ一部ニ付別ニ負擔者ヲ定ムルコトヲ得

第二四六條 債權ノ社債ヲ發行シタル場合ニ於テハ社債權者集會ハ其ノ各種權利ノ社債ニ付テ之ヲ招集スルコトヲ要ス

第二四七條 第八十七條第一項乃至第三項、第九十四條第三項、第九十五條、第九十六條第二項及第九十八條ノ規定ハ社債權者集會ニ之ヲ準用ス

第二四八條 社債權者集會ノ決議アルトキハ代表者又ハ執行者モ亦第八十一條第一項ノ訴ヲ提起スルコトヲ得但シ行爲ノ時ヨリ一年以内ニ限ル

第六節 定款ノ變更

第二四九條 定款ノ變更ヲ爲スニハ株主總會ノ決議アルコトヲ要ス

定款ノ變更ニ關スル議案ノ要領ハ第八十七條ニ定ムル通知及公告ニ之ヲ記載スルコトヲ要ス

第二五十條 前條第一項ノ決議ハ總株主ノ半數以上ニシテ資本ノ半額以上ニ當ル株主出席シ其ノ議決權ノ過半數ヲ以テ之ヲ爲ス

前項ニ定ムル員數ノ株主ガ出席セザルトキハ出席シタル株主ノ議決權ノ過半數ヲ以テ議決權ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ各株主ニ對シテ其ノ議決權ノ總額ヲ通知シ且無記名式ノ株券ヲ發行シタルトキハ其ノ總額ヲ公告シ更ニ一月以内ニ第二回ノ株主總會ヲ招集スルコトヲ要ス

第二回ノ株主總會ニ於テハ出席シタル株主ノ議決權ノ過半數ヲ以テ議決權ノ可否ヲ決ス

前二項ノ規定ハ會社ノ目的タル事業ヲ變更スル場合ニハ之ヲ適用セズ

第二五十一條 前條第一項ノ規定ノ適用ニ付テハ議決權ナキ株主ハ之ヲ總株主ノ員數ニ、其ノ有スル株式ノ金額ハ之ヲ資本ノ額ニ算入セズ

第九十四條第二項ノ規定ニ依リテ債券ヲ供給セザル者ハ之ヲ總株主ノ員數ニ算入セズ

第九十五條 第二項ノ規定ハ前條第一項乃至第三項ノ議決權ニ之ヲ準用ス

第二五二條 會社ガ債權ノ株式ヲ發行シタル場合ニ於テ定款ノ變更ガ債權ノ株主ニ損害ヲ及ボスベキトキハ株主總會ノ決議ノ外其ノ種類ノ株主ノ總會ノ決議アルコトヲ要ス或種類ノ株主ノ總會ノ決議ハ其ノ種類ノ株主ノ半數以上ニシテ株主總會ノ半額以上ニ當ル株主出席シ其ノ議決權ノ三分ノ二以上ノ多數ヲ以テ之ヲ爲ス

株主總會ニ關スル規定ハ議決權ナキ種類ノ株式ニ關スルモノヲ除クノ外第一項ノ規定ニ之ヲ準用ス

第二五三條 前條ノ規定ハ第七十七條第二項ノ決議ヲ爲ス場合及會社ノ合併ニ因リテ或種類ノ株主ニ損害ヲ及ボスベキ場合ニ之ヲ準用ス

第二五十四條 第七十七條第二項及前二條ノ規定ハ同種類ノ株式ニ關シテ換込額ヲ異ニスル二種以上ノモノアル場合ニ之ヲ準用ス

第二五五條 左ノ事項ハ定款ニ其ノ旨ノ定ナキトキト雖モ資本増加ノ決議ニ於テ之ヲ定ムルコトヲ得

一 新株ノ額面以上ノ發行

二 現物出資ヲ爲ス者ノ姓名、出資ノ目的タル財產、其ノ價格及之ニ對シテ與フル株式ノ種類及數

三 資本ノ増加ニ關シテ受タルコトヲ約シタル財產、其ノ價格及讓渡人ノ姓名

四 新株ノ引受額ヲ與フベキ者及其ノ權利ノ内容

第二五六條 會社ガ特定ノ者ニ對シテ資本増加ノ決議アル場合ニ於テ新株ノ引受額ヲ與フベキコトヲ約スルニハ第二五十七條ニ定ムル決議ニ依ルコトヲ要ス

第二五十七條 株式申込額ハ取替役之ヲ作リ之ニ左ノ事項ヲ

記載スルコトヲ要ス

一 會社ノ商號

二 資本増加ノ決議ノ年月日

三 資本増加ノ決議ノ金額

四 第一回換込ノ金額

五 第二十二條第二項第五號第六號及第二百十五條第一號乃至第三號ニ據ル事項

六 債權ノ株式アルトキ又ハ異種類ノ株式ヲ發行スルトキハ新發行スル株式ノ額面及數

七 一定ノ時期迄ニ第二百十八條ノ總會ガ終結セザルトキハ株式ノ申込額ヲ取消スルコトヲ得ベキコト

第二五八條 資本増加ノ場合ニ於テ各新株ニ付二十五條及第二十六條ノ規定ニ依ル換込及現物出資ノ納付アリタルトキハ取替役ハ適當ナル株主總會ヲ招集シテ之ニ新株ノ募集ニ關スル事項ヲ報告スルコトヲ要ス

新株ノ引受人ハ前項ノ總會ニ於テ株主ト同一ノ權利ヲ有ス

第二五九條 新株ノ引受人ハ株主ト同一ノ權利ヲ有ス

第三十條ニ付株主ト同一ノ權利ヲ有ス

第二六十條 會社ノ成立後二年以内ニ其ノ資本ヲ增加スル決議ヲ爲シ又ハ資本ヲ倍額以上ニ増加スル場合ニ於テ第二十五條第二號又ハ第三號ニ據ル事項ヲ定ムルコトヲ得

取替役ハ之ニ關スル調査ヲ爲サシムル權限及委任ヲ該院ニ請求スルコトヲ得

第三十條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二六十一條 監査役ハ左ノ事項ヲ調査シ之ヲ第二百十八條ノ株主總會ニ報告スルコトヲ要ス

一 新株募集ノ引受アリタルヤ否

二 第二十五條及第二十六條ノ規定ニ依ル換込及現物出資ノ納付アリタルヤ否

監査役ハ前條第一項ノ調査後ノ報告書ヲ調査シ株主總會ニ

其ノ意見ヲ報告スルコトヲ要ス

株主總會ハ第一項ノ調査及報告ヲ爲サシムル爲メ特ニ検査役ヲ委任スルコトヲ得

第二六二條 第二百二十條第一項ノ場合ニ於テハ第二百十八條ノ株主總會ノ決議ハ第二百十條ノ規定ニ依ルニ非ザレバ之ヲ爲スコトヲ得

第二六三條 前條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二六四條 引受ナキ株式又ハ第一回ノ換込ノ未済ナル株式アルトキハ取替役ハ適當ナル其ノ株式ヲ引受ケ又ハ換込ヲ爲ス義務ヲ負フ株式ノ申込額ヲ取消サレタルトキ亦同ジ

前項ノ規定ハ取替役ニ對シテ其ノ議決權ノ請求ヲ妨グ

第二六五條 會社ハ第二百十八條ノ株主總會終結ノ日又ハ第二百二十二條第二項ノ手續終了ノ日ヨリ本店ノ所在地ニ於テハ二週間、支店ノ所在地ニ於テハ三週間以内ニ資本増加ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ登記ニ在リテハ左ノ事項ヲ登記スルコトヲ要ス

一 増加シタル資本ノ額

二 資本増加ノ決議ノ年月日

三 各新株ニ付換込ミタル株金額

四 債權ノ株式アルトキ又ハ異種類ノ株式ヲ發行スルトキハ新發行スル株式ノ内容及數

第四十條ノ規定ハ第一項ノ登記ニ之ヲ準用ス

第二六六條 資本ノ増加ハ本店ノ所在地ニ於テ前條第一項ノ登記ヲ爲スニ因リテ其ノ效力ヲ生ズ

第二六七條 資本増加ノ場合ニ於テハ定款ヲ以テ株主ガ其ノ引受ケタル新株ヲ他ノ種類ノ株式ニ轉換スルコトヲ請求シ得ベキ旨ヲ定ムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ轉換ヲ請求シ得ベキ期間及轉換ニ因リテ受ベキ株式ノ内容及數ハ第二五十七條ノ規定ニ依リテ定ムルコトヲ要ス

第二六八條 前條ノ場合ニ於テハ株式申込額、株券及株式

主名簿ニ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 株式ヲ他ノ種類ノ株式ニ轉換スルコトヲ得ベキコト

二 轉換ニ因リテ發行スベキ株式ノ内容

三 轉換ノ請求ヲ爲スコトヲ得ベキ期間

資本増加ノ登記ニ在リテハ前項ニ據ル事項ヲ登記スルコトヲ要ス

第二六九條 轉換ヲ請求スル者ハ請求書ニ通ニ株券ヲ添附シテ之ヲ會社ニ提出スルコトヲ要ス

前項ノ請求書ニハ轉換セントスル株式ノ數及請求ノ年月日ヲ記載シ之ニ署名スルコトヲ要ス

第二七十條 轉換ハ其ノ請求ヲ爲シタル時ノ營業年度ノ終ニ於テ其ノ效力ヲ生ズ

第二七一條 轉換ニ因リテ生ジタル各種權利ノ株式ノ數ノ増減ハ營業年度ノ終ヨリ一月以内ニ本店ノ所在地ニ於テ之ヲ登記スルコトヲ要ス

第二七十二條 前項ノ登記ニ之ヲ準用ス

第二七三條 轉換ノ場合ニ於テハ社債權者ガ社債ヲ株式ニ轉換スルコトヲ請求シ得ベキ旨且轉換ノ限度ニ於テ前項ノ決議ニ於テハ轉換ノ條件、轉換ニ因リテ發行スベキ株式ノ内容及轉換ヲ請求シ得ベキ期間ヲ定ムルコトヲ要ス

第二七四條 轉換ニ因リテ發行スベキ株式ハ全額換込済ノモノトス

轉換ニ因リテ發行スベキ株式ノ金額ハ轉換スベキ社債ノ發行ニ因リテ得タル實額ヲ超ユルコトヲ得

第二百四十九條 第二項ノ規定ハ社債ノ轉換ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二七五條 轉換社債ニ付テハ社債申込額、債券及社債ノ原簿ニ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 社債ノ株式ニ轉換スルコトヲ得ベキコト

二 轉換ノ條件

三 轉換ニ因リテ發行スベキ株式ノ内容

四 轉換ノ請求ヲ爲スコトヲ得ベキ期間

資本増加ノ登記ニ在リテハ前項ニ據ル事項ヲ登記スルコトヲ要ス

第二七六條 轉換ヲ請求スル者ハ請求書ニ通ニ債券ヲ添附シテ之ヲ會社ニ提出スルコトヲ要ス

前項ノ請求書ニハ轉換セントスル社債額ヲ表示シ請求ノ年月日ヲ記載シ之ニ署名スルコトヲ要ス

第二七七條 轉換ハ第六十一條第一項及第二百二十九條ノ規定ニ依リテ其ノ效力ヲ生ズ

第二七八條 轉換ニ因リテ生ジタル資本ノ増加及社債ノ減少ハ營業年度ノ終ヨリ一月以内ニ本店ノ所在地ニ於テ之ヲ登記スルコトヲ要ス

第二七九條 前項ノ登記ニ之ヲ準用ス

第二八〇條 第二十二條第一項第三項、第二十三條乃至第二十八條、第三十一條第二項、第四十一條、第四十二條第一項及第四十三條ノ規定ハ資本増加ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四十二條第二項ノ規定ハ取替役及監査役ニ之ヲ準用ス

第二八一條 株券ハ資本増加ガ其ノ效力ヲ生ジタル後ニ非ザレバ之ヲ發行スルコトヲ得

第八十條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

資本増加ノ年月日ハ之ヲ新株券ニ記載スルコトヲ要ス

第二八二條 資本増加ノ無効ハ第二百二十四條又ハ第二百三十六條ノ規定ニ依リ本店ノ所在地ニ於テ登記ヲ爲シタル日ヨリ六月以内ニ訴ヲ以テ之ヲ主張スルコトヲ得

前項ノ訴ハ株主、取替役又ハ監査役ニ限リ之ヲ提起スルコトヲ得

第二八三條 第二百三條、第二百四條第二項乃至第四項、第二百五條、第二百六條、第二百九十三條及第二百九十九條ノ規定

ハ前條ノ訴ニ之ヲ適用ス
 第二四十一條 資本ノ増加ヲ無効トスル判決ヲ確定シタルトキハ資本ノ増加ニ因リテ發行シタル新株ハ將來ニ向テ其ノ效力ヲ失フ
 前項ノ場合ニ於テハ會社ハ遲滞ナク其ノ旨及一定ノ期間内ニ株券ヲ會社ニ提出スベキ旨ヲ公告シ且株主及株主名簿ニ記載アル債權者ニハ各別ニ之ヲ通知スルコトヲ要ス但シ其ノ期間ハ三月ヲ下ルコトヲ得ズ
 第二四十二條 前條第一項ノ場合ニ於テハ會社ハ新株ノ株主ニ對シテ其ノ拂込ミタル株金ニ相當スル金額ノ支拂ヲ爲スコトヲ要ス
 前項ノ金額ガ前條第一項ノ判決確定ノ時ニ於ケル會社財産ノ狀況ニ照シテ不相當ナルトキハ法院ハ會社又ハ前項ノ株主ノ請求ニ因リ前項ノ金額ノ増減又ハ未拂込株金額ノ拂込ヲ命ズルコトヲ得
 第六十一條第一項及第六十二條第一項ノ規定ハ第一項ノ場合ニ之ヲ適用ス
 第二四十三條 會社ガ資本ノ増加後二年以内ニ其ノ増加前ヨリ存在スル財産ニシテ營業ノ爲ニ繼續シテ使用スベキモノヲ増加資本ノ二十分ノ一以上ニ當ル對價ヲ以テ取得スル契約ヲ爲スニハ第二百十條ニ定ムル決議ニ依ルコトヲ要ス
 第二四十四條 資本減少ノ場合ニ於テハ其ノ決議ニ於テ減少ノ方法ヲ定ムルコトヲ要ス
 第二四十五條 資本減少ノ決議アリタルトキハ其ノ決議ノ日ヨリ二週間以内ニ財産目録及貸借對照表ヲ作ルコトヲ要ス
 第二四十六條 會社ハ前條ノ期間内ニ其ノ債權者ニ對シテ資本減少ノ決議アリタル一定ノ期間内ニ之ヲ通知スベキ旨ヲ公告シ且知レタル債權者ニハ各別ニ之ヲ催告スルコトヲ要ス但シ其ノ期間ハ二月ヲ下ルコトヲ得ズ

社債權者ガ債權ヲ述ブルニハ社債權者集會ノ決議ニ依ルコトヲ要ス此ノ場合ニ於テハ法院ハ利害關係人ノ請求ニ因リ社債權者ノ債ニ異議ノ期間ヲ伸長スルコトヲ得
 債權者ガ前二項ノ期間内ニ異議ヲ述ベザリシトキハ資本減少ヲ承認シタルモノト看做ス
 債權者ガ異議ヲ述ベタルトキハ會社ハ擔保ヲ爲シ又ハ相當ノ擔保ヲ供スルコトヲ要ス
 第二四十七條 株式ノ併合ヲ爲サントスルトキハ會社ハ其ノ旨及一定ノ期間内ニ株券ヲ會社ニ提出スベキ旨ヲ公告シ且株主及株主名簿ニ記載アル債權者ニハ各別ニ之ヲ通知スルコトヲ要ス但シ其ノ期間ハ三月ヲ下ルコトヲ得ズ
 株式ノ併合ハ前項ノ期間満了ノ時、若前條ノ手續ガ未ダ終了セザルトキハ其ノ終了ノ時ニ於テ其ノ效力ヲ生ズ
 第二四十八條 株式ノ併合アリタル場合ニ於テ舊株券ヲ提出スルコト能ハザル者アルトキハ會社ハ其ノ者ノ請求ニ因リ利害關係人ニ對シ異議アラバ一定ノ期間内ニ之ヲ述ベベキ旨ヲ公告シ其ノ期間經過後ニ於テ新株券ヲ交付スルコトヲ得但シ其ノ期間ハ三月ヲ下ルコトヲ得ズ
 前項ノ公告ノ費用ハ請求者ノ負擔トス
 第二四十九條 併合ニ適セザル株式アルトキハ其ノ併合ニ適セザル部分ニ付新發行シタル株式ヲ賣渡シ且株式數ニ應ジテ其ノ代金ヲ從前ノ株主ニ交付スルコトヲ要ス
 第六十八條第一項但書及前條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ適用ス
 前二項ノ規定ハ無記名式ノ株券ニシテ第二百四十七條第一項ノ規定ニ依ル進出ナカリシモノニ之ヲ適用ス
 第二五十條 資本減少ノ無効ハ本店ノ所在地ニ於テ資本減少ノ登記ヲ爲シタル日ヨリ六月以内ニ訴ヲ以テ之ヲ主張スルコトヲ得
 前項ノ訴ハ株主、取締役、監査役、清算人、破産管財人又

ハ資本ノ減少ヲ承認セザル債權者ニ限リ之ヲ提起スルコトヲ得
 債權者ガ第一項ノ訴ヲ提起シタルトキハ會社ノ請求ニ因リ相當ノ擔保ヲ供スルコトヲ要ス
 第二百四十條ノ規定ハ第一項ノ訴ニ之ヲ適用ス
 第七條 會社ノ整理
 第二五十一條 會社ノ現況其ノ他ノ事情ニ依リ支拂不能又ハ債務超過ニ陥ルノ虞アリト認ムルトキハ法院ハ取締役、監査役、三月以前ヨリ引續キ資本ノ十分ノ一以上ニ當ル株式ヲ有スル株主又ハ拂込株金額ノ十分ノ一以上ニ當ル債權者ノ申立ニ因リ會社ニ對シ整理ノ開始ヲ命ズルコトヲ得會社ニ支拂不能又ハ債務超過ノ虞アリト認ムルトキ亦同ジ
 會社ノ業務ヲ監督スル官廳ハ會社ニ前項ニ據ル事由アリト認ムルトキハ法院ニ其ノ旨ヲ通告スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ法院ハ職權ヲ以テ整理ノ開始ヲ命ズルコトヲ得
 整理開始ノ申立ガ權利ノ濫用其ノ他不當ノ目的ニ出ヅルモノト認ムルトキハ法院ハ其ノ申立ヲ却下スルコトヲ得
 第二五十二條 法院ガ整理ノ開始ヲ命ズタルトキハ直ニ會社ノ本店及支店ノ所在地ノ登記處ニ整理開始ノ登記ヲ囑託スルコトヲ要ス
 第二五十三條 整理開始ノ申立又ハ通告アリタル場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ法院ハ破産手續ノ中止ヲ命ズルコトヲ得
 整理開始ノ命令アリタルトキハ破産ノ申立又ハ會社財産ニ對シ強制作行、假差押若ハ假差分ヲ爲スコトヲ得ズ破産手續並ニ既ニ爲シタル強制執行、假差押及假差分ハ之ヲ中止ス
 整理開始ノ命令ガ確定シタルトキハ前二項ノ規定ニ依リテ中止シタル手續ハ整理ノ關係ニ於テハ其ノ效力ヲ失フ
 第二五十四條 整理開始ノ命令アリタル場合ニ於テ債權者

ノ一般ノ利益ニ適應シ且債權申立人ニ不當ノ損害ヲ及ボスノ虞ナキモノト認ムルトキハ法院ハ相當ノ期間ヲ定メ拍賣法ニ依ル拍賣手續ノ中止ヲ命ズルコトヲ得
 第二五十五條 整理開始ノ命令アリタルトキハ會社ノ債權者ノ債權ニ付テハ整理開始ノ取消ノ登記又ハ整理終結ノ登記ノ日ヨリ二月以内ハ時効完成セズ
 第二五十六條 左ノ場合ニ於テハ相殺ヲ爲スコトヲ得ズ
 一 會社ノ債權者ガ整理開始ノ命令アリタル後會社ニ對シテ債務ヲ負擔シタルトキ
 二 會社ノ債權者ガ整理開始ノ命令アリタル後其ノ命令前ニ生ジタル他人ノ債權ヲ取得シタルトキ
 三 會社ノ債權者ガ整理開始ノ申立又ハ通告アリタルコトヲ知リテ整理開始ノ命令前ニ生ジタル會社ニ對スル債權ヲ取得シタルトキ但シ其ノ取得ガ法定ノ原因ニ基キタルキ、債權者ガ整理開始ノ申立若ハ通告アリタルコトヲ知リタル時ヨリ前ニ生ジタル原因ニ基キタルトキ又ハ整理開始ノ命令ノ時ヨリ一年以前ニ生ジタル原因ニ基キタルトキハ此ノ限ニ在ラズ
 第二五十七條 整理開始ノ命令アリタル場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ法院ハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得
 一 會社ノ業務ノ制限其ノ他會社財産ノ保全處分
 二 株主ノ名義書換ノ禁止
 三 會社ノ業務及財産ニ對スル検査ノ命令
 四 取締役又ハ監査役ノ解任
 五 取締役又ハ監査役ノ責任ノ免除ノ禁止
 六 債權人、取締役又ハ監査役ノ責任ノ免除ノ取消但シ債權ノ開始ヨリ一年以前ニ爲シタル免除ニ付テハ不正ノ旨のニ出ヅタルモノニ限ル
 七 債權人、取締役又ハ監査役ノ責任ニ基キ擔保債權者

九 前條ノ損害賠償請求權ニ付債權人、取締役又ハ監査役ノ財產ニ對シテ爲ス保全處分
 十 會社ノ業務及財産ニ關スル監督ノ命令
 十一 會社ノ業務及財産ニ關スル管理ノ命令
 整理開始ノ申立又ハ通告アリタルトキハ法院ハ其ノ開始前ト雖モ第二百五十一條第一項ニ據ル者ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ前項第一號乃至第三號、第九號又ハ第十號ノ處分ヲ爲スコトヲ得
 第二五十八條 法院ガ前條第一項第五號、第十號又ハ第十一號ノ處分ヲ爲シタルトキハ直ニ會社ノ本店及支店ノ所在地ノ登記處ニ其ノ旨ヲ登記ヲ囑託スルコトヲ要ス前條第一項第一號ノ業務ノ制限ノ處分ヲ爲シタルトキ亦同ジ
 前條第一項第一號又ハ第九號ノ處分ニシテ登記又ハ登記ヲ爲スベキ財産ニ關スルモノニ付テハ法院ハ直ニ其ノ旨ヲ登記又ハ登記ヲ囑託スルコトヲ要ス
 第二五十九條 第二百五十七條第一項第三號ノ検査ハ會社ノ業務及財産ノ狀況其ノ他會社ノ整理ニ必要ナル事項ニ付法院ノ委任シタル検査役ノ爲ス
 検査役ハ會社ノ業務ガ不良ト爲リタル事情及發起人、取締役又ハ監査役ニ不正又ハ懈怠ナカリシヤ否ヤヲ調査スルコトヲ要ス
 第二六十條 検査役ハ調査ノ結果殊ニ左ノ事項ヲ法院ニ報告スルコトヲ要ス
 一 整理ノ見込アリヤ否ヤ
 二 發起人、取締役又ハ監査役ニ第四十四條、第四十五條、第二百二十六條、第二百二十九條又ハ第二百二十三條ノ規定ニ依リテ責任ニ付ベキ事實アリヤ否ヤ
 三 會社ノ業務及財産ニ付擔保又ハ管理ヲ爲ス必要アリヤ否ヤ

會社財産ノ保全處分ヲ爲ス必要アリヤ否ヤ
 四 會社ノ損害賠償請求權ニ付發起人、取締役又ハ監査役ノ財產ニ對シテ保全處分ヲ爲ス必要アリヤ否ヤ
 第二六十一條 検査役數人アルトキハ共同シテ其ノ職務ヲ行フ但シ法院ハ許可ヲ得テ職務ヲ分掌スルコトヲ得
 第二六十二條 検査役ハ發起人、取締役、監査役及支配人其ノ他ノ使用人ニ對シ會社ノ業務及財産ノ狀況ニ付報告ヲ求メ會社ノ帳簿、書類、金銀其ノ他ノ物件ヲ検査スルコトヲ得
 検査役ハ其ノ調査ヲ爲スニ當リ法院ノ許可ヲ得テ執行官又ハ警察官吏ノ援助ヲ求ムルコトヲ得
 第二六十三條 第二百五十七條ノ規定ハ検査役ニ之ヲ適用ス前項ノ規定ニ依ル注意ヲ怠リタル検査役ハ利害關係人ニ對シ連帶シテ損害賠償ノ責任ヲ負フ
 第二六十四條 検査役ハ會社ヨリ費用ノ前拂及報酬ヲ受ルコトヲ得其ノ額ハ法院之ヲ定ム
 第二六十五條 第二百五十七條第一項第四號ノ處分ヲ爲シタル場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ法院ハ整理委員ヲ選任スルコトヲ得
 整理委員ハ整理ニ關スル立案ノ任ニ當リ且取締役ガ其ノ實行ヲ爲スニ付テ之ヲ協力ス
 第二六十六條 第二百六十二條第一項、第二百六十三條及前條ノ規定ハ整理委員ニ之ヲ適用ス
 第二六十七條 整理ノ實行上株金ノ拂込ヲ爲サシムル爲ニ必要アリト認ムルトキハ取締役ハ各株主ニ對シ其ノ有スル株式ノ數及未拂込株金額ヲ通知シ異議アラバ一定ノ期間内ニ之ヲ述ベベキ旨ヲ催告スルコトヲ得但シ其ノ期間ハ一月ヲ下ルコトヲ得ズ
 株主ガ前項ノ期間内ニ異議ヲ述ベザリシトキハ通知シタル事項ヲ承認シタルモノト看做ス

條主が異議ヲ述べタルトキハ取締役ハ其ノ確定ヲ法院ニ請
 求スルコトヲ要ス
 第二百六十七條 取締役ハ前條ノ承認又ハ確定アリタル事項
 ニ付主として執行スルコトヲ要ス
 取締役兼金ノ拂込ヲ爲サシメントスルトキハ其ノ拂込金額
 ニ付法院ノ認可ヲ得ルコトヲ要ス
 會社ハ株主ニ對シ前項ノ認可ノ記載アル株主表ノ抄本ニ基
 キテ強制執行ヲ爲スコトヲ得
 第二百六十八條 第二百五十七條第一項第八號ノ規定ニ依リ
 テ爲シタル査定ニ不服アル者ハ査定ノ告知ヲ受ケタル日ヨ
 リ一月以内ニ異議ノ訴ヲ提起スルコトヲ得
 査定ヲ罷可シ又ハ之ヲ變更シタル判決ハ強制執行ニ關シテ
 ハ給付ヲ命ズル判決ト同一ノ效力ヲ有ス
 第二百六十九條 前條第一項ノ規定ハ第一項ノ訴ニ之
 ヲ準用ス
 第二百七十條 前條第一項ノ期間内ニ訴ノ提起ナキトキハ
 査定ハ給付ヲ命ズル確定判決ト同一ノ效力ヲ有ス訴ガ却下
 セラレタルトキ亦同ジ
 第二百七十一條 査定ノ申立ハ時效ノ中断ニ關シテハ之ヲ裁判
 上ノ請求ト看做ス職權ニ依ル査定手續ノ開始亦同ジ
 第二百七十二條 第二百五十七條第一項第十號ノ監督ハ法院
 ノ委任シタル監督員之ヲ爲ス
 取締役ガ法院ノ指定シタル行爲ヲ爲スニハ監督員ノ同意ヲ
 得ルコトヲ要ス
 第二百七十三條 第二百五十七條第一項第十一號ノ管理ハ法
 院ノ委任シタル管理人之ヲ爲ス
 會社ノ代表、業務ノ執行並ニ財産ノ管理及分付ヲ爲ス權利
 ハ管理人之專屬ス第二百二十九條、第二百三十九條、第二百五
 十條、第二百九十二條及第二百九十八條ノ規定ニ依ル取締役

ノ權利亦同ジ
 第二百六十一條乃至第二百六十四條ノ規定ハ管理人之ヲ
 準用ス
 第二百七十三條 管理人數人アルトキハ第三者ノ意思表示ハ
 其ノ一人ニ對シテ之ヲ爲スルヲ以テ足ル
 第二百七十四條 管理人之臨時故離アル場合ニ於テ其ノ職務
 ヲ行ハシムル爲自己ノ責任ヲ以テ豫メ代理人ヲ委任スルコ
 トヲ得
 前項ノ代理人ノ委任ハ法院ノ認可ヲ得ルコトヲ要ス
 第二百七十五條 整理ガ終了シ又ハ整理ノ必要ナキニ至リタ
 ルトキハ法院ハ第二百五十一條第一項ニ據リテ、検査役、
 整理委員、監督員又ハ管理人ノ申立ニ因リ整理終了ノ裁定
 ヲ爲スコトヲ得
 第二百七十六條 第二百五十二條及第二百五十八條ノ規定ハ
 整理終了ノ裁定又ハ整理開始ノ命令ヲ取消ス裁定ガ確定シ
 タル場合ニ之ヲ準用ス
 第二百七十七條 整理開始ノ命令アリタル場合ニ於テ整理ノ
 見込ナキトキハ法院ハ繼續ヲ以テ破産法ニ從ヒ破産ノ宣告
 ヲ爲スコトヲ要ス
 第二百七十八條 解散及設立ノ無効
 一 存立時期ノ満了其ノ他定款ニ定メタル事由ノ發生
 二 株主總會ノ決議
 三 會社ノ合併
 四 營業全部ノ譲渡
 五 會社ノ破産
 六 解散ヲ命ズル裁判
 七 破産ノ決定
 八 債權ノ決議
 九 債權ノ決議
 第二百七十九條 解散ハ第二百五十條ノ規定ニ依ルニ非
 ザレバ之ヲ爲スルコトヲ得ズ
 第二百八十條 會社ガ解散シタルトキハ破産ノ場合ヲ除クノ

外取締役ハ遺留ナク株主ニ對シテ其ノ旨ノ通知ヲ發シ且無
 記名式ノ簿ヲ發行シタル場合ニ於テハ之ヲ公告スルコト
 ヲ要ス
 第二百八十一條 會社ガ解散シタルトキハ合併及破産ノ場合
 ヲ除クノ外本店ノ所在地ニ於テハ二週間、支店ノ所在地ニ
 於テハ三週間以内ニ解散ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス
 第二百八十二條 第二百七十八條第一號又ハ第二號ノ場合ニ
 於テハ第二百十條ニ定ムル決議ニ依リテ會社ヲ繼續スルコ
 トヲ得
 會社ハ本店ノ所在地ニ於テ解散ノ登記ヲ爲シタル後ト雖モ
 前項ノ決議ヲ爲スコトヲ妨グズ此ノ場合ニ於テハ本店ノ所
 在地ニ於テハ二週間、支店ノ所在地ニ於テハ三週間以内ニ
 解散ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス
 第二百八十三條 會社ガ合併ヲ爲スニハ合併契約ヲ作リ株
 主總會ノ承認ヲ得ルコトヲ要ス
 合併契約書ノ要領ハ第八十七條ニ定ムル通知及公告ニ之ヲ
 記載スルコトヲ要ス
 第一項ノ決議ハ第二百十條ノ規定ニ依ルニ非ザレバ之ヲ爲
 スコトヲ得ズ
 第二百八十四條 合併ヲ爲ス會社ノ一方ガ合併後存続スル場
 合ニ於テハ合併契約書ニ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス
 一 存続スル會社ノ增加スベキ資本ノ額
 二 合併ニ因リテ消滅スル會社ノ株主ニ對スル新株ノ額
 三 合併ニ因リテ消滅スル會社ノ株主ニ支拂フべき金
 額ヲ定メタルトキハ其ノ規定
 四 各會社ニ於テ前條第一項ノ決議ヲ爲スべき株主總會ノ
 期日
 五 合併ヲ爲スべき時期ヲ定メタルトキハ其ノ規定

第二百八十五條 合併ニ因リテ會社ヲ設立スル場合ニ於テハ
 合併契約書ニ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス
 一 合併ニ因リテ設立スル會社ノ目的、商號、資本ノ總額、
 一株ノ金額及本店ノ所在地
 二 合併ニ因リテ設立スル會社ノ發行スベキ株式ノ種類、
 數及拂込金額並ニ各會社ノ株主ニ對スル株式ノ割當ニ關
 スル事項
 三 各會社ノ株主ニ支拂フべき金額ヲ定メタルトキハ
 其ノ規定
 前條第四號及第五號ニ據ル事項
 第二百八十六條 合併ヲ爲ス會社ノ一方ガ合併後存続スル場
 合ニ於テハ其ノ取締役ハ第二百四十六條ノ手續ヲ終了後、
 合併ニ因ル株式ノ併合アリタルトキハ其ノ效力ヲ生ジタル
 後、合併ニ對シテ七ヶ月以内ニ於テハ其ノ效力ヲ生ジタル
 會社ニ於テ第二百四十九條ノ規定ヲ爲シタル後遺留ナク株主
 總會ヲ召集シテ之ニ合併ニ關スル事項ヲ報告スルコトヲ要
 ス
 第二百八十七條 合併ニ規定ハ前項ノ株主總會ニ之ヲ準用ス
 第二百八十八條 合併ニ因リテ會社ヲ設立スル場合ニ於テハ
 設立委員ハ第二百四十六條ノ手續ヲ終了後、合併ニ因ル株
 式ノ併合アリタルトキハ其ノ效力ヲ生ジタル後、合併ニ對
 セザル株式アリタルトキハ第二百四十九條ノ規定ヲ爲シタ
 ル後遺留ナク株主總會ヲ召集スルコトヲ要ス
 創立總會ニ於テハ定款變更ノ決議ヲ爲スコトヲ得但シ合
 併契約ノ趣旨ニ反スルコトヲ得ズ
 第二百八十九條 第三十一條第一項、第三十二條
 及第三十五條第二項ノ規定ハ第一項ノ創立總會ニ之ヲ準用
 ス
 第二百九十八條 會社ガ合併ヲ爲シタルトキハ第二百八十六
 條ノ株主總會又ハ前條ノ創立總會ノ終納ノ日ヨリ本店ノ所

在地ニ於テハ二週間、支店ノ所在地ニ於テハ三週間以内ニ
 合併後存続スル會社ニ付テハ變更ノ登記、合併ニ因リテ消
 滅スル會社ニ付テハ解散ノ登記、合併ニ因リテ設立シタル
 會社ニ付テハ第三十六條ニ定ムル登記ヲ爲スコトヲ要ス
 合併後存続スル會社又ハ合併ニ因リテ設立シタル會社ガ合
 併ニ因リテ社債ヲ承擔シタルトキハ前項ノ登記ト同時ニ社
 債ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス
 第二百九十九條 會社ノ合併ハ合併後存続スル會社又ハ合併
 ニ因リテ設立シタル會社ガ其ノ本店ノ所在地ニ於テ前條第
 一項ノ登記ヲ爲スニ因リテ其ノ效力ヲ生ズ
 第二百九十九條 合併後存続スル會社又ハ合併ニ因リテ設立シ
 タル會社ハ合併ニ因リテ消滅シタル會社ノ權利義務ヲ承繼
 ス
 第二百九十九條 第二百四十五條及第二百四十六條ノ規定ハ
 會社ノ合併ノ場合ニ之ヲ準用ス
 第二百九十九條 第六十一條第一項及第六十二條第三項ノ規定ハ株式ヲ併合
 因ル株式併合ノ場合ニ之ヲ準用ス
 第六十一條第一項及第六十二條第三項ノ規定ハ株式ヲ併合
 セザル場合ニ於テ合併ニ因リテ消滅スル會社ノ株式ヲ目的
 トスル買權ニ之ヲ準用ス
 第二百九十九條 會社ノ合併ハ合併ノ無効ハ合併ノ日ヨリ六月以内
 ニ訴ヲ以テ之ヲ主張スルコトヲ得
 前項ノ訴ハ各會社ノ株主、取締役、検査役、清算人、破産
 管財人又ハ合併ヲ承認セザル債權者ニ限り之ヲ提起スルコ
 トヲ得
 第二百九十九條 前條第一項ノ訴ノ提起アリタル場合ニ於テ
 合併ノ無効ノ原因ヲ根據ガ補充セラレタルトキ又ハ會社
 ノ現況其ノ他一切ノ事情ヲ斟酌シテ合併ノ無効トスルコト
 ヲ不適當ト認ムルトキハ法院ハ請求ヲ受理スルコトヲ得
 第二百九十九條 合併ノ無効トスル判決ガ確定シタルトキハ

本店及支店ノ所在地ニ於テ合併後存続スル會社ニ付テハ變
 更ノ登記、合併ニ因リテ設立シタル會社ニ付テハ解散ノ登
 記、合併ニ因リテ消滅シタル會社ニ付テハ開復ノ登記ヲ爲
 スコトヲ要ス
 第二百九十九條 合併ヲ無効トスル判決ハ合併後存続スル會
 社又ハ合併ニ因リテ設立シタル會社、其ノ株主及第三者ノ
 間ニ生ジタル權利義務ニ影響ヲ及ボサズ
 第二百九十九條 合併ヲ無効トスル判決ガ確定シタルトキハ
 合併ヲ爲シタル會社ハ合併後存続スル會社又ハ合併ニ因リ
 テ設立シタル會社ガ合併後負擔シタル債務ニ付連帶シテ辨
 濟ノ責ニ任ズ
 第二百九十九條 合併後存続スル會社又ハ合併ニ因リテ設立シタル會社ガ合
 併後取得シタル財産ハ合併ヲ爲シタル會社ノ共有ニ屬ス
 前二項ノ場合ニ於テハ各會社ノ負擔部分又ハ持分ハ其ノ協
 議ヲ以テ之ヲ定ム協議無ハザルトキハ法院ハ請求ニ因リ合
 併ノ時ニ於ケル各會社ノ財産ノ額其ノ他一切ノ事情ヲ斟酌
 シテ之ヲ定ム
 第二百九十九條 第三百三條、第四百條第二項乃至第四項、第
 百五條、第六十六條及第二百五十條第三項ノ規定ハ第二百九
 十二條第一項ノ訴ニ之ヲ準用ス
 第二百九十九條 會社ノ設立ノ無効ハ其ノ成立ノ日ヨリ二年
 以内ニ訴ヲ以テ之ヲ主張スルコトヲ得
 前項ノ訴ハ株主、取締役又ハ検査役ニ限り之ヲ提起スルコ
 トヲ得
 第二百九十九條 第四百條第三項第四項、第五百條、第六十六條、
 第二百九十三條及第二百九十五條ノ規定ハ第一項ノ訴ニ之
 ヲ準用ス
 第二百九十九條 設立ヲ無効トスル判決ガ確定シタルトキハ
 本店及支店ノ所在地ニ於テ其ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス
 第二百九十九條 設立ヲ無効トスル判決ガ確定シタルトキハ解散ノ

場合ニ準ジテ清算ヲ爲スコトヲ要ス此ノ場合ニ於テハ法院ハ利害關係人ノ請求ニ因リ清算人ヲ選任ス

第九節 清算

第一節 總則

第三百一節 會社ガ解散シタルトキハ合併及破産ノ場合ヲ除ク外清算ヲ爲スコトヲ要ス

第三百二節 會社ガ第八條ノ裁判ニ因リテ解散シタル場合ヲ除ク外取締役其ノ清算人ト爲ル但シ定款ニ別段ノ定アルトキ又ハ株主總會ニ於テ他人ヲ選任シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第三百三節 會社ガ第八條ノ裁判ニ因リテ解散シタル場合ハ利害關係人若ハ檢察官ノ請求ニ因リテハ職權ヲ以テ清算人ヲ選任ス

第三百四節 第一項ノ規定ニ依リテ清算人タル者ナキトキハ法院ハ利害關係人ノ請求ニ因リテ清算人ヲ選任ス

第三百五節 取締役ガ清算人ト爲リタルトキハ解散ノ日ヨリ本店ノ所在地ニ於テハ三週間、支店ノ所在地ニ於テハ四週間以内ニ左ノ事項ヲ登記スルコトヲ要ス

一 清算人ノ氏名及住所

二 清算人ニシテ會社ヲ代表セザル者アルトキハ會社ヲ代表スベキ者ノ氏名

三 數人ノ清算人ガ共同シテ會社ヲ代表スベキ定アルトキハ其ノ選任アリタルトキハ其ノ清算人ハ本店ノ所在地ニ於テハ二週間、支店ノ所在地ニ於テハ三週間以内ニ前項ノ事項ヲ登記スルコトヲ要ス

第四百節ノ規定ハ前二項ノ登記ニ之ヲ準用ス

第五百節 清算人ハ其ノ就職ノ日ヨリ二週間以内ニ左ノ事項ヲ報告スルコトヲ要ス

一 現務ノ了了

二 債權ノ取立及債務ノ辨濟

三 債權財產ノ分配

第三百六節 清算人數人アルトキハ清算ニ關スル行爲ハ其ノ過半数ヲ以テ之ヲ決ス

第三百七節 取締役ガ清算人ト爲リタル場合ニ於テハ從前ノ定ニ從ヒテ會社ヲ代表ス

第三百八節 法院ガ數人ノ清算人ヲ選任スル場合ニ於テハ會社ヲ代表スベキ者ヲ定メ又ハ數人ガ共同シテ會社ヲ代表スベキコトヲ定ムルコトヲ得

第三百九節 會社ヲ代表スベキ清算人ハ其ノ職務ニ關スル一切ノ裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス

第三百十節 清算人ハ就職ノ後過期ナク會社財產ノ現況ヲ調査シ財產目録及貸借對照表ヲ作り之ヲ株主總會ニ提出シテ其ノ承認ヲ求ムルコトヲ要ス

第三百十一節 清算人ハ前項ノ承認ヲ得タル後過期ナク財產目録及貸借對照表ヲ法院ニ提出スルコトヲ要ス

第三百十二節 清算人ハ財產目録、貸借對照表及事務報告書ヲ作り定時總會ノ會日ヨリ二週間以前ニ之ヲ監査役ニ提出スルコトヲ要ス

第三百十三節 清算人ハ其ノ就職ノ日ヨリ二月以内ニ少トモ三回ノ公告ヲ以テ債權者ニ對シ一定ノ期間内ニ其ノ請求ヲ申出ツベキ旨ヲ催告スルコトヲ要ス但シ其ノ期間ハ二月ヲ下ルコトヲ得ズ

第三百十四節 債權者ガ期間内ニ申出ラザルトキハ清算ヨリ除斥セラルベキ旨ヲ附記スルコトヲ要ス

第三百十五節 債權者ガ期間内ニ申出ラザルトキハ清算ヨリ除斥セラルベキ旨ヲ附記スルコトヲ要ス

第三百十六節 債權者ガ期間内ニ申出ラザルトキハ清算ヨリ除斥セラルベキ旨ヲ附記スルコトヲ要ス

第三百十七節 債權者ガ期間内ニ申出ラザルトキハ清算ヨリ除斥セラルベキ旨ヲ附記スルコトヲ要ス

第三百十八節 債權者ガ期間内ニ申出ラザルトキハ清算ヨリ除斥セラルベキ旨ヲ附記スルコトヲ要ス

第三百十九節 債權者ガ期間内ニ申出ラザルトキハ清算ヨリ除斥セラルベキ旨ヲ附記スルコトヲ要ス

第三百二十節 債權者ガ期間内ニ申出ラザルトキハ清算ヨリ除斥セラルベキ旨ヲ附記スルコトヲ要ス

第三百二十一節 債權者ガ期間内ニ申出ラザルトキハ清算ヨリ除斥セラルベキ旨ヲ附記スルコトヲ要ス

第三百二十二節 債權者ガ期間内ニ申出ラザルトキハ清算ヨリ除斥セラルベキ旨ヲ附記スルコトヲ要ス

第三百二十三節 債權者ガ期間内ニ申出ラザルトキハ清算ヨリ除斥セラルベキ旨ヲ附記スルコトヲ要ス

第三百二十四節 債權者ガ期間内ニ申出ラザルトキハ清算ヨリ除斥セラルベキ旨ヲ附記スルコトヲ要ス

第三百二十五節 債權者ガ期間内ニ申出ラザルトキハ清算ヨリ除斥セラルベキ旨ヲ附記スルコトヲ要ス

第三百二十六節 債權者ガ期間内ニ申出ラザルトキハ清算ヨリ除斥セラルベキ旨ヲ附記スルコトヲ要ス

第三百二十七節 債權者ガ期間内ニ申出ラザルトキハ清算ヨリ除斥セラルベキ旨ヲ附記スルコトヲ要ス

第三百二十八節 債權者ガ期間内ニ申出ラザルトキハ清算ヨリ除斥セラルベキ旨ヲ附記スルコトヲ要ス

第三百二十九節 債權者ガ期間内ニ申出ラザルトキハ清算ヨリ除斥セラルベキ旨ヲ附記スルコトヲ要ス

第三百十二節 清算人ハ知レタル債權者ニハ各別ニ其ノ債權ノ申出ヲ催告スルコトヲ要ス

第三百十三節 清算人ハ第三百十一條第一項ノ債權申出ノ期間内ニ債權者ニ對シテ催告スルコトヲ得ズ但シ會社ハ之ガ爲ニ遲延ニ因リ債權者ノ責任ヲ免ルコトナシ

第三百十四節 清算人ハ前項ノ規定ニ拘ラズ法院ノ許可ヲ得テ少額ノ債權及擔保アル債權其ノ他之ヲ辨濟スルモ他ノ債權者ヲ害スルノ虞ナキ債權ニ付辨濟ヲ爲スコトヲ得

第三百十五節 會社ハ辨濟期ニ至ラザル債權ト雖モ之ヲ辨濟スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ無利息債權ニ付テハ辨濟期ニ至ル迄ノ法定利息ヲ加算シテ其ノ債權額ニ連スベキ金額ヲ辨濟スルコトヲ要ス

前項ノ規定ハ利息附債權ニシテ其ノ利率ガ法定利率ニ連セザルモノニ付テ之ヲ準用ス

第三百十六節 第一項ノ場合ニ於テハ條件附債權、存続期間ノ不確定ナル債權其ノ他債權ノ不確定ナル債權ニ付テハ法院ノ選任シタル債權人ノ評價ニ從ヒテ之ヲ辨濟スルコトヲ要ス

第三百十七節 清算ヨリ除斥セラレタル債權者ハ未ダ分配セザル債權財產ニ對シテノミ辨濟ヲ請求スルコトヲ得

一部ノ株主ニ債權シ既ニ分配シタル場合ニ於テハ他ノ株主ニ對シテ同一ノ割合ヲ以テ分配スルコトヲ要ス

第三百十八節 清算人ハ株主ノ請求ニ關スル規定又ハ株主總會ノ決議ニ拘ラズ何時ニテモ株主ヲシテ株主ノ請求ヲ爲サシムルコトヲ得但シ會社ノ債務ヲ完済スル爲ニ必要ナル金額ヲ超過スルコトヲ得ズ

第三百十九節 清算人ハ會社ノ債務ヲ辨濟シタル後ニ非ザレバ會社財產ヲ株主ニ分配スルコトヲ得ズ但シ爭アル債權ニ

第三百二十節 法院ハ何時ニテモ清算事務及財產ノ狀況ノ報告ヲ命ジ其ノ他清算ノ監督上必要ナル調査ヲ爲スコトヲ得

第三百二十一節 清算ノ監督上必要アリト認ムルトキハ法院ハ第三百五十二條第一項第一號、第二號又ハ第六號ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第三百二十二節 會社ノ債務ハ其ノ債權額ノ割合ニ應ジテ之ヲ辨濟スルコトヲ要ス

第三百二十三節 第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三百二十四節 清算ノ實行上必要アリト認ムルトキハ清算人ハ債權者總會ヲ召集スルコトヲ得

申出ラザル債權者其ノ他會社ニ知レタル債權者ノ總債權額ノ十分ノ一以上ニ當ル債權ヲ有スル者ハ會社ノ目的タル事項及招集ノ理由ヲ記載シタル書面ヲ清算人ニ提出シテ債權者總會ノ召集ヲ請求スルコトヲ得

第三百二十五節 第九十二條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

債權者ガ會社財產ノ上ニ擔保權ヲ有スル場合ニ於テ其ノ擔保權ノ行使ニ依リテ辨濟ヲ受タルコトヲ得ベキ金額ハ之ヲ第二項ノ債權額ニ算入セズ

第三百二十六節 前條第四項ノ債權者ハ擔保權ノ行使ニ依リテ辨濟ヲ受タルコトヲ得ベキ債權額ニ付テハ債權者總會ニ於テ議決權ヲ行使スルコトヲ得ズ

債權者總會又ハ其ノ召集者ハ第一項ノ債權者ノ出席ヲ求めテ其ノ意見ヲ徵スルコトヲ得

第三百二十七節 債權者總會ニ於テ議決權ヲ行使セシムベキヤ否ヤ及如何ナル金額ニ付テ之ヲ行使セシムベキヤハ各債權ニ付清算人ノ之ヲ定ム

前項ノ定ニ付議決アルトキハ法院之ヲ定ム

第三百二十八節 債權者總會ノ決議ニハ議決權ヲ行使スルコト

第三百二十九節 債權者總會ノ決議ニハ議決權ヲ行使スルコト

第三百三十節 債權者總會ノ決議ニハ議決權ヲ行使スルコト

第三百三十一節 債權者總會ノ決議ニハ議決權ヲ行使スルコト

第三百三十二節 債權者總會ノ決議ニハ議決權ヲ行使スルコト

第三百三十三節 債權者總會ノ決議ニハ議決權ヲ行使スルコト

第三百三十四節 債權者總會ノ決議ニハ議決權ヲ行使スルコト

第三百三十五節 債權者總會ノ決議ニハ議決權ヲ行使スルコト

第三百三十六節 債權者總會ノ決議ニハ議決權ヲ行使スルコト

第三百三十七節 債權者總會ノ決議ニハ議決權ヲ行使スルコト

第三百三十八節 債權者總會ノ決議ニハ議決權ヲ行使スルコト

第三百三十九節 債權者總會ノ決議ニハ議決權ヲ行使スルコト

第三百四十節 債權者總會ノ決議ニハ議決權ヲ行使スルコト

第三百四十一節 債權者總會ノ決議ニハ議決權ヲ行使スルコト

第三百四十二節 債權者總會ノ決議ニハ議決權ヲ行使スルコト

第三百四十三節 債權者總會ノ決議ニハ議決權ヲ行使スルコト

第四百八條 第六百六條ノ規定ニ依リテ清算シタル取消ノ債權者ノ利益ノ爲ニ其ノ效力ヲ生ズ

第四百九條 會社ガ第四百五條第四項ノ規定ニ違反シテ其ノ財産ヲ處分シタルトキハ社員ノ持分ヲ維持シタル者ハ會社ニ對シテ其ノ持分ニ相當スル金額ノ支拂ヲ請求スルコトヲ得

第四百十條 第四百五條第一項ノ規定ニ依リテ會社財産ノ處分方法ヲ定メザリシトキハ第四百十一條乃至第四百十九條ノ規定ニ從ヒテ清算ヲ爲スコトヲ要ス

第四百十一條 業務執行社員ハ清算人ト爲ル但シ社員ノ過半數ヲ以テ別ニ清算人ヲ選任シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第四百十二條 會社ガ解散ヲ命ズル裁判又ハ社員ガ一人ト爲リタルコトニ因リテ解散シタルトキハ法院ハ利害關係人若シテ檢察官ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ清算人ヲ選任ス

第四百十三條 清算人ハ債務期ニ拘ラズ社員ヲシテ出資ヲ爲サシムルコトヲ得

第四百十四條 前項ノ規定ニ依リテ選任シタル清算人ハ清算人ト爲ル但シ清算人ガ會社ノ業務ノ全部又ハ一部ヲ管理スルニハ社員ノ過半數ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第四百十五條 清算人ハ職權ノ後遺留ヲ會社財産ノ現況ヲ調査シ財務目録及貸借對照表ヲ作り之ヲ社員ニ交付スルコトヲ要ス

清算人ハ社員ノ請求ニ因リ毎月清算ノ狀況ヲ報告スルコトヲ要ス

第四百十六條 社員ガ選任シタル清算人ハ何時ニテモ之ヲ解任スルコトヲ得此ノ解任ハ社員ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス

重要ナル事由アルトキハ法院ハ利害關係人ノ請求ニ因リ清算人ヲ解任スルコトヲ得

第四百十七條 清算人ノ任務ガ終了シタルトキハ清算人ハ清算ノ計算ヲ爲シテ各社員ノ承継ヲ求ムルコトヲ要ス

前項ノ計算ニ對シ社員ガ一月以内ニ異議ヲ述べザリシトキハ之ヲ承認シタルモノト爲ス但シ清算人ニ不正ノ行爲アリタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第四百十八條 清算ガ終了シタルトキハ清算人ハ前條ノ承認アリタル後本店ノ所在地ニ於テハ二週間、支店ノ所在地ニ於テハ三週間以内ニ清算終了ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第四百十九條 第三百三條、第三百五條乃至第三百八條、第三百十四條、第三百十七條及第三百十九條ノ規定ハ合名會社ニ之ヲ準用ス

第四百二十條 第二百七條、第二百十條第二項、第二百十一條、第二百十六條、第二百六十八條、第二百六十九條及第三百七十七條ノ規定ハ清算人ニ之ヲ準用ス

第四百二十一條 會社ノ組織ニ其ノ營業及清算ニ關スル重要事項ハ第四百五條ノ規定ニ依リテ本會社ノ所在地ニ於テ登記ノ登記ヲ爲シタル後、其ノ他ノ場合ニ在リテハ清算終了ノ登記ノ後十年間之ヲ保存スルコトヲ要ス其ノ保存者ハ社員ノ過半數ヲ以テ之ヲ定ム第三百二十三條第二項ノ規定ニ依リテ選任シタル清算人ニ之ヲ準用ス

第四百二十二條 清算ガ死亡シタル場合ニ於テ其ノ相續人ハ人アルトキハ清算人ト爲ル但シ其ノ相續人一人ノ定ムルコトヲ要ス

第四百二十三條 第三百七十四條ニ定ムル社員ノ責任ハ本店ノ所在地ニ於テ解散ノ登記ヲ爲シタル後五年以内ニ請求スルコトヲ得

第四百二十四條 會社ノ清算ノ債務者ニ對シテハ登記後五年ノ期間經過ノ後ト雖モ分別ゼル債權財產仍存スルトキハ會社ノ債務者ハ之ニ對シテ清算ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第四百二十五條 合名會社ハ有限責任社員ト無限責任社員トヲ以テ之ヲ組織ス

第四百二十六條 合名會社ニハ本會社ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外合名會社ニ關スル規定ヲ準用ス

第四百二十七條 合名會社ノ定款ニハ第三百五十七條ニ掲グル事項ノ外各社員ノ責任ノ有無又ハ無限ナルコトヲ記載スルコトヲ要ス

第四百二十八條 合名會社ノ設立ノ登記ニ在リテハ第三百五十八條第一項ニ掲グル事項ノ外各社員ノ責任ノ有無又ハ無限ナルコトヲ登記スルコトヲ要ス

第四百二十九條 有限責任社員ニ付テハ登記シタル事項ノ公告ニハ其ノ員數及出資ノ總額ノミヲ掲グ變更ノ登記アリタルトキ亦同シ

第四百三十條 有限責任社員ハ金額其ノ他ノ財産ノミヲ以テ其ノ出資ノ目的ヲ爲スコトヲ得

第四百三十一條 各無限責任社員ハ定款ニ別段ノ定ナキトキハ會社ノ業務ヲ執行スル權利ヲ有シ業務執行ハ其ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス

第四百三十二條 支那人ノ選任及解任ハ特ニ業務執行社員ヲ定ムルコトヲ要ス

第四百三十三條 有限責任社員ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス

第四百三十四條 有限責任社員ハ營業年度ノ終ニ於テ營業時間内ニ限リ會社ノ財産目録及貸借對照表ノ閲覧ヲ求メ且會社ノ業務及財産ノ狀況ヲ検査スルコトヲ得

第四百三十五條 重要ナル事由アルトキハ有限責任社員ハ何時ニテモ法院ノ許可ヲ得テ會社ノ業務及財産ノ狀況ヲ検査スルコトヲ得

第四百三十六條 有限責任社員ハ無責任社員ト承継スルコトヲ得

第四百三十七條 有限責任社員ガ自己若シハ第三者ノ會社ノ業務ノ一部ニ關スル取引ヲ爲シ又ハ同種ノ業務ノ目的ト爲ル會社ノ無責任社員若シハ取締役ト爲ルニハ他ノ社員ノ承継アルコトヲ要セズ

第四百三十三條 有限責任社員ハ會社ノ業務ヲ執行シ又ハ會社ヲ代表スルコトヲ得ズ

第四百三十四條 有限責任社員ハ其ノ出資ノ價額ヲ限度トシテ會社ノ債務ヲ擔保スル責任ニ任ズ但シ既ニ會社ニ對シ履行ヲ爲シタル出資ノ價額ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ規定ニ依リテ會社ニ利益ナキニ拘ラズ適當ヲ受ケタル金額ハ之ヲ控除シテ其ノ出資ノ價額ヲ定ム

第四百三十五條 有限責任社員ハ出資ノ減少後ト雖モ本店ノ所在地ニ於テ其ノ登記ヲ爲ス前ニ生ジタル會社ノ債務ニ付テハ從前ノ責任ヲ免ルコトヲ得

第四百三十六條 前項ノ規定ニ依リテ選任シタル清算人ハ清算人ト爲ル但シ清算人ガ會社ノ業務ノ全部又ハ一部ヲ管理スルニハ社員ノ過半數ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第四百三十七條 第三百七十六條ノ規定ハ有限責任社員ガ無限責任社員ト爲リタル場合、第三百八十六條ノ規定ハ無限責任社員ガ有限責任社員ト爲リタル場合ニ之ヲ準用ス

第四百三十八條 有限責任社員ガ死亡シタルトキハ其ノ相續人ハ之ニ代リテ社員ト爲ル

第四百三十九條 有限責任社員ハ其ノ相續人數人アル場合ニ之ヲ準用ス

第四百四十條 有限責任社員ハ其ノ相續人數人アル場合ニ之ヲ準用ス

第四百四十一條 有限責任社員ハ其ノ相續人數人アル場合ニ之ヲ準用ス

第四百四十二條 有限責任社員ハ其ノ相續人數人アル場合ニ之ヲ準用ス

第四百四十三條 有限責任社員ハ其ノ相續人數人アル場合ニ之ヲ準用ス

第四百四十四條 有限責任社員ハ其ノ相續人數人アル場合ニ之ヲ準用ス

第四百四十五條 有限責任社員ハ其ノ相續人數人アル場合ニ之ヲ準用ス

第四百四十六條 有限責任社員ハ其ノ相續人數人アル場合ニ之ヲ準用ス

第四百四十七條 有限責任社員ハ其ノ相續人數人アル場合ニ之ヲ準用ス

第四百四十八條 有限責任社員ハ其ノ相續人數人アル場合ニ之ヲ準用ス

第四百四十九條 有限責任社員ハ其ノ相續人數人アル場合ニ之ヲ準用ス

第四百五十條 有限責任社員ハ其ノ相續人數人アル場合ニ之ヲ準用ス

有限責任社員ノ全員ガ退社シタル場合ニ於テハ無限責任社員ノ一數ヲ以テ合名會社トシテ會社ヲ繼續スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ本店ノ所在地ニ於テハ二週間、支店ノ所在地ニ於テハ三週間以内ニ合名會社ニ付テハ解散ノ登記、合名會社ニ付テハ第三百五十八條第一項ニ定ムル登記ヲ爲スコトヲ要ス

第四百四十條 合名會社ハ總社員ノ同意ヲ以テ其ノ組織ヲ變更シテ之ヲ合名會社ト爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ前條ノ規定ヲ準用ス

第四百四十一條 業務執行社員ハ清算人ト爲ル但シ無限責任社員ノ過半數ヲ以テ別ニ清算人ヲ選任シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第四百四十二條 前條但書ノ規定ニ依リテ選任シタル清算人ハ清算人ト爲ル但シ清算人ガ會社ノ業務ノ全部又ハ一部ヲ管理スルニハ社員ノ過半數ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第四百四十三條 發起人、取締役、監査役、第三百五條第二項、第三百三十條第一項、第三百三十二條第一項若シハ第三百九條ノ職務代行者若シハ支那人又ハ檢査役ハ左ノ場合ニ於テハ五年以下ノ任期又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 會社ノ設立又ハ資本増加ノ場合ニ於テ株式總數ノ引受、株金ノ拂込若シハ現物出資ノ給付ニ付テハ第三百五條第一項第四號乃至第八號若シハ第二百五條第二號、第三號ニ掲グル事項ニ付法院又ハ總會ニ對シ不實ノ申述ヲ爲シ又ハ事實ヲ隱蔽シタルトキ

二 何人ノ名義ヲ以テシタル間ハ會社ノ計算ニ於テ不正ニ其ノ株式ヲ取得シ又ハ質權ノ目的トシテ之ヲ受ケタルトキ

三 法令又ハ定款ノ規定ニ違反シテ利益又ハ利息ノ配當ヲ爲シタルトキ

會社ノ營業ノ範圍外ニ於テ投資取引ノ爲ニ會社財産ヲ

處分シタルトキ

第四百四十四條 發起人、取締役、監査役、第三百五條第二項、第三百三十條第一項、第三百三十二條第一項若シハ第三百九條ノ職務代行者、支那人又ハ株式若シハ社債募集ノ委託ヲ受ケタル者株式又ハ社債ノ募集ニ當リ重要ナル事項ニ付不實ノ記載アル株式申込、社債申込、目録見當其ノ他株式又ハ社債ノ募集ニ關スル文書ヲ頒布シ又ハ重要ナル事項ニ付虛偽ノ廣告ヲ爲シタルトキハ五年以下ノ任期又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

第四百四十五條 前二條ノ任期ト罰金トハ之ヲ併科スルコトヲ得

第四百四十六條 發起人、取締役、監査役、檢査役、清算人、監理委員、監査員、第二百七十二條第一項ノ管理入、監査委員、社債募集ノ委託ヲ受ケタル會社、其ノ事務ノ承継者、社債募集會ノ代表者、其ノ決議ヲ執行スル者又ハ第三百五十五條第二項、第三百三十條第一項、第三百三十二條第一項、第三百九條若シハ第三百二十四條ノ職務代行者、會社ノ業務ヲ執行スル社員又ハ支那人ハ左ノ場合ニ於テハ五千圓以下ノ過科ニ處ス但シ其ノ行爲ニ付利ヲ科スベキトキハ此ノ限ニ在ラズ

一 本法ニ定ムル登記ヲ爲スコトヲ怠リタルトキ

二 本法ニ定ムル公告若シハ通知ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ公告若シハ通知ヲ爲シタルトキ

三 本法ノ規定ニ違反シテ不正ノ事由ナクシテ會社ノ組織又ハ其ノ資本若シハ債券ノ交付ヲ拒ミタルトキ

四 本法ニ定ムル檢査又ハ調査ノ妨グタルトキ

五 會社ノ業務、社債募集會又ハ債權者集會ニ對シ不實ノ申述ヲ爲シ又ハ事實ヲ隱蔽シタルトキ

六 第二百二十二條第二項、第二百六十二條第二項、第二百七十七條、第二百二十七條第一項又ハ第二百三十三條第一項ノ

規定ニ違反シテ株式申込書又ハ社債申込書ヲ作ラズ、之ニ記載スベキ事項ヲ記載セズ又ハ不實ノ記載ヲ爲シタルトキ

七 第四十二條第二項又ハ第二百三十七條第二項ノ規定ニ違反シテ株式ノ引受ニ因ル權利ノ譲渡ヲ爲シタルトキ

八 正當ノ事由ナクシテ株式ノ名義書換ヲ爲シタルトキ

九 第六十五條ノ規定ニ違反シテ株式失効ノ手續又ハ株式若ハ質權ノ處分ヲ爲スコトヲ爲シタルトキ

十 第六十六條第一項ノ規定ニ違反シテ株式ノ消却ヲ爲シタルトキ

十一 換券又ハ債券ニ記載スベキ事項ヲ記載セズ又ハ不實ノ記載ヲ爲シタルトキ

十二 第八十條第一項又ハ第二百三十八條第一項ノ規定ニ違反シテ株式ヲ發行シタルトキ

十三 第八十二條第一項ノ規定ニ違反シテ株式無記名式ト爲シタルトキ

十四 第八十九條ノ規定又ハ第五百五十六條第三項ノ規定ニ依ル法院ノ命令ニ違反シテ株式總會ヲ召集セズ又ハ定款ニ定メタル地以外ノ地ニ於テ若ハ第八十八條第一項ノ規定ニ違反シテ株式總會ヲ召集シタルトキ

十五 法律又ハ定款ニ定メタル取締役又ハ監査役ノ員數ヲ缺タニシリタル場合ニ於テ其ノ選任手續ヲ爲スコトヲ爲シタルトキ

十六 定款、株主名簿、社債原簿、議事録、財産目録、貸借對照表、營業報告書、事務報告書、損益計算書、準備金及利益若ハ利息ノ配當ニ關スル議案、株主表、決算報告書、第三百三十八條ノ調査書又ハ商人通法第二百三條第一項ノ帳簿ニ記載スベキ事項ヲ記載セズ又ハ不實ノ記載ヲ爲シタルトキ

十七 第二百二十三條第一項、第二百四十一條第一項又ハ第二百二十四條ノ規定ニ違反シテ帳簿又ハ書類ヲ備置カザルトキ

十八 第四百十九條又ハ第五百十條ノ規定ニ違反シテ準備金ヲ積立テズ又ハ之ヲ使用シタルトキ

十九 第五百十八條ノ規定ニ違反シテ社債ヲ募集シ又ハ社債ノ償還ヲ爲サザルトキ

二十 第六十八條第一項ノ規定ニ違反シテ債券ヲ發行シタルトキ

二十一 第二百四十五條、第二百四十六條、第二百九十一條第一項、第三百九十四條第一項又ハ第四百五條第三項ノ規定ニ違反シテ資本ノ減少、合併又ハ會社財産ノ處分ヲ爲シタルトキ

二十二 第二百五十七條、第三百二十六條、第三百三十一條又ハ第三百五十二條第一項ノ規定ニ依ル法院ノ財産保全ノ處分ニ違反シタルトキ

二十三 第三百十九條若ハ第四百十九條第一項ノ規定ニ違反シテ破産ノ申立ヲ爲スコトヲ爲リ又ハ第三百二十五條第二項ノ規定ニ違反シテ特別清算開始ノ申立ヲ爲スコトヲ爲リタルトキ

二十四 法院ノ選任シタル管理人又ハ清算人ニ事務ノ引渡ヲ爲サザルトキ

二十五 清算ノ終了ヲ遲延セシムル目的ヲ以テ第三百一十一條第一項又ハ第四百五條第三項ノ期間ヲ不當ニ定メタルトキ

二十六 第三百十三條又ハ第三百三十二條ノ規定ニ違反シテ債權ノ辨別ヲ爲シタルトキ

二十七 第三百十七條又ハ第四百十九條第一項ノ規定ニ違反シテ會社財産ノ分配シタルトキ

二十八 第三百四十條第一項又ハ第二項ノ規定ニ違反シタルトキ

第二百四十四條ノ規定ニ違反シテ帳簿又ハ書類ヲ備置カザルトキ

第四百四十三條、第四百四十四條又ハ前條ニ掲グル者ガ法人ナルトキハ本章ノ罰則ハ其ノ行爲ヲ爲シタル取締役其ノ他業務ヲ執行スル役員若ハ社員又ハ支配人ニ之ヲ適用ス

第四百四十八條 第七條第一項ノ設立委員ハ本章ノ規定ノ適用ニ付テハ之ヲ發起人ト看做ス

附則
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム (廣徳四年勅令第三二五號ヲ以テ同年十二月一日ヨリ施行)

○手形法

(廣徳四年五月十三日) 勅令第八九號

段組續法(第四十一條)ニ依リ參照府ノ商會ヲ經テ手形法ヲ裁可シ之ヲ公布セシム

第一章 爲替手形

第一條 爲替手形ニ係ル事項ヲ記載スベシ

一 證券ノ文言中ニ其ノ證券ノ作成ニ用フル語ヲ以テ記載スル爲替手形ナルコトヲ示ス文字

二 一定ノ金額ヲ支拂フベキ旨ノ單詞ナル委託

三 支拂ヲ爲スベキ者(支拂人)ノ名稱

四 満期ノ表示

五 支拂ヲ爲スベキ地ノ表示

六 支拂ヲ受ケ又ハ之ヲ受ケル者ヲ指圖スル者ノ名稱

七 手形ヲ發出ス日及地ノ表示

八 手形ヲ發出ス者(發出人)ノ署名

第二條 前條ニ掲グル事項ノ何レカヲ缺ク證券ハ爲替手形タル效力ヲ有セズ但シ次ノ數項ニ規定スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

満期ノ記載ナキ爲替手形ハ之ヲ一覽拂ノモノト看做ス

支拂人ノ名稱ニ附記シタル地(特別ノ表示ナキ限リ)ノ支拂地ニシテ且支拂人ノ住所タルモノト看做ス

發出地ノ記載ナキ爲替手形ハ發出人ノ名稱ニ附記シタル地ニ於テ之ヲ發出シタルモノト看做ス

第三條 爲替手形ハ發出人ノ自己指圖ニテ之ヲ發出スコトヲ得

爲替手形ハ發出人ノ自己指圖ニテ之ヲ發出スコトヲ得

爲替手形ハ第三者ノ計算ニ於テ之ヲ發出スコトヲ得

第四條 爲替手形ハ支拂人ノ住所地ニ在ルト又ハ其ノ他ノ地ニ在ルトヲ問ハズ第三者ノ住所ニ於テ支拂フベキモノト爲スコトヲ得

第五條 一覽拂又ハ一覽後定期拂ノ爲替手形ニ於テハ發出人ハ手形金額ニ付利息ヲ生ズベキ旨ノ約定ヲ記載スルコトヲ得其ノ他ノ爲替手形ニ於テハ此ノ約定ノ記載ハ之ヲ爲サザルモノト看做ス

利率ハ之ヲ手形ニ表示スルコトヲ要ス其ノ表示ナキトキハ利息ノ約定ノ記載ハ之ヲ爲サザルモノト看做ス

第六條 爲替手形ノ金額ヲ文字及數字ヲ以テ記載シタル場合ニ於テ其ノ金額ニ差異アルトキハ文字ヲ以テ記載シタル金額ヲ手形金額トス

爲替手形ノ金額ヲ文字ヲ以テ又ハ數字ヲ以テ重複シテ記載シタル場合ニ於テ其ノ金額ニ差異アルトキハ最小金額ヲ手形金額トス

第七條 爲替手形ニ手形債務ヲ負擔スル能力ナキ者ノ署名、偽造ノ署名、假設人ノ署名又ハ其ノ事由ニ因リ爲替手形ノ署名者若ハ其ノ本人ニ義務ヲ負ハシムルコト能ハザル署名アル場合ト雖モ他ノ署名者ノ債務ハ之ガ爲其ノ效力ヲ妨ケザルモノトナシ

第八條 代理權ヲ有セザル者ガ代理人トシテ爲替手形ニ署名シタルトキハ自ラ其ノ手形ニ因リ債務ヲ負フ其ノ者ガ支拂ヲ爲シタルトキハ本人ト同一ノ權利ヲ有ス繼續ヲ超エタル代理人ニ付亦同ジ

第九條 發出人ハ引受及支拂ヲ擔保ス

發出人ハ引受ヲ擔保セザル旨ヲ記載スルコトヲ得支拂ヲ擔保セザル旨ノ一切ノ文言ハ之ヲ記載セザルモノト看做ス

第十條 未完成ニテ發出シタル爲替手形ニ補メ爲シタル合意ト異ル補充ヲ爲シタル場合ニ於テハ其ノ違反ハ之ヲ以テ所持人ニ對抗スルコトヲ得ズ但シ所持人ガ惡意又ハ重大ナル過失ニ因リ爲替手形ヲ取得シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第二章 爲替手形

第十一條 爲替手形ハ指圖式ニテ發出サザルトキ雖モ裏書ニ依リテ之ヲ譲渡スルコトヲ得

發出人ガ爲替手形ニ「指圖禁止」ノ文字又ハ之ト同一ノ意義ヲ有スル文言ヲ記載シタルトキハ其ノ證券ハ指名債權ノ譲渡ニ關スル方式ニ從ヒ且其ノ效力ヲ以テノミ之ヲ譲渡スルコトヲ得

裏書ハ引受ヲ爲シタル又ハ爲サザル支拂人、發出人其ノ他ノ債務者ニ對シテモ之ヲ爲スコトヲ得此等ノ者ハ更ニ手形ヲ裏書スルコトヲ得

第十二條 裏書ハ單詞ナルコトヲ要ス裏書ニ附シタル條件ハ之ヲ記載セザルモノト看做ス

一部ノ裏書ハ之ヲ無効トス

持參人持ノ裏書ハ白地式裏書ト同一ノ效力ヲ有ス

第十三條 裏書ハ爲替手形又ハ之ト結合シタル紙片(補箋)ニ之ヲ記載シ裏書人署名スルコトヲ要ス

裏書ハ被裏書人ヲ指定セズシテ之ヲ爲シ又ハ單ニ裏書人ノ署名ノミヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得(白地式裏書)

此ノ後ノ場合ニ於テハ裏書ハ爲替手形ノ裏面又ハ補箋ニ之ヲ爲スニ非ザレバ其ノ效力ヲ有セズ

第十四條 裏書ハ爲替手形ヨリ生ズル一切ノ權利ヲ移轉ス裏書ガ白地式ナルトキハ所持人ハ

一 自己ノ名稱又ハ他人ノ名稱ヲ以テ白地ヲ補充スルコトヲ得

二 白地式ニ依リ又ハ他人ヲ表示シテ更ニ手形ヲ裏書スルコトヲ得

ヲ記載シタル爲替手形ニ付テハ満期ノ日ニ於ケル價格ニ依リ其ノ國ノ通貨ヲ以テ支拂フ爲スコトヲ得債權者ガ支拂フ應シタルトキハ所持人ハ其ノ國ノ通貨ニ依リ満期ノ日又ハ支拂ノ日ノ相場ニ從ヒ其ノ國ノ通貨ヲ以テ爲替手形ノ金額ヲ支拂フベキトシテ請求スルコトヲ得

外國通貨ノ價格ハ支拂地ノ慣習ニ依リ之ヲ定ム但シ振出人ハ手形ニ定メタル換算率ニ依リ支拂金額ヲ計算スベキ旨ヲ記載スルコトヲ得

前二項ノ規定ハ振出人ガ特種ノ通貨ヲ以テ支拂フベキ旨(外國通貨現貨支拂支拂)ヲ記載シタル場合ニハ之ヲ適用セズ

振出圖ト支拂圖トニ於テ同名異價ヲ有スル通貨ニ依リ爲替手形ノ金額ヲ定メタルトキハ支拂地ノ通貨ニ依リ之ヲ定メタルモノト推定ス

第三十八條ニ規定スル期間内ニ爲替手形ノ支拂ノ爲ノ呈示ナキトキハ各債權者ハ所持人ノ費用及危險ニ於テ手形金額ヲ所轄官署ニ供託スルコトヲ得

第七節 引受拒絶及ハ支拂拒絶ニ因ル請求

第四十三條 満期ニ於テ支拂ナキトキハ所持人ハ眞實人、振出人其ノ他ノ債權者ニ對シ其ノ請求權ヲ行フコトヲ得左ノ場合ニ於テハ満期前ト雖モ亦同ジ

一 引受ノ全部又ハ一部ノ拒絶アリタルトキ

二 引受ヲ爲シタル若シハ爲サザル支拂人ノ破産ノ場合其ノ支拂停止ノ場合又ハ其ノ財産ニ對シ強行執行ガ效力ヲ及セザル場合

三 引受ノ爲ノ呈示ヲ爲シタル手形ノ振出人ノ破産ノ場合

第四十四條 引受又ハ支拂ノ拒絶ハ公正證書(引受拒絶證書又ハ支拂拒絶證書)ニ依リ之ヲ證明スルコトヲ要ス引受拒絶證書ハ引受ノ爲ノ呈示期間内ニ之ヲ作ラシムルコトヲ要ス第二十四條第一項ニ規定スル場合ニ於テ期間ノ末日ニ第

一ノ呈示アリタルトキハ拒絶證書ハ其ノ翌日ニ之ヲ作ラシムルコトヲ得

確定日、日附後定期満又ハ一覽後定期満ノ爲替手形ノ支拂拒絶證書ハ爲替手形ノ支拂ノ爲スベキ日又ハ之ニ次グ二日引日以内ニ之ヲ作ラシムルコトヲ要ス一覽後ノ手形ノ支拂拒絶證書ハ引受拒絶證書ノ作成ニ關シテ前項ニ規定スル條件ニ從ヒ之ヲ作ラシムルコトヲ要ス

引受拒絶證書アルトキハ支拂ノ爲ノ呈示及支拂拒絶證書ヲ要セズ

引受ヲ爲シタル若シハ爲サザル支拂人ガ支拂ヲ停止シタル場合又ハ其ノ財産ニ對シ強行執行ガ效力ヲ及セザル場合ニ於テハ所持人ハ支拂人ニ對シ手形ノ支拂ノ爲ノ呈示ヲ爲シ且拒絶證書ヲ作ラシメタル後ニ非ザレバ其ノ請求權ヲ行フコトヲ得ズ

引受ヲ爲シタル若シハ爲サザル支拂人ガ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合又ハ引受ノ爲ノ呈示ヲ爲シタル手形ノ振出人ガ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ於テ所持人ガ其ノ請求權ヲ行フニハ破産決定證書ヲ提出スルヲ以テ足ル

第四十五條 所持人ハ拒絶證書作成ノ日ニ次グ又ハ無費用償還文句アル場合ニ於テハ呈示ノ日ニ次グ四日以内ニ自己ノ眞實人及振出人ニ對シ引受拒絶又ハ支拂拒絶アリタルコトヲ通知スルコトヲ要ス各眞實人ハ通知ヲ受ケタル日ニ次グ二日以内ニ前ノ通知者全員ノ名稱及宛所ヲ示シテ自己ノ受ケタル通知ヲ自己ノ眞實人ニ通知シ順次振出人ニ及ブモノトス此ノ期間ハ各其ノ通知ヲ受ケタル時ヨリ進行ス

前項ノ規定ニ從ヒ爲替手形ノ署名者ニ通知ヲ爲スコトキハ同一期間内ニ其ノ保證人ニ同一ノ通知ヲ爲スコトヲ要ス

眞實人ガ其ノ宛所ヲ記載セズ又ハ其ノ記載ガ誤リ難キ場合ニ於テハ其ノ眞實人ノ直接ノ前者ニ通知スルヲ以テ足ル

通知ヲ爲スベキ者ハ如何ナル方法ニ依リテモ之ヲ爲スコトヲ得單ニ爲替手形ヲ返付スルニ依リテモ亦之ヲ爲スコトヲ得

通知ヲ爲スベキ者ハ滿期ノ期間内ニ通知ヲ爲シタルコトヲ證明スルコトヲ要ス此ノ期間内ニ通知ヲ爲ス書面ヲ郵便ニ付シタル場合ニ於テハ其ノ期間ヲ遵守シタルモノト推定ス前項ノ期間内ニ通知ヲ爲サザル者ハ其ノ權利ヲ失フコトナシ但シ過失ニ因リテ生ジタル損害アルトキハ爲替手形ノ金額ヲ超エザル範圍内ニ於テ其ノ賠償ノ責ニ任ズ

第四十六條 振出人、眞實人又ハ保證人ハ證券ニ記載シ且署名シタル「無費用償還」、「拒絶證書不要」ノ文句其ノ他之ト同一ノ意義ヲ有スル文句ニ依リ所持人ニ對シ其ノ請求權ヲ行フ爲ノ引受拒絶證書又ハ支拂拒絶證書ノ作成ヲ免除スルコトヲ得

前項ノ文句ハ所持人ニ對シ法定期間内ニ於ケル爲替手形ノ呈示及通知ノ義務ヲ免除スルコトナシ期間ノ不遵守ハ所持人ニ對シ之ヲ援用スル者ニ於テ其ノ證明ヲ爲スコトヲ要ス振出人ガ第一項ノ文句ヲ記載シタルトキハ一切ノ署名者ニ對シ其ノ效力ヲ生ズ眞實人又ハ保證人ガ之ヲ記載シタルトキハ其ノ眞實人又ハ保證人ニ對シテ其ノ效力ヲ生ズ振出人ガ此ノ文句ヲ記載シタルニ拘ラズ所持人ガ拒絶證書ヲ作ラシメタルトキハ其ノ費用ハ所持人ノ負擔ス眞實人又ハ保證人ガ此ノ文句ヲ記載シタル場合ニ於テ拒絶證書ノ作成アリタルトキハ一切ノ署名者ヲシテ其ノ費用ヲ償還セシムルコトヲ得

第四十七條 爲替手形ノ振出、引受、眞實人又ハ保證人爲シタル者ハ所持人ニ對シ合同シテ其ノ責ニ任ズ

所持人ハ前項ノ義務者ニ對シ其ノ債務ノ負トタル順序ニ拘ラズ各別又ハ共同ニ請求ヲ爲スコトヲ得

爲替手形ノ署名者ニシテ之ヲ受戻シタルモノモ同一ノ權利

有ス

債權者ノ一人ニ對スル請求ハ他ノ債權者ニ對スル請求ヲ妨グズ既ニ請求ヲ受ケタル者ノ後者ニ對シテモ亦同ジ

第四十八條 所持人ハ請求ヲ受ケタル者ニ對シ左ノ金額ヲ請求スルコトヲ得

一 引受又ハ支拂アラザリシ爲替手形ノ金額及利息ノ記載アルトキハ其ノ利息

二 年六分ノ率ニ依リ満期以後ノ利息

三 拒絶證書ノ費用、通知ノ費用及他ノ費用

滿期前ニ請求權ヲ行フトキハ前二項ニ依リ手形金額ヲ減ズ其ノ剩引ノ所持人ノ住所地ニ於ケル請求ノ日ノ公定割引率(銀行率)ニ依リ之ヲ計算ス

第四十九條 爲替手形ヲ受戻シタル者ハ其ノ前者ニ對シ左ノ金額ヲ請求スルコトヲ得

一 其ノ支拂ヒタル總金額

二 前項ノ金額ニ對シ年六分ノ率ニ依リ計算シタル支拂ノ日以後ノ利息

三 其ノ支出シタル費用

第五十條 請求ヲ受ケタル又ハ受タベキ債權者ハ支拂ト引換ニ拒絶證書、受取ヲ證スル記載ヲ爲シタル計算書及爲替手形ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

爲替手形ヲ受戻シタル眞實人ハ自己及後者ノ眞實人ヲ抹消スルコトヲ得

第五十一條 一部引受ノ後ニ請求權ヲ行フ場合ニ於テ引受アラザリシ手形金額ノ支拂ノ爲ス者ハ其ノ支拂ノ旨ヲ手形ニ記載スルコト及受取證書ヲ交付スルコトヲ請求スルコトヲ得又所持人ハ爾後ノ請求ヲ爲スコトヲ得シムル爲手形ノ證明書本及拒絶證書ヲ交付スルコトヲ要ス

第五十二條 請求權ヲ有スル者ハ反對ノ記載ナキ限り其ノ前者ノ一人ニ宛テ一覽後トシテ提出シ且其ノ者ノ住所ニ於テ

支拂フベキ新形式(戻手形)ニ依リ請求ヲ爲スコトヲ得

戻手形(第四十八條及第四十九條ニ規定スル金額ノ外其ノ戻手形ノ仲立料及印花稅ヲ含ム)

所持人ガ戻手形ヲ振出す場合ニ於テハ其ノ金額ハ本手形ノ支拂地ヨリ前者ノ住所地ニ宛テ振出す一覽後ノ爲替手形ノ相場ニ依リ之ヲ定ム眞實人ガ戻手形ヲ振出す場合ニ於テハ其ノ金額ハ戻手形ノ振出人ガ其ノ住所地ヨリ前者ノ住所地ニ宛テ振出す一覽後ノ爲替手形ノ相場ニ依リ之ヲ定ム

第五十三條 左ノ期間ガ經過シタルトキハ所持人ハ眞實人、振出人其ノ他ノ債權者ニ對シ其ノ權利ヲ失フ但シ引受人ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

一 一覽後又ハ一覽後定期満ノ爲替手形ノ呈示期間

二 引受拒絶證書又ハ支拂拒絶證書ノ作成期間

三 無費用償還文句アル場合ニ於ケル支拂ノ爲ノ呈示期間

振出人ノ記載シタル期間内ニ引受ノ爲ノ呈示ヲ爲サザルトキハ所持人ハ支拂拒絶及引受拒絶ニ因ル請求權ヲ失フ但シ其ノ記載ノ文句ニ依リ振出人ガ引受ノ擔保義務ノミヲ免レントスル意思ヲ有シタルコトヲ知り得ベキトキハ此ノ限ニ在ラズ

眞實人ニ呈示期間ノ記載アルトキハ其ノ眞實人ニ限リ之ヲ適用スルコトヲ得

第五十四條 法定ノ期間内ニ於ケル爲替手形ノ呈示又ハ拒絶證書ノ作成ガ遅タベカラザル(國ノ法令ニ依ル條制其ノ他ノ不可抗力)ニ因リテ妨ガレタルトキハ其ノ期間ヲ伸長ス

所持人ハ自己ノ眞實人ニ對シ通知ナク其ノ不可抗力ヲ通知シ且爲替手形又ハ補償ニ其ノ通知ヲ記載シ日附ヲ附シテ之ニ署名スルコトヲ要ス其ノ他ニ付テハ第四十五條ノ規定ヲ適用ス

不可抗力ガ止ミタルトキハ所持人ハ通知ナク引受又ハ支拂

爲替手形ヲ呈示シ且必要アルトキハ拒絶證書ヲ作ラシムルコトヲ要ス

不可抗力ガ滿期ヨリ三十日ヲ超エテ繼續スルトキハ呈示又ハ拒絶證書ノ作成ヲ要セズシテ請求權ヲ行フコトヲ得

一覽後又ハ一覽後定期満ノ爲替手形ニ付テハ三十日ノ期間ハ呈示期間ノ經過前ト雖モ所持人ガ其ノ眞實人ニ不可抗力ノ通知ヲ爲シタル日ヨリ進行ス一覽後定期満ノ爲替手形ニ付テハ三十日ノ期間ニ爲替手形ニ記載シタル一覽後ノ期間ヲ加フ

所持人又ハ所持人ガ手形ノ呈示若シハ拒絶證書ノ作成ヲ委任シタル者ニ付テハ單純ナル人ノ事由ハ不可抗力ヲ構成スルモノト認メズ

第八章 參加

第五十五條 振出人、眞實人又ハ保證人ハ豫備支拂人ヲ記載スルコトヲ得

爲替手形ハ請求ヲ受タベキ何レノ債權者ノ爲ニ參加ヲ爲ス者ニ於テモ本章ニ規定スル條件ニ從ヒ其ノ引受又ハ支拂ヲ爲スコトヲ得

參加人ハ第三者、支拂人又ハ既ニ爲替手形上ノ債務ヲ負フ者タルコトヲ得但シ引受人ハ此ノ限ニ在ラズ

參加人ハ其ノ被參加人ニ對シ二日引日以内ニ其ノ參加ノ通知ヲ爲スコトヲ要ス此ノ期間ノ不遵守ノ場合ニ於テ過失ニ因リテ生ジタル損害アルトキハ參加人ハ爲替手形ノ金額ヲ超エザル範圍内ニ於テ其ノ賠償ノ責ニ任ズ

第五十六條 參加引受ノ爲ノ呈示ヲ爲セザル爲替手形ノ所持人ガ滿期前ニ請求權ヲ有スル一切ノ場合ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得

爲替手形ニ支拂地ニ於ケル豫備支拂人ヲ記載シタルトキハ

ル場合ニ在リテハ前者ニ對シ詳説告知ヲ爲スニ因リテ中斷
 前項ノ規定ニ因リテ中斷シタル時効ハ裁判ノ確定シタル時
 ヲリ更ニ其ノ進行ヲ始ム
 第八十六條 本法ニ於テ休日トハ祭日、祝日、日曜日其ノ他
 ノ一般ノ休日ヲ指ス
 第八十七條 爲替手形及約束手形ニ依リ義務ヲ負フ者ノ能力
 ハ其ノ本國法ニ依リ之ヲ定ム其ノ國ノ法律ガ他國ノ法律ニ
 依ルコトヲ定ムルトキハ其ノ他國ノ法律ヲ適用ス
 前項ニ掲グル法律ニ依リ能力ヲ有セザル者ト雖モ他ノ國ノ
 領域ニ於テ署名ヲ爲シ其ノ國ノ法律ニ依レバ能力ヲ有スベ
 キトキハ責任ヲ負フ
 第八十八條 爲替手形上及約束手形上ノ行爲ノ方式ハ署名ヲ
 爲シタル地ノ國ノ法律ニ依リ之ヲ定ム
 爲替手形上及約束手形上ノ行爲ガ前項ノ規定ニ依リ有效ナ
 ラザル場合ト雖モ後ノ行爲ヲ爲シタル地ノ國ノ法律ニ依
 レバ適式ナルトキハ後ノ行爲ハ前ノ行爲ガ不適式ナル
 コトニ因リ其ノ效力ヲ妨グルルコトナシ
 滿洲國ノ人ガ外國ニ於テ爲シタル爲替手形上及約束手形上ノ
 行爲ハ其ノ行爲ガ滿洲國ノ法律ニ規定スル方式ニ適合スル
 限り他ノ滿洲國ノ人ニ對シ其ノ效力ヲ有ス
 第八十九條 爲替手形引受人及約束手形引受人ノ義務ノ
 效力ハ其ノ證券ノ支拂地ノ國ノ法律ニ依リ之ヲ定ム
 前項ニ掲グル者ヲ除キ爲替手形又ハ約束手形ニ依リ債務ヲ
 負フ者ノ署名ヨリ生ズル效力ハ其ノ署名ヲ爲シタル地ノ國
 ノ法律ニ依リ之ヲ定ム但シ請求權ノ行使スル期間ハ
 一切ノ署名者ニ付證券ノ振出地ノ國ノ法律ニ依リ之
 ヲ定ム
 第九十條 爲替手形ノ所持人ガ證券ノ振出ノ原因タル債權ヲ
 取得スルヤ否ヤハ證券ノ振出地ノ國ノ法律ニ依リ之

○小切手法

(明治四年五月十三日) 勅令第九〇號

第九十一條 爲替手形ノ引受人手形金額ノ一部ニ制限シ得ル
 ヤ否ヤ及所持人ニ一部支拂ヲ受領スル義務アリヤ否ヤハ支
 拂地ノ國ノ法律ニ依リ之ヲ定ム
 第九十二條 拒絶證書ノ方式及作成期間其ノ他爲替手形上及
 約束手形上ノ權利ノ行使又ハ保存ニ必要ナル行爲ノ方式ハ
 拒絶證書ヲ作ルベキ地又ハ其ノ行爲ヲ爲スベキ地ノ國ノ
 法律ニ依リ之ヲ定ム
 第九十三條 爲替手形又ハ約束手形ノ喪失又ハ毀滅ノ場合ニ
 爲スベキ手續ハ支拂地ノ國ノ法律ニ依リ之ヲ定ム

既組法(第四十一條)ニ依リ參議府ノ諮詢ヲ經テ小切手法ヲ
 裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
 第一章 小切手ノ振出ノ方式
 第一條 小切手ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ
 一 證券ノ文中ニ其ノ證券ノ作成ニ用フル語ヲ以テ記載
 スル小切手ナルコトヲ示ス文字
 二 一定ノ金額ヲ支拂フベキ旨ノ單純ナル委託
 三 支拂フ爲スベキ者(支拂人)ノ名稱
 四 支拂フ爲スベキ地ノ表示
 五 小切手ヲ振出ス日及地ノ表示
 六 小切手ヲ振出ス者(振出人)ノ署名
 第七條 前條ニ掲グル事項ノ何レカヲ缺ク證券ハ小切手タル
 效力ヲ有セズ但シ次ノ數項ニ規定スル場合ハ此ノ限ニ在ラ
 ズ
 一 支拂人ノ名稱ニ附記シタル地ハ特別ノ表示ナキ限り之ヲ支
 拂地ト看做ス支拂人ノ名稱ニ數箇ノ地ノ附記アルトキハ小
 切手ハ初項ニ記載シタル地ニ於テ之ヲ支拂フベキモノトス
 前項ノ記載其ノ他何等ノ表示ナキ小切手ハ振出地ニ於テ之
 ヲ支拂フベキモノトス
 振出地ノ記載ナキ小切手ハ振出人ノ名稱ニ附記シタル地ニ
 於テ之ヲ振出シタルモノト看做ス
 第八條 小切手ハ其ノ表示ノ時ニ於テ振出人ノ處分シ得ル費
 金アル銀行ニ宛テ且振出人ヲシテ資金ヲ小切手ニ依ル處分
 スルコトヲ得シムル明示又ハ默示ノ契約ニ從ヒ之ヲ振出ス
 ベキモノトス但シ此ノ規定ニ從ハザルトキト雖モ證券ノ小
 切手タル效力ヲ妨グズ

第九十條 爲替手形ノ所持人ガ證券ノ振出ノ原因タル債權ヲ
 取得スルヤ否ヤハ證券ノ振出地ノ國ノ法律ニ依リ之
 第九十一條 爲替手形ノ引受人手形金額ノ一部ニ制限シ得ル
 ヤ否ヤ及所持人ニ一部支拂ヲ受領スル義務アリヤ否ヤハ支
 拂地ノ國ノ法律ニ依リ之ヲ定ム
 第九十二條 拒絶證書ノ方式及作成期間其ノ他爲替手形上及
 約束手形上ノ權利ノ行使又ハ保存ニ必要ナル行爲ノ方式ハ
 拒絶證書ヲ作ルベキ地又ハ其ノ行爲ヲ爲スベキ地ノ國ノ
 法律ニ依リ之ヲ定ム
 第九十三條 爲替手形又ハ約束手形ノ喪失又ハ毀滅ノ場合ニ
 爲スベキ手續ハ支拂地ノ國ノ法律ニ依リ之ヲ定ム

第十一條 代理權ヲ有セザル者ガ代理人トシテ小切手ニ署名
 シタルトキハ自ラ其ノ小切手ニ因リ義務ヲ負フ其ノ者ガ支
 拂地ノ國ノ法律ニ依リ之ヲ定ム
 第十二條 振出人ハ支拂ヲ擔保ス振出人ガ之ヲ擔保セザル旨
 ノ一己ノ文書ハ之ヲ記載セザルモノト看做ス
 第十三條 未完成ニテ振出シタル小切手ニ雖モ爲シタル合意
 ト異ル補充ヲ爲シタル場合ニ於テハ其ノ違反ハ之ヲ以テ所
 持人ニ對シスルコトヲ得ズ但シ所持人ガ惡意又ハ重大ナル
 過失ニ因リ小切手ヲ取得シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ
 第十四條 記名式又ハ指圖式ノ小切手ハ眞實ニ依リテ之ヲ
 渡スルコトヲ得
 第十五條 記名式小切手ニシテ指圖禁止ノ文字又ハ之ト同一ノ意味
 ヲ有スル文書ヲ記載シタルモノハ指名債權ノ證據ニ關スル
 方式ニ從ヒ且其ノ效力ヲ以テノミ之ヲ證據スルコトヲ得
 眞實ニ振出人其ノ他ノ債務者ニ對シテモ之ヲ爲スコトヲ得
 此等ノ者ハ更ニ小切手ヲ眞實スルコトヲ得
 第十六條 眞實ハ單列ナルコトヲ要ス眞實ニ附シタル條件ハ
 之ヲ記載セザルモノト看做ス
 第十七條 眞實ハ之ヲ無効トス
 第十八條 眞實ハ白地式眞實ト同一ノ效力ヲ有ス
 第十九條 眞實ニ對シテ爲シタル眞實ハ受取證書タル效力ノミヲ有
 ス但シ支拂人ガ數箇ノ營業所ヲ有スル場合ニ於テ小切手ノ
 振出アラレバ營業所以外ノ營業所ニ對シテ爲シタル眞實
 ハ此ノ限ニ在ラズ
 第二十條 眞實ハ小切手又ハ之ト結合シタル紙片(補遺)ニ之
 ヲ記載シ眞實人名スルコトヲ要ス
 第二十一條 眞實ハ被眞實人ヲ指定セズシテ之ヲ爲シ又ハ單ニ眞實人ノ
 署名ノミヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得(白地式眞實)此ノ後ノ場
 合ニ於テハ眞實ハ小切手ノ裏面又ハ補遺ニ之ヲ爲スニ非ザ
 レバ其ノ效力ヲ有セズ
 第二十二條 眞實ハ小切手ヨリ生ズル一切ノ權利ヲ移轉ス眞實
 ガ白地式ナルトキハ所持人ハ
 一 自己ノ名稱又ハ他人ノ名稱ヲ以テ白地ヲ補充スルコト
 ヲ得
 二 白地式ニ依リ又ハ他人ヲ表示シテ更ニ小切手ヲ眞實ス
 ルコトヲ得
 三 白地ヲ補充セズ且眞實ヲ爲サズシテ小切手ヲ眞實ス
 ルコトヲ得
 第二十三條 眞實人ハ反對ノ文書ナキ限り支拂ヲ擔保ス
 眞實人ハ新ナル眞實ヲ禁ズルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其
 ノ眞實人ハ小切手ノ裏面ノ被眞實人ニ對シ擔保ノ責ヲ負フ
 コトナシ
 第二十四條 眞實シ得ベキ小切手ノ占有者ガ眞實ノ證據ニ依リ
 其ノ權利ヲ證明スルトキハ之ヲ證據ノ所持人ト看做ス眞實
 ノ眞實ガ白地式ナル場合ト雖モ亦同シ據シタル眞實ハ此
 ノ關係ニ於テハ之ヲ記載セザルモノト看做ス白地式眞實
 ニ於テ他ノ眞實アルトキハ其ノ眞實ヲ爲シタル者ハ白地式
 眞實ニ因リテ小切手ヲ取得シタルモノト看做ス
 第二十五條 持參人携式小切手ニ眞實ヲ爲シタルトキハ眞實人
 ハ請求ニ關スル規定ニ從ヒ責任ヲ負フ但シ之ガ爲替券ハ指
 圖式小切手ニ變ズルコトナシ
 第二十六條 事由ノ何タルヲ問ハズ小切手ノ占有ヲ失ヒタル
 者アル場合ニ於テ其ノ小切手ヲ取得シタル所持人ハ小切手
 ガ持參人携式ノモノナルトキハ眞實シ得ベキモノニシテ
 其ノ所持人ガ第十九條ノ規定ニ依リ權利ヲ證明スルトキハ
 之ヲ返還スル義務ヲ負フコトナシ但シ惡意又ハ重大ナル過
 失ニ因リ之ヲ取得シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第二十二條 小切手ニ依リ請求ヲ受ケタル者ハ振出人其ノ他所持人ノ前者ニ對スルハ其ノ關係ニ基テ抗辯ヲ以テ所持人ニ對シテ抗辯スルコトヲ得ズ但シ所持人ガ其ノ債務者ヲ書スルコトヲ知リテ小切手ヲ取得シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第二十三條 眞實ニ四角ノ爲メ「取立」ノ爲メ「代理」ノ爲メノ他事ナル委任ヲ示ス文書アルトキハ所持人ハ小切手ヨリ生ズル一切ノ權利ヲ行使スルコトヲ得但シ所持人ハ代理ノ爲メノ眞實ノミヲ認ムコトヲ得

第二十四條 振出者ハ其ノ債務者ガ所持人ニ對抗スルコトヲ得ル抗辯ハ眞實人ニ對抗スルコトヲ得ベキモノニ得ル代理ノ爲メ眞實ニ委任ノ責任者ノ死亡又ハ其ノ者ガ無能力ト爲リタルコトニ因リ起ラセズ

第二十五條 小切手ノ支拂ハ其ノ金額ノ全部又ハ一部ニ付保證ニ依リテ之ヲ擔保スルコトヲ得

第二十六條 保證ハ小切手又ハ補償ニ之ヲ爲スベシ保證人ハ保證一其ノ他之同一ノ責を負フ有スル文字ヲ以テ表示シ保證人名名スベシ

第二十七條 保證人ハ保證セラレタル者ト同一ノ責任ヲ負フ保證ハ其ノ擔保シタル債務ガ方式ノ瑕疵ヲ除キ他ノ如何ナ小切手ニ因リテ無効ナルトキト雖モ之ヲ有効トシ保證人ガ小切手ノ支拂ヲ爲シタルトキハ保證セラレタル者及其ノ者ノ小切手ノ上ノ債務者ニ對シ小切手ヨリ生ズル權利ヲ取得ス

第二十八條 小切手ハ一覽拂ノモノトス之ニ反スル一切ノ取敢ヘ之ヲ爲サザルモノト爲ス

第二十九條 振出ノ日ニ於テ之ヲ支拂フベキ小切手ハ十日以内ニ支拂フベキモノト爲ス

第三十條 小切手ノ支拂人ハ支拂フ爲メニ當リ所持人ニ對シ小切手ニ受取ラレタル金額ヲ爲シテ之ヲ交付スベキコトヲ請求スルコトヲ得

第三十一條 振出ノ日ニ於テ之ヲ支拂フベキ小切手ハ十日以内ニ支拂フベキモノト爲ス

第三十二條 小切手ノ支拂委託ノ取消ハ振出期間經過後ニ於テ之ヲ爲スベキモノト爲ス

第三十三條 振出ノ後振出人ガ死亡シ又ハ能力ヲ失フベキ小切手ノ效力ニ影響ヲ及ボスコトナシ

一 其ノ支拂ヒタル金額
二 前號ノ金額ニ對シテ年六分ノ率ニ依リ計算シタル支拂ノ
日以後ノ利息

三 其ノ支出シタル費用
第四十六條 請求ヲ受ケタル又ハ受ケタベキ債務者ハ支拂ト引
換ニ拒絕證書又ハ之ト同一ノ效力ヲ有スル宣言、受取コト
スル記載ヲ爲シタル計算書及小切手ノ交付ヲ請求スルコト
ヲ得

小切手ヲ受取シタル債務人ハ自己及後者ノ裏書ヲ抹消スル
コトヲ得

第四十七條 法定ノ期間内ニ於ケル小切手ノ呈示又ハ拒絕證
書若シテ同一ノ效力ヲ有スル宣言ノ作成ガ遅クベカラザ
ル時(國ノ法令ニ依ル禁制其ノ他ノ不可抗力)ニ因リテ
訪ダラレタルトキハ其ノ期間ヲ伸長ス

所持人ハ自己ノ裏書人ニ對シテ通知シ其ノ不可抗力ヲ通知
シ且小切手又ハ補償ニ其ノ通知ヲ記載シ日附ヲ附シテ之ニ
署名スルコトヲ要ス其ノ他ニ付テハ第四十一條ノ規定ヲ準
用ス

不可抗力ガ止ミタルトキハ所持人ハ通知シテ支拂ノ爲小切
手ヲ呈示シ且必要アルトキハ拒絕證書又ハ之ト同一ノ效力
ヲ有スル宣言ヲ作ラシムルコトヲ要ス

不可抗力ガ所持人ニ於テ其ノ裏書人ニ不可抗力ノ通知ヲ爲
シタル日ヨリ十五日ヲ超エテ通知スルトキハ呈示期間經過
前ニ其ノ通知ヲ爲シタル場合ト雖モ呈示又ハ拒絕證書若シ
テ之ト同一ノ效力ヲ有スル宣言ヲ要セズシテ請求權ヲ行フコ
トヲ得

所持人又ハ所持人ガ小切手ノ呈示又ハ拒絕證書若シテ之ト同
一ノ效力ヲ有スル宣言ノ作成ヲ委任シタル者ニ付テハ單純
ナル人ノ事由ハ不可抗力ヲ構成スルモノト認メズ

第六十三條 本法ハ廣徳四年十月一日ヨリ之ヲ施行ス
第六十四條 本法施行前ニ發出シタル小切手ニ付テハ仍舊前
ノ規定ニ依ル

第六十五條 本法ニ於テ署名トアルハ(記名捺印ヲ含ム)
第六十六條 勅令ヲ以テ指定スル支拂地ノ地域ニ於テ振出
シ滿洲國ニ於テ支拂ベキ小切手ノ呈示期間ハ勅令ヲ以テ
之ヲ伸長スルコトヲ得

第六十七條 第三十一條ノ手形交換所(司法書大臣之ヲ指定
ス)

第六十八條 拒絕證書ノ作成ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ
定ム

第六十九條 小切手ノ振出人ガ第三條ノ規定ニ違反シタルト
キハ五千圓以下ノ過料ニ處ス

第七十條 小切手ヨリ生ズル權利ガ手續ノ欠缺又ハ時効ニ
因リテ消滅シタルトキト雖モ所持人ハ振出人、裏書人又ハ
支拂保證ヲ爲シタル支拂人ニ對シテ其ノ受ケタル利益ノ保護
ニ於テ債權ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第七十一條 裏書人ノ他ノ裏書人及振出人ニ對シテ小切手上
ノ請求權ノ消滅時効ハ其ノ者ガ訴ヲ受ケタル場合ニ在リテ
ハ前者ニ對シテ訴告知知ヲ爲スニ因リテ中斷ス

前項ノ規定ニ因リテ中斷シタル時効ハ裁判ノ確定シタル時
ヨリ更ニ其ノ進行ヲ始ム

第七十二條 振出人又ハ所持人ガ裏書ノ裏面ニ(計算ノ爲メ)ノ
文字又ハ之ト同一ノ意義ヲ有スル文字ヲ記載シテ現金ノ支
拂ヲ請シタル小切手ニシテ外國ニ於テ振出シ滿洲國ニ於テ
支拂ベキモノハ一般引小切手タル效力ヲ有ス

第七十三條 本法ニ於テ休日ハ(祭日、祝日、日曜日其ノ他
ノ一一般ノ休日ヲ指ス)

第七十四條 小切手ニ依リ債務ヲ負フ者ノ能力ハ其ノ本國法
第七十五條 小切手ニ依リ債務ヲ負フ者ノ能力ハ其ノ本國法

第七章 本

第四十八條 一國ニ於テ振出シ他ノ國ニ於テ若シテ振出國ノ領
外領土ニ於テ支拂ベキ小切手、一國ノ海外領土ニ於テ振
出シ其ノ國ニ於テ支拂ベキ小切手、一國ノ同一海外領土
ニ於テ振出シ且支拂ベキ小切手又ハ一國ノ同一海外領土
ニ於テ振出シ其ノ國ノ海外領土ニ於テ支拂ベキ小切手
ハ持參人携ノモノヲ除ク外同一内容ノ數額ヲ以テ之ヲ振
出スコトヲ得數額ヲ以テ小切手ヲ振出シタルトキハ其ノ證
券ノ文言中ニ番號ヲ附スルコトヲ要ス之ヲ缺クトキハ各箇
ノ之ヲ各別ノ小切手ト看做ス

第四十九條 本ノ一通ノ支拂ハ其ノ支拂ガ他ノ國本ヲ無効
ナラシムル旨ノ記載ナキトキト雖モ義務ヲ免レシム

數人ニ各別ニ據本ヲ據シタル裏書人及其ノ後ノ裏書人ハ
其ノ署名アル普通ニシテ返還ヲ受ケザルモノニ付責任ヲ負
フ

第五十條 小切手ノ宣言ノ變更ノ場合ニ於テハ其ノ變更後ノ
署名者ハ變更シタル宣言ニ從ヒテ責任ヲ負ヒ變更前ノ署名
者ハ原文書ニ從ヒテ責任ヲ負フ

第五十一條 所持人ノ裏書人、振出人其ノ他ノ債務者ニ對ス
ル請求權ハ呈示期間經過後六月ヲ以テ時効ニ關スル

小切手ノ支拂ノ爲メ債務者ノ他ノ債務者ニ對スル請求
權ハ其ノ債務者ノ小切手ノ受取ヲ爲シタル日又ハ其ノ者ガ
訴ヲ受ケタル日ヨリ六月ヲ以テ時効ニ關スル

第五十二條 時効ノ中斷ハ其ノ中斷ノ事由ガ生ズル者ニ對
シテノ其ノ效力ヲ生ズ

第五十三條 支拂人ハ小切手ニ支拂保證ヲ爲スコトヲ得
支拂保證ハ小切手ノ裏面ニ「支拂保證」其ノ他支拂ノ爲メ

ニ依リ之ヲ定ム其ノ國ノ法律ガ他國ノ法律ニ依ルコトヲ定
ムルトキハ其ノ他國ノ法律ヲ適用ス

前項ニ據ル法律ニ依リ能力ヲ有セザル者ト雖モ他國ノ國
前項ニ於テ署名ヲ爲シ其ノ國ノ法律ニ依レバ能力ヲ有スベ
キトキハ責任ヲ負フ

第七十五條 小切手ノ支拂人タルコトヲ得ル者ハ支拂地ノ國
スル國ノ法律ニ依リ之ヲ定ム

支拂地ノ國スル國ノ法律ニ依リ支拂人タルコトヲ得ザル者
ヲ支拂人トシタル爲メ小切手ガ無効ナルトキト雖モ之ト同一
ノ規定ナキ他ノ國ニ於テ其ノ小切手ニ對シタル署名ヨリ生
ズル債務ハ之ガ爲メ其ノ效力ヲ妨ゲザルルコトナシ

第七十六條 小切手上ノ行爲ノ方式ハ署名者ノ爲シタル地ノ國
スル國ノ法律ニ依リ之ヲ定ム但シ支拂地ノ國スル國ノ法律
ノ規定スル方式ニ依ルヲ以テ足ル

小切手上ノ行爲ガ前項ノ規定ニ依リ有効ナラザル場合ト雖
モ後ノ行爲ヲ爲シタル地ノ國スル國ノ法律ニ依レバ適式ナ
ルトキハ後ノ行爲ハ前ノ行爲ガ不適式ナルコトニ因リ其ノ
效力ヲ妨ゲザルルコトナシ

滿洲國人ガ外國ニ於テ爲シタル小切手上ノ行爲ハ其ノ行爲
ガ滿洲國ノ法律ニ規定スル方式ニ適合スル限り他ノ滿洲國
人ニ對シテ其ノ效力ヲ有ス

第七十七條 小切手ヨリ生ズル義務ノ效力ハ署名者ノ爲シタル
地ノ國スル國ノ法律ニ依リ之ヲ定ム但シ請求權ヲ行使スル
期間ハ一切ノ署名者ニ付證券ノ振出地ノ國スル國ノ法律ニ
依リ之ヲ定ム

第七十八條 左ノ事項ハ小切手ノ支拂地ノ國スル國ノ法律ニ
依リ之ヲ定ム

一 小切手ハ一覽抄タルコトヲ要スルヤ否ヤ、一覽後定期
拂トシテ振出シ得ルヤ否ヤ及先日附小切手ノ效力

二 呈示期間

旨ノ文字ヲ以テ呈示ノ日附ヲ附シテ支拂人署名スベシ

第五十四條 支拂保證ハ單純ナルコトヲ要ス

支拂保證ニ依リ小切手ノ記載事項ニ加ヘタル變更ハ之ヲ記
載セザルモノト看做ス

第五十五條 支拂保證ヲ爲シタル支拂人ハ呈示期間ノ經過前
ニ小切手ノ呈示アリタル場合ニ於テ其ノ支拂ヲ爲ス義務
ヲ負フ

支拂ナキ場合ニ於テ前項ノ呈示アリタルコトハ第三十九條
ノ規定ニ依リ之ヲ證明スルコトヲ要ス

第四十四條及第四十五條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五十六條 支拂保證ニ因リ振出人其ノ他ノ小切手上ノ債務
者ハ其ノ裏ヲ免ルルコトナシ

第五十七條 第四十七條ノ規定ハ支拂保證ヲ爲シタル支拂人
ニ對スル權利ノ行使ニ付テ之ヲ準用ス

第五十八條 支拂保證ヲ爲シタル支拂人ニ對スル小切手上ノ
請求權ハ呈示期間經過後一年ヲ以テ時効ニ關スル

第五十九條 本法ニ於テ(銀行ノナル文字ハ法令ニ依リテ銀
行ト同視セラルル人又ハ施設ヲ含ム)

第六十條 小切手ノ呈示及拒絕證書ノ作成ハ取引日ニ於テノ
ミ之ヲ爲スコトヲ得

小切手ニ關スル行爲ヲ爲ス爲メ呈示又ハ拒絕證書若シテ之
ト同一ノ效力ヲ有スル宣言ノ作成ノ爲法令ニ規定シタル期
間ノ末日ガ法定ノ休日ニ當ル場合ニ於テ(期間ハ其ノ満了
ノ次ノ日)取引日迄之ヲ伸長ス期間中ノ休日ハ之ヲ期間
ニ算入ス

第六十一條 本法ニ規定スル期間ニハ其ノ初日ヲ算入セズ

第六十二條 呈示日ハ法律上ノモノタルト雖モ裁判上ノモノタル
トナラズ之ヲ認メズ

三 小切手ニ引受、支拂保證、擔保又ハ差置ヲ爲シ得ルヤ
否ヤ及此等ノ記載ノ效力

四 所持人ハ一部支拂ヲ請求シ得ルヤ否ヤ及一部支拂ヲ受
取ルル義務アリヤ否ヤ

五 小切手ニ關引ヲ爲シ得ルヤ否ヤ、小切手ニ(計算ノ
爲メ)ノ文字又ハ之ト同一ノ意義ヲ有スル文字ヲ記載シ得
ルヤ否ヤ及引又ハ(計算ノ爲メ)ノ文字若シテ之ト同一ノ
意義ヲ有スル文字ノ記載ノ效力

六 所持人ハ資金ニ對シテ特別ノ權利ヲ有スルヤ否ヤ及其ノ
權利ノ性質

七 振出人ハ小切手ノ支拂ノ委託ヲ取消シ又ハ支拂禁止ノ
手續ヲ爲シ得ルヤ否ヤ

八 小切手ノ喪失又ハ盜竊ノ場合ニ爲スベキ手續

九 裏書人、振出人其ノ他ノ債務者ニ對スル請求權保全ノ
爲メ拒絕證書又ハ之ト同一ノ效力ヲ有スル宣言ヲ必要トス
ルヤ否ヤ

第七十九條 拒絕證書ノ方式及作成期間其ノ他小切手上ノ權
利ノ行使又ハ保存ニ必要ナル行爲ノ方式ハ拒絕證書ヲ作ル
ベキ地又ハ其ノ行爲ヲ爲スベキ地ノ國スル國ノ法律ニ依リ
之ヲ定ム

○運送法

(庚辰四年六月二十四日)

第四十一條 依り參議府ノ諮詢ヲ經テ運送法ヲ裁可シ之ヲ公布セシム

第一章 運送總論

第一條 本法ニ於テ運送人トハ陸上又ハ湖川若シテ海ニ於ケル物品又ハ旅客ノ運送ヲ引受タルヲ業トスル者ヲ謂フ

第二條 運送人ハ運送人ノ請求ニ因リ運送狀ヲ交付スルコトヲ要ス

第三條 運送狀ニハ左ノ事項ヲ記載シ運送人ノ姓名又ハ記名捺印スベシ

一 運送品ノ種類、重量又ハ容積並ニ其ノ荷造ノ種類、箇數及記號

二 到達地

三 荷受人ノ姓名又ハ商號及住所

四 運送狀ノ作成地及作成ノ年月日

五 運送人ガ運送狀ニ不實又ハ不正ナル記載ヲ爲シタルトキハ之ニ因リテ生ジタル損害ヲ賠償スル責任ヲ負フ

第六條 運送人ハ運送人ノ請求ニ因リ貨物引換證ヲ交付スルコトヲ要ス

第七條 貨物引換證ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

一 第三條第一號乃至第三號ニ掲グル事項

二 荷受人ノ姓名又ハ商號及住所

三 貨物引換證ノ作成地及作成ノ年月日

四 貨物引換證ニハ運送人ノ署名又ハ記名捺印スルコトヲ要ス

第八條 貨物引換證ハ記名式ナルトキハ其ノ裏面ニ依リテ之ヲ引換スルコトヲ得但シ貨物引換證ニ裏面ヲ蓋スル者ハ記名式ナルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第九條 運送人ハ運送人ノ請求ニ因リ貨物引換證ニ荷受人ノ姓名又ハ商號ト共ニ其ノ署名ヲ所持人ニ運送品ノ引換ヲ爲スベキ旨ヲ記載スルコトヲ要ス

第十條 貨物引換證ヲ發行シタルトキハ運送人ハ運送品ノ引換ノ責任ヲ負フ

第十一條 貨物引換證ニ依リ運送品ヲ受取ルコトヲ得ズニ貨物引換證ヲ引渡シタルトキハ其ノ引渡ハ運送品ノ上ニ行使スル權利ヲ取得シ付運送品ノ引渡ト同一ノ效力ヲ有ス

第十二條 貨物引換證ヲ發行シタルトキハ之ヲ引換ニ非ザレバ運送品ノ引渡ヲ請求スルコトヲ得ズ

第十三條 運送品ノ全部又ハ一部ガ不可抗力ニ因リテ滅失シタルトキハ運送人ハ運送品ノ全部又ハ一部ヲ請求スルコトヲ得

第十四條 運送品ノ一部ガ滅失シタルトキハ運送人ハ運送品ノ全部ヲ請求スルコトヲ得

第十五條 運送品ノ一部ガ滅失シタルトキハ運送人ハ運送品ノ全部ヲ請求スルコトヲ得

第十六條 運送品ノ一部ガ滅失シタルトキハ運送人ハ運送品ノ全部ヲ請求スルコトヲ得

第十七條 運送品ノ一部ガ滅失シタルトキハ運送人ハ運送品ノ全部ヲ請求スルコトヲ得

第十八條 運送品ノ一部ガ滅失シタルトキハ運送人ハ運送品ノ全部ヲ請求スルコトヲ得

第十九條 運送品ノ一部ガ滅失シタルトキハ運送人ハ運送品ノ全部ヲ請求スルコトヲ得

第二十條 運送品ノ一部ガ滅失シタルトキハ運送人ハ運送品ノ全部ヲ請求スルコトヲ得

第二十一條 運送品ノ一部ガ滅失シタルトキハ運送人ハ運送品ノ全部ヲ請求スルコトヲ得

第二十二條 運送品ノ一部ガ滅失シタルトキハ運送人ハ運送品ノ全部ヲ請求スルコトヲ得

第二十三條 運送品ノ一部ガ滅失シタルトキハ運送人ハ運送品ノ全部ヲ請求スルコトヲ得

第二十四條 運送品ノ一部ガ滅失シタルトキハ運送人ハ運送品ノ全部ヲ請求スルコトヲ得

第二十五條 運送品ノ一部ガ滅失シタルトキハ運送人ハ運送品ノ全部ヲ請求スルコトヲ得

第二十六條 運送品ノ一部ガ滅失シタルトキハ運送人ハ運送品ノ全部ヲ請求スルコトヲ得

第二十七條 運送品ノ一部ガ滅失シタルトキハ運送人ハ運送品ノ全部ヲ請求スルコトヲ得

第二十八條 運送品ノ一部ガ滅失シタルトキハ運送人ハ運送品ノ全部ヲ請求スルコトヲ得

第二十九條 運送品ノ一部ガ滅失シタルトキハ運送人ハ運送品ノ全部ヲ請求スルコトヲ得

第三十條 運送品ノ一部ガ滅失シタルトキハ運送人ハ運送品ノ全部ヲ請求スルコトヲ得

第三十一條 運送品ノ一部ガ滅失シタルトキハ運送人ハ運送品ノ全部ヲ請求スルコトヲ得

第三十二條 運送品ノ一部ガ滅失シタルトキハ運送人ハ運送品ノ全部ヲ請求スルコトヲ得

第三十三條 運送品ノ一部ガ滅失シタルトキハ運送人ハ運送品ノ全部ヲ請求スルコトヲ得

第三十四條 運送品ノ一部ガ滅失シタルトキハ運送人ハ運送品ノ全部ヲ請求スルコトヲ得

第三十五條 運送品ノ一部ガ滅失シタルトキハ運送人ハ運送品ノ全部ヲ請求スルコトヲ得

第三十六條 運送品ノ一部ガ滅失シタルトキハ運送人ハ運送品ノ全部ヲ請求スルコトヲ得

第三十七條 運送品ノ一部ガ滅失シタルトキハ運送人ハ運送品ノ全部ヲ請求スルコトヲ得

第三十八條 運送品ノ一部ガ滅失シタルトキハ運送人ハ運送品ノ全部ヲ請求スルコトヲ得

第三十九條 運送品ノ一部ガ滅失シタルトキハ運送人ハ運送品ノ全部ヲ請求スルコトヲ得

第四十條 運送品ノ一部ガ滅失シタルトキハ運送人ハ運送品ノ全部ヲ請求スルコトヲ得

○倉庫法

(廣徳四年六月二十四日 勅令第一三四號)

前項ノ場合ニ於テモ運送取扱人ハ報酬ノ請求ヲ爲スコトヲ得
 第五十條 運送取扱人ハ自ラ運送ニ關スル費用ノ額ヲ定メタルトキハ運送取扱人ハ自ラ運送ヲ爲スモノト推定ス前項ノ場合ニ於テハ運送取扱人ハ特約アルニ非ザレバ報酬ノ請求ヲ爲スコトヲ得ズ
 第五十一條 運送取扱人ノ委託者ニ對スル債權ノ時効期間ハ二年トス
 第五十二條 第十七條、第二十五條及第二十六條ノ規定ハ運送取扱業務ニ之ヲ適用ス
 第五十三條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
 第五十四條 本法ノ規定ハ本法施行ノ日ヨリ其ノ施行前ニ生ジタル事項ニモ亦之ヲ適用ス但シ從前ノ規定ニ依リテ生ジタル效力ヲ妨グズ
 第五十五條 本法施行前既ニ進行ヲ始メタル時効期間及本法施行前ニ發行シタル貨物引換證ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル
 第五十六條 湖川又ハ海運ト海上トノ境界ハ交通部大臣之ヲ定ム
 第五十七條 第三十四條ニ規定スル公告ノ方法ハ司法部大臣之ヲ定ム(廣徳四年勅令第三二七號ヲ以テ同年十二月一日ヨリ施行)

既組織法(第四十一條)ニ依リ參議府ノ諮詢ヲ經テ倉庫法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
 第一條 本法ニ於テ倉庫營業者トハ物品ヲ倉庫ニ保管スルコトヲ引受ケルヲ業トスル者ヲ謂フ
 第二條 倉庫營業者ハ委託者ノ承諾アリタルトキニ限り委託物ヲ種類及品質ノ同一ナル他ノ委託物ト混和シテ保管スルコトヲ得
 第三條 前項ノ場合ニ於テハ各委託者ハ委託物ノ入庫ノ當時ニ於ケル數量ノ割合ニ應ジテ委託物ヲ共有ス
 第四條 倉庫營業者ハ委託者ノ承諾ヲ得ズシテ各委託者ニ對シ其ノ持分ヲ返還スルコトヲ得
 第五條 倉庫營業者ハ委託者ノ請求ニ因リ倉庫證券ヲ交付スルコトヲ得
 第六條 倉庫證券ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ
 一 受寄物ノ種類、品質、數量並ニ其ノ荷造ノ種類、箇數及記載
 二 委託者ノ氏名又ハ商號及住所
 三 保管ノ場所
 四 保管料
 五 保管ノ期間ヲ定メタルトキハ其ノ期間
 六 混和シテ保管スルトキハ其ノ旨
 七 受寄物ヲ保險ニ付シタルトキハ保險金額、保險期間及保險者ノ氏名又ハ商號
 八 倉庫證券ノ作成地及作成ノ年月日
 倉庫證券ニハ倉庫營業者之ニ署名又ハ記名捺印スルコトヲ要ス

第六條 倉庫證券ハ記名式ナルトキト雖モ其書ニ依リテ之ヲ讓渡スルコトヲ得但シ倉庫證券ニ蓋印ヲ施スル旨ヲ記載シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ
 第七條 倉庫營業者ハ委託者ノ請求ニ因リ倉庫證券ニ委託者ノ氏名又ハ商號ト共ニ其ノ證券ノ所持人ニ委託物ノ引渡ヲ爲スベキ旨ヲ記載スルコトヲ得
 第八條 倉庫證券ヲ發行シタルトキハ委託ニ關スル事項ハ倉庫營業者ト所持人トノ間ニ於テハ倉庫證券ノ定ムル所ニ依ル
 第九條 倉庫證券ヲ發行シタルトキハ委託物ニ關スル處分ハ倉庫證券ヲ以テスルニ非ザレバ之ヲ爲スコトヲ得ズ
 第十條 倉庫證券ニ依リ委託物ヲ受取ルコトヲ得ベキ者ニ倉庫證券ヲ引渡シタルトキハ其ノ引渡ハ委託物ノ上ニ行使スル權利ノ取得ニ付委託物ノ引渡ト同一ノ效力ヲ有ス
 第十一條 倉庫證券ヲ發行シタルトキハ之ト引換ニ非ザレバ委託物ノ返還ヲ請求スルコトヲ得ズ
 第十二條 倉庫證券ノ所持人ハ倉庫營業者ニ對シ委託物ヲ分割シ且其ノ各部分ニ對スル倉庫證券ヲ交付スルコトヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ所持人ハ前ノ倉庫證券ヲ倉庫營業者ニ返還スルコトヲ要ス
 第十三條 倉庫證券ヲ以テ委託物ヲ買入シタル場合ニ於テ倉庫營業者ノ承諾アルトキハ委託者ハ委託物ノ一部ノ返還ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ倉庫營業者ハ返還シタル委託物ノ種類、品質及數量ヲ倉庫證券ニ記載スルコトヲ要ス
 第十四條 倉庫營業者ハ委託物ヲ受取リタルトキハ混和シタル之ヲ檢査シ容易ニ知り得ベキ減失又ハ毀損アルトキハ直ニ之ヲ委託者又ハ知レタル倉庫證券ノ所持人ニ通知スルコトヲ要ス

第十五條 倉庫營業者ハ受寄物ニ變質其ノ他其ノ價格ヲ低下セシムル虞アル變更ヲ生ジタルコトヲ發見シタルトキハ運送取扱人ノ委託者又ハ知レタル倉庫證券ノ所持人ニ通知スルコトヲ要ス
 第十六條 前二條ノ場合ニ於テ倉庫營業者ガ通知ヲ爲スコトヲ要スルトキハ之ニ因リテ生ジタル損害ヲ賠償スル責任ヲ負フ
 第十七條 倉庫營業者ハ自己又ハ倉庫證券ニ關シ使用シタル者ガ受寄物ノ保管ニ關シ注意ヲ怠ラザリシコトヲ證明スルニ非ザレバ受寄物ノ滅失又ハ毀損ニ付損害賠償ノ責ヲ免ルルコトヲ得ズ
 第十八條 委託者又ハ倉庫證券ノ所持人ハ營業時間内何時ニテモ倉庫營業者ニ對シテ委託物ノ點檢若ハ其ノ見本ノ提出ヲ請求メ又ハ其ノ保存ニ必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得
 第十九條 倉庫營業者ハ受寄物出庫ノ時ニ非ザレバ保管料、附屬ノ費用及立替金ノ支拂ヲ請求スルコトヲ得但シ保管期間經過ノ後ハ出庫前ト雖モ其ノ支拂ヲ請求スルコトヲ得委託物ノ一部出庫ノ場合ニ於テハ倉庫營業者ハ其ノ割合ニ應ジ保管料、附屬ノ費用及立替金ノ支拂ヲ請求スルコトヲ得
 第二十條 委託ガ委託者ノ實ニ歸スベキ事由ニ因リ保管期間ノ經過前ニ終了シタルトキハ倉庫營業者ハ保管料ノ全額ヲ請求スルコトヲ得
 第二十一條 當事者ガ保管期間ヲ定メザリシトキハ倉庫營業者ハ受寄物入庫ノ日ヨリ六月ヲ經過スルニ非ザレバ其ノ返還ヲ爲スコトヲ得ズ
 第二十二條 已ムコトヲ得ザル事由アルトキハ倉庫營業者ハ前條ノ規定ニ拘ラズ何時ニテモ受寄物ノ返還ヲ爲スコトヲ得

第二十三條 倉庫營業者ノ責任ハ委託者又ハ倉庫證券ノ所持人ガ担保ヲ爲サズシテ委託物ヲ受取リ且保管料、附屬ノ費用及立替金ヲ支拂ヒタルトキハ消滅ス但シ委託物ニ面ニ發見スルコトハ倉庫證券ノ所持人ガ一部滅失アリタル場合ニ於テハ倉庫營業者ニ對シテ其ノ通知ヲ發シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ
 第二十四條 委託物ノ滅失又ハ毀損ニ因リテ生ジタル倉庫營業者ニ對スル損害賠償請求權ノ時効期間ハ二年トス
 第二十五條 前項ノ期間ハ委託物ノ全部滅失ノ場合ニ於テハ倉庫營業者ガ委託者又ハ倉庫證券ノ所持人若キハ所持人知レザルトキハ委託者ニ對シテ其ノ滅失ノ通知ヲ爲シタル日ヨリ、其ノ他ノ場合ニ於テハ出庫ノ日ヨリ之ヲ起算ス
 第二十六條 倉庫營業者ハ保管料、附屬ノ費用及立替金ニ付シテ生ジタル場合ニハ之ヲ適用セズ
 第二十七條 倉庫營業者ノ上ニ質權ヲ有ス
 第二十八條 倉庫營業者ノ質權ト運送人若ハ海上運送人又ハ運送取扱人ノ質權ト競合スル場合ニ於テハ後ニ生ジタルモノニ優先ス
 第二十九條 倉庫營業者ノ質權ト他ノ質權ト競合スル場合ニ於テハ法律ニ別段ノ定ナキ限り倉庫營業者ノ質權ハ他ノ質權ニ優先ス
 第三十條 委託者又ハ倉庫證券ノ所持人ガ委託物ヲ受取ルコトヲ拒ミ又ハ之ヲ受取ルコト能ハザルトキハ倉庫營業者ハ委託者又ハ倉庫證券ノ所持人ニ對シ相當ノ期間ヲ定メ委託物ノ受取ヲ催告シ其ノ期間内ニ受取ヲ爲サザルトキハ之ヲ讓渡スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ運送取扱人ノ委託者又ハ

倉庫證券ノ所持人ニ對シ其ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス
 第三十一條 委託者又ハ倉庫證券ノ所持人ヲ通知スルコト能ハザルトキハ倉庫營業者ハ權利者ニ對シ一定ノ期間内ニ其ノ權利ヲ申出ヅベキ旨ヲ公告シ其ノ期間内ニ權利ヲ申出ヅル者ナキトキハ受寄物ヲ讓渡スルコトヲ得
 第三十二條 受寄物ガ損毀ノ虞アルモノナルトキハ倉庫營業者又ハ公告ヲ爲サズシテ之ヲ讓渡スルコトヲ得
 第三十三條 受寄物ヲ讓渡シタルトキハ倉庫營業者ハ其ノ代價ヲ供給スルコトヲ要ス但シ其ノ全部又ハ一部ノ保管料、附屬ノ費用及立替金ノ擔保ニ充當スルコトヲ妨グズ
 第三十四條 倉庫營業者ノ委託者ニ對スル債權ノ時効期間ハ二年トス
 附 則
 第三十四條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
 第三十五條 本法ノ規定ハ本法施行ノ日ヨリ其ノ施行前ニ生ジタル事項ニモ亦之ヲ適用ス但シ從前ノ規定ニ依リテ生ジタル效力ヲ妨グズ
 第三十六條 本法施行前既ニ進行ヲ始メタル時効期間及本法施行前ニ發行シタル倉庫證券ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル
 第三十七條 第三十條ニ規定スル公告ノ方法ハ司法部大臣之ヲ定ム(廣徳四年勅令第三二八號ヲ以テ同年十二月一日ヨリ施行)

○海商法

(明治四年六月二十四日) 勅令第135號

海商法(第四十一條)ニ依リ多議府ノ海商法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一章 船舶及船舶所有權

第一條 本法ニ於テ船舶トハ航海ノ用ニ供スルモノヲ謂フ

本法ハ官署又ハ公署ノ所有船舶ニシテ非營利事業ノ爲メ使用スルモノニハ之ヲ適用セズ

第二條 船舶ノ船名日録ニ記載シタル物ハ其ノ從價ト推定ス

第三條 船舶ノ噸數二十噸以上ノ船舶ハ之ヲ登記スルコトヲ要ス

第四條 民法第七十七條乃至第八十條ノ規定ハ登記シタル船舶ニ之ヲ適用ス

第五條 航海中ニ在ル船舶ヲ擧ゲシタル場合ニ於テ特約ナキトキハ其ノ航海ニ因リテ生ズル損益ハ該受人ニ歸スベキモノトス

第六條 社員ノ持分ノ移轉ニ因リテ該社員ノ所有スル船舶ガ滿洲國ノ國籍ヲ喪失スベキトキハ合名會社ニ在リテハ他ノ社員、合資會社ニ在リテハ他ノ無限責任社員ハ相當ノ代價ヲ以テ其ノ持分ヲ買取ルコトヲ得

第七條 選擇又ハ假選擇ノ發給ノ權ヲ得タル船舶ニ對シテハ之ヲ爲スコトヲ得ズ但シ其ノ航海ヲ爲スニ生ズル債務ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第八條 本法ノ適用ニ付テハ船舶ハ左ノ場合ニ於テ修繕スルコト能ハザルニ至リタルモノト爲ス

一 船舶ガ其ノ現在地ニ於テ修繕ヲ受クルコト能ハズ且其ノ修繕ヲ爲スベキ地ニ到ルコト能ハザルトキ

二 修繕費ガ船舶ノ價額ノ四分ノ三ヲ超ユルトキ

前項第二號ノ價額ハ船舶ガ航海中擧ゲシタル場合ニ於テハ其ノ發航ノ時ニ於ケル價額トシ其ノ他ノ場合ニ於テハ其ノ發航前ニ有セシ價額トス

第九條 船舶所有權ハ船長其ノ他ノ海員又ハ水先人ガ其ノ職務ヲ行フニ付故意又ハ過失ニ因リテ他人ニ加ヘタル損害ヲ賠償スル責任ヲ負フ

第十條 船舶所有權ハ船長其ノ他ノ海員又ハ水先人ニ於テ爲シタル行為ニ因リテ生ズル債務又ハ前條ニ定ムル債務ニ付テハ航海ノ終ニ於テ船舶、運送貨物及船舶所有者ガ其ノ船舶ニ付有スル損害賠償又ハ報酬ノ請求權ヲ債權者ニ委付スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ船舶所有權者ハ其ノ委付シタル財產ヲ以テ之ヲ擔保スル義務ヲ負フ

第十一條 船舶所有權ハ左ニ掲グル場合ニ於テハ前條第一項ノ規定ニ付テハ之ヲ適用セズ

一 船舶所有權者ニ故意又ハ過失アリタルトキ

二 船舶所有權者ガ船長ノ行為ニ對シテ特ニ權限アリ又ハ追認ヲ爲シタルトキ

第十二條 登記シタル船舶ヲ委付スルニハ其ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第十三條 船舶所有權者ガ債權者ノ同意ヲ得ズシテ更ニ航海ヲ爲サシメタルトキハ第十條第一項ノ權利ヲ行使スルコトヲ得ズ

第十四條 船舶共有者ノ間ニ在リテハ船舶ノ利用ニ關スル事項ハ各共有者ノ持分ノ價格ニ從ヒ其ノ過半数ヲ以テ之ヲ決ス

第十五條 船舶共有者ハ其ノ持分ノ價格ニ應ジ船舶ノ利用ニ

關スル權利ヲ負擔スルコトヲ要ス

第十六條 船舶共有者ガ新ニ航海ヲ爲シ又ハ船舶ノ大修繕ヲ爲スベキコトヲ決議シタルトキハ其ノ決議ニ對シテ其ノ持分ヲ買取ルベキコトヲ請求スルコトヲ得

第十七條 船舶共有者ハ其ノ持分ノ價格ニ應ジ船舶ノ利用ニ付テ生ズル債務ヲ擔保スル責任ヲ負フ

第十八條 損益ノ分配ハ每航海ノ終ニ於テ船舶共有者ノ持分ノ價格ニ應ジテ之ヲ爲ス

第十九條 船舶共有者ノ間ニ組合擔保アルトキハ各共有者ハ他ノ共有者ノ承諾ヲ得ズシテ其ノ持分ノ全部又ハ一部ヲ他人ニ讓渡スルコトヲ得但シ船舶管理人ハ此ノ限ニ在ラズ

第二十條 船舶共有者ハ船舶管理人ヲ選任スルコトヲ要ス

船舶管理人ノ選任及其ノ代理權ノ消滅ハ之ヲ登記スルコトヲ要ス

第二十一條 船舶管理人ハ左ニ掲グル行為ヲ除ク外船舶共有者ニ代リテ船舶ノ利用ニ關スル一切ノ裁判上又ハ裁判外ノ行為ヲ爲ス權限ヲ有ス

一 船舶ヲ貸借スルコト

二 船舶ヲ抵押ト爲スコト

三 船舶ヲ保險ニ付スルコト

四 新ニ航海ヲ爲スコト

五 船舶ノ大修繕ヲ爲スコト

六 借財ヲ爲スコト

第二十二條 船舶管理人ハ船舶共有者ノ死亡ニ因リテ消滅セズ

第二十三條 船舶管理人ハ船舶共有者ノ持分ノ移轉ニ因リテ消滅セズ

第二十四條 船舶共有者ノ持分ノ移轉又ハ其ノ國籍喪失ニ因リテ船舶ガ滿洲國ノ國籍ヲ喪失スベキトキハ合名會社ニ在リテハ他ノ社員、合資會社ニ在リテハ他ノ無限責任社員ハ相當ノ代價ヲ以テ其ノ持分ヲ買取ルコトヲ得

第二十五條 船舶ノ貸借ハ之ヲ登記シタルトキハ船長其ノ船舶ニ付物ヲ取得シタル者ニ對シテモ其ノ效力ヲ生ズ

第二十六條 船舶ノ自己ノ所有ニ關セザル船舶ヲ航海ノ用ニ供スル者ハ其ノ船舶ノ利用ニ關スル事項ニ付テハ第三條ニ得シテ前項ノ場合ニ於テ船舶ノ利用ニ付生ズル船舶債權者ノ責任ハ船舶所有權者ノ責任ニ付シテ之ヲ負擔スルコトヲ得ズ但シ船舶債權者ガ其ノ利用ノ違法ナルコトヲ知リ又ハ重大ナル過失ニ因リテ之ヲ知ラザリシトキハ此ノ限ニ在ラズ

第二十七條 船長ハ其ノ職務ヲ行フニ付注意ヲ怠ラザリシコトヲ證明スルニ非ザレバ船舶所有權者、船舶者、海員人其ノ他ノ利害關係人ニ對シテ損害賠償ノ責任ヲ免ルルコトヲ得ズ

第二十八條 船長ハ航海ノ準備ガ終リタルトキハ運送貨物及船舶ノ運送ニ必要ナル場合アル場合ヲ除ク外決定ノ航海ヲ變更セズ

第二十九條 船長ハ運送貨物及船舶ノ運送ニ關スル事項ヲ船舶所有權者ニ報告スルコトヲ要ス

第三十條 船長ハ航海ノ準備ガ終リタルトキハ航海ノ運送ニ必要ナル場合アル場合ヲ除ク外決定ノ航海ヲ變更セズ

第三十一條 船長ハ航海ノ準備ガ終リタルトキハ運送貨物及船舶ノ運送ニ必要ナル場合アル場合ヲ除ク外決定ノ航海ヲ變更セズ

第三十二條 船長ハ航海ノ準備ガ終リタルトキハ運送貨物及船舶ノ運送ニ必要ナル場合アル場合ヲ除ク外決定ノ航海ヲ變更セズ

第三十三條 船長ハ航海ノ準備ガ終リタルトキハ運送貨物及船舶ノ運送ニ必要ナル場合アル場合ヲ除ク外決定ノ航海ヲ變更セズ

第三十四條 船長ハ航海ノ準備ガ終リタルトキハ運送貨物及船舶ノ運送ニ必要ナル場合アル場合ヲ除ク外決定ノ航海ヲ變更セズ

第三十五條 船長ハ航海ノ準備ガ終リタルトキハ運送貨物及船舶ノ運送ニ必要ナル場合アル場合ヲ除ク外決定ノ航海ヲ變更セズ

第三十六條 船長ハ航海ノ準備ガ終リタルトキハ運送貨物及船舶ノ運送ニ必要ナル場合アル場合ヲ除ク外決定ノ航海ヲ變更セズ

第三十七條 船長ハ航海ノ準備ガ終リタルトキハ運送貨物及船舶ノ運送ニ必要ナル場合アル場合ヲ除ク外決定ノ航海ヲ變更セズ

第三十八條 船長ハ航海ノ準備ガ終リタルトキハ運送貨物及船舶ノ運送ニ必要ナル場合アル場合ヲ除ク外決定ノ航海ヲ變更セズ

第三十九條 船長ハ航海ノ準備ガ終リタルトキハ運送貨物及船舶ノ運送ニ必要ナル場合アル場合ヲ除ク外決定ノ航海ヲ變更セズ

第四十條 船長ハ航海ノ準備ガ終リタルトキハ運送貨物及船舶ノ運送ニ必要ナル場合アル場合ヲ除ク外決定ノ航海ヲ變更セズ

第四十一條 船長ハ航海ノ準備ガ終リタルトキハ運送貨物及船舶ノ運送ニ必要ナル場合アル場合ヲ除ク外決定ノ航海ヲ變更セズ

第四十二條 船長ハ航海ノ準備ガ終リタルトキハ運送貨物及船舶ノ運送ニ必要ナル場合アル場合ヲ除ク外決定ノ航海ヲ變更セズ

第四十三條 船長ハ航海ノ準備ガ終リタルトキハ運送貨物及船舶ノ運送ニ必要ナル場合アル場合ヲ除ク外決定ノ航海ヲ變更セズ

第四十四條 船長ハ航海ノ準備ガ終リタルトキハ運送貨物及船舶ノ運送ニ必要ナル場合アル場合ヲ除ク外決定ノ航海ヲ變更セズ

第四十五條 船長ハ航海ノ準備ガ終リタルトキハ運送貨物及船舶ノ運送ニ必要ナル場合アル場合ヲ除ク外決定ノ航海ヲ變更セズ

第四十六條 船長ハ航海ノ準備ガ終リタルトキハ運送貨物及船舶ノ運送ニ必要ナル場合アル場合ヲ除ク外決定ノ航海ヲ變更セズ

第四十七條 船長ハ航海ノ準備ガ終リタルトキハ運送貨物及船舶ノ運送ニ必要ナル場合アル場合ヲ除ク外決定ノ航海ヲ變更セズ

第四十八條 船長ハ航海ノ準備ガ終リタルトキハ運送貨物及船舶ノ運送ニ必要ナル場合アル場合ヲ除ク外決定ノ航海ヲ變更セズ

第四十九條 船長ハ航海ノ準備ガ終リタルトキハ運送貨物及船舶ノ運送ニ必要ナル場合アル場合ヲ除ク外決定ノ航海ヲ變更セズ

第五十條 船長ハ航海ノ準備ガ終リタルトキハ運送貨物及船舶ノ運送ニ必要ナル場合アル場合ヲ除ク外決定ノ航海ヲ變更セズ

第五十一條 船長ハ航海ノ準備ガ終リタルトキハ運送貨物及船舶ノ運送ニ必要ナル場合アル場合ヲ除ク外決定ノ航海ヲ變更セズ

第五十二條 船長ハ航海ノ準備ガ終リタルトキハ運送貨物及船舶ノ運送ニ必要ナル場合アル場合ヲ除ク外決定ノ航海ヲ變更セズ

第五十三條 船長ハ航海ノ準備ガ終リタルトキハ運送貨物及船舶ノ運送ニ必要ナル場合アル場合ヲ除ク外決定ノ航海ヲ變更セズ

第五十四條 船長ハ航海ノ準備ガ終リタルトキハ運送貨物及船舶ノ運送ニ必要ナル場合アル場合ヲ除ク外決定ノ航海ヲ變更セズ

第五十五條 船長ハ航海ノ準備ガ終リタルトキハ運送貨物及船舶ノ運送ニ必要ナル場合アル場合ヲ除ク外決定ノ航海ヲ變更セズ

第五十六條 船長ハ航海ノ準備ガ終リタルトキハ運送貨物及船舶ノ運送ニ必要ナル場合アル場合ヲ除ク外決定ノ航海ヲ變更セズ

第五十七條 船長ハ航海ノ準備ガ終リタルトキハ運送貨物及船舶ノ運送ニ必要ナル場合アル場合ヲ除ク外決定ノ航海ヲ變更セズ

第五十八條 船長ハ航海ノ準備ガ終リタルトキハ運送貨物及船舶ノ運送ニ必要ナル場合アル場合ヲ除ク外決定ノ航海ヲ變更セズ

第五十九條 船長ハ航海ノ準備ガ終リタルトキハ運送貨物及船舶ノ運送ニ必要ナル場合アル場合ヲ除ク外決定ノ航海ヲ變更セズ

第六十條 船長ハ航海ノ準備ガ終リタルトキハ運送貨物及船舶ノ運送ニ必要ナル場合アル場合ヲ除ク外決定ノ航海ヲ變更セズ

第六十一條 船長ハ航海ノ準備ガ終リタルトキハ運送貨物及船舶ノ運送ニ必要ナル場合アル場合ヲ除ク外決定ノ航海ヲ變更セズ

第六十二條 船長ハ航海ノ準備ガ終リタルトキハ運送貨物及船舶ノ運送ニ必要ナル場合アル場合ヲ除ク外決定ノ航海ヲ變更セズ

第六十三條 船長ハ航海ノ準備ガ終リタルトキハ運送貨物及船舶ノ運送ニ必要ナル場合アル場合ヲ除ク外決定ノ航海ヲ變更セズ

第六十四條 船長ハ航海ノ準備ガ終リタルトキハ運送貨物及船舶ノ運送ニ必要ナル場合アル場合ヲ除ク外決定ノ航海ヲ變更セズ

第六十五條 船長ハ航海ノ準備ガ終リタルトキハ運送貨物及船舶ノ運送ニ必要ナル場合アル場合ヲ除ク外決定ノ航海ヲ變更セズ

第六十六條 船長ハ航海ノ準備ガ終リタルトキハ運送貨物及船舶ノ運送ニ必要ナル場合アル場合ヲ除ク外決定ノ航海ヲ變更セズ

第六十七條 船長ハ航海ノ準備ガ終リタルトキハ運送貨物及船舶ノ運送ニ必要ナル場合アル場合ヲ除ク外決定ノ航海ヲ變更セズ

第六十八條 船長ハ航海ノ準備ガ終リタルトキハ運送貨物及船舶ノ運送ニ必要ナル場合アル場合ヲ除ク外決定ノ航海ヲ變更セズ

第六十九條 船長ハ航海ノ準備ガ終リタルトキハ運送貨物及船舶ノ運送ニ必要ナル場合アル場合ヲ除ク外決定ノ航海ヲ變更セズ

第七十條 船長ハ航海ノ準備ガ終リタルトキハ運送貨物及船舶ノ運送ニ必要ナル場合アル場合ヲ除ク外決定ノ航海ヲ變更セズ

第七十一條 船長ハ航海ノ準備ガ終リタルトキハ運送貨物及船舶ノ運送ニ必要ナル場合アル場合ヲ除ク外決定ノ航海ヲ變更セズ

第七十二條 船長ハ航海ノ準備ガ終リタルトキハ運送貨物及船舶ノ運送ニ必要ナル場合アル場合ヲ除ク外決定ノ航海ヲ變更セズ

第七十三條 船長ハ航海ノ準備ガ終リタルトキハ運送貨物及船舶ノ運送ニ必要ナル場合アル場合ヲ除ク外決定ノ航海ヲ變更セズ

第七十四條 船長ハ航海ノ準備ガ終リタルトキハ運送貨物及船舶ノ運送ニ必要ナル場合アル場合ヲ除ク外決定ノ航海ヲ變更セズ

第七十五條 船長ハ航海ノ準備ガ終リタルトキハ運送貨物及船舶ノ運送ニ必要ナル場合アル場合ヲ除ク外決定ノ航海ヲ變更セズ

第七十六條 船長ハ航海ノ準備ガ終リタルトキハ運送貨物及船舶ノ運送ニ必要ナル場合アル場合ヲ除ク外決定ノ航海ヲ變更セズ

第七十七條 船長ハ航海ノ準備ガ終リタルトキハ運送貨物及船舶ノ運送ニ必要ナル場合アル場合ヲ除ク外決定ノ航海ヲ變更セズ

第七十八條 船長ハ航海ノ準備ガ終リタルトキハ運送貨物及船舶ノ運送ニ必要ナル場合アル場合ヲ除ク外決定ノ航海ヲ變更セズ

第七十九條 船長ハ航海ノ準備ガ終リタルトキハ運送貨物及船舶ノ運送ニ必要ナル場合アル場合ヲ除ク外決定ノ航海ヲ變更セズ

第八十條 船長ハ航海ノ準備ガ終リタルトキハ運送貨物及船舶ノ運送ニ必要ナル場合アル場合ヲ除ク外決定ノ航海ヲ變更セズ

第八十一條 船長ハ航海ノ準備ガ終リタルトキハ運送貨物及船舶ノ運送ニ必要ナル場合アル場合ヲ除ク外決定ノ航海ヲ變更セズ

第八十二條 船長ハ航海ノ準備ガ終リタルトキハ運送貨物及船舶ノ運送ニ必要ナル場合アル場合ヲ除ク外決定ノ航海ヲ變更セズ

第八十三條 船長ハ航海ノ準備ガ終リタルトキハ運送貨物及船舶ノ運送ニ必要ナル場合アル場合ヲ除ク外決定ノ航海ヲ變更セズ

第四十條 船長が特ニ委任ヲ受ケズシテ航海ノ爲ニ費用ヲ支出シ又ハ債務ヲ負擔シタルトキハ船長ハ船中所有者ニ對シテ...

第四十一條 船中所有者ハ何時ニテモ船長ヲ解任スルコトヲ得但シ正當ノ事由ナクシテ之ヲ解任シタルトキハ船長ハ船中所有者ニ對シテ...

第四十二條 船長ノ船中所有者ニ對スル債權ノ時効期間ハ二年トス...

第四十三條 船中所有者ハ一部ヲ以テ運送契約ノ目的ト爲シタルトキハ各當事者ハ相手方ノ請求ニ因リ船中所有者...

第四十四條 法令ニ違反シ又ハ契約ニ依ラズシテ船中所有者トシテ運送品ヲ運送シタルトキハ船中所有者ハ船中所有者ニ對シテ...

第四十五條 船中所有者ハ船中所有者ニ對シテ運送品ノ運送ノ爲メニ必要ナル準備ヲ行フコトヲ得...

第四十六條 船中所有者ハ船中所有者ニ對シテ運送品ノ運送ノ爲メニ必要ナル準備ヲ行フコトヲ得...

第四十七條 船中所有者ハ船中所有者ニ對シテ運送品ノ運送ノ爲メニ必要ナル準備ヲ行フコトヲ得...

第四十八條 船中所有者ハ船中所有者ニ對シテ運送品ノ運送ノ爲メニ必要ナル準備ヲ行フコトヲ得...

第四十九條 船中所有者ハ船中所有者ニ對シテ運送品ノ運送ノ爲メニ必要ナル準備ヲ行フコトヲ得...

第五十條 船中所有者ハ船中所有者ニ對シテ運送品ノ運送ノ爲メニ必要ナル準備ヲ行フコトヲ得...

第五十一條 船中所有者ハ船中所有者ニ對シテ運送品ノ運送ノ爲メニ必要ナル準備ヲ行フコトヲ得...

第五十二條 船中所有者ハ船中所有者ニ對シテ運送品ノ運送ノ爲メニ必要ナル準備ヲ行フコトヲ得...

第五十三條 船中所有者ハ船中所有者ニ對シテ運送品ノ運送ノ爲メニ必要ナル準備ヲ行フコトヲ得...

第五十四條 船中所有者ハ船中所有者ニ對シテ運送品ノ運送ノ爲メニ必要ナル準備ヲ行フコトヲ得...

第五十五條 船中所有者ハ船中所有者ニ對シテ運送品ノ運送ノ爲メニ必要ナル準備ヲ行フコトヲ得...

第五十六條 船中所有者ハ船中所有者ニ對シテ運送品ノ運送ノ爲メニ必要ナル準備ヲ行フコトヲ得...

第五十七條 船中所有者ハ船中所有者ニ對シテ運送品ノ運送ノ爲メニ必要ナル準備ヲ行フコトヲ得...

第五十八條 船中所有者ハ船中所有者ニ對シテ運送品ノ運送ノ爲メニ必要ナル準備ヲ行フコトヲ得...

第五十九條 船中所有者ハ船中所有者ニ對シテ運送品ノ運送ノ爲メニ必要ナル準備ヲ行フコトヲ得...

第六十條 船中所有者ハ船中所有者ニ對シテ運送品ノ運送ノ爲メニ必要ナル準備ヲ行フコトヲ得...

第六十一條 船中所有者ハ船中所有者ニ對シテ運送品ノ運送ノ爲メニ必要ナル準備ヲ行フコトヲ得...

第六十二條 船中所有者ハ船中所有者ニ對シテ運送品ノ運送ノ爲メニ必要ナル準備ヲ行フコトヲ得...

第六十三條 船中所有者ハ船中所有者ニ對シテ運送品ノ運送ノ爲メニ必要ナル準備ヲ行フコトヲ得...

第六十四條 船中所有者ハ船中所有者ニ對シテ運送品ノ運送ノ爲メニ必要ナル準備ヲ行フコトヲ得...

第六十五條 船中所有者ハ船中所有者ニ對シテ運送品ノ運送ノ爲メニ必要ナル準備ヲ行フコトヲ得...

第六十六條 船中所有者ハ船中所有者ニ對シテ運送品ノ運送ノ爲メニ必要ナル準備ヲ行フコトヲ得...

第六十七條 船中所有者ハ船中所有者ニ對シテ運送品ノ運送ノ爲メニ必要ナル準備ヲ行フコトヲ得...

第六十八條 船中所有者ハ船中所有者ニ對シテ運送品ノ運送ノ爲メニ必要ナル準備ヲ行フコトヲ得...

第六十九條 船中所有者ハ船中所有者ニ對シテ運送品ノ運送ノ爲メニ必要ナル準備ヲ行フコトヲ得...

運送品ヲ受取リ且第五十九條第一項ノ金銀ヲ支拂ヒタルトキハ消滅ス但シ運送品ニ消滅見スルコト能ハザル證據又ハ一部滅失アリタル場合ニ於テ荷受人ガ引渡ノ日ヨリ二週間以内ニ海上運送人ニ對シテ其ノ通知ヲ發シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第七十五條 運送品ノ滅失、毀損又ハ延滞ニ因リテ生ジタル海上運送人ニ對スル損害賠償請求權ノ時効期間ハ二年トス前項ノ期間ハ運送品ノ全部滅失ノ場合ニ於テハ其ノ引渡アルベカリヨリヨリ、其ノ他ノ場合ニ於テハ荷受人ガ運送品ヲ受取リタル日ヨリ之ヲ起算ス

第七十六條 前二條ノ規定ハ損害賠償請求權ノ時効期間ニ關シテ使用シタル者ノ故意又ハ重大ナル過失ニ因リテ生ジタル場合ニハ之ヲ適用セズ

第七十七條 運送品ノ全部又ハ一部ガ不可抗力ニ因リテ滅失シタルトキハ海上運送人ハ運送品ノ全部又ハ一部ヲ請求スルコトヲ得ズ若シ海上運送人ガ既ニ其ノ運送品ノ全部又ハ一部ヲ受取リタルトキハ之ヲ返還スルコトヲ要ス

運送品ノ全部又ハ一部ガ其ノ性質若ハ瑕疵又ハ船積者若ハ荷受人ノ運送品ノ全部ヲ請求スルコトヲ得

第七十八條 運送品ノ重量又ハ容積ヲ以テ運送品ノ定メタルトキハ其ノ額ハ運送品ノ引渡ノ當時ニ於ケル重量又ハ容積ニ依リテ之ヲ定ム

第七十九條 期間ヲ以テ運送品ヲ定メタルトキハ其ノ期間ハ第四十八條第一項ノ通知ヲ發シタル日ノ翌日ヨリ運送品ノ引渡ノ日迄ノ期間ニ依リテ之ヲ定ム但シ他港ヨリ船積港ニ航行スベキ場合ニ於テハ航積ノ日ヨリ之ヲ起算ス

船積ガ不可抗力ニ因リテ船積港若ハ航積ノ途中ニ於テ破泊スベキトキ又ハ航積ノ途中ニ於テ船積ガ修繕スベキトキハ其ノ期間ハ之ヲ前項ノ期間中ニ算入セズ第四十八條第二

項又ハ第五十八條第二項ノ場合ニ於テ船積期間又ハ陸揚期間満了後運送品ノ船積又ハ陸揚ヲ爲シタル日數亦同ジ

第八十條 海上運送人ハ左ノ場合ニ於テハ運送品ノ全部ヲ請求スルコトヲ得

一 船積ガ第三十八條第一項ノ規定ニ從ヒテ積荷ヲ賣却又ハ買入シタルトキ

二 船積ガ第三十九條ノ規定ニ從ヒテ積荷ヲ航海ノ用ニ供シタルトキ

三 船積ガ第二百二十條ノ規定ニ從ヒテ積荷ヲ處分シタルトキ

第八十一條 海上運送人ハ第五十九條第一項ニ定ムル請求權ニ付其ノ占有ニ係ル運送品ノ上ニ積荷ヲ有ス

海上運送人ハ荷受人ニ運送品ヲ引渡シタル後ト雖モ前項ノ積荷ヲ行使スルコトヲ得但シ引渡ノ日ヨリ二週間ヲ經過シタルトキ又ハ其ノ引渡以後第三者ガ其ノ占有ヲ取得シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第八十二條 前條ノ積荷ガ互ニ競合スル場合ニ於テハ後ニ生ジタルモノノ前ニ生ジタルモノニ優先ス

前條ノ積荷ト他ノ積荷トガ競合スル場合ニ於テハ法律ニ別段ノ定メキ限リ前條ノ積荷ハ他ノ積荷ニ優先ス

第八十三條 海上運送人ガ第八十一條第一項ノ規定ニ依リテ受入ニ對シテ有スル請求權ノ範圍ニ於テハ船積者又ハ荷受人ニ對スル請求權ヲ失フ但シ船積者又ハ荷受人ハ其ノ受ケタル利益ノ限度ニ於テ運送品ノ引渡ノ爲メスコトヲ要ス

第八十四條 數人ノ海上運送人アル場合ニ於テハ最終ノ海上運送人ハ前項ノ代リテ其ノ權利ヲ行使スル義務ヲ負フ

前項ノ場合ニ於テ後者ガ前者ニ擔保ヲ爲シタルトキハ前者ノ權利ヲ取得ス

第八十五條 船積ノ全部ヲ以テ運送品ノ引渡ノ目的ト爲シタル場合ニ於テハ

合ニ於テハ其ノ契約ハ左ノ事由ニ因リテ終了ス

一 船積ガ修繕セラルコト

二 船積ガ修繕セラルコト能ハザルニ至リタルコト

三 船積ガ捕獲セラレタルコト

四 運送品ガ不可抗力ニ因リテ滅失シタルコト

前項第一號乃至第三號ニ據ル事由ガ航海中ニ生ジタルトキハ船積者ハ運送品ノ割合ニ應ジ運送品ノ價格ヲ超エザル限度ニ於テ運送品ヲ支拂フコトヲ要ス

第八十六條 航海中又ハ運送品ガ法令ニ違反スルニ至リタルトキ其ノ他不可抗力ニ因リテ契約ヲ爲シタル目的ヲ達スルコト能ハザルニ至リタルトキハ各當事者ハ解約ノ申入ヲ爲スコトヲ得

前項ニ據ル事由ガ發航後ニ生ジタル場合ニ於テ解約アリタルトキハ船積者ハ運送品ノ割合ニ應ジテ運送品ヲ支拂フコトヲ要ス

第八十七條 第八十五條第一項第四號又ハ前條第一項ニ據ル事由ガ運送品ノ一部ニ付テ生ジタルトキハ船積者ハ海上運送人ノ負擔ヲ重カラシメザル範圍内ニ於テ他ノ運送品ヲ積積スルコトヲ得

船積者ガ前項ニ定ムル權利ヲ行ハント欲スルトキハ運送品ノ積積ガ陸揚又ハ船積ヲ爲スコトヲ要ス若シ陸揚又ハ船積ヲ爲シタルトキハ運送品ノ全部ヲ支拂フコトヲ要ス

第八十八條 第八十五條及第八十六條ノ規定ハ船積ノ一部又ハ全部ノ運送品ヲ以テ運送品ノ引渡ノ目的ト爲シタル場合ニ之ヲ適用ス

第八十九條 第八十五條第一項第四號又ハ第八十六條第一項ニ據ル事由ガ運送品ノ一部ニ付テ生ジタルトキハ船積者又ハ荷受人ハ解約ノ申入ヲ爲スコトヲ得但シ運送品ノ全部ヲ支拂フコトヲ要ス

第九十條 海上運送人ノ船積者、荷受人又ハ荷受人ニ對ス

ル債權ノ時効期間ハ二年トス

第九十條 船積ノ全部又ハ一部ヲ以テ運送品ノ引渡ノ目的ト爲シタル場合ニ於テ船積者ガ更ニ第三者ト運送品ノ引渡ノ爲メタルトキハ其ノ契約ノ履行ガ船積ノ義務ニ屬スル範圍内ニ於テハ船積者ノ責任ニ對シテ第三者ノ責任ニ對シテ履行ノ責任ニ在ラズ但シ第十條ニ定ムル權利ヲ行フコトヲ妨グズ

第九十一條 船積者又ハ荷受人ガ運送品ノ積積後一通又ハ數通ノ積積證書ヲ交付シタルトキハ海上運送人ハ運送品ノ引渡アリタル後積積證書ヲ交付シタルトキ

第九十二條 船積者又ハ荷受人ノ爲メ積積證書ヲ發行スル期限ヲ有ス

第九十三條 船積證書ニハ在ノ事項ヲ記載スベシ

一 船積ノ名稱及國籍

二 船積ガ積積證書ヲ作ラザルトキハ船積ノ氏名

三 運送品ノ種類、重量又ハ容積並ニ其ノ積積ノ種類、箇數及記載

四 船積者又ハ荷受人ノ氏名又ハ商號及住所

五 荷受人ノ氏名又ハ商號及住所

六 船積港

七 陸揚港但シ發航後陸揚港ヲ指定スベキトキハ其ノ之ヲ指定スベキ港

八 運送品

九 積積ノ積積證書ヲ作ラザルトキハ其ノ箇數

十 船積證書ノ作成地及其ノ作成ノ年月日

船積證書ニハ作成者ノ署名スルコトヲ要ス

第九十四條 海上運送人ハ船積者又ハ荷受人ノ請求ニ因リテ積積證書ニ荷受人ノ氏名又ハ商號ト共ニ其ノ積積ノ所持人ニ

運送品ノ引渡ヲ爲スベキ旨ヲ記載スルコトヲ要ス

第九十五條 船積者又ハ荷受人ハ海上運送人ノ請求ニ因リテ積積證書ノ原本ニ署名シテ之ヲ交付スルコトヲ要ス

第九十六條 船積證書ヲ發行シタルトキハ運送品ノ積積事項ハ海上運送人ノ所持人トノ間ニ於テハ積積證書ノ定ムル所ニ依ル

第九十七條 船積證書ヲ發行シタルトキハ運送品ノ積積事項分ハ船積證書ヲ以テスルニ非ザレバ之ヲ爲スコトヲ得ズ

第九十八條 船積證書ハ其ノ記名式ナルトキト雖モ實際ニ依リテ之ヲ運送品ノ積積事項トシテ積積證書ニ對シテ其ノ責任ヲ負フ

第九十九條 船積證書ニ依リテ運送品ヲ受取ルコトヲ得ベキ者ニ船積證書ヲ引渡シタルトキハ其ノ引渡ハ運送品ノ上ニ行使スル權利ノ取得ニ付運送品ノ引渡ト同一ノ效力ヲ有ス

第一百條 船積證書ヲ發行シタルトキハ之ト引換ニ非ザレバ運送品ノ引渡ヲ請求スルコトヲ得ズ

第一百一條 陸揚港ニ於テハ海上運送人ハ數通ノ積積證書中ノ一通ノ所持人ガ運送品ノ引渡ヲ請求シタルトキト雖モ其ノ引渡ヲ拒ムコトヲ得ズ

第一百二條 二人以上ノ船積證書所持人ガ運送品ノ引渡ヲ請求シタルトキハ海上運送人ハ運送品ヲ運送品ノ供給シ且請求ヲ爲シタル各所持人ニ對シテ其ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス

海上運送人ガ前條ノ規定ニ依リテ運送品ノ一部ヲ引渡シタル後他ノ所持人ガ運送品ノ引渡ヲ請求シタル場合ニ於テ其ノ積積ニ付亦同ジ

第一百三條 二人以上ノ船積證書所持人アル場合ニ於テ其ノ一人ガ他ノ所持人ニ先テ海上運送人ヨリ運送品ノ引渡ヲ受ケタルトキハ他ノ所持人ノ船積證書ハ其ノ效力ヲ失フ

第一百四條 二人以上ノ船積證書所持人アル場合ニ於テ海上運送人ガ未ダ運送品ノ引渡ヲ爲サザルトキハ原所持人ガ最モ

先ニ發送シ又ハ引渡シタル積積證書ヲ所持スル者他ノ所持人ニ先テ其ノ權利ヲ行フ

第一百五條 陸揚港外ニ於テ海上運送人ハ積積證書ノ各通ノ返還ヲ受ケルニ非ザレバ運送品ヲ引渡スコトヲ得ズ

第一百六條 旅客運送契約ニ於テ旅客ヲ指名シタルトキハ旅客ハ運送品ノ積積ヲ爲シタル權利ヲ他人ニ譲渡スルコトヲ得ズ

第一百七條 海上運送人ハ自己又ハ運送品ノ積積者ガ注意ヲ怠ラザリシコトヲ證明スルニ非ザレバ旅客ガ運送品ノ積積ニ受ケタル損害ヲ賠償スル責任ヲ免ルコトヲ得ズ

第一百八條 旅客ガ契約ニ依リ船中ニ攜帶スルコトヲ得ル手荷物ニ付テハ海上運送人ハ特約アルニ非ザレバ別ニ運送品ヲ請求スルコトヲ得ズ

第一百九條 海上運送人ハ旅客ヨリ引渡ヲ受ケタル手荷物ニ付テハ物品ノ運送ヲ引受ケタル海上運送人ト同一ノ責任ヲ負フ

第一百十條 海上運送人ハ旅客ヨリ引渡ヲ受ケザル手荷物ノ滅失又ハ毀損ニ付テハ自己又ハ運送品ノ積積者ニ關シテ使用シタル者ニ故責又ハ過失アル場合ヲ除ク外損害賠償ノ責任ニ在ラズ

第一百十一條 旅客ガ乗船時期迄ニ船積ニ積積マザルトキハ船積者ハ運送品ノ積積ノ全部ヲ支拂フコトヲ要ス

第一百十二條 航海ノ途中ニ於テ船積ヲ修繕スベキトキハ海上運送人ハ其ノ修繕中旅客ニ相當ノ住居及食料ヲ供スルコトヲ要ス但シ旅客ノ權利ヲ害セザル範圍内ニ於テ他ノ船積者ヲ以テ上陸港迄旅客ヲ運送スルコトヲ提供シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第一百十三條 旅客ハ何時ニテモ旅客運送契約ノ解約ノ申入ヲ爲スコトヲ得

旅客ガ發航前ニ解約ノ申入ヲ爲シタルトキハ運送品ノ半

額、發航後ニ解約ノ申入ヲ爲シタルトキハ運送貨ノ全額ヲ支拂フコトヲ要ス

第百十四條 旅客ガ發航前ニ死亡、疾病其ノ他一身ニ關スル不可抗力ニ因リテ發航後ニ死亡シタルハ運送貨ノ四分ノ一ヲ請求スルコトヲ得

前項ニ據ル事由ガ發航後ニ生ジタルトキハ海上運送人ハ其ノ運送ニ從ヒ運送貨ノ四分ノ一ヲ請求スルコトヲ得

第百十五條 旅客運送契約ハ第八十五條第一項第一號乃至第三號ニ據ル事由ニ因リテ終了スルシテ其ノ事由ガ發航中ニ生ジタルトキハ旅客ハ運送ノ際ニ運送貨ヲ支拂フコトヲ要ス

第百十六條 旅客ガ死亡シタルトキハ船長ハ其ノ相續人ノ利益ニ適スベキ方法ニ依リテ其ノ船中ニ在ル手荷物ノ處分ヲ爲スコトヲ要ス

第百十七條 海上運送人ハ旅客ノ運送貨ニ付其ノ船中ニ在ル手荷物ノ上ニ積置クコトヲ得

第百十八條 第六十六條、第六十八條、第八十六條及第八十九條ノ規定ハ旅客運送ニ之ヲ準用ス

第百十九條 旅客運送ヲ爲ス爲メ船舶ノ全部又ハ一部ヲ以テ運送契約ノ目的ト爲シタル場合ニ於テ海上運送人ト爲シタル者トノ關係ニ付テハ前條第一號ノ規定ヲ準用ス

第四章 共同海損

第百二十條 船舶及積荷ヲシテ共同ノ危險ヲ免レシムル爲メ長ノ爲シタル處分ニ因リテ生ジタル損害及費用ハ之ヲ共同海損トス

第百二十一條 共同海損ハ保存セラレタル船舶又ハ積荷ノ價

格ト運送貨ノ半額ト共同海損タル積荷ノ額トノ割合ニ依リテ各利益關係人ノ之ヲ分擔ス

第百二十二條 前二條ノ規定ハ危險ガ過失ニ因リテ生ジタル場合ニ於テ利益關係人ノ損害賠償ノ請求ヲ妨グズ前項ノ場合ニ於テ過失ニ付責任ニ付ベキ者ハ自己ニ生ジタル損害又ハ費用ニ付分擔ノ請求スルコトヲ得

第百二十三條 左ニ據ル積荷ハ利益關係人ニ於テ分擔スルコトヲ要セズ

一 甲板ニ積置タル積荷ニ加ヘタル損害但シ沿岸ノ小航海ニ在リテハ此ノ限ニ在ラズ

二 船長ノ記録ニ記載セザル積荷ニ加ヘタル損害

三 船長ノ承諾ナクシテ積置セラレタル積荷ニ加ヘタル損害

積置タル積荷ニ當リ船長ニ其ノ種類及性質ヲ明告セズシテ積置マレタル積荷、有價証券其ノ他ノ高價品ニ加ヘタル損害

前項ニ據ル積荷ノ利益關係人ト雖モ共同海損ヲ分擔スル責ヲ免ルコトヲ得

第百二十四條 共同海損タル積荷ノ額ハ到達ノ地及時ニ於ケル船舶ノ價格又ハ陸揚ノ地及時ニ於ケル積荷ノ價格ニ依リテ之ヲ定ム但シ積荷ニ付テハ其ノ減失又ハ毀損ノ爲支拂フコトヲ要セザルシテ費用ヲ控除スルコトヲ要ス

第百二十五條 船舶ノ廢故意ニ積荷ノ實價ヨリ低キ價格ヲ申告シタルトキハ其ノ積荷ニ加ヘタル損害ノ額ハ申告セラレタル價額ニ依リテ之ヲ定ム

前項ノ規定ハ積荷ノ價格ニ影響ヲ及ボスベキ事項ニ付積荷ノ申告價額ニ據ル場合ニ之ヲ準用ス

第百二十六條 共同海損タル費用ニ對シテハ其ノ支出ノ日ヨリ、船舶ニ生ジタル損害ニ付テハ到達ノ日ヨリ、積荷ニ生ジタル損害ニ付テハ陸揚ノ日ヨリ共同海損ノ計算ノ終了ス

ル日迄ノ法定利息ヲ加算スルコトヲ要ス

第百二十七條 共同海損ノ分擔額ヲ定ムルニ付テハ船舶ノ價格ハ到達ノ地及時ニ於ケル價格トス但シ船舶ニ工作ヲ加ヘ又ハ修繕ヲ爲シタルトキハ之ニ因リ増加シタル價額ヲ控除スルコトヲ要ス

第百二十八條 共同海損ノ分擔額ヲ定ムルニ付テハ積荷ノ價格ハ陸揚ノ地及時ニ於ケル價格トス但シ其ノ價格中ヨリ減失ノ場合ニ於テ支拂フコトヲ要セザル運送貨其ノ他ノ費用ヲ控除スルコトヲ要ス

第百二十九條 船舶ノ廢故意ニ積荷ノ實價ヨリ高キ價額ヲ申告シタルトキハ其ノ積荷ノ利益關係人ハ其ノ申告シタル價額ニ據リテ共同海損ヲ分擔ス

前項ノ規定ハ積荷ノ價格ニ影響ヲ及ボスベキ事項ニ付積荷ノ申告價額ニ據ル場合ニ之ヲ準用ス

第百三十條 船舶ニ備付ケタル武器、砲兵ノ積荷、旅客ノ手荷物、海員及旅客ノ食料及衣類ハ共同海損ノ分擔ニ付其ノ價額ヲ算入セズ但シ此等ノ物ニ加ヘタル損害ハ他ノ利益關係人ノ之ヲ分擔ス

第百三十一條 共同海損ヲ分擔スベキ者ハ船舶ノ到達又ハ積荷ノ引渡ノ時ニ於テ現存スル價額ノ限度ニ於テノ之ヲ其ノ責任ニ任ズ

第百三十二條 荷受人ガ運送品ヲ受取リタルトキハ共同海損ノ分擔額ヲ支拂フ義務ヲ負フ

第百三十三條 共同海損ニ因リテ生ジタル價額ヲ有スル者ハ積荷ノ上ニ積置クコトヲ得

前項ノ積置ハ積荷ノ引渡アリタル後善意ニ之ヲ取得シタル者ニ對シテハ之ヲ行使スルコトヲ得

第百三十四條 海上運送人ハ前條第一號ノ規定ニ依リテ積荷ノ爲ニ其ノ有スル價額ヲ行使スル權利ヲ有シ義務ヲ負フ

第百三十五條 船舶所有者ハ航海終了後運送貨ノ共同海損ノ計算ヲ爲スコトヲ要ス

第百三十六條 共同海損ニ因リテ生ジタル價額ノ時效期間ハ其ノ計算終了ノ日ヨリ二年トス

第百三十七條 本章ノ規定ハ船舶ガ不可抗力ニ因リテ發航後又ハ航海ノ途中ニ於テ旋泊ヲ爲ス爲メ必要ナル費用ニ之ヲ準用ス

第五章 船舶ノ衝突

第百三十八條 船舶ノ衝突ガ避テベカシキ事故若ハ不可抗力ニ因リテ生ジタルトキハ衝突ノ原因ガ不明ナルトキハ衝突ニ因リ船舶又ハ船舶内ニ在リタル人若ハ物ニ生ジタル損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得

第百三十九條 船舶ノ衝突ガ一方ノ船舶ノ海員ノ過失ニ因リテ生ジタルトキハ其ノ船舶ノ所有者ハ之ニ因リテ生ジタル損害ヲ賠償スル責任ニ任ズ

第百四十條 船舶ノ衝突ガ雙方ノ船舶ノ海員ノ過失ニ因リテ生ジタルトキハ各船舶ノ所有者ハ過失ノ輕重ニ應ジ船舶又ハ船舶内ニ在リタル物ニ生ジタル損害ノ賠償スル責任ヲ負フ前項ノ場合ニ於テ過失ノ輕重ヲ判定スルコト能ハザルトキハ又ハ過失ノ程度同等ナリト認ムベキトキハ各船舶ノ所有者ノ責任ハ平等トス

第百四十一條 前條第一項ニ定ムル船舶ノ衝突ニ因リ船舶内ニ在リタル人ノ死傷セシメタルトキハ其ノ損害ハ各船舶ノ所有者間ニ於テ賠償ノ責任ニ任ズ

前條ノ規定ハ前項ノ場合ニ於ケル船舶ノ所有者間ノ負擔部分ニ付テ之ヲ準用ス

第百四十二條 水先人ハ本章ノ規定ノ適用ニ付テハ之ヲ海員ト爲ス強シク水先人ト雖モ亦同ジ

第百四十三條 船舶ノ衝突ニ因リテ生ジタル損害賠償請求權ノ時效期間ハ衝突ノ日ヨリ二年トス

第百四十一條第一項ニ定ムル運送貨者間ノ求償權ノ時效期間ハ求償權者ガ共同ノ免責ヲ得タル日ヨリ一年トス

第百四十四條 前六條ノ規定ハ船舶ノ運用上ノ作爲若ハ不作爲又ハ法令ノ違反ニ因リテ他ノ船舶又ハ其ノ船舶内ニ在リタル人若ハ物ニ損害ヲ生ジタル場合ニ之ヲ準用ス

第百四十五條 本章ノ規定ハ船舶ト湖川又ハ港灣ノ航行ノ用ニ供スル船舶トノ間ニ事故ノ生ジタル場合ニ之ヲ準用ス

第六章 海難救助

第百四十六條 船舶又ハ船舶内ノ物ガ海難ニ遭遇セル場合ニ於テ義務ヲシテ之ヲ救助シタル者ハ相當ノ救助料ヲ請求スルコトヲ得船舶ガ湖川又ハ港灣ノ航行ノ用ニ供スル船舶又ハ其ノ船舶内ノ物ガ救助シタルトキ亦同ジ

第百四十七條 救助料ハ救助ノ結果ヲ得タル場合ニ非ザレバ之ヲ請求スルコトヲ得

第百四十八條 船長ガ明ニ救助ヲ拒絶シタルニ拘ラズ之ニ從事シタル者ハ救助料ヲ請求スルコトヲ得但シ其ノ拒絶ガ正當ノ事由ニ因ラザルシテハ此ノ限ニ在ラズ

第百四十九條 現船ハ現船契約ノ履行ニ關スルモノト認ムルコトヲ得ザル特別ノ義務ニ關シタルトキハ非ザレバ現船又ハ其ノ船舶内ニ在リタル物ノ救助ニ付救助料ヲ請求スルコトヲ得

第百五十條 救助料ハ同一ノ所有者ニ關スル船舶ノ間ニ救助アリタルトキト雖モ之ヲ請求スルコトヲ得

第百五十一條 救助料ノ額ニ付特約ナキトキハ一切ノ事情ヲ斟酌シテ法院之ヲ定ム

數人ガ共同シテ救助ヲ爲シタル場合ニ於ケル救助料ノ分擔亦同ジ

第百五十二條 救助料ノ額ヲ決定スルニ付テハ特ニ救助ノ結果、救助者ノ努力、救助セラレタル船舶及其ノ船舶内ニ在リタル人又ハ物ノ運送セル危險、救助ニ當リタル人及船舶

ノ運送セル危險、救助ノ爲ニ要シタル時間、費用及之ニ因リテ生ジタル損害、救助者ノ費用シタル責任負擔ノ危險及其ノ他ノ危險、救助者ガ使用シタル物ノ價額並ニ救助船ガ特別ノ設備ヲ有スルモノナルトキハ其ノ事情ヲ斟酌ス

前項ニ據ル事情ノ外救助セラレタル物ノ價額及保存セラレタル運送貨ノ額ヲ斟酌ス

前二項ノ規定ハ前條第二項ノ規定ニ依リ救助料ヲ分擔スル場合ニ之ヲ準用ス

第百五十三條 救助料ノ額ハ特約ナキトキハ救助セラレタル物ノ價額ニ超ユコトヲ得

第百五十四條 救助契約ガ海難ニ關シ其ノ影響ノ下ニ爲サレ且其ノ内容ガ衡平ナラザルトキハ法院ハ當事者ノ申立ニ因リ之ヲ無効トシ又ハ其ノ内容ヲ變更スルコトヲ得

詐欺ニ因リ救助契約ヲ爲シタルトキハ救助料ガ救助ノ勞務ニ比シ著シク不相當ナルトキ亦前項ニ同ジ

第百五十五條 救助者ガ其ノ過失ニ因リテ救助ノ必要ナラシメタルトキハ救助シタル物ヲ盜取若ハ隱匿シタルトキ其ノ他救助者ニ不正ノ行爲アリタルトキハ法院ハ救助料ヲ減額シ又ハ其ノ請求ヲ許サザルコトヲ得

第百五十六條 船舶ガ救助ニ從事シタル場合ニ於テハ救助料中ヨリ救助ニ因リテ船舶ノ受ケタル損害及費用ヲ賠償シ其ノ殘額ハ左ノ方法ニ依リテ之ヲ分擔スルコトヲ要ス

一 救助ニ從事シタル船舶ガ汽船ナルトキハ三分ノ二、帆船ナルトキハ二分ノ一ヲ船舶ノ所有者ニ分擔ス

二 前項ノ金額ヲ控除シタル積額ヲ折半シ船長及船員ニ分擔ス

船員ニ對スル救助料ノ分擔ニ付テハ其ノ勞務其ノ他一切ノ事情ヲ斟酌シテ船長之ヲ決定ス

前二項ノ規定ニ違反スル契約ハ無効トス

第百五十七條 船長ガ前條第二項ノ規定ニ依リ救助料ノ分擔

ヲ爲スニハ航海ヲ終ル迄ニ分配案ヲ作り之ヲ船員ニ告示スルコトヲ要ス

第五十八條 船員ガ前條ノ分配案ニ對シテ異議ノ申立ヲ爲サントスルトキハ其ノ告示ヲ行ハタル後異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得ル最前ノ港ノ管海官廳ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

管海官廳ハ異議ヲ理由アリトスルトキハ分配案ヲ更正スルコトヲ得

第五十九條 船長ハ前條ノ分配案ニ對シテ異議ヲ爲スコトヲ得

第六十條 船長ガ前條ノ命令ニ從ハザルトキハ管海官廳ハ分配案ヲ作ルコトヲ得

第六十一條 前四條ノ規定ハ救助ヲ爲シタル船舶ガ救助ヲ目的トスルモノナルトキハ之ヲ適用セズ

第六十二條 生命ヲ救助セラレタル者ハ救助料ヲ支拂フ義務ナシ

第六十三條 救助ノ行ハレタル海難ノ際人命ノ救助ニ從事シタル者ハ船舶又ハ船舶内ノ物ヲ救助シタル者ニ與ヘタル救助料ニ付相當ノ分額ヲ受タルコトヲ得

第六十四條 荷受人ガ救助セラレタル運送品ヲ受取リタルトキハ救助料ヲ支拂フ義務ヲ負フ

第六十五條 救助者ハ其ノ價額ニ付救助シタル積荷其ノ他船舶内ニ在リタル物ノ上ニ價額ヲ有ス

第六十六條 前項ノ價額ハ其ノ目的物ガ善意ノ第三取得者ニ引渡サレタル後ハ之ヲ行使スルコトヲ得ズ

第六十七條 第八十二條ノ規定ハ第一項ノ價額ニ之ヲ準用ス

第六十八條 第八十一條第一項ノ規定ハ第三十三條第一項及前條第一項ノ價額ガ同一ノ物品ノ上ニ適合スルトキハ第八十一條第一項ノ價額ハ他ノ價額ニ從ル第百三十三條第一項及

前條第一項ノ價額ノ間ニ在リテハ後ニ生ジタルモノ前ニ生ジタルモノニ優先ス

同一ノ順位ノ價額者ハ其ノ價額額ノ割合ニ應ジテ擔當ヲ受ク

第六十五條 海上運送人ハ救助料ノ支拂アル迄ハ荷物ノ引渡ヲ爲スコトヲ得ズ

第六十六條 救助料債權者ハ救助セラレタル物ヲ以テノミ救助料ヲ支拂フ義務ヲ負フ

第六十七條 船長ハ船舶所有者ニ代リテ救助料ノ請求ニ關スル一切ノ裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス

第六十八條 船長ハ救助料債權者ニ代リテ其ノ支拂ニ關スル一切ノ裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス

第六十九條 救助料ニ關スル訴訟ニ於テハ船長ハ自ら原告又ハ被告ト爲ルコトヲ得此ノ場合ニ於テ管海官廳ハ自ラ裁判ハ前二條ニ定ムル本人ニ對シテモ其ノ效力ヲ有ス

第七十條 救助料請求權ノ時効期間ハ救助ノ終リタル日ヨリ二年トス

第七十一條 船舶債權及船舶抵押權

一 船舶及其ノ屬具ノ價額ニ關スル費用並ニ賣買手續開始後ノ保存費

二 最後ノ港ニ於ケル船舶及其ノ屬具ノ保存費

三 航海ニ關シ船舶ニ課シタル課税

四 船務契約ニ因リテ生ジタル船長其ノ他ノ海員ノ債權

五 水先案内料及吃船料

六 救助料及船舶ノ負擔ニ關スル共同債務

七 航海事務ノ必要ニ因リテ生ジタル債權

八 船舶ガ其ノ買賣又ハ運送ノ後未ダ航海ヲ爲サザル場合ニ於テ其ノ買賣又ハ運送及船務ニ因リテ生ジタル債權並ニ最後ノ航海ノ爲ニスル船舶ノ機件、食料及燃料ニ關ス

ル債權

九 第二條及第五條乃至前條ニ據グルモノヲ除クノ外第十條ノ規定ニ依リ委託ヲ許シタル債權

第七十二條 船舶債權者ハ船舶、其ノ屬具及未ダ受取ラザル運送貨ノ上ニ優先權ヲ有ス

第七十三條 船舶債權者ノ價額ハ運送貨ニ付テハ其ノ價額ノ生ジタル航海ニ於ケル運送貨ノ上ニ優先權ヲ有ス

第七十四條 船舶債權者ハ船舶、其ノ屬具及未ダ受取ラザル運送貨ノ上ニ優先權ヲ有ス

第七十五條 船舶債權者ハ船舶、其ノ屬具及未ダ受取ラザル運送貨ノ上ニ優先權ヲ有ス

第七十六條 船舶債權者ハ船舶、其ノ屬具及未ダ受取ラザル運送貨ノ上ニ優先權ヲ有ス

第七十七條 船舶債權者ハ船舶、其ノ屬具及未ダ受取ラザル運送貨ノ上ニ優先權ヲ有ス

第七十八條 船舶債權者ハ船舶、其ノ屬具及未ダ受取ラザル運送貨ノ上ニ優先權ヲ有ス

第七十九條 船舶債權者ハ船舶、其ノ屬具及未ダ受取ラザル運送貨ノ上ニ優先權ヲ有ス

第八十條 船舶債權者ハ船舶、其ノ屬具及未ダ受取ラザル運送貨ノ上ニ優先權ヲ有ス

○商人通法施行法

(明治四年十一月二十五日) (勅令第三一七號)

トヲ得ズ

前項ノ公告ハ船舶ノ船籍港ヲ管轄スル法院ガ爲スベキ登記事項ノ公告ト同一ノ方法ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス

船舶債權者ガ第一項ノ期間内ニ其ノ價額ノ申出ヲ爲サザリシトキハ船舶及其ノ屬具ニ對スル優先權ハ消滅ス

第七十九條 船舶債權者ノ價額ハ其ノ發生後一年ヲ經過シタルトキハ消滅ス

第八十條 船舶債權者ノ價額ハ船舶ノ發航ニ因リテ消滅ス

第八十一條 登記シタル船舶ヘ之ヲ以テ抵押權ノ目的ト爲スコトヲ得

船舶ノ抵押權ハ其ノ屬具ニ及ブ

船舶ノ抵押權ニハ不動産ノ抵押權ニ關スル規定ヲ準用ス

第八十二條 船舶債權者ノ價額ハ抵押權ニ先テ之ヲ行フコトヲ得

第八十三條 登記シタル船舶ニハ價額ヲ設定スルコトヲ得ズ

第八十四條 本章ノ規定ハ製造中ノ船舶ニ之ヲ準用ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(廣德四年勅令第三一六號ヲ以テ同年十二月一日ヨリ施行)

陸田法第三十六條ニ依リ參議府ノ諮詢ヲ經テ商人通法施行法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 商人通法ハ本法ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外其ノ施行前ニ生ジタル事項ニモ亦之ヲ適用ス但シ從前ノ規定ニ依リテ生ジタル效力ヲ妨グズ

第二條 從前ノ規定ニ依リテ爲シタル登記ハ商人通法ノ規定ニ從ヒテ爲シタルモノト同一ノ效力ヲ有ス

第三條 商人通法施行前ニ設立シタル會社ハ本法施行ノ日ヨリ一年以内ニ商人通法第十三條ノ規定ニ從ヒテ其ノ商號ヲ變更スルコトヲ要ス

前項ノ規定ニ違反シタルトキハ其ノ會社ノ取締役又ハ業務ヲ執行スル社員ヲ千圓以下ノ過料ニ處ス

第四條 商人通法第十五條ノ規定ハ後ニ登記セラレタル商號ガ商人通法施行前ヨリ使用セラルルモノナル場合ニハ之ヲ適用セズ

第五條 商號ノ登記ヲ爲シタル者ト雖モ商人通法施行前ヨリ同一又ハ類似ノ商號ヲ使用スル者ニ對シテハ商人通法第十條ニ定ムル權利ヲ行フコトヲ得ズ

第六條 商人通法第十八條ノ規定ハ商人通法施行前ノ行爲ニハ之ヲ適用セズ

第七條 商人通法第二十一條ノ規定ハ商號ノ登記ヲ爲シタル者ガ商人通法施行前ヨリ商號ヲ使用セザル場合ニ於テハ其ノ施行ノ前後ノ期間ヲ通算シテ之ヲ適用ス

第八條 商人通法第二十七條乃至第二十九條ノ規定ハ商人通法施行前ニ營業ヲ經營シタル場合ニハ之ヲ適用セズ

商人通法施行前ニ營業ヲ開設シタル者ガ同一ノ營業ヲ爲スコトヲ得ザル期間及區域ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル

第九條 支那人ガ商人通法施行前營業主ノ許諾ヲ得ズシテ自己又ハ他人ノ爲ニ營業ヲ爲シ又ハ會社ノ無限責任社員ト爲リタルニ因リ營業主ノ有スル權利ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル

第十條 商人通法施行前ニ爲シタル組合員ノ解約ノ申入ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル

第十一條 商人通法第七十八條ノ規定ハ商人通法施行前ニ契約ノ申込ヲ受ケタル場合ニハ之ヲ適用セズ

第十二條 商人通法第八十條ノ規定ハ商人通法施行前ニ爲サレタル行爲ニ付テハ之ヲ適用セズ

第十三條 商人通法第八十一條ノ規定ハ商人通法施行前ニ爲サレタル貸付又ハ立替ヘタル場合ニハ之ヲ適用セズ

第十四條 商人通法ニ於テ署名トアルハ記名捺印ヲ含ム

附則

本法ハ商人通法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス(廣德四年十二月一日ヨリ施行)

○會社法施行法

(昭和四年十一月二十五日) 勅令第三一八號

第一章 總則
第一條 會社法ハ開闢ヲ除クノ外其ノ施行前ニ生ジタル事項ニモ亦之ヲ適用ス但シ從前ノ規定ニ依リテ生ジタル效力ヲ妨グズ
第二條 從前ノ規定ニ依リテ設立セラレタル股份有限公司、無限公司、兩合公司ハ夫々會社法ニ依ル株式會社、合名會社、合資會社トス
第三條 會社法施行ノ際存在スル股份有限公司ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル
第四條 股份有限公司ハ會社法施行後六月以内ニ其ノ組織ヲ變更シテ之ヲ株式會社ト爲スコトヲ要ス
第五條 前項ノ場合ニ於テハ股東會ハ株式會社ノ組織ニ必要ナル事項ヲ決議スルコトヲ要ス此ノ股東會ニ於テハ無限責任股東モ亦其ノ引受タベキ株式ノ數ニ應ジテ議決權ヲ行使スルコトヲ得
第六條 決議ハ章程變更ノ決議ト同一ノ方法ニ依ルニ非ザレバ之ヲ爲スコトヲ得ズ
第七條 前條ノ規定ニ依リ會社ノ組織ヲ變更スル場合ニ於テハ債權者ニ對シテ其ノ債權申出ノ通知及公告ハ之ヲ爲スコトヲ要セズ
第八條 股份有限公司ガ第四條ノ規定ニ依リテ其ノ組織ヲ變更シタルトキハ本店ノ所在地ニ於テハ二週間、支店ノ所在地ニ於テハ三週間以内ニ股份有限公司ニ付テハ解散ノ登記、株式會社ニ付テハ會社法第三十六條第二項ニ定ムル登記ヲ爲スコトヲ要ス

第九條 股份有限公司ノ無限責任股東ニシテ株主ト爲リタル者ハ本店ノ所在地ニ於テ前條ノ登記ヲ爲ス前ニ生ジタル會社ノ債務ニ付テハ無限責任股東ノ責任ヲ免ルルコトヲ得前項ノ責任ハ前項ノ登記後二年以内ニ請求スルハ請求ノ報告ヲ爲サザル會社ノ債權者ニ對シテハ登記後二年ヲ經過シタルトキ消滅ス
第十條 股份有限公司ガ第四條第一項ニ定ムル期間内ニ其ノ組織ヲ變更セザルトキハ其ノ期間經過ノ日ニ解散シタルモノト爲ス
第十一條 會社法第八條第一項ノ規定ハ會社ガ會社法施行前ヨリ開業ヲ爲サズ又ハ營業ヲ休止シタル場合ニ於テハ會社法施行ノ前後ノ期間ヲ通算シテ之ヲ適用ス
第十二條 會社ノ設立ノ登記ハ其ノ設立ノ手續ガ從前ノ規定ニ從ヒテ爲サレタル場合ニ於テハ會社法施行後ト雖モ仍從前ノ規定ニ依リテ之ヲ爲ス但シ登記スベキ事項ニ付テハ會社法ノ規定ニ從フコトヲ要ス
第十三條 會社法施行前ニ會社ノ支店ノ設置、本店若ハ支店ノ移轉、登記事項ノ變更又ハ解散アリタル場合ノ登記ハ從前ノ規定ニ從ヒテ之ヲ爲ス
第十四條 從前ノ規定ニ依リテ設立ノ登記ヲ爲シタル會社ハ會社法施行ノ日ヨリ六月以内ニ從前ノ規定ニ依リテ登記シタル事項ヲ除クノ外會社ノ設立ニ付テハ會社法ノ規定ニ從ヒテ登記スベキ事項ヲ登記スルコトヲ要ス
第十五條 前項ノ規定ニ違反シタルトキハ其ノ會社ノ取締役又ハ會社ヲ代表スベキ社員ヲ五百圓以下ノ罰金ニ處ス
第十六條 會社法第六條第二項、第七條、第二百八十三條乃至第二百八十五條及第三百九十一條(會社法第四百二十四條ニ於テ適用スル場合ヲ含ム)ノ規定ハ會社法施行前ニ合併ノ決議又ハ同意アリタル場合ニハ之ヲ適用セズ

第十七條 會社ノ合併ニ當リ債權者ノ異議ヲ述ブベキ期間ガ會社法施行前ニ經過シタル場合ニ於テハ前條ノ手續ハ從前ノ規定ニ依ル但シ合併ニ因リテ設立シタル會社ニ付テハ會社法第三十六條第二項、第三百五十八條第一項又ハ第四百二十六條第一項ニ掲グル事項ヲ登記スルコトヲ要ス
第十八條 會社法第二百八十八條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニモ亦之ヲ適用ス第六十八條第二項ノ規定ハ會社ノ合併ノ場合ニ之ヲ適用ス
第十九條 會社法施行前ニ爲シタル合併ニ對シテハ會社法施行ノ日ヨリ六月以内ニ限リ會社法ノ規定ニ從ヒテ合併無効ノ訴ヲ提起スルコトヲ得
第二十條 會社法第三百三條、第四百三條第四項、第五百三條、第六百六條、第二百五十三條第三項及第二百九十三條乃至第二百九十六條ノ規定ハ同法第二百九十二條第二項又ハ第三百九十三條ニ掲グル者ガ會社法施行前ニ提起シタル合併無効ノ訴訟ノ訴ニモ亦之ヲ適用ス但シ其ノ訴ニ付爲シタル判決ガ會社法施行前ニ確定シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ
第二十一條 會社ノ設立ノ無効又ハ取消ノ訴ハ會社法施行前ニ成立シタル會社ニ付テハ會社法施行ノ日ヨリ六月以内ニ限リ之ヲ提起スルコトヲ得但シ本店ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲シタル日ヨリ二年ノ期間ヲ經過セザルモノニ付テハ其ノ期間内ニ之ヲ提起スルコトヲ妨グズ
第二十二條 會社法第三百三條、第四百三條第四項、第五百三條、第六百六條、第二百九十三條、第二百九十五條、第二百九十九條及第三百三條ノ規定ハ會社法第二百九十八條第二項又ハ第三百九十九條第一項(會社法第四百二十四條ニ於テ適用スル場合ヲ含ム)ニ掲グル者ガ會社法施行前ニ提起シタル會社設立ノ無効ノ訴ニモ亦之ヲ適用ス此ノ場合ニ於テハ第六百六條但書ノ規定ヲ適用ス
第二十三條 會社ガ會社法施行前ニ解散シタル場合ニ於テハ其

ノ清算手續ハ仍從前ノ規定ニ依ル
第二十四條 會社法第三十六條及第四百三條ノ規定(會社法第四百二十四條ニ於テ適用スル場合ヲ含ム)ノ前項ノ場合ニ於テモ亦之ヲ適用ス
第二十五條 株式會社ガ會社法第十三條第二項ニ定ムル公告ヲ法ト爲ル定テ爲シタル場合ニ於テハ會社法施行ノ日ヨリ六月以内ニ其ノ定款ヲ變更スルコトヲ要ス
第二十六條 前項ノ規定ニ違反シタルトキハ取締役又ハ取締役後ヲ五百圓以下ノ罰金ニ處ス
第二十七條 會社法第十四條ノ公證人ノ設置ハ法院ノ設置ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得
第二十八條 株式會社ノ定款ノ設置ヲ爲シタルモノガ法院ナルトキハ會社法第二十二條第二項第一號ニ掲グル公證人ノ氏名ニ代ヘ其ノ設置ヲ爲シタル法院ヲ記載スルコトヲ要ス
第二十九條 會社法施行前ニ發起人ニ於テ株式總數ノ引受ヲ完了セザル場合又ハ發起人ガ株式ノ募集ニ着手セザル場合ニ於テハ新ニ會社法ノ規定ニ從ヒテ定款ヲ作り設立ノ手續ヲ爲スコトヲ要ス
第三十條 會社法施行前ニ發起人ニ於テ株式總數ノ引受ヲ完了シタル場合又ハ發起人ガ株式ノ募集ニ着手シタル場合ニ於テハ前條ノ設立手續ハ仍從前ノ規定ニ依ル但シ設立ノ登記ニハ會社法第三十六條第二項ニ掲グル事項ヲ登記スルコトヲ要ス
第三十一條 會社法第四十五條乃至第四十七條及第七十九條第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ於テ之ヲ適用ス
第三十二條 會社法第九條ノ規定ハ從前ノ規定ニ從ヒテ爲シタル創立總會ノ決議ノ無効ノ訴訟ヲ請求スル訴ニモ亦之ヲ適用ス此ノ場合ニ於テハ第十六條但書ノ規定ヲ適用ス
第三十三條 會社法第五十條第一項ノ請求ハ會社法施行前ニ

株式總會ニ於テ訴ヲ提起スルコトヲ否決シタル場合ニ於テハ會社法施行ノ日ヨリ三月以内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス
第三十四條 會社法第五十一條ノ規定ハ發起人ニ非ザル者ノ責任ヲ生ズベキ記載ガ會社法施行前ニアリタル場合ニハ之ヲ適用セズ
第三十五條 從前ノ規定ニ依リ設立シタル株式會社ニ於テ株式ノ金額ガ會社法第五十五條第二項ノ規定ニ違反スルモ從前ノ規定ニ違反セザル場合ニ於テハ定款ノ定ムル所ニ依ルコトヲ妨グズ會社法施行後ニ新株ヲ發行スルトキ亦同ジ
第三十六條 前項ノ規定ハ會社法施行後株式ノ金額ヲ變更スル場合ニハ之ヲ適用セズ
第三十七條 會社法施行前ニ自己ノ株式ヲ取得シ又ハ買附ノ目的トシテ之ヲ受ケタル株式會社ハ會社法施行後運轉ナク又ハ會社法施行後相當ノ時期ニ會社法第六十五條ノ手續ヲ爲スコトヲ要ス
第三十八條 前項ノ規定ニ違反シタルトキハ取締役ヲ千圓以下ノ罰金ニ處ス
第三十九條 株式會社ガ會社法施行前ニ主ニ對シテ株金ノ拂込ニ付テ未納報告ノ通知ヲ發シタル場合ニ於テハ前條ノ手續ハ仍從前ノ規定ニ依ル
第四十條 會社法第六十八條第三項ニ定ムル譲渡人ノ責任ハ會社法施行前ニ株式ノ譲渡ヲ株主名簿ニ記載シタル者ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル
第四十一條 會社法第七十三條第二項ノ規定ハ會社法施行前ニ株式ヲ引受ケタル發起人ニ付テハ之ヲ適用セズ
第四十二條 會社法第七十五條ノ規定ハ會社法施行前ニ株式ヲ譲渡シタル場合ニハ之ヲ適用セズ
第四十三條 會社法第七十七條ノ規定ハ會社法施行前ニ株式ヲ一併第一項ノ規定ニ違反スルモノ之ヲ改ムルコトヲ要セズ
第四十四條 會社法施行前ニ發行シタル無記名式ノ債券ハ會

社法第八十二條第一項ノ規定ニ依リ其ノ效力ヲ妨グザルルコトナシ
第四十五條 會社法施行前ニ爲シタル株主總會召集ノ通知及公告ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル
第四十六條 前項ノ規定ハ創立總會ノ召集ニ之ヲ適用ス
第四十七條 會社法第八十八條第一項ノ規定ハ會社法施行前ニ總會召集ノ通知又ハ公告ヲ爲シタル場合ニハ之ヲ適用セズ
第四十八條 前項ノ規定ハ創立總會ニ之ヲ適用ス
第四十九條 株主總會ガ會社法施行後開ルベキトキト雖モ其ノ召集ノ公告ガ會社法施行前ニ爲サレタル場合ニ於テハ無記名式株式ヲ有スル株主ハ會日ヨリ五日以前ニ債券ヲ會社ニ供託スルヲ以テ足ル
第五十條 會社法第三百三條乃至第三百八條ノ規定ハ會社法施行前ニ提起シタル株主總會召集ノ請求スル訴ニモ亦之ヲ適用ス但シ其ノ訴ニ付爲シタル判決ガ會社法施行前ニ確定シタルトキハ會社法第七條ノ規定ハ之ヲ適用セズ
第五十一條 會社法第九條ノ規定ハ會社法施行前ニ提起シタル株主總會召集ノ決議ノ無効ノ訴訟ヲ請求スル訴ニモ亦之ヲ適用ス此ノ場合ニ於テハ第十六條但書ノ規定ヲ適用ス
第五十二條 會社法第十五條第一項ノ規定ハ會社法施行前ニ提起シタル株主總會召集ノ決議ノ無効ノ訴訟ヲ請求スル訴ニモ亦之ヲ適用ス但シ其ノ訴ニ付爲シタル判決ガ會社法施行前ニ確定シタルトキハ會社法第七條ノ規定ハ之ヲ適用セズ
第五十三條 取締役ガ會社法施行前ヨリ會社ト同種ノ營業ヲ

目的トスル他ノ會社ノ取締役タルトキハ他ノ會社ニ於ケル現在ノ任期満了ニ至ル迄仍舊取締役タルコトヲ妨グズ...

前項ノ場合ニ於テハ株主及會社債權者ハ會社ノ請求又ハ抄本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得ズ...

第五十六條 會社法施行前ニ於テハ株主及會社債權者ハ會社ノ請求又ハ抄本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得ズ...

第六十三條 社債ノ償還請求權及社債ノ利息ノ請求權ノ時効期間ハ會社法施行前ニ其ノ進行ヲ始メタルモノニ付テハ仍舊前ノ規定ニ依ル...

第六十四條 會社法施行前ニ於テハ株主及會社債權者ハ會社ノ請求又ハ抄本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得ズ...

第六十五條 會社法施行前ニ於テハ株主及會社債權者ハ會社ノ請求又ハ抄本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得ズ...

○海商法施行法

海商法第三十六條ニ依リ參照府ノ諮詢ヲ經テ海商法施行法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム...

行前運送ノ委託ヲ受ケタル場合ニハ之ヲ適用セズ
第十二條 海商法第七十四條但書ニ定ムル期間ハ海商法施行
前荷受人ガ保留ヲ爲サズシテ運送品ヲ受取リ且海商法第五
十九條第一項ノ金額ヲ支拂ヒタル場合ニ於テハ海商法施行
ノ日ヨリ之ヲ起算ス
第十三條 海商法第九十條ノ規定ハ海商法施行前第三者ガ能
船者ト運送契約ヲ結ビタル場合ニハ之ヲ適用セズ
第十四條 海商法施行前生シタル共同海損ニ付テハ仍從前規
定ニ依ル
第十五條 沿岸小航海ノ範圍ハ交通部大臣之ヲ定ム
第十六條 海商法施行前爲シタル海上保險契約ニ付テハ仍從
前ノ規定ニ依ル
第十七條 海商法ニ於テ署名トアルハ記名捺印ヲ含ム
本法ハ海商法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス(廣徳四年十二月一日
ヨリ施行)

○小切手ノ呈示期間ノ特例ニ
關スル件

(廣徳四年九月三十日
勅令第二八六號)
朕參議府ノ諮詢ヲ經テ小切手ノ呈示期間ノ特例ニ關スル件ヲ
朕可シ茲ニ之ヲ公布セシム
小切手ノ呈示期間ノ特例ニ關スル件
滿洲國及日本内地、朝鮮又ハ關東州以外ノ亞細亞洲ノ地域ニ
於テ振出シ滿洲國ニ於テ支拂フベキ小切手ノ呈示期間ハ之ヲ
六十日トス
附 則
本令ハ廣徳四年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

○小切手法ノ適用ニ付銀行ト
同視スベキ人又ハ施設ヲ定
ムルノ件

(廣徳四年九月三十日
勅令第二八七號)
改正 廣徳七年三月勅令第四六號、四月第七九號
朕參議府ノ諮詢ヲ經テ小切手法ノ適用ニ付銀行ト同視スベキ人
又ハ施設ヲ定ムルノ件ヲ朕可シ茲ニ之ヲ公布セシム
小切手法ニ付銀行ト同視スベキ人又ハ施設ヲ定ムルノ件
一 商工金融合作社
二 商工金融合作社中央會
三 農農合作社
四 農農合作社中央會
附 則
本令ハ廣徳四年十月一日ヨリ之ヲ施行ス
附 則 (廣徳七年三月勅令第四六號)
本令ハ農農合作社法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス(廣徳七年四月一
日)
附 則 (廣徳七年四月勅令第七九號)
本令ハ商工金融合作社法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス(廣徳七年五月
一日)

○手形法第八十二條及小切手
法第六十七條ノ規定ニ依ル
手形交換所ニ關スル件

(廣徳四年十月二日
司法部令第二一號)
全部改正 廣徳六年五月部令第二號
改正 廣徳七年一月部令第一號
廣徳四年司法部令第二一號手形法第八十二條及小切手法第六
十七條ノ規定ニ依ル手形交換所ニ關スル件ヲ左ノ通改正ス
手形法第八十二條及小切手法第六十七條ノ規定ニ依ル
手形交換所ニ關スル件
手形法第八十二條及小切手法第六十七條ノ規定ニ依リ手形交換
所ヲ別表ノ通指定ス
附 則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
附 則 (廣徳七年一月司法部令第一號)
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

名	稱	所在地
東京	手形交換所	東京特別市
奉天	手形交換所	奉天市
營口	手形交換所	營口市
安東	手形交換所	安東市
哈爾濱	手形交換所	哈爾濱市

○拒絕證書令

(廣徳四年九月三十日
勅令第二八五號)
朕參議府ノ諮詢ヲ經テ拒絕證書令ヲ朕可シ茲ニ之ヲ公布セシ
ム
第一條 手形(爲替手形、約束手形)及小切手ノ拒絕證書ハ
執行官又ハ區法院ノ書記官之ヲ作ル
第二條 拒絕證書ニハ左ノ事項ヲ記載シ執行官又ハ書記官之
ニ署名捺印スルコトヲ要ス
一 拒絕者及被拒絕者ノ名稱
二 拒絕者ニ對シテ請求ノ趣旨及拒絕者ガ其ノ請求ニ應ゼ
ザリシコト、拒絕者ニ面會スルコト能ハザリシコト又ハ
請求ヲ爲スベキ場所ガ知レザリシコト
三 請求ヲ爲シ又ハ之ヲ爲スコト能ハザリシ地及年月日
四 拒絕證書作成ノ場所及年月日
五 法定ノ場所外ニ於テ拒絕證書ヲ作ルトキハ拒絕者ガ之
ヲ承諾シタルコト
支拂人ガ手形法第二十四條第一項ノ規定ニ依リ第二ノ呈示
ヲ爲スベキコトヲ請求シタルトキハ拒絕證書ニ其ノ旨ヲ記
載スルコトヲ要ス
第三條 拒絕證書ノ作成ハ手形者ハ小切手又ハ附屬ニ依リテ
之ヲ爲ス拒絕證書ハ手形又ハ小切手ノ裏面ニ記載シタル事
項ニ根據シテ之ヲ作リ附屬ニ依ル場合ニ於テハ執行官又ハ
書記官其ノ捺印ヲ爲スコトヲ要ス
第四條 手形又ハ小切手ノ裏面ニ原本及原本ヲ呈示
シタル場合ニ於テ拒絕證書ヲ作ルトキハ其ノ作成ハ一過ノ
違本若ハ原本又ハ附屬ニ依リテ之ヲ爲スヲ以テ足ル
前項ノ規定ニ依リテ拒絕證書ヲ作リタルトキハ他ノ原本又

商事法 手形法第八十二條及小切手法第六十七條ノ規定ニ依ル手形交換所ニ關スル件 拒絕證書令

○小商人ノ範圍ニ關スル件

(明治四十二年一月一日) 勅令第三七四號

陸揚揚府ノ管轄ヲ經テ小商人ノ範圍ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
小商人ノ範圍ニ關スル件
即人ニシテ其ノ營業資金五百圓ニ滿タザル者ハ之ヲ小商人トス
本令ハ商人運送施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス (明治四十二年一月一日) 施行

○湖川又ハ港灣ト海上トノ境界ニ關スル件

(明治四十二年十一月三十日) 交通部令第六三三號

陸揚揚法第五十六條ノ規定ニ依ル湖川又ハ港灣ト海上トノ境界ノ規定ム
湖川又ハ港灣ト海上トノ境界ニ關スル件
一 安徽省淮河兩岸內ヨリ明縣平安北道靈山縣大和島ヲ經テ
四縣山半島南端ニ至ル線
二 安徽省淮河兩岸內ヨリ固始大王東島南端ヲ經テ固始州
子至ル線
三 奉天省營口紅石嘴ヨリ同省長興島北角、開原州西中島西角
及同省鎮邊島北角ヲ經テ四縣島ニ至ル線
四 奉天省營口、奉天省白子山ヨリ遼河河口牛莊灣ヲ經テ錦州省
四縣島南端ニ至ル線
五 錦州省西縣縣南島南角ヨリ同省長興島南端花島南角ヲ經テ
同省中縣縣山角ニ至ル線
本令ハ運送法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス (明治四十二年十一月一日) 施行

引受人アルトキ(其ノ名稱) 運送證書ヲ滅失シタル場合ニ於テ利害關係人ノ請求アリタルトキハ前項ノ記載ヲ爲シタル原本ヲ作リ之ヲ利害關係人ニ交付スルコトヲ要ス此ノ原本ト同一ノ效力ヲ有ス
第九條 運送證書作成ノ手数料(一) 運付七角トス
第十條 運送證書ノ原本ノ交付ニ付テハ手数料(一) 運付二角トス
第十一條 前二條ノ手数料(收入印紙)ノ納付書ニ貼附シテ納付スルコトヲ要ス
第十二條 執行官又ハ書記官ガ出張シテ運送證書ヲ作成スル場合ニ於ケル日當、旅費及印刷料(運送證書ノ作成ヲ申請スル者ノ負擔トス) 前項ノ費用ニ付テハ民事訴訟費用法ノ規定ヲ準用ス
第十三條 執行官又ハ書記官(運送證書ノ作成ヲ申請スル者ニ對シテ前條ニ定ムル費用ノ豫納ヲ命ズルコトヲ得) 申請人ガ前項ノ費用ヲ豫納セザルトキハ執行官又ハ書記官(其ノ申請ヲ拒絶スルコトヲ得) 拒絶スルコトヲ得
本令ハ運送法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○運送法、倉庫法及海商法ノ規定ニ依ル公告方法ニ關スル件

(明治四十二年十一月二十五日) 司法部令第二四四號

茲ニ運送法第三十四條、倉庫法第三十條及海商法第六十二條ノ規定ニ依リ爲スベキ公告ノ方法ヲ左ノ通定ム
運送法第三十四條、倉庫法第三十條及海商法第六十二條ノ規定ニ依リ爲スベキ公告ハ政府公報及時事ニ關スル事項ヲ掲載スル日刊新聞紙ヲ以テ之ヲ爲ス
本令ハ運送法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○沿岸小航海ノ範圍ニ關スル件

(明治四十二年十二月一日) 交通部令第六八號

茲ニ海商法施行法第十五條ノ規定ニ依ル沿岸小航海ノ範圍左ノ通定ム
沿岸小航海ノ範圍ニ關スル件
沿岸小航海ノ範圍ハ朝鮮平安北道靈山縣山半島南端ヨリ同郡大和島、開原州五島島、開海洋島南端、同郡三山島ヲ經テ同郡山角ニ至ル線ヲ以テ限ラレタル區域トス
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○商業登記法

(明治四十二年十一月二十九日) 勅令第三四一號

陸揚揚法(第三十六條)ニ依リ參議府ノ諮詢ヲ經テ商業登記法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
第一章 總則
第一條 商業登記ニ付テハ登記ノ申請ヲ爲ス者ノ營業場所所在地ノ區法院ヲ以テ管轄登記處トス
第二條 司法府大臣ハ一ノ登記處ノ管轄ニ關スル事務ヲ同一地方法院ノ管轄區域內ノ他ノ登記處ヲシテ處理セシムルコトヲ得
第三條 登記處ニ左ノ商業登記簿ヲ備フ
一 商業登記簿
二 未成年者登記簿
三 法定代理人登記簿
四 支配人登記簿
五 株式會社登記簿
六 合名會社登記簿
七 合資會社登記簿
八 外國會社登記簿
第四條 登記處ニ各商業登記簿ノ索覽簿ヲ備フ
第五條 登記簿ハ高等法院長其ノ枚數ヲ表紙ノ裏面ニ記載シ職氏名ヲ署シ印ヲ押捺シ且毎葉ノ最目ニ職印ヲ以テ契印ヲ爲スコトヲ要ス
第六條 何人ト雖モ手数料ヲ納付シテ商業登記簿ノ閲覧ヲ請求シ又ハ其ノ原本若ハ抄本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得
第七條 手数料ノ外商業登記簿ノ原本又ハ抄本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

登記ニ付利害關係ヲ有スルコトヲ證明シタル者ハ手續料ヲ納付シテ其ノ關係アル部分ニ限り登記簿ノ附屬書類ノ閲覧ヲ請求スルコトヲ得...

六 登記處ノ表示 代理人ニ依リテ申請スルトキハ其ノ權限ヲ證明スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス...

登記ヲ爲シタル者ノ所在ガ知ラザルトキハ前項ノ通知ニ代ヘ登記事項ノ公告ト同一ノ方法ヲ以テ公告スルコトヲ要ス...

第二十七條 商標ノ登記ハ東京特別市、同市、同縣又ハ同府内ニ於テ同一ノ管轄ノ爲他人ガ登記シタルモノト判然區別...

第三十條 商標ノ登記ハ前項ノ規定ニ依リテ商標登記ノ抹消ヲ請求スル者ハ其ノ登記ニ付利害關係ヲ有スルコトヲ證明スルコトヲ要ス...

第三十二條 不動産登記法第十六條、第二十九條、第三十條、第三十二條、第三十三條、第六十八條及第七十三條第一項ノ規定ハ商標登記ニ之ヲ準用ス...

一 定款
 二 株式ノ引受ヲ證スル書面
 三 株式申込書
 四 取締役及監査役又ハ検査役ノ調査報告書及其ノ附屬書
 五 會社法第二十條第二項ノ裁判アリタルトキハ其ノ裁判ノ原本
 六 持込金ノ保管ニ關スル銀行ノ證明書
 七 發起人ガ取締役及監査役ヲ選任シタルトキハ之ニ關スル書面
 八 創立總會ノ議事録
 九 會社ノ目的タル事業ヲ營ムニ付許可ヲ要スルトキハ其ノ許可アリタルコトヲ證スル書面
 第十條 資本ノ増加又ハ減少ノ解散及合併ニ因ル變更ノ成立又ハ社債水債ノ登記ニ關シテ取締役及監査役ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス
 第十一條 取締役又ハ監査役ノ氏名又ハ住所ノ變更ノ登記ニ關シテ代表スベキ取締役ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス
 第十二條 支店ノ設立、本店又ハ支店ノ移轉其ノ他變更ノ申請ニ關シテ登記事項ニ付主總會ノ決議ヲ要スル場合ニ於テハ其ノ議事録ヲ添付スルコトヲ要ス
 第十三條 會社法第二百三十條第一項ノ登記ノ申請書ニハ轉換請求書ヲ添付スルコトヲ要ス
 第十四條 主總會ノ決議ニ關シテ事項ノ登記アリタル場合ニ於テ其ノ決議ノ取消又ハ無効ノ證明ノ判決確定シタルトキハ受附法院ニ會社ノ本店及支店ノ所在地ノ登記處ニ其ノ登記ヲ轉託スルコトヲ要ス
 第十五條 第二項ノ規定ハ登記處ガ前項ノ轉託ヲ受ケタル場合ニ之ヲ準用ス

第十六條 創立總會ノ決議ノ取消又ハ無効ノ證明ノ判決確定シタル場合ニ之ヲ準用ス
 第十七條 持込金ノ保管ニ關シテ銀行ノ證明書又ハ清算人ノ員數ヲ缺タシタル場合ニ於テ法院ガ一時取締役、監査役又ハ清算人ノ職務ヲ行フベキ者ヲ選任シタルトキハ會社ノ本店及支店ノ所在地ノ登記處ニ其ノ登記ヲ轉託スルコトヲ要ス
 第十八條 第二項ノ規定ハ登記處ガ前項ノ轉託ヲ受ケタル場合ニ之ヲ準用ス
 第十九條 法院ガ會社法第三十條第一項第二項又ハ會社法第三十二條ノ規定ニ依リ取締役、監査役又ハ清算人ノ職務ノ執行ヲ停止シ若シテ代行スル者ヲ選任シ又ハ其ノ處分ヲ變更シ若シテ取消シタルトキハ會社ノ本店及支店ノ所在地ノ登記處ニ其ノ登記ヲ轉託スルコトヲ要ス
 第二十條 第二項ノ規定ハ登記處ガ前項ノ轉託ヲ受ケタル場合ニ之ヲ準用ス
 第二十一條 會社法第三十六條第二項ノ登記ニ關シテ取締役又ハ清算人ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス其ノ消滅ノ登記亦同ジ
 第二十二條 第三十六條第二項ノ登記ノ申請書ニハ會社法第三十一條第一項ノ協議ヲ證スル書面ヲ添付スルコトヲ要ス
 第二十三條 社債ノ登記ニ關シテ取締役ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス申請書ニハ左ノ書類ヲ添付スルコトヲ要ス
 一 最格ノ貸借對照表
 二 社債ノ引受ヲ證スル書面
 三 社債申込書
 四 各社債ノ付會社法第六十四條ノ拂込アリタルコトヲ證スル書面
 五 社債ノ募集ニ關スル主總會ノ議事録
 第二十四條 社債ニ關スル變更ノ登記ニ關シテ代表スベキ取締役ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

申請書ニハ變更ノ事由ヲ證スル書面ヲ添付スルコトヲ要ス
 第二十三條 會社ノ資本ノ増加ノ登記ノ申請書ニハ左ノ書類ヲ添付スルコトヲ要ス
 一 株式ノ引受ヲ證スル書面
 二 株式申込書
 三 會社法第二十條第二項ノ裁判アリタルトキハ其ノ裁判ノ原本
 四 持込金ノ保管ニ關スル銀行ノ證明書
 五 資本ノ増加ヲ決議スル主總會ノ議事録
 第六條 會社法第二百三十六條ノ登記ニ關シテ取締役ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス
 第七條 會社ノ資本ノ減少ノ登記ノ申請書ニハ左ノ書類ヲ添付スルコトヲ要ス
 一 資本ノ減少ヲ決議スル主總會ノ議事録
 二 會社法第二百四十六條第一項ノ規定ニ依ル公告及債權者ヲ通知スルコトヲ證スル書面
 三 會社法第二百四十六條第二項ノ規定ニ依ル債權者ノ伸長アリタルトキハ之ヲ證スル書面
 四 債權者ヲ伸長セザル債權者アルトキハ之ニ對シテ伸長ヲ爲シ又ハ擔保ヲ供シタルコトヲ證スル書面
 五 株式ノ引受アリタルトキハ會社法第二百四十七條第一項ノ規定ニ依ル公告及通知ヲ爲シタルコト、若シテ會社法第二百四十九條ノ規定ニ依リタルコトヲ證スル書面
 第八條 會社法第二百五十二條(會社法第二百七十六條、第二百七十七條及第三百五十五條)ニ於テ準用スル場合ニ於テハ會社法第二百五十八條ノ規定(會社法第二百七十六條)ニ於テ準用スル場合ニ於テハ會社法第二百五十八條ノ規定ニ依リ轉託ヲ受ケタルトキハ登記處ニ其ノ登記ヲ轉託スルコトヲ要ス

第五十七條 會社ノ解散ノ登記ノ申請書ニハ解散ノ事由ヲ記シタルコトヲ要ス
 第五十八條 會社ガ主總會ノ決議ニ因リテ解散シタルトキハ其ノ議事録、議事録、合併ニ因リテ解散シタルトキハ合併契約書、合併ニ關スル主總會ノ議事録及第五十五條第二項乃至第四項ニ掲グル書面、業全部ノ讓渡ニ因リテ解散シタルトキハ營業讓渡證書、業全部ノ讓渡ニ關スル主總會ノ議事録ヲ添付スルコトヲ要ス
 第五十九條 會社法第二百八十二條第二項ノ登記ニ關シテ清算人及監査役ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス
 第六十條 會社ヲ繼續スル決議ヲ爲シタル主總會ノ議事録ヲ添付スルコトヲ要ス
 第六十一條 合併ニ因ル變更ノ登記ノ申請書ニハ其ノ事由ヲ記載シ左ノ書類ヲ添付スルコトヲ要ス
 一 定款
 二 創立總會ノ議事録
 三 前條第一條、第三條及第四條ニ掲グル書面
 四 會社法第七條ノ設立委員ノ資格ヲ證スル書面
 第六十二條 會社ノ合併ヲ無効トシ判決ヲ確定シタルトキハ受附法院ニ會社ノ本店及支店ノ所在地ノ登記處ニ會社法第二十九條第二項ノ規定ハ登記處ガ前項ノ轉託ヲ受ケタル場合ニ之ヲ準用ス

第六十二條 會社ノ設立又ハ資本ノ増加若シテ減少ノ無効トスル判決ヲ確定シタルトキハ受附法院ニ會社ノ本店及支店ノ所在地ノ登記處ニ其ノ登記ヲ轉託スルコトヲ要ス
 第六十三條 第二項ノ規定ハ登記處ガ前項ノ轉託ヲ受ケタル場合ニ之ヲ準用ス
 第六十四條 清算人ノ登記ノ申請書ニハ會社法第三百三條第一項第二條及第三條ニ掲グル事項ヲ證スル書面ヲ添付スルコトヲ要ス
 第六十五條 清算人ト爲リタル場合ヲ除ク外申請書ニハ其ノ清算人ノ資格ヲ證スル書面ヲ添付スルコトヲ要ス
 第六十六條 會社法第三百三條第一項ニ掲グル事項ノ變更ノ登記ニ關シテ代表スベキ清算人ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス
 第六十七條 變更ノ事由ヲ證スル書面ヲ添付スルコトヲ要ス
 第六十八條 清算終了ノ登記ノ申請書ニハ會社法第三百二十二條第一項ノ規定ニ依リタルコトヲ證スル書面ヲ添付スルコトヲ要ス
 第六十九條 會社法第六條及會社法第七條ノ規定ニ依リテ設立ノ登記ニ關シテ申請ニ因リテ之ヲ爲ス
 第七十條 合名會社ノ設立ノ登記ニ關シテ申請ニ因リテ之ヲ爲ス
 第七十一條 合名會社ノ設立ノ登記ニ關シテ申請ニ因リテ之ヲ爲ス
 第七十二條 合名會社ノ設立ノ登記ニ關シテ申請ニ因リテ之ヲ爲ス
 第七十三條 合名會社ノ設立ノ登記ニ關シテ申請ニ因リテ之ヲ爲ス
 第七十四條 合名會社ノ設立ノ登記ニ關シテ申請ニ因リテ之ヲ爲ス
 第七十五條 合名會社ノ設立ノ登記ニ關シテ申請ニ因リテ之ヲ爲ス
 第七十六條 合名會社ノ設立ノ登記ニ關シテ申請ニ因リテ之ヲ爲ス
 第七十七條 合名會社ノ設立ノ登記ニ關シテ申請ニ因リテ之ヲ爲ス
 第七十八條 合名會社ノ設立ノ登記ニ關シテ申請ニ因リテ之ヲ爲ス
 第七十九條 合名會社ノ設立ノ登記ニ關シテ申請ニ因リテ之ヲ爲ス
 第八十條 合名會社ノ設立ノ登記ニ關シテ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

其ノ判決ノ原本ヲ添付スルコトヲ要ス
 第六十八條 合名會社ノ設立ノ登記ニ關シテ申請ニ因リテ之ヲ爲ス
 第六十九條 合名會社ノ設立ノ登記ニ關シテ申請ニ因リテ之ヲ爲ス
 第七十條 合名會社ノ設立ノ登記ニ關シテ申請ニ因リテ之ヲ爲ス
 第七十一條 合名會社ノ設立ノ登記ニ關シテ申請ニ因リテ之ヲ爲ス
 第七十二條 合名會社ノ設立ノ登記ニ關シテ申請ニ因リテ之ヲ爲ス
 第七十三條 合名會社ノ設立ノ登記ニ關シテ申請ニ因リテ之ヲ爲ス
 第七十四條 合名會社ノ設立ノ登記ニ關シテ申請ニ因リテ之ヲ爲ス
 第七十五條 合名會社ノ設立ノ登記ニ關シテ申請ニ因リテ之ヲ爲ス
 第七十六條 合名會社ノ設立ノ登記ニ關シテ申請ニ因リテ之ヲ爲ス
 第七十七條 合名會社ノ設立ノ登記ニ關シテ申請ニ因リテ之ヲ爲ス
 第七十八條 合名會社ノ設立ノ登記ニ關シテ申請ニ因リテ之ヲ爲ス
 第七十九條 合名會社ノ設立ノ登記ニ關シテ申請ニ因リテ之ヲ爲ス
 第八十條 合名會社ノ設立ノ登記ニ關シテ申請ニ因リテ之ヲ爲ス
 第八十一條 合名會社ノ設立ノ登記ニ關シテ申請ニ因リテ之ヲ爲ス
 第八十二條 合名會社ノ設立ノ登記ニ關シテ申請ニ因リテ之ヲ爲ス
 第八十三條 合名會社ノ設立ノ登記ニ關シテ申請ニ因リテ之ヲ爲ス
 第八十四條 合名會社ノ設立ノ登記ニ關シテ申請ニ因リテ之ヲ爲ス
 第八十五條 合名會社ノ設立ノ登記ニ關シテ申請ニ因リテ之ヲ爲ス
 第八十六條 合名會社ノ設立ノ登記ニ關シテ申請ニ因リテ之ヲ爲ス
 第八十七條 合名會社ノ設立ノ登記ニ關シテ申請ニ因リテ之ヲ爲ス
 第八十八條 合名會社ノ設立ノ登記ニ關シテ申請ニ因リテ之ヲ爲ス
 第八十九條 合名會社ノ設立ノ登記ニ關シテ申請ニ因リテ之ヲ爲ス
 第九十條 合名會社ノ設立ノ登記ニ關シテ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

第七十二條 合名會社が社員ノ請求ニ因リ解散シタル場合ニ於ケル解散ノ登記ハ各社員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

第七十三條 第六十一條及第六十二條ノ規定ハ合名會社ノ合併ノ無効及設立ノ無効又ハ取消ノ判決ヲ確定シタル場合ニ之ヲ準用ス

第七十四條 清算人ノ登記ノ申請書ニハ債務執行社員ガ清算人ト爲リタル場合ヲ除ク外其ノ清算人ノ資格ヲ證明スル書面ヲ添付スルコトヲ要ス

第七十五條 第六十三條第一項及第六十四條ノ規定ハ合名會社ニ之ヲ準用ス

第七十六條 清算終了ノ登記ノ申請書ニハ會社法第四百十七條第一項ニ定ムル承認アリタルコトヲ證明スル書面ヲ添付スルコトヲ要ス

第七十七條 會社法第四百三十九條第三項ノ規定(會社法第四百四十條ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)ニ依リ合名會社ニ付爲スベキ登記ハ無責任社員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

第七十八條 會社法第三百九十七條ノ規定ニ依リ合名會社ニ付爲スベキ登記ハ無責任社員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

第七十九條 會社法第三百九十七條ノ規定ニ依リ合名會社ノ新ニ有責任社員ヲ加入セシメタル場合ニ於テハ其ノ加入ヲ證明スル書面ヲ添付スルコトヲ要ス

第八十條 第六十六條乃至第七十六條ノ規定ハ合名會社ノ登記ニ之ヲ準用ス但シ合名會社ニ於テ該社員ノ申請ニ因リテ爲スベキ登記ハ合名會社ニ於テハ其ノ無責任社員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

新ニ有責任社員ヲ加入セシメタルニ因リ變更登記ノ申請書ニハ其ノ加入ヲ證明スル書面ヲ添付スルコトヲ要ス

第八十條 外國會社ガ始メテ滿洲國ニ支店ヲ設ケタル場合ニ於テ其ノ支店設置ノ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ滿洲國ニ於ケル代表者ノ氏名及住所ヲ記載シ且左ノ書類ヲ添付スルコトヲ要ス

一 本店ノ存在ヲ證明スル足ル書面

二 申請ヲ爲ス會社ノ代表者ノ資格ヲ證明スル書面

三 會社ノ定款又ハ會社ノ性質ヲ證明スル足ル書面

前項ニ掲グル書類ハ外國會社ノ本國ノ管轄官廳又ハ滿洲國ニ在ル領事ノ認許ヲ受ケタルモノナルコトヲ要ス

第八十一條 前條ニ定ムル場合ヲ除ク外支店設置ノ登記ノ申請書ニハ滿洲國ニ於ケル代表者ノ氏名及住所ヲ記載シ且既ニ滿洲國ニ設ケタル支店ノ登記ヲ證明スル書面ヲ添付スルコトヲ要ス

第八十二條 外國法人法第四條第三項ノ登記ハ滿洲國ニ於ケル代表者ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

滿洲國ニ於ケル代表者ノ變更ノ登記ノ申請書ニハ代表者ノ資格ヲ證明スル書面ヲ添付スルコトヲ要ス

第八十三條 第二項ノ規定ハ前項ノ書面ニ之ヲ準用ス

第八十四條 外國會社ノ登記ハ始メテ支店ヲ設置スル場合ヲ除ク外滿洲國ニ於ケル代表者ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

滿洲國ニ於ケル代表者ガ外國ニ於テ生ジタル登記事項ノ變更ニ付其ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ會社ノ本國ノ管轄官廳又ハ滿洲國ニ在ル領事ノ認許アル書面ニ依リテ變更ノ事實ヲ證明スルコトヲ要ス

第八十五條 外國會社ノ支店ノ閉鎖ヲ命ズル裁判ガ確定シタルトキハ該支店ノ支店所在地ノ登記處ニ其ノ登記ヲ廢止スルコトヲ要ス此等法院ガ裁判ヲ爲シタルトキ亦同

第八十六條 本法ハ廣德四年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

第八十七條 廣德二年勅令第五百五十二號商標登記法ハ股份兩合公司ノ登記ニ關スルモノヲ除ク外之ヲ廢止ス

第八十八條 股份兩合公司ノ組織ヲ變更シテ株式會社ト爲シタル場合ニ於テ株式會社ニ付爲スベキ登記ハ總取締役及總監査役ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

申請書ニハ組織變更ノ事由ヲ記載シ定款、株式ノ引受ヲ證明スル書面及組織變更ニ關スル股東會ノ決議録ヲ添付スルコトヲ要ス

第八十九條 第四十六條第一項及第六十七條第一項ノ規定(第七十九條ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)ハ會社法施行法第十二條第一項ノ規定ニ依リ登記ノ申請ニ之ヲ準用ス

申請書ニハ登記スベキ事項ヲ證明スル書面ヲ添付スルコトヲ要ス

第九十條 第六十一條ノ規定ハ會社法施行法第十六條ニ定ムル合併ノ無効ノ確定ノ判決確定シタル場合ニ之ヲ準用ス

第九十一條 第五十二條第一項ノ規定ハ會社法施行法第五十七條第一項ノ規定ニ依リ登記ノ申請ニ之ヲ準用ス

第九十二條 第六十二條ノ規定ハ會社法施行法第六十七條ニ定ムル資本ノ増加又ハ減少ノ無効ノ確定ノ判決確定シタル場合ニ之ヲ準用ス

第九十三條 第七十七條ノ規定ハ會社法施行法第七十一條ノ規定ニ依リ合名會社ニ付爲スベキ登記ノ申請ニ之ヲ準用ス

刑事法

- 一般刑事法
- 刑法
- 刑法施行法
- 暫行懲治叛徒法
- 暫行懲治盜匪法
- 暫行懲治盜匪法施行法
- 特殊團體職員ノ瀆職處罰ニ關スル件
- 特殊團體職員ノ瀆職處罰ニ關スル件ノ團體ノ指定
- 特別刑事法
- 違令罰基準法
- 阿片法
- 阿片法施行規則
- 阿片緝私法
- 出版法
- 不當利益等取締規則
- 租稅犯處罰法
- 續業法(抄)
- 鳥獸保護法
- 賽馬法
- 通貨及證券模造取締法
- 私貼及紙幣ニ類似セル證券取締暫行辦法
- 鐵道營業法
- 自動車運輸事業法
- 河川航運業法
- 麻藥法
- 麻藥法施行規則
- 軍機保護法
- 軍機保護法施行規則
- 行政法規ノ罰則適用ニ關スル件
- 刑事手續法
- 刑事訴訟法
- 刑事訴訟法施行法
- 官選辯護人ニ支給スベキ日當等ニ關スル件
- 證人參考人等ニ支給スベキ日當其ノ他金額ニ關スル件
- 裁判書等ノ謄本其ノ他請求手数料ニ關スル件
- 執行猶豫處理規程
- 恩赦令
- 恩赦令施行規則
- 檢察事務處理者ニ關スル件
- 扣押物處理規程
- 従前ノ犯罪行為處罰ニ關スル件
- 法人ノ業務ヲ執行スル社員及職員ノ處罰ニ關スル件
- 犯罪票處理規程
- 滿日司法事務共助法
- 滿洲國ト朝鮮及關東州トノ司法事務ノ特例ニ關スル件

刑事法 目次

一 總刑事法

○刑 法……………(第四、第六、一)……………一

改正 第六二二號、第七六〇號

第一章 總則……………一

第二章 法……………一

第三章 未遂犯及準備犯……………一

第四章 共犯……………一

第五章 刑……………一

第六章 累犯……………一

第七章 緩合犯……………一

第八章 刑之適用……………一

第九章 刑之執行……………一

第十章 假釋……………一

第十一章 刑之时效……………一

第十二章 刑……………一

第十三章 刑……………一

第十四章 刑……………一

第十五章 刑……………一

第十六章 刑……………一

第十七章 刑……………一

第十八章 刑……………一

第十九章 刑……………一

第二十章 刑……………一

第二十一章 刑……………一

第二十二章 刑……………一

第二十三章 刑……………一

第二十四章 刑……………一

第二十五章 刑……………一

第二十六章 刑……………一

第二十七章 刑……………一

第二十八章 刑……………一

第二十九章 刑……………一

第三十章 刑……………一

第三十一章 刑……………一

第三十二章 刑……………一

第三十三章 刑……………一

第八章 偽證及偽造文書……………七

第九章 偽造私印……………七

第十章 偽造公印……………七

第十一章 偽造私文……………七

第十二章 偽造私文……………七

第十三章 偽造私文……………七

第十四章 偽造私文……………七

第十五章 偽造私文……………七

第十六章 偽造私文……………七

第十七章 偽造私文……………七

第十八章 偽造私文……………七

第十九章 偽造私文……………七

第二十章 偽造私文……………七

第二十一章 偽造私文……………七

第二十二章 偽造私文……………七

第二十三章 偽造私文……………七

第二十四章 偽造私文……………七

第二十五章 偽造私文……………七

第二十六章 偽造私文……………七

第二十七章 偽造私文……………七

第二十八章 偽造私文……………七

第二十九章 偽造私文……………七

第三十章 偽造私文……………七

第三十一章 偽造私文……………七

第三十二章 偽造私文……………七

第三十三章 偽造私文……………七

第三十三章 偽造私文……………七

第三十四章 偽造私文……………七

第三十五章 偽造私文……………七

第三十六章 偽造私文……………七

第三十七章 偽造私文……………七

第三十八章 偽造私文……………七

第三十九章 偽造私文……………七

○刑法施行法……………(第四、第六、三〇)……………三

改正 第四一〇五號

○暫行懲治盜匪法……………(大元、敕令、八〇)……………三

改正 第五一〇三號

○暫行懲治盜匪法……………(大元、敕令、八一)……………三

改正 第二七五號

○暫行懲治盜匪法……………(大元、敕令、八二)……………三

改正 第二七六號

○特殊團體職員ノ清職處罰ニ關スル件……………(第六、敕令、三二八)……………六

改正 第七五八號

○特殊團體職員ノ清職處罰ニ關スル件……………(第六、敕令、三七)……………六

改正 第七五八號

○特別刑事法……………(第四、第六、二〇八)……………七

改正 第五三三號、第七三〇八號、七三三九號、七三九一號

○阿片法……………(大元、敕令、一一)……………七

改正 第六二二號、第二二五號、第四四八七號、第六三三四〇號、第七一九九號

○阿片法施行規則	(廣六、勅令、六)	一九
○阿片緝私法	(大元、勅令、二五)	三三
○出版法	(大元、勅令、一〇三)	三三
○不當利益等取締規則	(廣七、勅令、七四)	三三
○租稅犯處罰法	(廣三、勅令、三五〇號、第五〇四號)	三三
○債權法(抄)	(廣二、勅令、八五)	三三
○鳥獸保護法	(廣三、勅令、一六一)	三三
○賽馬法	(大元、勅令、三四)	三三
○通貨及證券模造取締法	(廣四、勅令、三五八)	三三
○私帖及紙幣二類似セル證券取締暫行辦法	(大元、勅令、五三)	三三
○鑛業法	(廣元、勅令、一一三)	三三
○自動車運轉事業法	(廣四、勅令、二七)	三三
○河川航運業法	(大元、勅令、四九)	三三
○賭博法	(廣四、勅令、二二五)	三三

○麻藥法施行規則	(廣四、勅令、一〇)	三三
○軍機保護法	(廣四、勅令、四五三)	三三
○軍機保護法施行規則	(廣五、勅令、八)	三三
○行政法規ノ罰則適用ニ關スル件	(廣五、勅令、二二五)	三三
○刑事訴訟法	(廣四、勅令、一〇五)	三三
第一章 總則		三三
第二章 法院ノ管轄		三三
第三章 法院職員ノ除斥忌避及回避		三三
第四章 辯護權在及代表		三三
第五章 裁判及處分		三三
第六章 控訴		三三
第七章 期 間		三三
第八章 被告人及被疑者ノ召喚、勾引及拘留		三三
第九章 被告人及被疑者ノ保釋		三三
第十章 押收及控訴		三三
第十一章 檢 察		三三
第十二章 證人訊問		三三
第十三章 附 則		三三

○刑事訴訟法施行法	(廣四、勅令、一〇五)	三三
○官選辯護人ニ支給スベキ日當等ニ關スル件		三三
第十四章 通 譯		三三
第十五章 訴訟費用		三三
第一章 公 查		三三
第二章 公 訴		三三
第三章 公 判		三三
第四章 公判準備		三三
第五章 公判手續		三三
第六章 公判ノ裁判		三三
第七章 上 訴		三三
第八章 抗 告		三三
第九章 非常上告		三三
第十章 特殊手續		三三
第十一章 略式手續		三三
第十二章 從刑專科ノ手續		三三
第十三章 執行調停ノ取消及刑ノ更定ニ關スル手續		三三
第十四章 裁判ノ執行		三三
第十五章 私 訴		三三
第十六章 第一審		三三
第十七章 上 訴		三三
第十八章 附 則		三三

○證人、參考人等ニ支給スベキ日當其ノ他金額ニ關スル件	(廣四、勅令、九)	三三
○裁判書等ノ謄本其ノ他請求手数料ニ關スル件	(廣四、勅令、一〇)	三三
○執行證據處理規程	(廣四、勅令、五)	三三
○恩 赦 令	(廣元、勅令、八)	三三
○恩赦令施行規則	(廣元、勅令、一)	三三
○檢察事務處理者ニ關スル件	(廣三、勅令、一〇一)	三三
○扣押物處理規程	(廣三、勅令、一九)	三三
○従前ノ犯罪行為處罰ニ關スル件	(大元、勅令、二〇七)	三三
○法人ノ業務ヲ執行スル社員及職員ノ處罰ニ關スル件	(廣四、勅令、一三六)	三三
○犯罪處置規程	(廣三、勅令、二〇)	三三
○滿日司法事務共助法	(廣五、勅令、七一)	三三
○滿洲國ト朝鮮及關東州トノ司法事務ノ特例ニ關スル件	(廣五、勅令、一五二)	三三

第五編 刑事法

一般刑事法

○刑法

(廣徳四年一月四日)

改正 廣徳六年八月勅令第二二二號
既經法律第四十一條ニ依リ參議府ノ諮詢ヲ經テ刑法ヲ裁可シ
茲ニ之ヲ公布セシム

第一章 總則

第一條 罪ト刑トハ法律ノ定ムル所ニ依ル
第二條 罪ヲ分テテ重罪、輕罪及違背罪トス
死刑又ハ無期若ハ短期一年以上ノ徒刑若ハ禁錮ニ該ル罪ヲ
重罪トス
短期一年未満ノ徒刑若ハ禁錮又ハ罰金ニ該ル罪ヲ輕罪トス
拘留又ハ科料ノミニ該ル罪ヲ違背罪トス
第三條 本法ハ何人ヲ問ハズ帝國ノ領域内ニ於テ罪ヲ犯シタ
ル者ニ之ヲ適用ス
帝國ノ領域外ニ在ル帝國ノ船舶又ハ航空機内ニ於テ罪ヲ犯
シタル者ニ付亦前項ニ同ジ
第四條 本法ハ何人ヲ問ハズ帝國ノ領域外ニ於テ左ノ罪ヲ犯

刑事法 刑法

シタル者ニ之ヲ適用ス

一 帝國ニ對スル罪
二 内亂ノ罪
三 背教ノ罪
四 通貨偽造ノ罪
五 有價證券偽造ノ罪
六 文書偽造ノ罪中第六十七條乃至第七十條ノ罪及其
ノ例ニ依ル第七十四條ノ罪並ニ此等ノ罪ノ未遂犯
七 印文偽造ノ罪中第七十六條ノ罪及其ノ未遂犯並ニ第
百七十七條ノ罪
第五條 本法ハ帝國ノ領域外ニ於テ前條記載ノ罪ヲ除クノ外
重罪及長期五年以上ノ徒刑又ハ禁錮ニ該ル罪並ニ其ノ未
遂犯ヲ犯シタル帝國ノ臣民ニ之ヲ適用ス
前項ノ規定ハ犯人犯罪後帝國ノ國籍ヲ喪失シタルトキト雖
モ其ノ適用ヲ妨グズ
第六條 本法ハ帝國ノ領域外ニ於テ帝國ノ臣民ニ對シ前條所
定ノ罪ヲ犯シタル外國人ニ之ヲ適用ス但シ行為地ノ法令ニ
依リ處罰スベカラザル場合ハ此ノ限ニ在ラズ前項ノ規定ハ
犯人犯罪後帝國ノ國籍ヲ取得シタルトキト雖モ其ノ適用ヲ
妨グズ
第七條 外國ニ於テ確定裁判ヲ受ケタル者ト雖モ同一ノ行爲
ニ因リ更ニ處罰スルコトヲ妨グズ但シ犯人既ニ外國ニ於テ
宣告セラレタル刑ノ全部又ハ一部ノ執行ヲ受ケタルトキハ
刑ノ全部又ハ一部ノ執行ヲ免除スルコトヲ得

第八條 犯罪後法律ノ變更アリタルトキハ新法ヲ適用ス但シ
舊法ニ定メタル所ヨリ重ク處斷スルコトヲ得ズ

第九條 左ノ罪ニ付テハ帝國ニ駐屯スル或守國軍隊ノ公
務員、公務所、公文書及公ノ圖章、印章、記號、印文、署名
又ハ記名ハ之ヲ帝國ノ公務員、公務所、公文書及公ノ圖章、
印章、記號、印文、署名又ハ記名ト看做ス

一 假令ノ罪中第十一條ノ罪
二 公務妨害ノ罪
三 報告ノ罪
四 文書偽造ノ罪中第六十八條、第七十條第二項ノ罪及
其ノ例ニ依ル第七十四條ノ罪並ニ此等ノ罪ノ未遂犯

第十條 本法ノ總則ハ他ノ法令ニ於テ刑ヲ定メタルモノニ亦
之ヲ適用ス但シ特別ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第二章 犯

第十一條 法令ニ依ル行為正當ノ業務ニ因ル行為其ノ他法律上
容認セラルル行為ハ罪ト爲ラズ其ノ程度ヲ超エタルトキハ
情狀ニ因リ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第十二條 急迫不正ノ侵害ニ對シ自己又ハ他人ノ權利ヲ防衛
スル爲メムヲ得ザルニ出ヅタル行為ハ罪ト爲ラズ

第十三條 防衛行為必要ノ程度ヲ超エタルトキハ情狀ニ因リ其ノ刑ヲ
減輕又ハ免除スルコトヲ得

第十四條 自己又ハ他人ノ生命、身體、自由若ハ財產ニ對ス
ル急迫ノ危險ヲ避ケル爲メムヲ得ザルニ出ヅタル行為ハ其
ノ行為ヨリ生ジタル害其ノ避ケントシタル害ノ程度ヲ超エ
ザル場合ニ限リ罪ト爲ラズ

第十五條 前項ノ程度ヲ超エタルトキハ情狀ニ因リ其ノ刑ヲ
減輕又ハ免除スルコトヲ得

第十六條 前二項ノ規定ハ業務上危險ヲ冒スベキ義務ヲ有スル者ニハ

適用ス

第十七條 前二項ノ規定ハ業務上危險ヲ冒スベキ義務ヲ有スル者ニハ

適用ス

之ヲ適用セズ
 第十三條 故意又ハ過失ナクシテ罪ヲ犯シタル者ハ之ヲ罰セズ
 第十四條 過失ニ因リ罪ヲ犯シタル者ハ特別ノ規定アル場合ノ外之ヲ罰セズ
 第十五條 罪ト爲ルベキ事實ヲ知ラズシテ犯シタルトキハ故意アリト爲スコトヲ得ズ
 第十六條 罪ト爲ルベキ事實ヲ知ラズシテ犯シタルトキハ故意アリト爲スコトヲ得ズ
 第十七條 法律上罪ノ成立ヲ妨グル事由タルベキ事實アリト爲シテ犯シタルトキハ故意アリト爲スコトヲ得ズ
 第十八條 法律上罪ノ成立ヲ妨グル事由タルベキ事實アリト爲シテ犯シタルトキハ故意アリト爲スコトヲ得ズ
 第十九條 法律上罪ノ成立ヲ妨グル事由タルベキ事實アリト爲シテ犯シタルトキハ故意アリト爲スコトヲ得ズ
 第二十條 法律上罪ノ成立ヲ妨グル事由タルベキ事實アリト爲シテ犯シタルトキハ故意アリト爲スコトヲ得ズ
 第二十一條 法律上罪ノ成立ヲ妨グル事由タルベキ事實アリト爲シテ犯シタルトキハ故意アリト爲スコトヲ得ズ
 第二十二條 法律上罪ノ成立ヲ妨グル事由タルベキ事實アリト爲シテ犯シタルトキハ故意アリト爲スコトヲ得ズ

トス
 重罪ノ未遂犯ハ之ヲ罰ス輕罪ノ未遂犯ハ特別ノ規定アル場合ノ外之ヲ罰セズ
 第二十三條 未遂犯ノ刑ハ既遂犯ノ刑ニ同ジ但シ減輕スルコトヲ得
 第二十四條 自己ノ意思ニ因リ犯罪ノ實行ヲ中止シ又ハ結果ノ發生ヲ防止シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除ス
 第二十五條 罪ヲ犯スル目的ヲ以テ其ノ準備ヲ爲シ實行ヲ開始スルニ至ラザルトキハ未遂犯トス
 第二十六條 他人ニ對シ犯罪ヲ教唆シ被教唆者罪ヲ犯スニ至ラザルトキハ未遂犯トス
 第二十七條 二人以上罪ノ成立ニ加功シタルトキハ共犯トス
 第二十八條 共犯中附隨ノ地位ニ在ル者及影響輕微ナル行爲ヲ爲シタル者ハ其ノ刑ヲ減輕スルコトヲ得
 第二十九條 身分ヲ要件トスル罪ノ成立ニ加功シタルトキハ其ノ身分ナキ者ト雖モ仍共犯トス
 第三十條 身分ニ因リ刑ノ輕重又ハ免除ハ身分ナキ者ニ其ノ效力ヲ及ボサズ
 第三十一條 左ノ刑ヲ主刑トス
 一 死刑
 二 徒刑
 三 罰金
 四 拘留

六 科料
 沒收及費用返還ヲ從刑トス
 第三十一條 主刑ノ輕重ハ前條第一項記載ノ順序ニ依ル但シ無期懲役ト有期懲役トハ懲罰ヲ以テ重シトシ有期懲役ノ長期有期懲役ノ長期トシテ重シトキハ懲罰ヲ以テ重シトス
 同種ノ刑ハ長期ノ長キモノ又ハ多額ノ多キモノヲ以テ重シトシ長期又ハ多額ノ同ジキモノハ其ノ短期ノ長キモノ又ハ多額ノ多キモノヲ以テ重シトス
 第三十二條 死刑ハ監獄内ニ於テ執行シテ之ヲ執行ス
 第三十三條 徒刑ハ無期及有期トシ有期徒刑ハ一月以上十五年以下トス但シ特別ノ規定アル場合ハ其ノ長期ハ二十年ニ至ルコトヲ得
 第三十四條 徒刑ハ無期及有期トシ有期懲罰ハ一月以上十五年以下トス但シ特別ノ規定アル場合ハ其ノ長期ハ二十年ニ至ルコトヲ得
 第三十五條 罰金ハ二十圓以上トス
 第三十六條 拘留ハ一日以上六十日以下トス
 第三十七條 拘留ハ一日以上六十日以下トス
 第三十八條 科料ハ五角以上五十圓以下トス
 第三十九條 科料ハ五角以上五十圓以下トス
 第四十條 科料ハ五角以上五十圓以下トス
 第四十一條 科料ハ五角以上五十圓以下トス
 第四十二條 科料ハ五角以上五十圓以下トス
 第四十三條 科料ハ五角以上五十圓以下トス
 第四十四條 科料ハ五角以上五十圓以下トス
 第四十五條 科料ハ五角以上五十圓以下トス
 第四十六條 科料ハ五角以上五十圓以下トス
 第四十七條 科料ハ五角以上五十圓以下トス
 第四十八條 科料ハ五角以上五十圓以下トス
 第四十九條 科料ハ五角以上五十圓以下トス
 第五十條 科料ハ五角以上五十圓以下トス

前項ノ比例ニ從ヒ一日ニ滿タザル金額ハ之ヲ納付スルコトヲ得ズ
 第二十條 左ノ物ハ之ヲ沒收スルコトヲ得
 一 犯罪ノ用ニ供シ又ハ供セントシタル物
 二 犯罪ノ生ジ又ハ之ニ因リテ得タル物
 三 犯罪ノ生ジ又ハ之ニ因リテ得タル物
 四 犯罪ノ生ジ又ハ之ニ因リテ得タル物
 五 犯罪ノ生ジ又ハ之ニ因リテ得タル物
 六 犯罪ノ生ジ又ハ之ニ因リテ得タル物
 七 犯罪ノ生ジ又ハ之ニ因リテ得タル物
 八 犯罪ノ生ジ又ハ之ニ因リテ得タル物
 九 犯罪ノ生ジ又ハ之ニ因リテ得タル物
 十 犯罪ノ生ジ又ハ之ニ因リテ得タル物
 十一 犯罪ノ生ジ又ハ之ニ因リテ得タル物
 十二 犯罪ノ生ジ又ハ之ニ因リテ得タル物
 十三 犯罪ノ生ジ又ハ之ニ因リテ得タル物
 十四 犯罪ノ生ジ又ハ之ニ因リテ得タル物
 十五 犯罪ノ生ジ又ハ之ニ因リテ得タル物
 十六 犯罪ノ生ジ又ハ之ニ因リテ得タル物
 十七 犯罪ノ生ジ又ハ之ニ因リテ得タル物
 十八 犯罪ノ生ジ又ハ之ニ因リテ得タル物
 十九 犯罪ノ生ジ又ハ之ニ因リテ得タル物
 二十 犯罪ノ生ジ又ハ之ニ因リテ得タル物

第四十八條 聯合犯中ノ一罪ニ付死刑ヲ科スルトキハ他ノ刑ヲ科セズ但シ從刑ハ此ノ限ニ在ラズ
 第四十九條 聯合犯中ノ一罪ニ付死刑ヲ科スルトキハ他ノ刑ヲ科セズ但シ從刑ハ此ノ限ニ在ラズ
 第五十條 聯合犯中ノ一罪ニ付死刑ヲ科スルトキハ他ノ刑ヲ科セズ但シ從刑ハ此ノ限ニ在ラズ
 第五十一條 聯合犯中ノ一罪ニ付死刑ヲ科スルトキハ他ノ刑ヲ科セズ但シ從刑ハ此ノ限ニ在ラズ
 第五十二條 聯合犯中ノ一罪ニ付死刑ヲ科スルトキハ他ノ刑ヲ科セズ但シ從刑ハ此ノ限ニ在ラズ
 第五十三條 聯合犯中ノ一罪ニ付死刑ヲ科スルトキハ他ノ刑ヲ科セズ但シ從刑ハ此ノ限ニ在ラズ
 第五十四條 聯合犯中ノ一罪ニ付死刑ヲ科スルトキハ他ノ刑ヲ科セズ但シ從刑ハ此ノ限ニ在ラズ
 第五十五條 聯合犯中ノ一罪ニ付死刑ヲ科スルトキハ他ノ刑ヲ科セズ但シ從刑ハ此ノ限ニ在ラズ
 第五十六條 聯合犯中ノ一罪ニ付死刑ヲ科スルトキハ他ノ刑ヲ科セズ但シ從刑ハ此ノ限ニ在ラズ
 第五十七條 聯合犯中ノ一罪ニ付死刑ヲ科スルトキハ他ノ刑ヲ科セズ但シ從刑ハ此ノ限ニ在ラズ
 第五十八條 聯合犯中ノ一罪ニ付死刑ヲ科スルトキハ他ノ刑ヲ科セズ但シ從刑ハ此ノ限ニ在ラズ
 第五十九條 聯合犯中ノ一罪ニ付死刑ヲ科スルトキハ他ノ刑ヲ科セズ但シ從刑ハ此ノ限ニ在ラズ
 第六十條 聯合犯中ノ一罪ニ付死刑ヲ科スルトキハ他ノ刑ヲ科セズ但シ從刑ハ此ノ限ニ在ラズ

六 前各條ノ場合ヲ除ク外聯合犯ノ刑ハ併セテ之ヲ執行ス
 第五十三條 聯合犯ニ付處罰セラレタル者或罪ニ付處罰ヲ受ケタルトキハ其ノ他ノ罪ニ付處罰ニ付テ更ニ刑ヲ定ム此ノ場合ニ於テハ既ニ執行シタル刑ノ日數ハ之ヲ通算ス
 第五十四條 一箇ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸ルルモノ又ハ數個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸ルルモノハ其ノ刑名ニ依リテ最重ノ刑ヲ科ス
 第五十五條 刑ノ適用ニ付テハ犯罪ノ目的、動機、手段、結果、犯人ト被害者トノ關係、犯人ノ年齢、性別、智能、境遇、經歷及其ノ犯罪後ノ情況ヲ斟酌スベシ
 第五十六條 同一ノ罪ニ付徒刑及懲罰ノ定アル場合ハ所犯道義上又ハ公益上ノ動機ニ出デ宥恕スベキモノナルトキニ限リ懲罰ヲ科ス
 第五十七條 徒刑ノ執行ニ付テハ所犯道義上又ハ公益上ノ動機ニ出デ宥恕スベキモノナルトキハ其ノ刑ヲ減輕スルコトヲ得
 第五十八條 犯罪ノ情狀輕重スベキモノハ酌量シテ其ノ刑ヲ減輕スルコトヲ得
 第五十九條 法律上刑ヲ減輕スベキ數箇ノ事由聯合スルトキハ其ノ刑ヲ減輕スルコトヲ得
 第六十條 法律上刑ヲ減輕スベキ數箇ノ事由聯合スルトキハ其ノ刑ヲ減輕スルコトヲ得

第六十條 刑ノ減輕ヲ爲スベキ場合ニ於テ各本條ニ二箇以上ノ刑名アルトキハ先ヅ適用スベキ刑ヲ定メ其ノ刑ヲ減輕ス

第六十一條 刑ノ減輕ハ左ノ例ニ依ル

- 一 死刑ヲ減輕スベキトキハ無期又ハ十年以上二十年以下ノ徒刑ヲ減輕トス
- 二 無期ノ徒刑又ハ禁錮ヲ減輕スベキトキハ七年以上二十年以下ノ有期ノ徒刑又ハ禁錮ヲ減輕トス
- 三 有期ノ徒刑又ハ禁錮ヲ減輕スベキトキハ其ノ刑期ノ二分ノ一ヲ減ズ
- 四 罰金ヲ減輕スベキトキハ其ノ金額ノ二分ノ一ヲ減ズ
- 五 拘留ヲ減輕スベキトキハ其ノ長期ノ二分ノ一ヲ減ズ
- 六 科料ヲ減輕スベキトキハ其ノ多額ノ二分ノ一ヲ減ズ

第六十二條 刑ヲ加重減輕スベキ事由適合スルトキハ左ノ順序ニ依ル

- 一 累犯加重
- 二 法律上ノ減輕
- 三 贖合犯加重
- 四 酌量減輕

第六十三條 裁判確定前ノ拘留日數ハ其ノ全部又ハ一部ヲ有期ノ徒刑若ハ禁錮、罰金、拘留又ハ科料ニ算入スルコトヲ得

第六十四條 前項ノ算入ニ付テハ拘留日數一日ヲ刑期ノ一日又ハ金額ノ五角以上五圓以下ニ折算ス

第六十五條 刑ノ執行期間

第六十六條 左ノ一ニ該ル者ニ對シ三年以下ノ徒刑又ハ禁錮ヲ科スル場合ニ於テハ情狀ニ因リ裁判確定ノ日ヨリ一年以上五年以下ノ期間其ノ刑ノ執行ヲ廢止スルコトヲ得

一 前ニ故意犯ニ因リ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトヲ得

第七十條 假釋ノ處分其ノ效力失ヒ又ハ取消セラレタルトキハ釋放中ノ日數ハ之ヲ刑期ニ算入セズ

第七十一條 假釋ノ處分其ノ效力失フコトナク又ハ取消セラレタルコトナクシテ釋放ノ日ヨリ左ノ期間ヲ經過シタルトキハ殘刑ノ執行ハ免除セラレ

- 一 無期刑ニ付テハ十五年
- 二 有期刑ニ付テハ十五年

第七十二條 時効完成シタルトキハ刑ノ執行ハ免除セラレ

第七十三條 時効ハ裁判確定後刑ノ執行ヲ受タルコトナクシテ左ノ期間ヲ經過スルニ因リ完成ス

- 一 死刑ハ三十年
- 二 無期ノ徒刑又ハ禁錮ハ二十年
- 三 有期ノ徒刑又ハ禁錮ハ十年以上ハ十五年三年以上ハ十年三年未満ハ五年
- 四 罰金ハ三年
- 五 拘留、科料又ハ從刑ハ一年

第七十四條 時効ハ刑ノ執行ノ猶豫若ハ停止又ハ假釋放其ノ他ノ事由ニ因リ法律上刑ヲ執行シ得ザル期間内ハ進行セズ或刑ノ執行中ナル爲他ノ刑ヲ執行シ得ザルトキ亦前項ニ同ジ

第七十五條 時効ハ刑ノ執行ヲ開始スルニ因リ中断ス

時効ハ前項ノ外死刑若ハ自由刑ヲ執行スル爲刑ニ處セラレタル者ヲ逮捕シ又ハ財産刑ヲ執行スル爲強制處分ヲ爲シタルニ因リ中断ス

第七十六條 期間ヲ定ムル日又ハ年ヲ以テシタルトキハ曆ニ從テ計算ス

第七十七條 刑期ハ裁判確定ノ日ヨリ起算ス

キ

四

拘禁セラレザル日數ハ裁判確定後ト雖モ之ヲ刑期ニ算入セズ

第七十八條 受刑ノ初日ハ時間ヲ論ゼズ一日トシテ計算ス時數期間ノ初日亦同ジ

前項ノ規定ハ勞務場留置ノ執行ニ之ヲ準用ス

第七十九條 皇帝又ハ皇后ニ對シ危害ヲ加ヘ又ハ加ヘントシタル者ハ死刑ニ處ス

第八十條 皇帝又ハ皇后ニ對シ不敬ノ行爲アリタル者ハ一年以上十年以下ノ徒刑ニ處ス

第八十一條 故ナク帝宮又ハ行在所ニ侵入シタル者ハ一年以上十年以下ノ徒刑ニ處ス

第八十二條 政府ヲ阻害シ邦土ヲ擾亂シ其ノ他國憲ヲ紊亂スル目的ヲ以テ暴動ヲ爲シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

- 一 首魁ハ死刑ニ處ス
- 二 謀議ニ參與シ又ハ多衆ヲ指揮シタル者ハ死刑又ハ無期ノ徒刑又ハ五年以上ノ徒刑又ハ禁錮ニ處ス
- 三 前二號ノ外暴動ニ關與シタル者ハ十年以下ノ徒刑又ハ禁錮ニ處ス

第八十三條 前條ノ罪ヲ犯ス目的ヲ以テ團結シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

- 一 首魁ハ死刑又ハ無期ノ徒刑若ハ禁錮ニ處ス
- 二 組織ニ參與シ多衆ヲ統率シ其ノ他該黨ノ要務ヲ掌理シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ徒刑又ハ禁錮ニ處ス
- 三 前二號ノ外者ハ五年以下ノ徒刑又ハ禁錮ニ處ス

第八十四條 前條ノ外第八十二條ノ罪ヲ犯ス目的ヲ以テ其ノ

豫備又ハ陰謀ヲ爲シタル者ハ一年以上ノ有期ノ徒刑又ハ禁錮ニ處ス

第八十五條 兵器、金銀ヲ發給シ又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ第八十二條又ハ第八十三條ノ罪ヲ幫助シタル者ハ無期又ハ一年以上ノ徒刑又ハ禁錮ニ處ス前條ノ罪ヲ幫助シタル者ハ十年以下ノ徒刑又ハ禁錮ニ處ス

第八十六條 前三條ノ罪ヲ犯シタル者暴動ニ至ル前自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除ス

第八十七條 外國ニ通謀シテ帝國ニ對シ敵端ヲ開カシメ又ハ敵國ニ與シテ帝國ニ抗敵シタル者ハ死刑ニ處ス

第八十八條 軍隊、艦船、航空機、要塞其ノ他軍用ニ供スル場所、建造物又ハ施設ヲ敵國ニ交付シタル者ハ死刑ニ處ス兵器其ノ他軍用ニ供スル物ヲ敵國ニ交付シタル者ハ死刑又ハ無期ノ徒刑ニ處ス

第八十九條 敵國ヲ利スル爲軍用ニ供スル場所、施設其ノ他ノ物ヲ損壞シ又ハ使用スルコト能ハザルニ至ラシメタル者ハ死刑又ハ無期ノ徒刑ニ處ス

第九十條 敵國ノ爲ニ間諜ヲ爲シ又ハ敵國ノ間諜ヲ幫助シタル者ハ死刑又ハ無期若ハ五年以上ノ徒刑ニ處ス

第九十一條 前四條ノ外敵國ニ軍事上ノ利益ヲ與ヘ又ハ帝國ノ軍事上ノ利益ヲ害シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ徒刑ニ處ス

第九十二條 前五條ノ罪ヲ犯ス目的ヲ以テ其ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲シタル者ハ一年以上ノ有期ノ徒刑ニ處ス

第九十三條 本條ノ罪ニ付テハ外國人ノ團體ハ之ヲ外國ト看做シ帝國ト戰爭ノ危機切迫セル外國ハ之ヲ敵國ト看做ス

第九十四條 國防上ノ機密ヲ洩洩シタル者ハ無期又ハ二年以

上ノ徒刑ニ處ス洩洩ノ目的ヲ以テ國防上ノ機密ヲ探知シタル者亦同ジ

第九十五條 本章ノ規定ハ攻守同盟ニ對スル行爲ニ亦之ヲ適用ス

第九十六條 帝國ニ滯在スル外國ノ元首ヲ傷害シ又ハ之ニ暴行若ハ脅迫ヲ加ヘタル者ハ無期又ハ一年以上ノ徒刑又ハ禁錮ニ處ス

第九十七條 帝國ニ派遣セラレタル外國ノ使節ヲ傷害シ又ハ之ニ暴行若ハ脅迫ヲ加ヘタル者ハ一年以上ノ有期ノ徒刑又ハ禁錮ニ處ス

第九十八條 外國ニ對シ侮辱ヲ加フル目的ヲ以テ其ノ公用ニ供スル國旗其ノ他ノ國章ヲ損壞シ又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ之ヲ汚辱シタル者ハ五年以下ノ徒刑若ハ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十九條 外國ニ對シ私ニ敵意ヲ爲シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

- 一 首魁ハ死刑又ハ無期若ハ十年以上ノ禁錮ニ處ス
- 二 前號ノ外者ハ無期又ハ一年以上ノ禁錮ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯ス目的ヲ以テ其ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲シタル者ハ十年以下ノ禁錮ニ處ス

第一百條 外國交戰ノ際局外中立ニ違スル命令ニ違背シタル者ハ七年以下ノ徒刑若ハ禁錮又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

五

前項ノ徒刑又ハ禁錮ト罰金トヘ之ヲ併科スルコトヲ得
 第九十六條 第二項及第九十八條ノ罪ハ外國政府ノ
 請求ヲ待テ之ヲ論ズ
 第九十七條 第二項ノ罪ハ被害者ノ請求ヲ待テ之ヲ論ズ
 第五節 濫用ノ罪
 第二百一十條 公務員其ノ職務ヲ濫用シ人ヲシテ義務ナキコトヲ
 行ハシメ又ハ權利ノ行使ヲ妨害シタルトキハ七年以下ノ徒
 刑若ハ禁錮又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス
 第二百一十一條 審判、檢察若ハ警察ノ職務ヲ行ヒ又ハ之ヲ補助ス
 ル者其ノ職務ヲ濫用シ人ヲ逮捕又ハ監禁シタルトキハ十年
 以下ノ徒刑又ハ禁錮ニ處ス
 第二百一十二條 前條ノ者其ノ職務ヲ行フニ當リ犯人其ノ他ノ者ニ
 對シ暴行又ハ凌辱ノ行爲ヲ爲シタルトキハ七年以下ノ徒刑
 又ハ禁錮ニ處ス
 法令ニ因リ拘禁セラレタル者ヲ看守又ハ護送スル者被拘禁
 者ニ對シ暴行又ハ凌辱ノ行爲ヲ爲シタルトキ亦前項ニ同ジ
 第二百一十三條 公務員其ノ職務上ノ義務ニ違背シ故ラニ不正ノ行
 爲ヲ爲シタルトキハ五年以下ノ徒刑又ハ禁錮ニ處ス
 第二百一十四條 公務員又ハ公務員タリシ者法令ニ依リ職務スベキ
 職務上ノ義務ヲ不正ニ濫用シタルトキハ五年以下ノ徒刑又
 ハ禁錮ニ處ス
 第二百一十五條 公務員又ハ仲介人其ノ職務ニ關シ賄賂其ノ他不正
 ノ利益ヲ收受シ又ハ他人ニ供與セシメタルトキハ三年以下
 ノ徒刑ニ處ス要求又ハ約束ヲ爲シタルトキ亦同ジ
 賄賂ヲ受ケ前項ノ罪ヲ犯シタルトキハ七年以下ノ徒刑ニ處
 ス
 第二百一十六條 前條ノ罪ヲ犯シ因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ不正ノ
 行爲ヲ爲シタルコトニ關シ前條ノ罪ヲ犯シタルトキハ一年
 以上ノ有期徒刑ニ處ス

第二百一十七條 公務員又ハ仲介人タラントスル者其ノ擔當スベキ
 職務ニ關シ賄賂ヲ受ケ賄賂其ノ他不正ノ利益ヲ收受シ若ハ
 他人ニ供與セシメ又ハ要求若ハ約束ヲ爲シ後公務員又ハ仲
 介人ト爲リタルトキハ五年以下ノ徒刑ニ處ス
 第二百一十八條 公務員又ハ仲介人タリシ者其ノ在職中賄賂ヲ受ケ
 タル職務上ノ行爲ニ對シ又ハ職務ニ關スル不正ノ行爲ニ對
 シ賄賂其ノ他不正ノ利益ヲ收受シ又ハ要求若ハ約束ヲ爲シ
 タルトキハ三年以下ノ徒刑ニ處ス
 第二百一十九條 第七條第一項及前二條ノ賄賂其ノ他不正ノ利
 益ヲ供與シ又ハ其ノ申込若ハ約束ヲ爲シタル者ハ二年以下
 ノ徒刑又ハ禁錮以下ノ罰金ニ處ス
 第二百二十條 第七條第二項及第八條ノ賄賂其ノ他不正ノ利益ヲ供與
 シ又ハ其ノ申込若ハ約束ヲ爲シタル者ハ五年以下ノ徒刑又
 ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス
 前二項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又
 ハ免除ス
 第二百二十一條 前二條ノ罪ヲ犯シタル者ノ間ニ授受シタル賄賂
 ハ之ヲ沒收ス其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハザルト
 キハ受益者ヨリ其ノ價額ヲ追徵ス
 第六節 公務妨害ノ罪
 第二百二十二條 職務執行中ノ公務員ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ加
 タル者ハ十年以下ノ徒刑若ハ禁錮又ハ二千圓以下ノ罰金ニ
 處ス
 公務員ヲシテ或成分ヲ爲サシメ若ハ爲サザラシムル爲又ハ
 其ノ職ヲ奪セシムル爲暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル者亦前項ニ
 同ジ
 第二百二十三條 暴行シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ一年以上ノ有
 期ノ徒刑又ハ禁錮ニ處ス
 第二百二十四條 公務員ノ施シタル封印又ハ強制成分ノ標示ヲ損
 傷シ又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ之ヲ無効ナラシメタル者ハ五
 年以下ノ徒刑若ハ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス
 第二百二十五條 公務員ノ用ニ供スル標識物、文書其ノ他ノ物ヲ
 損傷シ又ハ毀棄若ハ隱匿シタル者ハ十年以下ノ徒刑若ハ禁
 錮又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス
 第二百二十六條 前四條ノ外偽計、威力又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ
 公務員ノ執行ヲ妨害シタル者ハ三年以下ノ徒刑若ハ禁錮又ハ
 千圓以下ノ罰金ニ處ス
 第七節 逃走及贖罪ノ罪
 第二百二十七條 既決未決ノ囚人逃走シタルトキハ三年以下ノ徒
 刑ニ處ス
 天災事變ニ際シ法令ニ依リ解放セラレタル囚人出頭命令ニ
 違反シタルトキ亦前項ニ同ジ
 第二百二十八條 既決未決ノ囚人又ハ勾引狀ノ執行ヲ受ケタル者
 暴行脅迫ヲ爲シ又ハ拘禁場ヲ損壞シテ逃走シタルトキハ七
 年以下ノ徒刑ニ處ス
 二人以上共同シテ前項ノ罪ヲ犯シタルトキハ一年以上ノ有
 期徒刑ニ處ス
 第二百二十九條 法令ニ依リ拘禁セラレタル者ヲ奪取シ又ハ逃走
 セシメタル者ハ七年以下ノ徒刑ニ處ス
 暴行脅迫ヲ爲シ又ハ拘禁場ヲ損壞シテ前項ノ罪ヲ犯シタル
 者ハ一年以上ノ有期徒刑ニ處ス
 二人以上共同シテ前項ノ罪ヲ犯シタルトキハ二年以上ノ有
 期徒刑ニ處ス
 第二百三十條 被拘禁者ヲ看守又ハ護送スル者之ヲ逃走セシ
 メタルトキハ一年以上ノ有期徒刑ニ處ス
 重大ナル過失ニ因リ前項ノ罪ヲ犯シタル者ハ三年以下ノ罰
 金又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス
 第二百三十一條 被拘禁者ヲ逃走セシムル目的ヲ以テ器具ヲ給
 與シ又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

與シ其ノ他逃走ヲ容易ナラシムベキ行爲ヲ爲シタル者ハ三
 年以下ノ徒刑ニ處ス
 第二百三十二條 重罪若ハ輕罪ノ犯人、被告人若ハ被疑者又ハ
 拘禁中逃走シ若ハ奪取セラレタル者ヲ贖取シ又ハ隱匿セシ
 メタル者ハ五年以下ノ徒刑又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス
 本人ノ利益ノ爲親族前項ノ罪ヲ犯シタルトキハ其ノ刑ヲ減
 輕又ハ免除ス
 第二百三十三條 第二百二十九條第一項及第二百三十條第一項ノ
 未遂犯ヘ之ヲ罰ス
 第八節 僱傭及護送ノ罪
 第二百三十四條 法律ニ依リ僱傭ノ供送ヲ爲シタルトキハ
 十年以下ノ徒刑ニ處ス
 宣誓ヲ爲サザル證人前項ノ罪ヲ犯シタルトキハ其ノ刑ヲ減
 輕又ハ免除ス
 第二百三十五條 法律ニ依リ僱傭、通譯又ハ翻譯ヲ命ゼラレタ
 ル者僱傭ノ僱定、通譯又ハ翻譯ヲ爲シタルトキハ宣誓ノ有
 無ヲ區別シ前條ノ例ニ依ル
 第二百三十六條 人ヲ重罪ニ陪ルル目的ヲ以テ前二條ノ罪ヲ犯
 シタルトキハ一年以上ノ有期徒刑ニ處ス宣誓ヲ爲サザル者
 ナルトキハ七年以下ノ徒刑ニ處ス
 第二百三十七條 他人ノ刑事事件ニ關シ證憑ヲ濫減、隱匿、偽
 造若ハ變造シ又ハ偽造若ハ變造ノ證憑ヲ使用シタル者ハ十
 年以下ノ徒刑ニ處ス
 他人ノ刑事事件ニ關シ證人ヲ贖取シ又ハ隱匿セシメタル者
 亦前項ニ同ジ
 第二百三十八條 前二條ノ罪ヲ犯シタル者ハ一年以上
 以上ノ有期徒刑ニ處ス
 第二百三十九條 第二百二十五條又ハ第二百二十六條ノ罪ヲ犯シタ
 ル者證憑、僱定、通譯又ハ翻譯ヲ爲シタル事件ノ裁判確定

前自シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得
 第二百四十條 自己ノ刑事事件ニ關シ前二條ノ罪ヲ犯シタル
 者ハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除ス本人ノ利益ノ爲親族本罪ノ罪
 ヲ犯シタルトキ亦同ジ
 第九節 贖罪ノ罪
 第二百四十一條 他人ヲシテ刑事事件ニ關シ或成分ヲ受ケシムル
 成アル僱傭ノ事實ヲ當該公務員又ハ公務員ニ申告シタル者
 ハ十年以下ノ徒刑ニ處ス
 前項ノ申告事實重罪ニ該ルトキハ一年以上ノ有期徒刑ニ處
 ス
 第二百四十二條 前條ノ罪ヲ犯シタル者申告シタル事件ノ裁判
 又ハ懲戒成分ノ確定前自シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ
 免除スルコトヲ得
 第十節 公安危害ノ罪
 第二百四十三條 乘車シテ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ十年以
 下ノ徒刑若ハ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス
 第二百四十四條 暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者以テ乘車シ當該公
 務員ヨリ解散ノ命令ヲ受ケタルコト三回ニ及ビテ仍舊散セザ
 ル者ハ五年以下ノ徒刑若ハ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス
 第二百四十五條 重罪ヲ犯シタル者以テ團結シタル者ハ十年以
 下ノ徒刑ニ處ス
 長期七年以上ノ徒刑ニ該ル輕罪ヲ犯シタル者以テ團結シタ
 ル者ハ五年以下ノ徒刑ニ處ス
 第二百四十六條 乘車ニ對シ犯罪ヲ獎勵又ハ煽動シタル者ハ五
 年以下ノ徒刑若ハ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス
 第二百四十七條 安寧秩序ヲ紊亂シ又ハ財界ヲ擾亂スル目的ヲ
 以テ虛設ヲ流布シ又ハ偽計ヲ用ヒタル者ハ七年以下ノ徒刑
 又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス
 天災事變ニ際シ前項ノ罪ヲ犯シタル者ハ一年以上十年以下

ノ徒刑ニ處ス
 第十一節 危險物ニ關スル罪
 第二百四十八條 治安ヲ妨ゲ又ハ公共ノ危險ヲ生ゼシムル目的
 ヲ以テ危險物ヲ使用シタル者ハ死刑又ハ無期若ハ六年以上
 ノ徒刑若ハ禁錮ニ處ス
 第二百四十九條 前條ノ罪ヲ犯シタル者以テ其ノ擔當又ハ贖取
 ヲ爲シタル者ハ十年以下ノ徒刑又ハ禁錮ニ處ス
 前項ノ罪ヲ犯シタル者危險物ノ使用前自シタルトキハ其
 ノ刑ヲ減輕又ハ免除ス
 第二百五十條 危險物ヲ使用シ又ハ汽罐其ノ他ノ危險物ヲ破裂
 セシメテ危險物、船車其ノ他ノ物ヲ損壞シタル者ハ放火ノ
 例ニ依ル
 第二百五十一條 瓦斯、電氣又ハ蒸氣ヲ漏逸セシメ又ハ之ヲ燃
 斷シテ治安ヲ妨ゲ又ハ公共ノ危險ヲ生ゼシメタル者ハ二年
 以上ノ有期徒刑ニ處ス
 第二百五十二條 過失ニ因リ第四百十條ノ罪ヲ犯シタル者ハ失
 火ノ例ニ依ル
 第二百五十三條 過失ニ因リ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス
 乘務上ノ過失又ハ重大ナル過失ニ因リ前項ノ罪ヲ犯シタル
 者ハ三年以下ノ禁錮又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス
 第十二節 放火及決水ノ罪
 第二百五十四條 放火シテ現ニ人ノ住居ニ使用シ又ハ人ノ現在
 スル建築物船車又ハ橋坑ヲ燒燬シタル者ハ無期又ハ五年以
 上ノ徒刑ニ處ス
 放火シテ前項以外ノ物ヲ燒燬シ公共ノ危險ヲ生ゼシメタル
 者ハ一年以上ノ有期徒刑ニ處ス
 第二百五十五條 決水シテ現ニ人ノ住居ニ使用シ又ハ人ノ現在
 スル建築物、船車又ハ橋坑ヲ浸害シタル者ハ無期又ハ五年
 以上ノ徒刑ニ處ス

後者之ヲ適用ス
第六條 刑法第四十二條ノ規定ハ刑法施行前ニ犯シタル罪ニ付テハ之ヲ適用ス

第七條 刑法施行前罰則法又ハ他ノ法令ニ依リ科セラレタル罰又ハ處分ハ左ノ例ニ從ヒ刑法ノ刑又ハ處分ニ依ルモノト爲ス

第八條 刑法施行前ニ爲シタル罪刑又ハ假釋ハ刑法ノ規定ニ依ル刑ノ執行繼續又ハ假釋放ト看做ス

第九條 他ノ法令ニ定メタル刑ハ第三條ノ例ニ準ジ之ヲ刑法ノ刑ニ變更ス

第十條 他ノ法令ニ定メタル刑ニ付テハ其ノ期間又ハ金額ヲ變更セズ但シ他ノ法令中特ニ長期、短期又ハ零額ヲ定メザル刑ニ付テハ刑法ノ期間又ハ金額ニ關スル規定ニ從フ

第十一條 他ノ法令ニ於テ引用シタル罰則法ノ規定ハ之ニ相當スル刑法ノ規定ニ變更ス

第十二條 他ノ法令ノ規定ニ於テ公職ノ職務ヲ定メタルモノハ之ヲ廢止ス

第十三條 他ノ法令ノ規定ニ於テ刑ノ加重ヲ定メタルモノハ之ヲ廢止ス

第十四條 受刑者ノ釋放ハ刑期終了ノ翌日之ヲ行フ

第十五條 刑法ニ於テ刑罰ト稱スルハ左ニ稱スル者ヲ謂フ

一 直系血族四親等内ノ旁系血族及此等ノ者ノ配偶者
二 配偶者
三 三親等内ノ親族

本法ハ刑法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス(應德四年四月一日ヨリ施行)

暫行懲治盜匪法

(大正元年九月十二日) 敕令第八〇號

改正 廣德五年五月勅令第一〇三號
茲ニ參議府ノ諮詢ヲ經テ暫行懲治盜匪法ヲ制定シ之ヲ公布セ

第一條 團體ヲ紊亂シ國家存立ノ基礎ヲ急迫若ハ衰退セシムル目的ヲ以テ結社ヲ組織シタル者ハ左ノ區別ニ從テ之ヲ處断ス

一 首魁ハ死刑
二 役員其ノ他ノ指揮者ハ死刑又ハ無期徒刑
三 謀議ニ參與シ又ハ結社ニ加入シタル者ハ無期徒刑又ハ十年以上ノ有期徒刑

第二條 前條ノ目的ヲ以テ團體殺人要緊放火脅迫其ノ他不法ノ行爲ヲ爲シタル者ハ死刑又ハ無期徒刑若ハ十年以上ノ有期徒刑ニ處ス

第三條 出版通信其ノ他何等ノ方法ヲ以テスルヲ問ハズ第一條ノ目的ヲ以テ其ノ目的タル事實ヲ宣傳シタル者ハ十年以上ノ有期徒刑ニ處ス

第四條 第一條ノ目的ヲ以テ外國又ハ外國人ト勾結シタル者ハ死刑又ハ無期徒刑若ハ十年以上ノ有期徒刑ニ處ス

第五條 第一條ノ目的ヲ以テ軍警ヲ煽惑シタル者ハ死刑又ハ無期徒刑若ハ十年以上ノ有期徒刑ニ處ス

第六條 前條ノ目的ヲ以テ之ヲ煽動シタル者ハ各本條ニ照シテ之ヲ處断ス

第七條 軍警部隊ヲ爲ス盜匪ヲ糾射肅清スルニ當リテハ臨時格殺シ得ルノ外該軍隊ノ司令官其ノ職責ニ依リ之ヲ捕獲スルコトヲ得

第八條 高等警察官ノ指揮スル警察隊部隊ヲ爲ス盜匪ヲ糾射シ事緊急迫ニシテ捕獲ヲ許ササル事情アルトキハ該高級警察官其ノ職責ニ依リ之ヲ捕獲スルコトヲ得

第九條 本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

暫行懲治盜匪法

(大正元年九月十二日) 敕令第八一號

改正 大正二年九月勅令第七五號
茲ニ參議府ノ諮詢ヲ經テ暫行懲治盜匪法ヲ制定シ之ヲ公布セ

第一條 強盜又ハ脅迫ノ手段ニ依リ他人ノ財物ヲ強取スル目的ヲ以テ強盜又ハ脅迫シタル者ハ之ヲ強盜トス

第二條 強盜トシテ強盜トシタル者ハ左ノ區別ニ從テ之ヲ處断ス

一 首魁又ハ謀議ニ參與シ若ハ多衆ヲ指揮シタル者ハ死刑又ハ無期徒刑
二 其ノ他ノ者ハ無期徒刑又ハ十年以上ノ有期徒刑
三 強盜ヲ幫助シタル者ハ正犯ヲ以テ之ヲ論ス盜匪ノ爲事ニ役ヲ執リ又ハ附和隨行シタル者ハ七年以下ノ有期徒刑

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十條 本法ハ何人ヲ問ハズ本法施行區域外ニ於テ罪ヲ犯シタル者ニ亦之ヲ適用ス

第十一條 本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十二條 本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十三條 本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十四條 本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十五條 本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十六條 本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十七條 本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○暫行懲治盜匪法施行法

(大正二年一月二十日) 敕令 第四號

改正 大正二年九月敕令第七六號

五 參議府ノ諮詢ヲ經テ暫行懲治盜匪法施行法ヲ制定シ之ヲ公布セシム
第一條 暫行懲治盜匪法施行法ノ行爲同法第一條乃至第三條ノ規定ニ該當シ未タ判決確定セザルモノハ左記各號ノ區別ニヨリ辨別ス
一 已ニ判決確定ヲ經テ現ニ上訴審ニ繫屬中ナルモノハ第二審或ハ第三審ノ審判ヲ爲スヘシ但シ此ノ第二審ノ判決ニ對シテハ上訴ヲ許サス
二 判決確定ヲ經タルモノ未ダ上訴セズ且上訴期間内ニ在ルモノハ上訴ヲ許サス
三 未タ判決確定ヲ經タル案件ニシテ其ノ行爲大正元年三月一日以前ニ係ルモノナルトキハ暫行懲治盜匪法ヲ適用セズ
四 暫行懲治盜匪法ヲ適用シテ處斷シタル案件ハ之ヲ覆判ニ送ルコトヲ得ス
五 暫行懲治盜匪法施行ノ當時已ニ判決確定ヲ經タルモノ未ダ覆判ニ送ラサル案件亦同シ
第三條 凡ソ暫行懲治盜匪法施行法ノ行爲同法第一條乃至第三條ノ規定ニ該當シ既ニ覆判ニ送リタルモノ未ダ確定判決ヲ經サルモノハ左記各號ノ區別ニ依リ處斷ス
一 現ニ覆判審ニ繫屬中ナルモノニ付テハ刑事訴訟法所定ノ第一審訴訟手續ニ依リ審判ス

○特殊團體職員ノ瀆職處罰ニ關スル件

(大正二年九月一日) 勅令 第二八號

第三十六條ニ依リ參議府ノ諮詢ヲ經テ特殊團體職員ノ瀆職處罰ニ關スル件ヲ制定シ之ヲ公布セシム
第一條 本法ニ於テ特殊團體トハ左ニ掲グルモノヲ謂フ
一 會社其他ノ法人ニシテ當該法人ニ付テハ法律ヲ制定シ又ハ條約ヲ締結シタルモノ
二 前號ノ法人ニ準ズル法人其他ノ團體ニシテ國務總理大臣ノ特ニ指定スルモノ
第三條 特殊團體ノ職員其ノ職務ニ關シテ賄賂其ノ他不正ノ行為ヲ收受シ又ハ他人ニ供與セシメタルトキハ二年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス要求又ハ約束ヲ爲シタルトキモ亦同シ
第四條 前號ノ罪ヲ犯シ不正ノ行為ヲ爲シ又ハ不正ノ行為ヲ爲シタルコトニ關シテ前條ノ罪ヲ犯シタルトキハ十年以下ノ懲役ニ處ス
第五條 前號ノ罪ヲ犯シ不正ノ行為ヲ爲シタルトキハ五年以下ノ懲役ニ處ス
第六條 前號ノ罪ヲ犯シ不正ノ行為ヲ爲シタルトキハ二年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス
第七條 前號ノ罪ヲ犯シ不正ノ行為ヲ爲シタルトキハ二年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス
第八條 前號ノ罪ヲ犯シ不正ノ行為ヲ爲シタルトキハ二年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス
第九條 前號ノ罪ヲ犯シ不正ノ行為ヲ爲シタルトキハ二年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス
第十條 前號ノ罪ヲ犯シ不正ノ行為ヲ爲シタルトキハ二年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス
第十一條 前號ノ罪ヲ犯シ不正ノ行為ヲ爲シタルトキハ二年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス
第十二條 前號ノ罪ヲ犯シ不正ノ行為ヲ爲シタルトキハ二年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス
第十三條 前號ノ罪ヲ犯シ不正ノ行為ヲ爲シタルトキハ二年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス
第十四條 前號ノ罪ヲ犯シ不正ノ行為ヲ爲シタルトキハ二年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス
第十五條 前號ノ罪ヲ犯シ不正ノ行為ヲ爲シタルトキハ二年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス
第十六條 前號ノ罪ヲ犯シ不正ノ行為ヲ爲シタルトキハ二年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス
第十七條 前號ノ罪ヲ犯シ不正ノ行為ヲ爲シタルトキハ二年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス
第十八條 前號ノ罪ヲ犯シ不正ノ行為ヲ爲シタルトキハ二年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス
第十九條 前號ノ罪ヲ犯シ不正ノ行為ヲ爲シタルトキハ二年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス
第二十條 前號ノ罪ヲ犯シ不正ノ行為ヲ爲シタルトキハ二年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

二 覆判審ニ於テ擬審官ハ指定推事選審ノ裁定ヲ經テ現ニ尙本審屬中ナルモノ亦同シ
三 覆判審ニ於テ發回原審司法機關審判ノ裁定ヲ經テ現ニ原審司法機關ニ繫屬中ナルモノニ付テハ刑事訴訟法所定ノ第一審訴訟手續ニ依リ審判ス
四 覆判ヲ經タル案件ニシテ現ニ上訴審ニ繫屬中ナルモノハ刑事訴訟法所定ノ第二審或ハ第三審ノ訴訟手續ニ依リ審判ス但シ此ノ第二審ノ判決ニ對シテハ上訴ヲ許サス
第五條 暫行懲治盜匪法第六條第二項ニ依リ提審ヲ命ジタルトキハ高等法院ハ刑事訴訟法所定ノ第一審訴訟手續ニ依リ審判スヘシ
第六條 暫行懲治盜匪法第六條第四項ニ依リ再審ヲ命ジ高等法院ノ覆審ニ付シタルトキ亦前項ニ同シ
第七條 第三條第一號及第四號ノ規定ニ於テハ原判決ハ既ニ撤同シタルモノト看做ス
第八條 暫行懲治盜匪法所定ノ犯罪ノ審判ニ付テハ職權ニ依リ辯護人ノ指定ヲ爲ササルコトヲ得
第九條 暫行懲治盜匪法所定ノ犯罪ニ付テハ刑法第二條但書ノ規定ヲ適用セズ
第十條 本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○特殊團體職員ノ瀆職處罰ニ關スル件ノ團體ノ指定

(大正六年九月一日) 院令 第三十七號

- 改正 廣徳七年二月院令第五八號
茲ニ廣徳六年勅令第二二八號特殊團體職員ノ瀆職處罰ニ關スル件第一條第二號ノ團體ノ指定ニ關スル件ヲ左ノ通改正ス
廣徳六年勅令第二二八號特殊團體職員ノ瀆職處罰ニ關スル件第一條第二號ノ團體ヲ左ノ通指定ス
一 滿洲航空株式會社
二 株式會社大興公司
三 株式會社本港湖煤礦公司
四 滿洲會社株式會社
五 滿洲自動車株式會社
六 滿洲畜產株式會社
七 滿洲豆稈パルプ株式會社
八 滿洲瓦斯株式會社
九 商工公會(會商工公會ヲ含ム)
十 學校組合
十一 滿洲火災海上保險株式會社
十二 滿洲礦山株式會社
十三 滿洲羊毛同業會
十四 財團法人滿洲帝國教育會
十五 東邊通關株式會社
十六 滿洲製糖株式會社
十七 財團法人滿洲華人後援會
十八 滿洲共同セメント株式會社
十九 財團法人滿洲椰子配給協會

- 二十 瀋陽鐵道工業聯合會
- 二十一 瀋陽鐵道工業聯合會
- 二十二 瀋陽鐵道工業聯合會
- 二十三 瀋陽鐵道工業聯合會
- 二十四 瀋陽鐵道工業聯合會
- 二十五 瀋陽鐵道工業聯合會
- 二十六 瀋陽鐵道工業聯合會
- 二十七 瀋陽鐵道工業聯合會
- 二十八 瀋陽鐵道工業聯合會
- 二十九 瀋陽鐵道工業聯合會
- 三十 瀋陽鐵道工業聯合會
- 三十一 瀋陽鐵道工業聯合會
- 三十二 瀋陽鐵道工業聯合會
- 三十三 瀋陽鐵道工業聯合會
- 三十四 瀋陽鐵道工業聯合會
- 三十五 瀋陽鐵道工業聯合會
- 三十六 瀋陽鐵道工業聯合會
- 三十七 瀋陽鐵道工業聯合會
- 三十八 瀋陽鐵道工業聯合會
- 三十九 瀋陽鐵道工業聯合會
- 四十 瀋陽鐵道工業聯合會
- 四十一 瀋陽鐵道工業聯合會
- 四十二 瀋陽鐵道工業聯合會
- 四十三 瀋陽鐵道工業聯合會

特別刑事法

○違令罰基準法

改正 康徳五年六月勅令第一三一號 (康徳四年六月三十日勅令第二〇八號) 七年八月第二〇八號

一〇月第二五五號、一二月第三九一號

朕組織法(第四十一條)ニ依リ參議府ノ諮詢ヲ經テ違令罰基準法ヲ制定シ茲ニ之ヲ公布セシム

勅令其ノ他ノ命令ニハ左ノ例ニ依リ罰則ヲ附スルコトヲ得

- 一 勅令ニ附スベキ罰則ハ一年以下ノ徒刑右ハ禁錮、五百圓以下ノ罰金、拘留又ハ科料ニ限ル
- 二 院令及部令ニ附スベキ罰則ハ六月以下ノ徒刑右ハ禁錮、三百圓以下ノ罰金、拘留又ハ科料ニ限ル
- 三 省令、新京特別市及鐵道警務處令ニ附スベキ罰則ハ三百圓以下ノ罰金、拘留又ハ科料ニ限ル
- 四 縣令、旗令及市令ニ附スベキ罰則ハ百圓以下ノ罰金、拘留又ハ科料ニ限ル

本法ハ康徳四年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

附則 (康徳五年六月第一三一號)

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附則 (康徳七年八月第二〇八號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附則 (康徳七年十一月一〇月勅令第二五五號)

本法ハ康徳七年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

附則 (康徳七年十二月二十八日勅令第三九一號)

本法ハ康徳八年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

刑事法 違令罰基準法 阿片法

○阿片法

法 (大同元年十一月三十日勅令第一一一一號)

改正 康徳元年三月勅令第一一號、同二年二月第一五五號、四年四月八七號、六年二月第三四〇號、七年八月第一九九號

茲ニ參議府ノ諮詢ヲ經テ阿片法ヲ制定シ之ヲ公布セシム

第一條 本法ニ於テ阿片トハ生阿片及阿片煙膏及阿片煙灰ヲ謂フ

第二條 阿片ハ之ヲ吸食スルコトヲ得ズ但シ康徳五年一月十一日迄ニ滿二十年ニ達シタル阿片煙膏ニシテ治療ノ爲必要アリト認め政府ヨリ許可セラレタル者ガ政府ノ賣下ニ係ル阿片煙膏ヲ吸食スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第三條 阿片又ハ阿片吸食器具ハ之ヲ輸出シ又ハ輸入スルコトヲ得ズ但シ政府ガ製藥用又ハ阿片製糖用ノ生阿片又ハ阿片煙膏ヲ輸出シ又ハ輸入スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第四條 阿片ハ政府ノ外之ヲ製造スルコトヲ得ズ但シ罂粟栽培ノ許可ヲ受ケタル者ガ生阿片ヲ製造スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第五條 阿片吸食器具ハ政府ノ指定スル者ニ非ザレバ之ヲ製造スルコトヲ得ズ

第六條 阿片又ハ阿片吸食器具ハ政府ノ外之ヲ賣買シ授受シ所有シ又ハ所持スルコトヲ得ズ但シ民生部大臣ノ定ムル所ニ依リ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

- 一 阿片煙膏吸食ノ許可ヲ受ケタル者ガ阿片煙膏又ハ阿片吸食器具ヲ賣受ケ又ハ所有シ若ハ所持スルコトキ
- 二 阿片煙膏吸食ノ許可ヲ受ケタル者ガ阿片煙膏ヲ所有シ又ハ所持スルコトキ
- 三 罂粟栽培ノ許可ヲ受ケタル者ガ生阿片ヲ所有シ又ハ所持スルコトキ
- 四 罂粟製造ノ許可ヲ受ケタル者ガ生阿片ヲ賣受ケ又ハ所有シ又ハ所持スルコトキ

一七

第十二條 政府ハ必要アリト認ムル事項ニ付第六條各款ニ掲グル者ヲシテ報告ヲ爲サシムルコトヲ得

第十三條 當該官吏ハ第六條各款ニ掲グル者ノ罰則規程地、製煙場、店舖、他ノ場所ニ立入り罰則、阿片、機械、器具、帳簿其ノ他ノ文書物件ヲ検査シ關係人ヲ尋問シ又ハ取締上必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

第十四條 左ノ各款ノ一ニ該當スル者ハ七年以下ノ有期徒刑又ハ七千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 販賣ノ目的ヲ以テ阿片ニ關シ第三條、第四條又ハ第六條ノ規定ニ違反シタル者

二 第七條又ハ第八條ノ規定ニ違反シタル者

前項ノ規定ト罰金トハ之ヲ併科スルコトヲ得

第十五條 販賣ノ目的ヲ以テ阿片吸食器具ニ關シ第三條、第五條又ハ第六條ノ規定ニ違反シタル者ハ五年以下ノ有期徒刑又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ規定ト罰金トハ之ヲ併科スルコトヲ得

第十六條 前項ノ規定ニ違反シタル者ハ三年以下ノ有期徒刑又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十七條 左ノ各款ノ一ニ該當スル者ハ一年以下ノ有期徒刑又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第二條但書ノ規定ニ依ル阿片購者ニシテ政府ノ賣下ニ係ル阿片煙膏以外ノ阿片ヲ吸食シタル者

二 販賣ノ目的ニ出デズシテ第三條乃至第六條ノ規定ニ違反シタル者

第十八條 左ノ各款ノ一ニ該當スル者ハ三月以下ノ有期徒刑又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第十條ノ二ノ規定ニ違反シタル者

二 第十一條ノ規定ニ依ル處分ニ從ハザル者

三 正當ノ理由ナクシテ第十二條ノ規定ニ依ル報告ヲ怠リ又ハ虚偽ノ報告ヲ爲シタル者

第十四條ノ規定ニ依ル當該官吏ノ検査ヲ阻障シ又ハ尋問ニ對シテ虚偽ノ報告ヲ爲ス若ハ虚偽ノ答辯ヲ爲シ其ノ他當該官吏ノ處分ニ從ハザル者

第十九條 第六條ノ場合ニ於テ犯罪ニ係ル阿片、阿片吸食器具、藥劑、藥劑ノ種子又ハ阿片製和物ハ犯人ニ關スルト否トハ問ハズ之ヲ没收ス其ノ全部又ハ一部ヲ没收スルコト能ハザルトキハ其ノ價額ヲ沒收ス

第二十條 前七條ノ規定ノ適用ニ付テハ應德五年勅令第二百二十五號行政法規ノ附則適用ニ關スル件ニ依ル

第二十一條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(大同二年一月勅令第一號ニ依リ四年一月十一日ヨリ之ヲ施行ス)

附則 (應德二年勅令第一五五號)

本法ハ應德三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ指定セラレタル阿片製和物人カ本法施行ノ期現ニ有スル阿片ハ本法施行ノ日ヨリ十五日以内ニ之ヲ賣戻ラ政府ニ請求スルコトヲ得

附則 (應德四年二月勅令第四八七號)

本法ハ應德五年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

附則 (應德六年二月勅令第三四〇號)

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附則 (應德七年八月勅令第一九九號)

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○阿片法施行規則

(應德六年十二月二十八日) (民生部令第六二號)

第一條 阿片法施行規則ヲ左ノ通則定ス

第二條 阿片法第二條但書ノ規定ニ依ル阿片煙膏吸食ノ許可ハ當該官吏ノ之ヲ爲ス

第三條 當該官吏ハ吸食ノ許可ヲ爲サントスルトキハ本籍、住居地、職業、姓名、性別、年齢及一日ノ吸食量ヲ審査シ數額上必要アリト認メタル者ニ限り吸食量及管煙所ヲ指定シ第一號様式ニ依ル阿片購者登録簿ニ登錄シ第二號様式ニ依ル阿片購者登録證明書(以下登録證明書ト稱ス)及第三號様式ニ依ル阿片煙膏購買帳(以下購買帳ト稱ス)ヲ下付スベシ

第四條 登錄簿者ハ旅行地ニ於テ阿片煙膏買受ノ要アルトキハ住居地ノ當該官吏ニ旅行證明書ヲ下付テ申請スベシ

第五條 登錄簿者ハ旅行證明書ヲ下付テ申請スベシ

第六條 登錄簿者ハ吸食證明書、購買帳又ハ旅行證明書ヲ他人ニ讓渡シ又ハ貸與スルコトヲ得ズ

第七條 登錄簿者ハ阿片煙膏ヲ買受ケントスルトキハ指定ヲ受ケタル管煙所ニ登録證明書及購買帳ヲ提示スベシ但シ旅行地ニ於テ阿片煙膏ヲ買受ケントスルトキハ旅行地ノ管煙所ニ登録證明書、購買帳及旅行證明書ヲ提示スベシ

第八條 管煙所ハ阿片煙膏ノ賣下ヲ爲サントスルトキハ前條ノ規定ニ依リ提示ヲ受ケタル登録證明書、購買帳及旅行證明書ヲ審査シ正當ト認メタル者ニ限り購買帳ニ所定事項ヲ記入シ之ヲ爲スベシ

第九條 登錄簿者阿片吸食器具ヲ買受ケントスルトキハ指定ヲ

受ケタル管煙所ニ登録證明書ヲ提示スベシ

第八條 管煙所ハ阿片吸食器具ノ賣下ヲ爲サントスルトキハ前條ノ規定ニ依リ提示ヲ受ケタル登録證明書ヲ審査シ正當ト認メタル者ニ限り之ヲ爲スベシ

第九條 管煙所ハ常ニ登錄簿者ノ動靜ニ留意シ其ノ吸食狀況ニ關シ意見ヲ附シ第五號様式ニ依リ毎月十五日迄ニ登錄簿者ノ所轄當該官吏ニ通報スベシ

第十條 登錄簿者ハ吸食量十日分ヲ超ニル阿片煙膏ヲ購買又ハ所持スルコトヲ得ズ但シ土地ノ事情其ノ他已ムヲ得ザル事由ニ因リ所轄當該官吏ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第十一條 登錄簿者ハ阿片煙膏吸食ニ因リ生ジタル阿片煙灰ヲ指定管煙所ニ納付スベシ

第十二條 登錄簿者ハ吸食證明書若ハ購買帳ヲ亡失若ハ毀損シ又ハ購買帳ノ紙數盡キタルトキハ速速ナク所轄當該官吏ニ届出テ再下付ヲ受ケベシ

第十三條 登錄簿者ハ住居ヲ變更シタルトキハ十日以内ニ新住居地ノ當該官吏ニ登録證明書及購買帳ヲ添(届出)ズベシ

第十四條 當該官吏ハ登録簿者ノ年齢及中毒狀況ヲ審査シ速ニ管治スル要アリト認メタル者ヨリ順次康生院ニ入院ヲ命ジ治療ヲ受ケシムベシ

第十五條 康生院長ハ登録簿者ニシテ治療ヲ受ケタルノ希望者アリタルトキハ之ヲ入院セシムベシ

第十六條 康生院長ハ前項ニ依リ登録簿者ヲ入院セシメタルトキハ五日以内ニ購者ノ所轄當該官吏ニ通報スベシ

第十七條 前二條ノ場合ニ於ケル入院者ノ治療費ハ康生院ノ負擔トス但シ實力アルモノニ付テハ實費ヲ沒收スルコトヲ得

前項但書ノ規定ニ依リ徵收スル實費額ハ別ニ之ヲ定ム

第十七條 康生院長ハ登録簿者ヲ入院セシメタルトキハ其ノ登録證明書及購買帳ヲ提出セシメ之ヲ保管スベシ

第十八條 康生院長ハ入院セシメタル登録簿者治療又ハ死亡シタルトキハ五日以内ニ購者ノ所轄當該官吏ニ登録證明書及購買帳ヲ添(通報)スベシ

第十九條 康生院ニ入院セザル登録簿者治療シタルトキハ康生院又ハ當該官吏ノ指定スル醫館ノ設施スル治療證明書、登録證明書及購買帳ヲ死亡シタルトキハ登録證明書及購買帳ヲ添(十日以内ニ所轄當該官吏ニ其ノ旨届出)ズベシ

第二十條 死亡ノ場合ニ於ケル届出ハ家族又ハ同居者ニ於テ之ヲ爲スベシ

第二十一條 當該官吏必要ト認メタルトキハ登録簿者ニ對シ管煙所外ノ吸食ヲ禁止シ其ノ他阿片購者管理上必要ナル事項ヲ命ズルコトヲ得

第二十二條 當該官吏ハ阿片購者登録簿ヲ調査シ第六號様式ニ依リ前月分ヲ毎月五日迄ニ省長又ハ當該官吏ニ報告スベシ

第二十三條 當該官吏ハ前項ノ報告ニ基キ第七號様式ニ依リ前月分ヲ毎月十五日迄ニ禁煙總局長ニ通報スベシ

第二十四條 禁煙總局長ノ地域及其ノ面積ハ毎年民生部大臣ノ認可ヲ經テ禁煙總局長之ヲ定ム

第二十五條 禁煙總局長ヲ候補セントスル者ハ左ノ事項ヲ具シ毎年所轄省長ニ申請シ許可ヲ受ケベシ之ヲ變更シ又ハ候補ヲ廢止セントスルトキハ亦同シ

一 住所、姓名及生年月日

二 栽培ノ場所及面積

第二十條 前條ノ許可ヲ受ケタル者ハ栽培地毎ニ其ノ場所、面積及栽培者ノ住所、姓名ヲ記載シタル簿本ヲ提出スベシ

第二十五條 禁煙總局長ハ其ノ製造ニ係ル生阿片ヲ所轄省長ノ指定シタル期間及場所ニ於テ省長ニ納付スベシ

前項ノ規定ニ依リ納付ヲ受ケタル生阿片ニ對シテハ所轄官長
其ノ品位ニ依リ補償金ヲ交付ス
第二十六條 生阿片ノ補償價格ハ每年民生部大臣ノ認可ヲ經テ
禁煙總局長之ヲ定ム
第二十七條 省長ハ納付ヲ受ケタル生阿片ヲ禁煙總局長ニ送付
スベシ
第二十八條 阿片吸食器具製造人ハ禁煙總局長之ヲ指定ス
第二十九條 阿片吸食器具製造人ハ其ノ製造ニ係ル阿片吸食器
具ヲ禁煙總局長ニ納付スベシ
前項ノ規定ニ依リ納付ヲ受ケタル阿片吸食器具ニ對シテハ禁
煙總局長補償金ヲ交付ス
第三十條 阿片吸食器具ノ補償價格ハ民生部大臣ノ認可ヲ經テ
禁煙總局長之ヲ定ム
第三十一條 麻藥製造ノ許可ヲ受ケタル者製藥ノ寫生阿片ヲ必
要トスルトキハ禁煙總局長ニ其賣下ヲ申請スベシ
第三十二條 第二十五條第一項又ハ第二十九條第一項ノ規定ニ
違反シタル者ハ二百圓以下ノ罰金又ハ拘留ニ處ス
第三十三條 第四條、第十條、第十一條又ハ第二十四條ノ規定
ニ違反シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス
第三十四條 第十二條、第十三條若ハ第十九條ノ罰出ヲ爲サズ
又ハ第二十條ノ規定ニ依ル命令ニ從ハザル者ハ二十圓以下ノ
科料ニ處ス
附 則
本令ハ庚申七年一月一日ヨリ之ヲ施行ス阿片業者管理規則ハ之
ヲ廢止ス

○阿片緝私法

(大正元年十二月二十日 敕令第一一五號)

茲ニ參議府ノ諮詢ヲ經テ阿片緝私法ヲ制定シ之ヲ公布セシム
第一條 專賣官員ハ阿片法違反者ト觀メタル者若ハ其ノ犯罪
ニ係ル阿片及阿片吸食器具ヲ發見シタルトキハ本法ニ依リ
之ヲ逮捕又ハ押收スベシ
專賣官員前項ニ依リ逮捕シタル者及押收セル物件ハ之ヲ最
寄警察官署ニ送致スベシ
第二條 專賣官員ハ所有者不明若ハ所有者所在不明ノ阿片及
阿片吸食器具ヲ發見シタルトキハ之ヲ押收スベシ
前項ノ押收物件ハ專賣官署ノ所在地外ニシテ已ムヲ得サル
事情アルトキハ最寄警察官署ニ之ヲ送致スルコトヲ得
第三條 前條ノ物件ハ專賣官署長又ハ送致ヲ受ケタル警察官
署長ニ於テ之ヲ公示シ其ノ公示期間内ニ所有者有ラズ主張スル
者ナキトキハ國庫ニ歸屬ス
前項ノ公示ハ物件ノ名稱種類數量形狀及發見場所日時等成
ルルノ其ノ物件ヲ知ルニ容易ナル事項ヲ詳記シ十四日間最
寄警察官署ニ公示スベシ
第四條 警察官署長ハ前條ニ依リ國庫ニ歸屬シタル阿片及阿
片吸食器具ヲ最寄警察官署ニ引渡スベシ
第五條 專賣官署長前項ノ引渡ヲ爲ストキハ事件別ニ其ノ種類數量
國庫歸屬ノ年月日ヲ記シタル簿類ヲ添付スベシ
第六條 專賣官署長又ハ警察官署長ハ第三條ノ公示期間中ニ
權利ノ主張アリタル場合ハ事實ヲ審査シ之ヲ權利者ニ返還
スベシ
第七條 專賣官員ハ阿片法違反ノ嫌疑アリト認ムル場合ハ搜
索ヲ爲シ必要アルトキハ嫌疑者又ハ參考人ヲ訪問スルコト
ヲ得

刑事法 阿片緝私法 出版法

第七條 專賣官員搜索訪問押收又ハ逮捕ヲ爲ストキハ其ノ身
分ヲ證明スベキ證據ヲ携帶シ要求アルトキハ之ヲ提示スベ
シ
第八條 專賣官署長ハ必要ト認ムルトキハ專賣官員ニ武器ヲ
携帶セシムルコトヲ得
第九條 專賣官員搜索押收又ハ逮捕ヲ爲スニ當リ必要アリト
認ムルトキハ警察官吏緝私隊又ハ軍隊ニ應援ヲ求ムルコト
ヲ得
第十條 警察官吏其ノ職務執行ニ當リ所有者不明又ハ所有者
所在不明ノ阿片及阿片吸食器具ヲ發見シタルトキハ第二條
乃至第五條ノ規定ヲ準用ス
第十一條 專賣官員稅務官員及稅關官員其ノ職務執行ニ當リ
阿片法違反者ト觀メタル者若ハ所有者不明又ハ所有者所在
不明ノ阿片及阿片吸食器具ヲ發見シタルトキハ第一條乃至
第五條ノ規定ヲ準用ス
第十二條 本法ニ別段ノ規定アル場合ノ外搜索押收及訪問ニ
付テハ刑事訴訟法ノ規定ヲ準用シ逮捕ニ付テハ檢察廳規則
第十三條 本法ハ阿片法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス
專賣官員身分證樣式

專賣官	之專賣官
官	印
職	何
何	生
年	月
某	日

○出版法

(大正元年十月二十四日 敕令第一〇三號)

改正 廣德元年三月勅令第一一號 七年二月第三八號
茲ニ參議府ノ諮詢ヲ經テ出版法ヲ制定シ之ヲ公布セシム
第一章 總 則
第一條 本法ニ於テ出版物ト稱スルハ發賣頒布ノ目的ヲ以テ
機械的又ハ化學的方法ニ依リ複製セラレタル文書圖畫ヲ謂
フ
第二條 出版物ヲ分テテ左ノ三種トス
一 新聞紙 一定ノ期間ヲ用ヒ七日以内ノ期間ニ於テ時期
ヲ定メ又ハ定メス繼續シテ發行スルモノ
二 雜誌 一定ノ期間ヲ用ヒ四月以内ノ期間ニ於テ時期ヲ
定メ又ハ定メス繼續發行スルモノニシテ前條ニ該當セザ
ルモノ
三 普通出版物 前二條ニ該當セザルモノ
新聞紙又ハ雜誌ト同一題號ヲ用ヒ臨時發行スル出版物ハ其
ノ新聞紙又ハ雜誌ト看做ス
同一題號ノ新聞紙又ハ雜誌ヲ他ノ地方ニ於テ發行スルトキ
ハ各別種ノ新聞紙又ハ雜誌ト看做ス
第三條 出版關係人ヲ分テテ左ノ四者トス
一 發行人 出版物ノ發賣頒布ヲ管理スル者
二 著作人 文書圖畫ヲ著述シ又ハ作製スル者
三 編輯人 新聞紙又ハ雜誌ノ編輯ヲ管理スル者
四 印刷人 出版物ノ印刷ヲ管理スル者
出版關係人ハ相當ナルコトヲ得ス
他人ノ演述ヲ筆記シテ出版物ニ登載シ或ハ人ヲシテ之ヲ登

一一一

出版法ニハ左ノ事項ヲ掲載スルコトヲ得ス

- 一 國家組織ノ大綱ヲ不法ニ變更シ又ハ國家存立ノ基礎ヲ危殆ナラシムル事
- 二 外交又ハ軍事ノ機密ニ關スル事
- 三 國家上重大ナル影響ヲ及ボス虞アル事
- 四 犯罪ヲ煽動シ若ハ曲庇シ又ハ刑罰被告人又ハ犯人ヲ賞讃シ若ハ陪審スル事
- 五 公關セサル訴訟ノ辯論
- 六 民心ヲ惑亂シ又ハ財界ヲ擾亂スル虞アル事
- 七 檢察官若ハ警察ノ職務ヲ行フ者ノ禁止スル事
- 八 其ノ他安寧秩序ヲ亂リ又ハ風俗ヲ害スル事

第五條 出版物ニハ官公署若ハ法令ヲ以テ組織シタル團體ニ於テ公ニセサル文書又ハ公開セサル會議ノ議案ニ當リテ公ニ受ケタルニテラサレハ之ヲ掲載スルコトヲ得ス

第六條 國務總理大臣又ハ外交大臣ハ外交事務若ハ財政上事務アリ又ハ治安維持上必要アリト認メタル事項ニ付テハ事項ヲ指示シテ新聞紙又ハ雜誌ニ掲載スルコトヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得

第七條 官公署ニ於テ發行スル出版物ニ對シテハ本法ヲ適用セズ但シ發行ト同時ニ閣本二部ヲ國務總理大臣ニ送付スヘシ

第八條 本法ニ於テ編輯人責任ニ關スル規定ハ左ノ者ニ之ヲ

適用ス

- 一 編輯人ノ外實際ニ編輯スル者
- 二 正誤或ハ辭意ニ關シ掲載ヲ請求セル者
- 三 本法ニ於テ發行人ノ責任ニ關スル規定ハ假發行人之ニ之ヲ準用ス

第二章 新聞紙及雜誌

第九條 新聞紙又ハ雜誌ヲ發行セムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ發行人及編輯人連署ノ上履歷書ヲ添ヘ國務總理大臣ノ許可ヲ申請スヘシ第一號乃至第五號ノ事項ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

- 一 題號
- 二 掲載事項ノ種類
- 三 時事ニ關スル事項ノ掲載ノ有無
- 四 發行ノ時期
- 五 發行所及印刷所ノ名稱及所在地
- 六 發行人編輯人及印刷人ノ原籍住所氏名及生年月日

第十條 新聞紙又ハ雜誌ノ掲載スル新聞紙又ハ雜誌ノ印刷所ハ之ヲ本法施行ノ地域外ニ設タルコトヲ得ス

第十一條 天災其ノ他已ムラ得サル事由ニ因リ發行所或ハ印刷所ヲ變更セムトスルトキハ其ノ事由ヲ具シテ國務總理大臣ニ届出ツヘシ

第十二條 新聞紙又ハ雜誌ノ發行者ヲ變更セムトスルトキハ新聞紙又ハ雜誌ノ發行所ノ住所氏名及生年月日及履歷書ヲ添ヘ國務總理大臣ノ許可ヲ申請スヘシ

第十三條 新聞紙又ハ雜誌ノ發行者ノ住所氏名及生年月日及履歷書ヲ添ヘ國務總理大臣ノ許可ヲ申請スヘシ

第十四條 新聞紙又ハ雜誌ノ發行者ノ住所氏名及生年月日及履歷書ヲ添ヘ國務總理大臣ノ許可ヲ申請スヘシ

第十三條 新聞紙又ハ雜誌ノ發行ヲ停止シタルトキハ原發行人ハ速ニ消テ

第十四條 新聞紙又ハ雜誌ノ發行ヲ停止シタルトキハ原發行所ノ住所氏名及生年月日及履歷書ヲ添ヘ國務總理大臣ニ届出ツヘシ

第十五條 新聞紙又ハ雜誌ノ發行者ハ其ノ事由ニ從テ閣本二部ヲ國務總理大臣ニ送付スヘシ

第十六條 新聞紙又ハ雜誌ノ發行者ハ其ノ事由ニ從テ閣本二部ヲ國務總理大臣ニ送付スヘシ

第十七條 新聞紙又ハ雜誌ノ發行者ハ其ノ事由ニ從テ閣本二部ヲ國務總理大臣ニ送付スヘシ

第十八條 新聞紙又ハ雜誌ノ發行者ハ其ノ事由ニ從テ閣本二部ヲ國務總理大臣ニ送付スヘシ

第十九條 新聞紙又ハ雜誌ノ發行者ハ其ノ事由ニ從テ閣本二部ヲ國務總理大臣ニ送付スヘシ

第二十條 新聞紙又ハ雜誌ノ發行者ハ其ノ事由ニ從テ閣本二部ヲ國務總理大臣ニ送付スヘシ

第十七條 新聞紙又ハ雜誌ノ發行人ハ新聞紙ニ在リテハ發行所ノ住所氏名及生年月日及履歷書ヲ添ヘ國務總理大臣ニ送付スヘシ

第十八條 新聞紙又ハ雜誌ノ發行者ハ其ノ事由ニ從テ閣本二部ヲ國務總理大臣ニ送付スヘシ

第十九條 新聞紙又ハ雜誌ノ發行者ハ其ノ事由ニ從テ閣本二部ヲ國務總理大臣ニ送付スヘシ

第二十條 新聞紙又ハ雜誌ノ發行者ハ其ノ事由ニ從テ閣本二部ヲ國務總理大臣ニ送付スヘシ

第二十一條 新聞紙又ハ雜誌ノ發行者ハ其ノ事由ニ從テ閣本二部ヲ國務總理大臣ニ送付スヘシ

第二十二條 新聞紙又ハ雜誌ノ發行者ハ其ノ事由ニ從テ閣本二部ヲ國務總理大臣ニ送付スヘシ

第二十三條 新聞紙又ハ雜誌ノ發行者ハ其ノ事由ニ從テ閣本二部ヲ國務總理大臣ニ送付スヘシ

第二十四條 新聞紙又ハ雜誌ノ發行者ハ其ノ事由ニ從テ閣本二部ヲ國務總理大臣ニ送付スヘシ

第二十五條 新聞紙又ハ雜誌ノ發行者ハ其ノ事由ニ從テ閣本二部ヲ國務總理大臣ニ送付スヘシ

第二十六條 新聞紙又ハ雜誌ノ發行者ハ其ノ事由ニ從テ閣本二部ヲ國務總理大臣ニ送付スヘシ

第二十七條 新聞紙又ハ雜誌ノ發行者ハ其ノ事由ニ從テ閣本二部ヲ國務總理大臣ニ送付スヘシ

第二十八條 新聞紙又ハ雜誌ノ發行者ハ其ノ事由ニ從テ閣本二部ヲ國務總理大臣ニ送付スヘシ

第二十九條 新聞紙又ハ雜誌ノ發行者ハ其ノ事由ニ從テ閣本二部ヲ國務總理大臣ニ送付スヘシ

第三十條 新聞紙又ハ雜誌ノ發行者ハ其ノ事由ニ從テ閣本二部ヲ國務總理大臣ニ送付スヘシ

第二十一條 新聞紙又ハ雜誌ノ發行者ハ其ノ事由ニ從テ閣本二部ヲ國務總理大臣ニ送付スヘシ

第二十二條 新聞紙又ハ雜誌ノ發行者ハ其ノ事由ニ從テ閣本二部ヲ國務總理大臣ニ送付スヘシ

第二十三條 新聞紙又ハ雜誌ノ發行者ハ其ノ事由ニ從テ閣本二部ヲ國務總理大臣ニ送付スヘシ

第二十四條 新聞紙又ハ雜誌ノ發行者ハ其ノ事由ニ從テ閣本二部ヲ國務總理大臣ニ送付スヘシ

第二十五條 新聞紙又ハ雜誌ノ發行者ハ其ノ事由ニ從テ閣本二部ヲ國務總理大臣ニ送付スヘシ

第二十六條 新聞紙又ハ雜誌ノ發行者ハ其ノ事由ニ從テ閣本二部ヲ國務總理大臣ニ送付スヘシ

第二十七條 新聞紙又ハ雜誌ノ發行者ハ其ノ事由ニ從テ閣本二部ヲ國務總理大臣ニ送付スヘシ

第二十八條 新聞紙又ハ雜誌ノ發行者ハ其ノ事由ニ從テ閣本二部ヲ國務總理大臣ニ送付スヘシ

第二十九條 新聞紙又ハ雜誌ノ發行者ハ其ノ事由ニ從テ閣本二部ヲ國務總理大臣ニ送付スヘシ

第三十條 新聞紙又ハ雜誌ノ發行者ハ其ノ事由ニ從テ閣本二部ヲ國務總理大臣ニ送付スヘシ

第三十一條 新聞紙又ハ雜誌ノ發行者ハ其ノ事由ニ從テ閣本二部ヲ國務總理大臣ニ送付スヘシ

第三十二條 新聞紙又ハ雜誌ノ發行者ハ其ノ事由ニ從テ閣本二部ヲ國務總理大臣ニ送付スヘシ

第三十三條 新聞紙又ハ雜誌ノ發行者ハ其ノ事由ニ從テ閣本二部ヲ國務總理大臣ニ送付スヘシ

第三十四條 新聞紙又ハ雜誌ノ發行者ハ其ノ事由ニ從テ閣本二部ヲ國務總理大臣ニ送付スヘシ

第三十五條 新聞紙又ハ雜誌ノ發行者ハ其ノ事由ニ從テ閣本二部ヲ國務總理大臣ニ送付スヘシ

第三十六條 新聞紙又ハ雜誌ノ發行者ハ其ノ事由ニ從テ閣本二部ヲ國務總理大臣ニ送付スヘシ

第三十七條 新聞紙又ハ雜誌ノ發行者ハ其ノ事由ニ從テ閣本二部ヲ國務總理大臣ニ送付スヘシ

第三十八條 新聞紙又ハ雜誌ノ發行者ハ其ノ事由ニ從テ閣本二部ヲ國務總理大臣ニ送付スヘシ

第三十九條 新聞紙又ハ雜誌ノ發行者ハ其ノ事由ニ從テ閣本二部ヲ國務總理大臣ニ送付スヘシ

第四十條 新聞紙又ハ雜誌ノ發行者ハ其ノ事由ニ從テ閣本二部ヲ國務總理大臣ニ送付スヘシ

第四十一條 新聞紙又ハ雜誌ノ發行者ハ其ノ事由ニ從テ閣本二部ヲ國務總理大臣ニ送付スヘシ

第四十二條 新聞紙又ハ雜誌ノ發行者ハ其ノ事由ニ從テ閣本二部ヲ國務總理大臣ニ送付スヘシ

第四十三條 新聞紙又ハ雜誌ノ發行者ハ其ノ事由ニ從テ閣本二部ヲ國務總理大臣ニ送付スヘシ

第四十四條 新聞紙又ハ雜誌ノ發行者ハ其ノ事由ニ從テ閣本二部ヲ國務總理大臣ニ送付スヘシ

第四十五條 新聞紙又ハ雜誌ノ發行者ハ其ノ事由ニ從テ閣本二部ヲ國務總理大臣ニ送付スヘシ

第四十六條 新聞紙又ハ雜誌ノ發行者ハ其ノ事由ニ從テ閣本二部ヲ國務總理大臣ニ送付スヘシ

第四十七條 新聞紙又ハ雜誌ノ發行者ハ其ノ事由ニ從テ閣本二部ヲ國務總理大臣ニ送付スヘシ

第四十八條 新聞紙又ハ雜誌ノ發行者ハ其ノ事由ニ從テ閣本二部ヲ國務總理大臣ニ送付スヘシ

第四十九條 新聞紙又ハ雜誌ノ發行者ハ其ノ事由ニ從テ閣本二部ヲ國務總理大臣ニ送付スヘシ

第五十條 新聞紙又ハ雜誌ノ發行者ハ其ノ事由ニ從テ閣本二部ヲ國務總理大臣ニ送付スヘシ

トキハ印刷人ヲ六月以下ノ有期懲罰ニ處ス
 第三十條 第五條ノ規定ニ違反シタルトキハ發行人編輯人
 及著作人ヲ六月以下ノ有期懲罰又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處
 ス
 第三十條 第六條ノ規定ニ依ル禁止又ハ制限ニ違反シタル
 トキハ發行人及編輯人ヲ一年以下ノ有期懲罰又ハ三百圓以
 下ノ罰金ニ處ス
 第三十六條 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ發行者ヲ二百圓
 以下ノ罰金ニ處ス
 一 第九條第十條第十一條ノ規定ニ違反シテ新聞又ハ雜誌
 ヲ發行シタルトキ
 二 第二十二條ノ規定ニ違反シテ又ハ虛偽ノ圖出ヲ爲シ普通
 出版物ヲ發行シタルトキ
 第三十七條 第十三條第一項第十四條又ハ第十五條ノ規定ニ
 違反シタルトキハ發行人ヲ五十圓以下ノ罰金ニ處ス
 第三十八條 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ發行人ヲ百圓以下
 ノ罰金ニ處ス
 一 第十六條第十七條第二十一條又ハ第二十三條ノ規定ニ違
 反シタルトキ
 二 第二十二條ノ規定ニ違反シテ納本ヲ爲サザリシトキ
 第三十九條 第十八條第一項第二項又ハ第十九條ニ違反シタル
 トキハ編輯人ヲ五十圓以下ノ罰金ニ處ス
 第四十條 第二十條ノ規定ニ違反シテ新聞紙又ハ雜誌ヲ輸入若
 ハ移入シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス
 第四十一條 第二十五條ノ規定ニ違反シタルトキハ發行人ヲ百
 圓以下ノ罰金ニ處ス
 第四十二條 第二十六條又ハ第三十條ノ規定ニ依ル處分ニ違反
 シテ出版物ヲ發行シタルトキハ發行人ヲ一年以下ノ有期懲罰
 又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス
 第四十三條 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ一年以下ノ有期懲

○不當利益等取締規則

茲ニ不當利益等取締規則ヲ左ノ通規定ス
 第一條 不當利益ヲ得テ又ハ不當ナル條件ニ依リ物品ノ販
 賣ヲ爲スコトヲ得ズ物品ノ製造、加工若ハ修理ノ結果又ハ物
 品ノ買入ニ付亦同シ
 第二條 不當ナル利益ヲ得ル目的ヲ以テ物品ノ品質、形状、重
 量又ハ数量ヲ變更スルコトヲ得ズ
 第三條 不當ナル利益ヲ得ル目的ヲ以テ物品ノ買占又ハ買替ヲ
 爲スコトヲ得ズ
 第四條 不當ナル利益ヲ得テ又ハ不當ナル條件ニ依リ買替若ハ
 買入ノ買入、物品ノ保管若ハ運送ノ引受又ハ業務ノ提供ヲ
 爲スコトヲ得ズ
 第五條 不當ナル利益ヲ得テ又ハ不當ナル條件ニ依リ第一條又
 ハ前條ノ契約ニ付テハ新契約ヲ締結スルコトヲ得ズ
 第六條 前條又ハ前條ノ契約ニ付テハ新契約ヲ締結スルコトハ第一
 條、第四條又ハ前條ノ契約ニ付テハ新契約ヲ締結スルコトハ其
 ノ標價價格、料金又ハ報酬ヲ指定スルコトヲ得
 第七條 前條地方行政官署取上必要アリト認ムルトキハ物品
 取扱業者、業者若ハ買入、業務提供者又ハ其ノ媒介
 者ヲシテ物品、品質、数量若ハ業務ニ關スル報告ヲ爲サザル
 又ハ當該官吏ヲシテ其ノ住所、營業所、店舖、倉庫、工場其
 ノ他ノ場所ニ關係シ金庫、帳簿其ノ他ノ文書物件ヲ檢査シ若



ハ編輯人ノ職權ヲ爲サシムルコトヲ得
 當該官吏職權ノ執行スル場合ニ於テハ自己ノ身分ヲ示
 ス職權ヲ行使シ處分ヲ受タル者ノ要求アルトキハ之ヲ提供ス
 ベシ
 第八條 第一條乃至第五條ノ規定ニ違反シタル者ハ六月以下ノ
 懲罰、三百圓以下ノ罰金又ハ拘留若ハ科料ニ處ス
 第九條 第七條ノ規定ニ依ル報告ヲ爲サズ若ハ虚偽ノ報告ヲ爲
 シ、當該官吏ノ職務ノ執行ヲ阻礙シ又ハ其ノ職權ニ對シテ害
 ヲ爲サズ若ハ虚偽ノ報告ヲ爲シタル者ハ三百圓以下ノ罰金又
 ハ拘留若ハ科料ニ處ス
 第十條 前二項ノ規定ノ適用ニ付テハ第五條第五項令第二百二十
 五條行政法規ノ罰則適用ニ關スル件ニ依ル
 第十一條 本令ハ他ノ法令ニ規定アル事項ニ付テハ之ヲ適用セ
 ズ
 附 則
 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○租稅犯處罰法

（明治三年五月二十八日）
 勅令 第七四號
 改正 明治三年一月二日勅令第一九九號、四年六月第一四
 一號、一月三〇五號、二月第五〇四號
 朕組織法（第四十一條）ニ依リ參議府ノ諮詢ヲ租稅犯處罰
 法ヲ制定シ茲ニ之ヲ公布セシム
 第一章 實刑規定
 第一條 本法ニ於テ租稅犯ト稱スルハ租稅ニ關スル法令ニ依リ
 課セラレタル義務ニ違背スル行為ニシテ刑罰ヲ科セラルベキ
 モノヲ謂フ
 第二條 租稅犯ニ關スル罰則ノ適用ニ付テハ其ノ法令ニ特別ノ
 規定アル場合ヲ除ク外本法ニ依ル
 第三條 租稅犯ニ付テハ刑法第十六條但書、第十九條第二項、
 第二十條但書、第四十八條、第五十條第一項但書、第五十二
 條第一號、第五十七條、第五十八條、第六十四條及第六十五
 條ノ規定ヲ適用セス但シ稅務官吏ノ職務ノ執行ヲ阻害スル罪
 ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ
 第四條 從業者ガ業務主ノ業務ニ關シ其ノ租稅犯ヲ組成スベキ
 行為ヲ爲シタルトキハ從業者及業務主ニ對シ其ノ罰則ヲ適用
 ス但シ業務主心神喪失者又ハ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力
 ヲ有セザル未成年者ナルトキハ其ノ法定代理人、法定代理人
 ナキトキハ業務主ニ代リ其ノ業務ヲ主宰スル者ニ對シ其ノ罰
 則ヲ適用ス
 第五條 前項ニ於テ業務主ト稱スルハ租稅ニ關スル法令ニ依リ納稅、
 申告其ノ他ノ義務ヲ課セラレタル人又ハ法人ヲ謂ヒ從業者ト
 稱スルハ業務主ノ業務ニ從事スル其ノ法定代理人、代理人、
 家長、家族、雇人其ノ他ノ者ヲ謂フ

第一節 總則
前條ノ場合ニ於テ業務主任又ハ其ノ法定代理人若ハ業務主任者若シテ其ノ代理人若シテ其ノ代理人若シテ其ノ代理人...

第二節 手続規定
第六條 租稅犯ニ關スル事件ハ本法ノ定ムル所ニ從ヒ其ノ犯罪地ヲ管轄スル租稅局長ノ即決スベシ...

第七條 前條ノ即決處分ヲ受ケタル者之ニ不服ナルトキハ正式裁判ノ請求ヲ爲スコトヲ得...

第八條 租稅犯ニ關スル事件ハ即決處分ニ對シテ正式裁判ノ請求アリタル場合ノ外法院ニ屬スルコトナシ...

第九條 犯罪者法人ナルトキハ其ノ代表者或ハ代理人ノ手続ニ付テ之ヲ代表ス...

第十條 租稅官租稅犯ノ嫌疑アリト思料スルトキハ犯罪者及證據ヲ搜查スベシ...

第十一條 租稅官租稅犯ノ嫌疑アリト思料スルトキハ犯罪者及證據ヲ搜查スベシ...

第十二條 租稅官租稅犯ノ嫌疑アリト思料スルトキハ犯罪者及證據ヲ搜查スベシ...

第十三條 租稅官租稅犯ノ嫌疑アリト思料スルトキハ犯罪者及證據ヲ搜查スベシ...

第十四條 租稅官租稅犯ノ嫌疑アリト思料スルトキハ犯罪者及證據ヲ搜查スベシ...

第十五條 租稅官租稅犯ノ嫌疑アリト思料スルトキハ犯罪者及證據ヲ搜查スベシ...

第十六條 租稅官租稅犯ノ嫌疑アリト思料スルトキハ犯罪者及證據ヲ搜查スベシ...

第十七條 租稅官租稅犯ノ嫌疑アリト思料スルトキハ犯罪者及證據ヲ搜查スベシ...

第十八條 租稅官租稅犯ノ嫌疑アリト思料スルトキハ犯罪者及證據ヲ搜查スベシ...

第十九條 租稅官租稅犯ノ嫌疑アリト思料スルトキハ犯罪者及證據ヲ搜查スベシ...

第二十條 租稅官租稅犯ノ嫌疑アリト思料スルトキハ犯罪者及證據ヲ搜查スベシ...

第二十一條 租稅官租稅犯ノ嫌疑アリト思料スルトキハ犯罪者及證據ヲ搜查スベシ...

第二十二條 租稅官租稅犯ノ嫌疑アリト思料スルトキハ犯罪者及證據ヲ搜查スベシ...

第二十三條 租稅官租稅犯ノ嫌疑アリト思料スルトキハ犯罪者及證據ヲ搜查スベシ...

第二十四條 租稅官租稅犯ノ嫌疑アリト思料スルトキハ犯罪者及證據ヲ搜查スベシ...

第二十五條 租稅官租稅犯ノ嫌疑アリト思料スルトキハ犯罪者及證據ヲ搜查スベシ...

第三節 逃亡シタルトキ又ハ逃亡スルノ虞アルトキ
第三十條 拘捕シタルトキ又ハ逃亡スルノ虞アルトキ...

第三十一條 拘捕シタルトキ又ハ逃亡スルノ虞アルトキ...

第三十二條 拘捕シタルトキ又ハ逃亡スルノ虞アルトキ...

第三十三條 拘捕シタルトキ又ハ逃亡スルノ虞アルトキ...

第三十四條 拘捕シタルトキ又ハ逃亡スルノ虞アルトキ...

第三十五條 拘捕シタルトキ又ハ逃亡スルノ虞アルトキ...

第三十六條 拘捕シタルトキ又ハ逃亡スルノ虞アルトキ...

第三十七條 拘捕シタルトキ又ハ逃亡スルノ虞アルトキ...

第三十八條 拘捕シタルトキ又ハ逃亡スルノ虞アルトキ...

第三十九條 拘捕シタルトキ又ハ逃亡スルノ虞アルトキ...

第四十條 拘捕シタルトキ又ハ逃亡スルノ虞アルトキ...

第四十一條 拘捕シタルトキ又ハ逃亡スルノ虞アルトキ...

第四十二條 拘捕シタルトキ又ハ逃亡スルノ虞アルトキ...

第四十三條 拘捕シタルトキ又ハ逃亡スルノ虞アルトキ...

第四十四條 拘捕シタルトキ又ハ逃亡スルノ虞アルトキ...

第四十五條 拘捕シタルトキ又ハ逃亡スルノ虞アルトキ...

第四十六條 拘捕シタルトキ又ハ逃亡スルノ虞アルトキ...

第四十七條 拘捕シタルトキ又ハ逃亡スルノ虞アルトキ...

第四十八條 拘捕シタルトキ又ハ逃亡スルノ虞アルトキ...

第四十九條 拘捕シタルトキ又ハ逃亡スルノ虞アルトキ...

第五十條 拘捕シタルトキ又ハ逃亡スルノ虞アルトキ...

第五十一條 拘捕シタルトキ又ハ逃亡スルノ虞アルトキ...

第五十二條 拘捕シタルトキ又ハ逃亡スルノ虞アルトキ...

第五十三條 拘捕シタルトキ又ハ逃亡スルノ虞アルトキ...

第五十四條 拘捕シタルトキ又ハ逃亡スルノ虞アルトキ...

第五十五條 拘捕シタルトキ又ハ逃亡スルノ虞アルトキ...

第五十六條 拘捕シタルトキ又ハ逃亡スルノ虞アルトキ...

第五十七條 拘捕シタルトキ又ハ逃亡スルノ虞アルトキ...

第五十八條 拘捕シタルトキ又ハ逃亡スルノ虞アルトキ...

第五十九條 拘捕シタルトキ又ハ逃亡スルノ虞アルトキ...

第六十條 拘捕シタルトキ又ハ逃亡スルノ虞アルトキ...

第六十一條 拘捕シタルトキ又ハ逃亡スルノ虞アルトキ...

第六十二條 拘捕シタルトキ又ハ逃亡スルノ虞アルトキ...

第六十三條 拘捕シタルトキ又ハ逃亡スルノ虞アルトキ...

第六十四條 拘捕シタルトキ又ハ逃亡スルノ虞アルトキ...

第六十五條 拘捕シタルトキ又ハ逃亡スルノ虞アルトキ...

第六十六條 拘捕シタルトキ又ハ逃亡スルノ虞アルトキ...

第六十七條 拘捕シタルトキ又ハ逃亡スルノ虞アルトキ...

第六十八條 拘捕シタルトキ又ハ逃亡スルノ虞アルトキ...

第六十九條 拘捕シタルトキ又ハ逃亡スルノ虞アルトキ...

第七十條 拘捕シタルトキ又ハ逃亡スルノ虞アルトキ...

第七十一條 拘捕シタルトキ又ハ逃亡スルノ虞アルトキ...

ヲ得

第四十九條 本法ハ康徳三年七月一日ヨリ之ヲ施行ス
 第五十條 本法ノ規定ハ租税犯中罰税ノ明税及賦税ニ關スルモ
 ノニ付テハ之ヲ適用セズ
 第五十一條 地稅又ハ契稅ノ賦課徵收ニ關スル稅務局長ノ職務
 特別市長、市長、市政管理局長、縣長又ハ市長ヲシテ行ハ
 シムル場合ニ於テハ地稅又ハ契稅ニ係ル租税犯ニ付テハ本法
 ニ規定スル稅務局長ノ職務ハ當該特別市長、市長、市政管理
 局長、縣長又ハ市長之ヲ行フ
 前項ノ場合ニ於テハ特別市長、市長、縣長又ハ市長ノ職務シ地稅
 又ハ契稅ノ賦課徵收ニ關スル事務ニ從事スル官吏ハ地稅又ハ
 契稅ニ係ル租税犯ニ付テハ本法ニ規定スル稅務局長ノ職務ヲ行フ
 附 廣徳四年勅令第三〇五號附第五〇四號
 本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○續業法(抄)

(廣徳二年八月一日勅令第八五號)

改正 廣徳四年八月勅令第二三九號 六年八月第一九三號
 第六條 續業ニ關スル左ノ警察事務ハ命令ノ定ムル所ニ
 依リ警察部長及局長之ヲ行フ
 一 建築物及工作物ノ保安
 二 衛生及生命ノ保護
 三 危險ノ預防其ノ他公益ノ保護
 第七十八條 續業上危險ノ虞アリ又ハ公益ヲ害スルノ虞アリ
 ト認ムルトキハ警察部長大臣ハ續業者ニ對シ預防ノ施設又
 ハ作業ノ全部若ハ一部ノ停止ヲ命ズベシ
 (作業ノ全部若ハ一部ノ停止ヲ命ズベシ)
 第七十九條 續業消滅シタル後ト雖一年間ハ警察部長大臣又
 ハ局長ハ前條ノ規定ニ準ジ其ノ續業者ノ消滅ノ當時續業者
 者タリシ者ニ對シ危險預防ニ關スル設備ヲ爲スベキコトヲ
 命ズルコトヲ得
 前項ノ規定ニ依リ命令ヲ受ケタル者ハ危險預防ニ關スル設
 備ヲ爲スノ目的ノ範圍内ニ於テハ之ヲ續業者ト看做ス
 第八十條 警察部長大臣ハ續業者ニ對シ技術ニ關スル管理者
 ノ選任又ハ改任ヲ命ズルコトヲ得
 第八十一條 續業者ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ警察署ヲ作成
 シ警察部長大臣ノ認可ヲ受ケベシ其ノ之ヲ變更セントスルト
 キ亦同ジ
 續業者ハ警察署ニ依リニ非ザレバ續業ヲ爲スコトヲ得ズ

第八十二條 警察部長大臣必要アリト認ムルトキハ現行ヲ示シ
 テ續業者ニ對シ警察署ノ變更ヲ命ズルコトヲ得
 第八十三條 續業者ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ其ノ所屬警察署
 及警察署ノ警察事務所ニ歸屬シ且其ノ檢本ヲ警察部長大臣及
 局長ニ提出スベシ
 第八十四條 續業者ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ警察署ニ關スル
 明細書ヲ警察部長大臣及局長ニ提出スベシ
 第八十五條 警察部長大臣又ハ局長ハ續業者ニ對シ續業ニ關
 スル報告ヲ求ムルコトヲ得
 當該官吏ハ續業ニ關スル文書物件ヲ検査シ若ハ其ノ内其ノ他
 ノ場所ニ隠匿シ續業ニ關スル犯罪アリト認ムルトキハ警察
 署ニ對シ罪證ト爲ルベキ文書物件ヲ選擇シ又ハ其ノ内ノ全
 部若ハ一部ヲ封鎖スルコトヲ得
 第八十六條 第七十八條乃至第八十五條ノ規定ハ租税犯ヲ設
 定シタルトキハ租税犯者ニ付テハ適用ス
 第七條 判決、罰金及罰金
 第八十七條 續業ニ關スル出願ノ許可若ハ拒否、續業者ノ取
 消又ハ第五十六條第一項ノ規定ニ依リ事業ノ禁止ニ付不服
 アル者ハ警察部長大臣ニ訴願ヲ提起スルコトヲ得
 第八十八條 續業者又ハ租税犯者第五條ノ承諾ヲ拒マレ又
 ハ承諾ヲ受ケタルコト能ハザルトキハ局長ニ對シ申訴スル
 コトヲ得
 前項ノ判決ニ付不服アル者ハ警察部長大臣ニ訴願ヲ提起スル
 コトヲ得
 第八十九條 土地ノ使用者ハ敷用、水ノ使用、補償金又ハ擔
 保ニ付賠償額ハズ又ハ賠償額ヲ爲スコト能ハザルトキハ續業
 者、租税犯者及土地所有者ハ局長ニ對シ申訴スルコト
 ヲ得
 前項ノ判決中土地ノ使用者ハ敷用又ハ水ノ使用ニ付不服ア
 ル者ハ警察部長大臣ニ訴願ヲ提起スルコトヲ得

第一項ノ判決中補償金又ハ擔保ニ付不服アル者ハ法院ニ出
 訴スルコトヲ得
 第九十條 訴願又ハ訴訟ハ判決書又ハ處分ノ通告書ノ送達ヲ
 受ケタル日ヨリ六十日ヲ經過シタルトキハ之ヲ提起スルコ
 トヲ得ズ
 前項ノ期間ハ判決書又ハ處分ノ通告書ヲ受ケザル者ニ付テ
 ハ公布ノ日ヨリ之ヲ起算ス
 第八條 罰金
 第九十一條 續業者若ハ租税犯者有セズシテ續業ヲ探知シ又
 ハ詐術ノ所爲ヲ以テ續業ヲ設定セシメタル者ハ三年以下
 ノ有期徒刑又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス
 續業者又ハ租税犯者過失ニ因リ罰金外ニ懲罰シタルトキ
 ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス
 前二項ノ場合ニ於テハ其ノ探知シタル續業ヲ沒收ス若シ其
 ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハザルトキハ其ノ價額ヲ
 沒收ス
 第九十二條 續業者又ハ租税犯者左ノ各條ノ一ニ該當スル
 トキハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス
 一 第五條ノ規定ニ違反シテ續業ヲ探知シタルトキ
 二 第七十八條又ハ第七十九條第一項ノ規定ニ依リ命令ニ
 違反シタルトキ
 第九十三條 左ノ各條ノ一ニ該當スル者ハ二百圓以下ノ罰金
 ニ處ス
 一 第六十條第一項ノ規定ヲ受ケズシテ建築物ヲ除却シタ
 ル者
 二 第八十條第一項ノ規定ニ依リ命令ニ違反シタル者
 三 第八十一條、第八十三條若ハ第八十四條ノ規定ニ違反
 シ又ハ第八十二條ノ規定ニ依リ命令ニ違反シタル者
 第九十四條 第八十五條ノ規定ニ依リ報告ヲ爲サズ若ハ虛偽
 ノ報告ヲ爲シ又ハ當該官吏ノ職務ノ執行ヲ阻害シタル者ハ

三百圓以下ノ罰金ニ處ス
 第九十五條 續業者又ハ租税犯者ノ使用人其ノ他ノ從業員
 其ノ職務ニ關シテ本法ノ罰則ニ關ルル行爲ヲ爲シタルトキハ
 執行官ノ罰則ノ外其ノ本人ヲ同一ノ罰則ス但シ其ノ本人心算
 喪失者又ハ警察署長ノ同一ノ能力ヲ有セザル者ニ限リ
 第九十六條 法人ノ使用人其ノ他ノ從業員法人ノ業務ニ關シ
 テ本法ノ罰則ニ關ルル行爲ヲ爲シタルトキハ執行官ノ罰則ス
 ルノ外役員又ハ業務ヲ執行スル社員ヲモ包含ス
 法人ノ役員又ハ業務ヲ執行スル社員前項ノ行爲ヲ爲シタル
 トキハ其ノ役員又ハ社員ノ處罰ス
 第九十七條 第九十五條及第九十六條第一項ノ場合ニ於テ本人若ハ
 法定代理人又ハ役員若ハ社員が當該違反行爲ヲ防止スル
 テカヨリシコトヲ證明シタルトキハ之ヲ罰セズ
 第九十八條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(廣徳二
 年勅令第一〇一號ヲ以テ同年九月一日ヨリ施行)
 第九十九條 本法施行ノ際從前ノ規定ニ依リ現ニ存スル續業
 者ハ本法ノ規定ニ依リ續業者ノ規定ノ登錄ヲ爲シタルモノ
 ト看做ス
 第一百條 從前ノ規定ニ依リ爲シタル處分又ハ手續其ノ他ノ行
 爲ハ本法中ニ相當スル規定アルトキハ本法ノ規定ニ依リ
 之ヲ爲シタルモノト看做ス
 第一百一條 本法施行ノ際從前ノ規定ニ依リ現ニ存スル續業者
 ニシテ本法ノ規定ニ依リ爲シタル處分以外ノ目的トスル續業
 者ニ付テハ當分ノ内仍舊前ノ規定ニ依リ
 第一百二條 本法施行ノ際從前ノ規定ニ依リ現ニ存スル續業者
 ニシテ存続期間ノ定アルモノニ付テハ其ノ期間ハ之ヲ延長
 スルコトヲ得ズ
 第一百三條 本法施行ノ際從前ノ規定ニ依リ爲シタル處分以外ノ續業者ニ

付現ニ存スル續業ノ出願ハ之ヲ許可セズ
 第一百四條 第九十九條ノ續業者ニ付テハ第三十六條ノ規定ハ
 當分ノ内之ヲ適用セズ但シ警察部長大臣必要ト認ムルトキハ
 期間ヲ指定シテ續業者ニ對シ罰金外ノ訂正ヲ命ズルコトヲ
 得
 續業者前項ノ規定ニ依リ命令ニ從ハザルトキハ局長
 部長大臣ハ續業者ヲ取消スルコトヲ得
 第一百五條 本法施行ノ際從前ノ規定ニ依リ爲シタル處分
 出願人タル者ハ警察部長大臣ノ指定スル期間内ニ其ノ出願區
 域ヲ第三十六條ノ規定ニ依リ區域ニ訂正スベシ
 前項ノ期間内ニ訂正ヲ爲サザルトキハ續業ノ出願ハ之ヲ取
 下ザルモノト看做ス